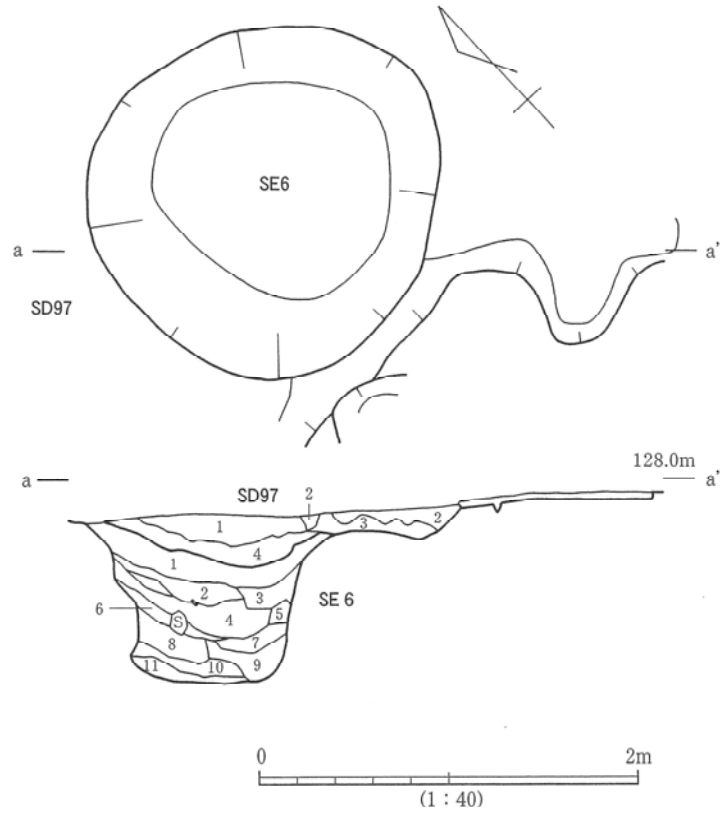
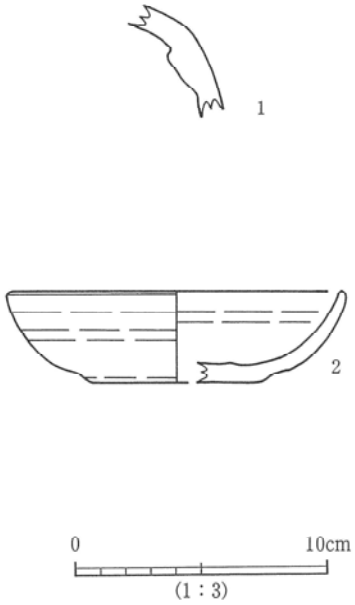
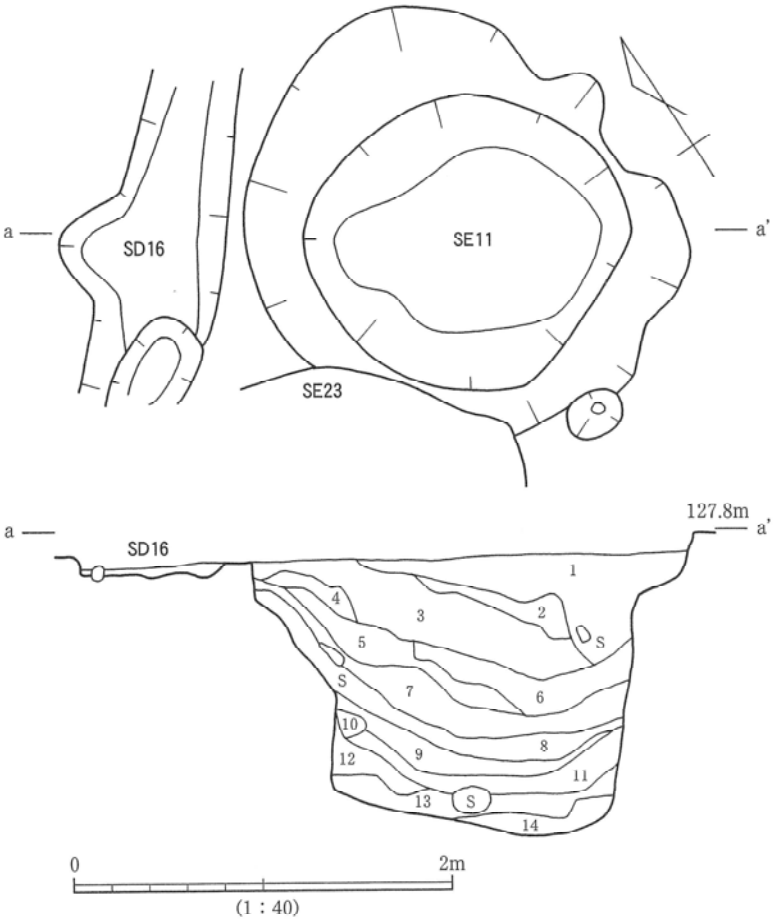


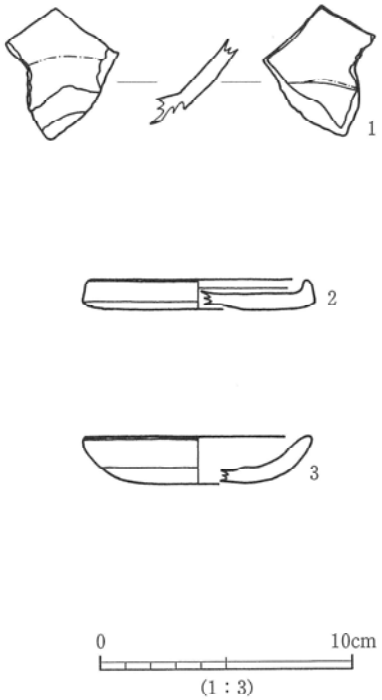
ＦＴＢVISE 6 平面図・断面図



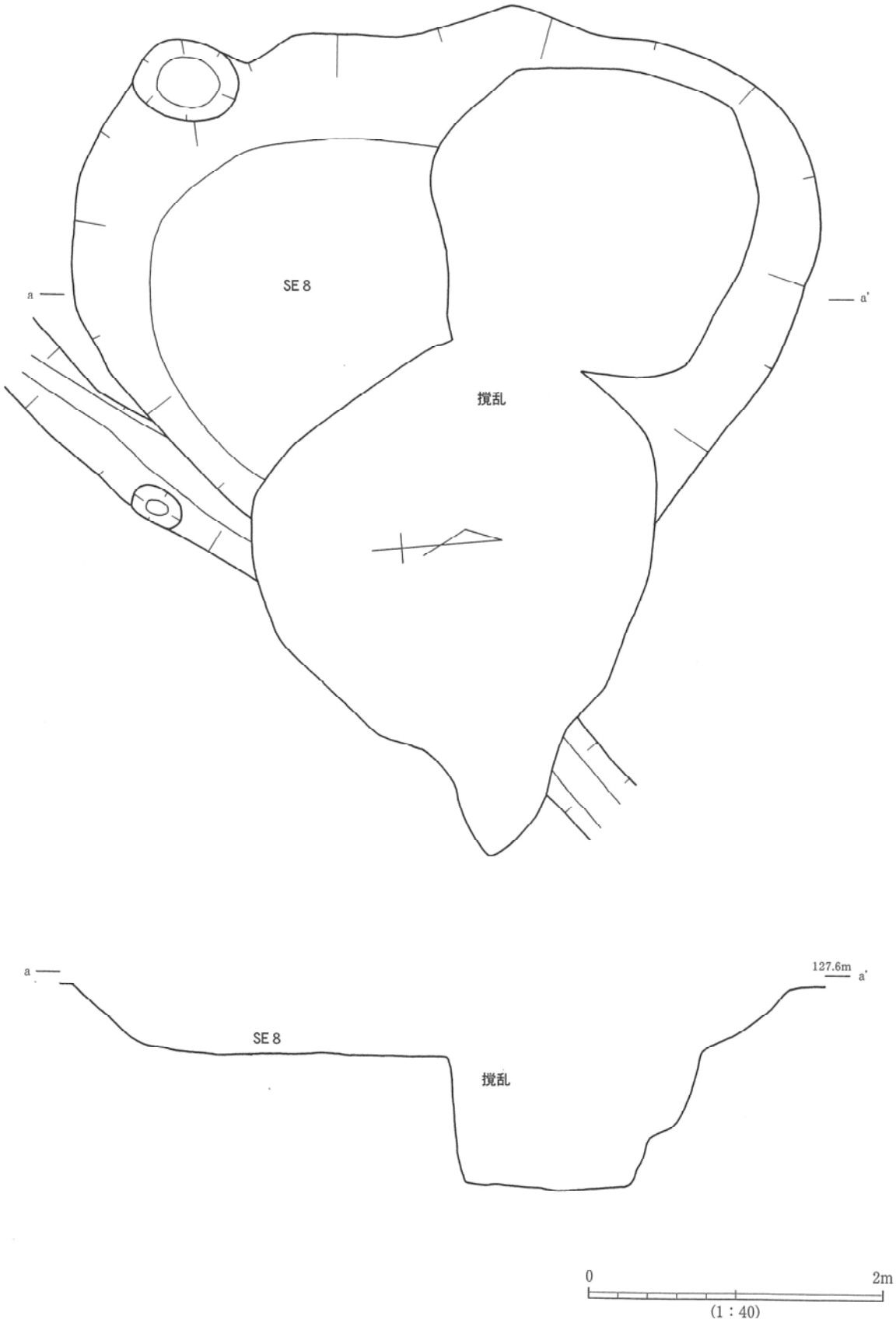
ＦＴＢVISE 6 出土遺物



ＦＴＢVISE11平面図・断面図

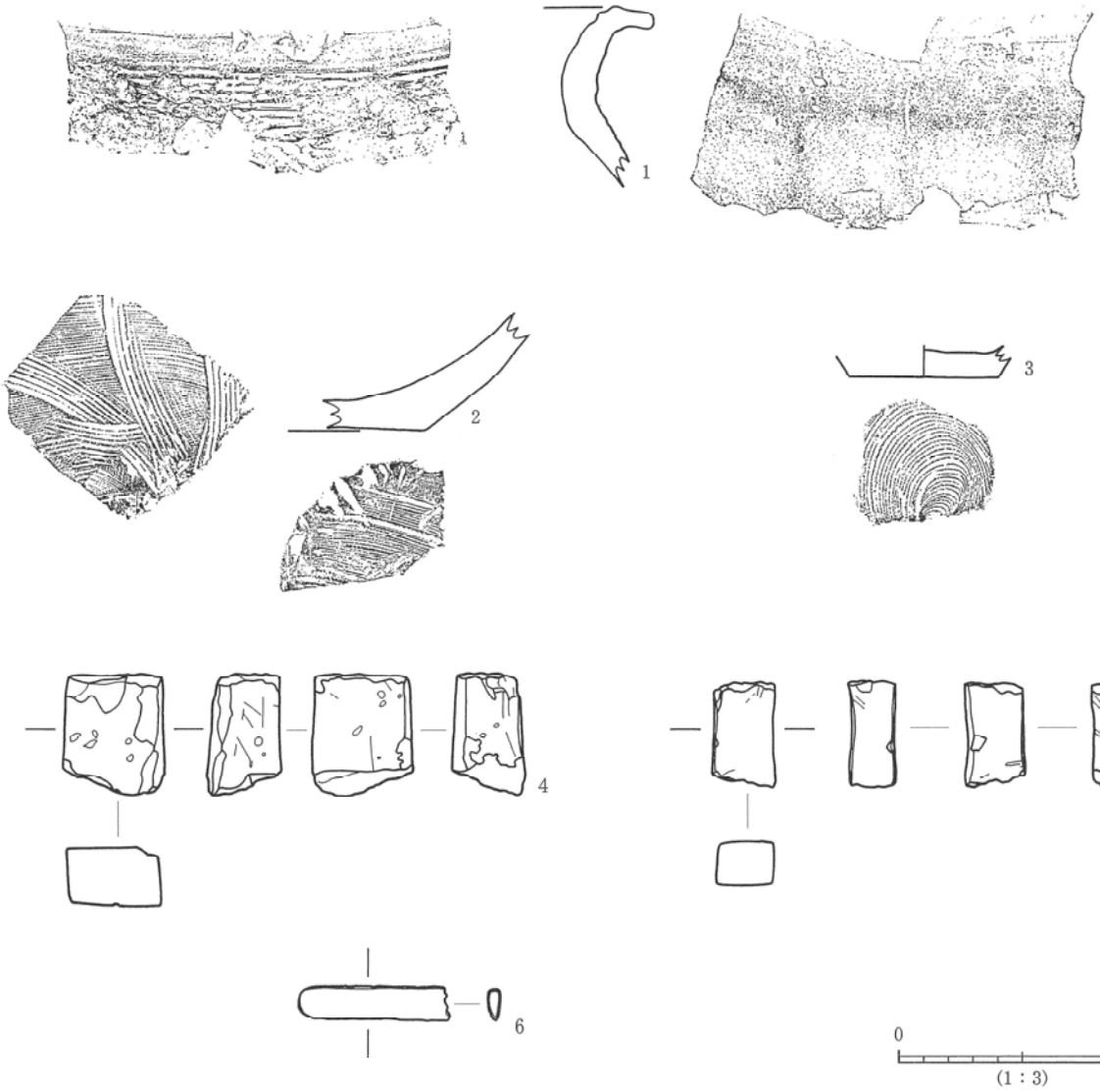


第60図

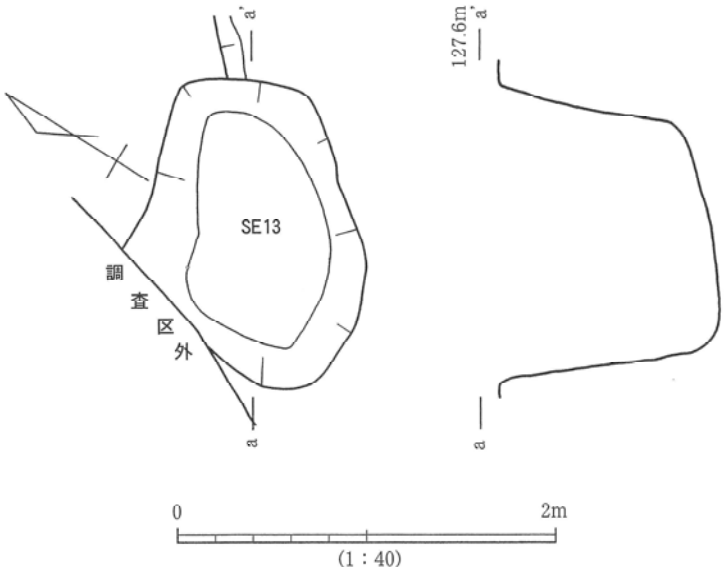


ＦＴＢⅦSE８平面図・断面図

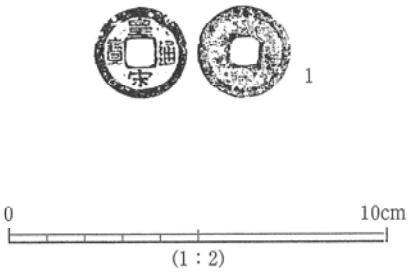
第61図



ＦＴＢ VISE８出土遺物

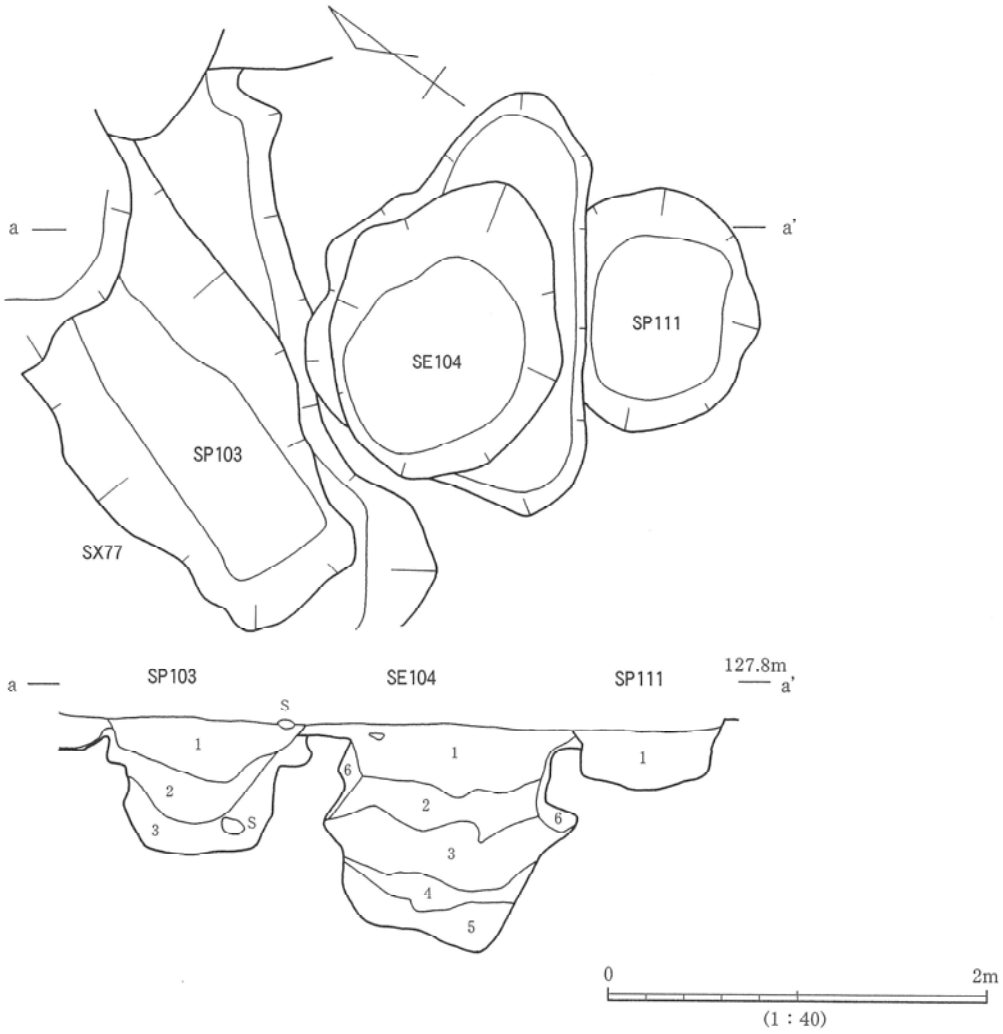


ＦＴＢ VISE13 平面図・断面図

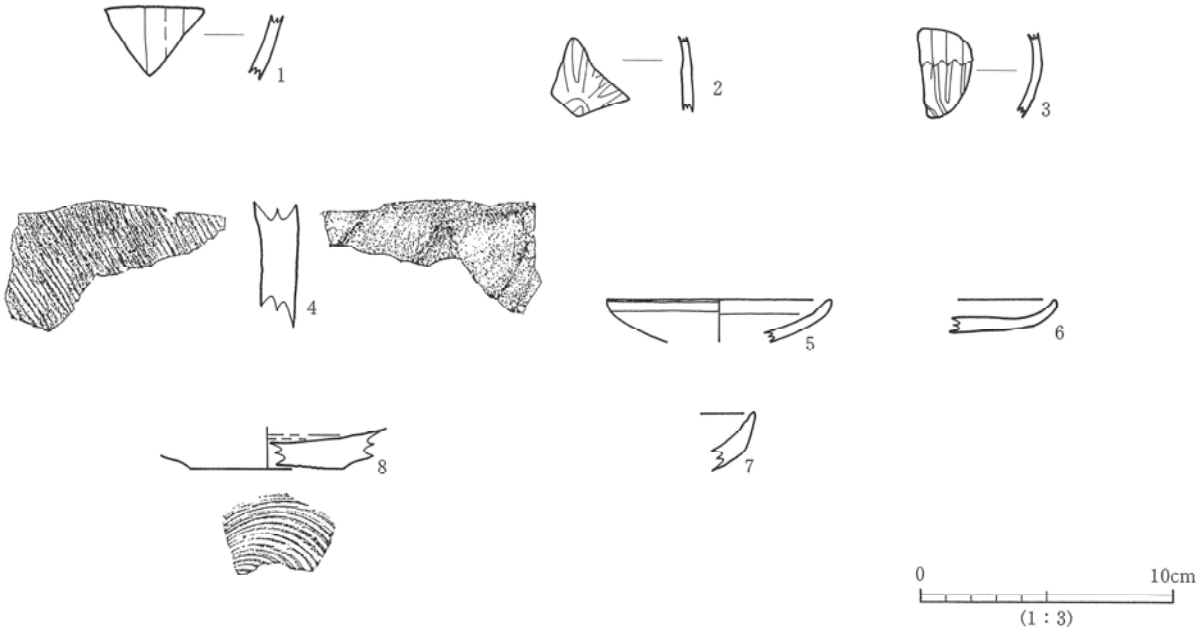


ＦＴＢ VISE13出土遺物

第62図

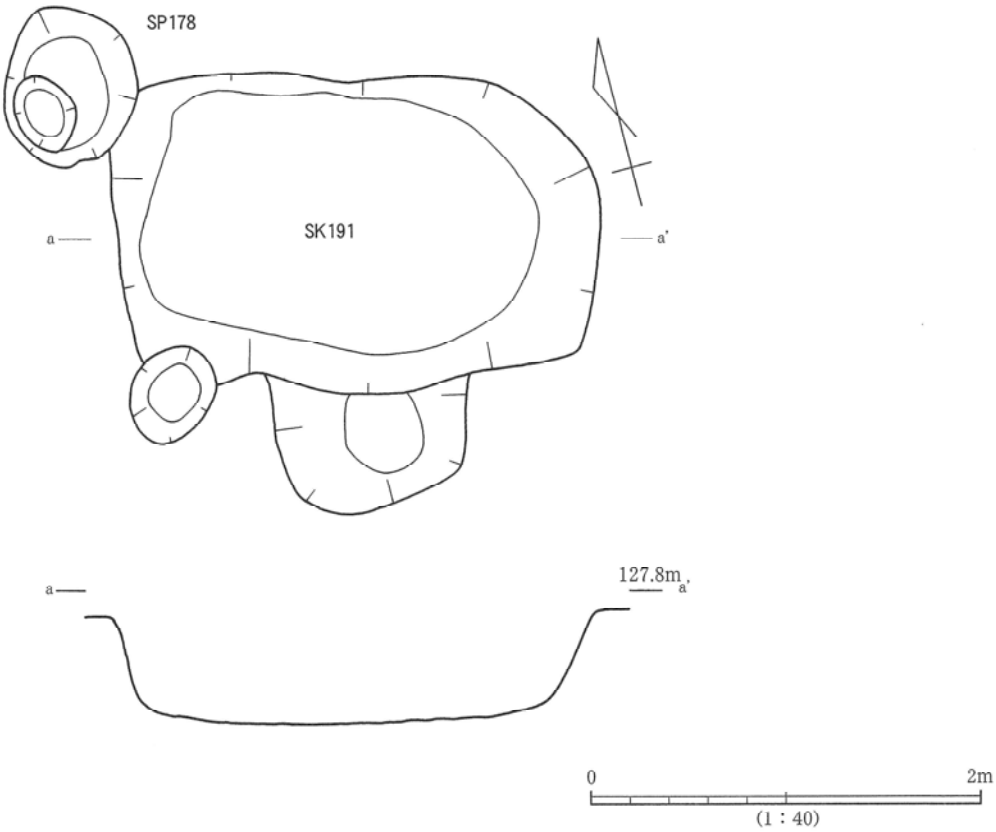


ＦＴＢVISE104平面図・断面図

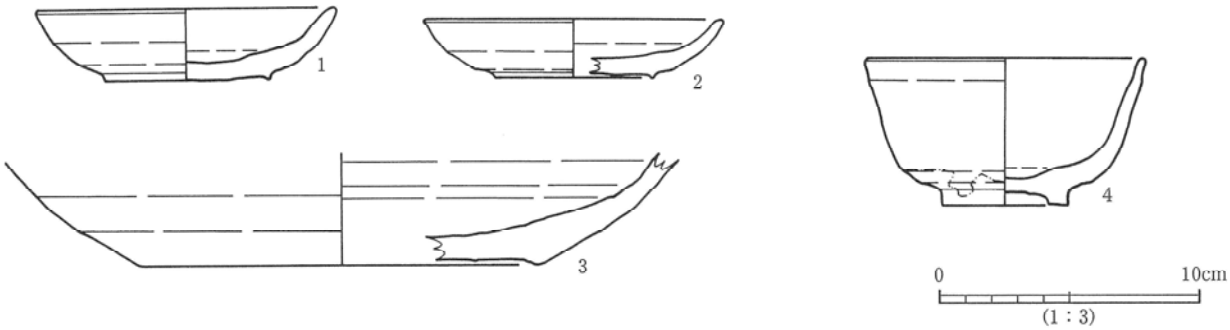


ＦＴＢVISE104出土遺物

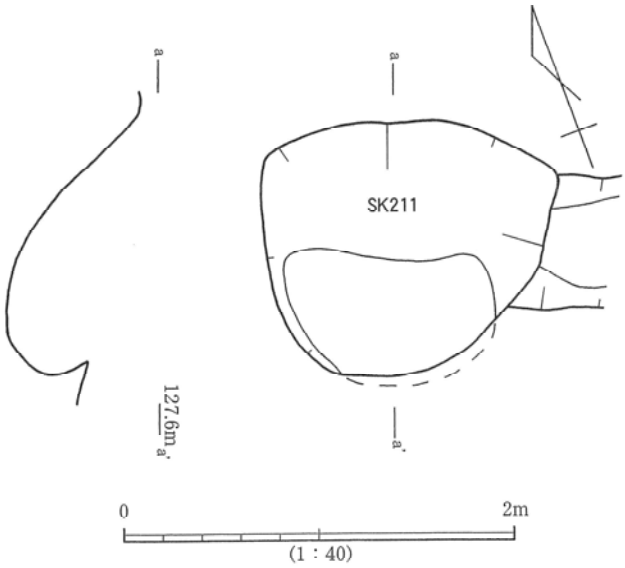
第63図



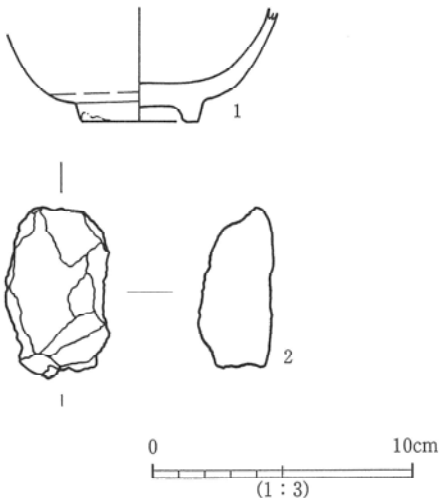
ＦＴＢVISK191 平面図・断面図



ＦＴＢVISK191 出土遺物

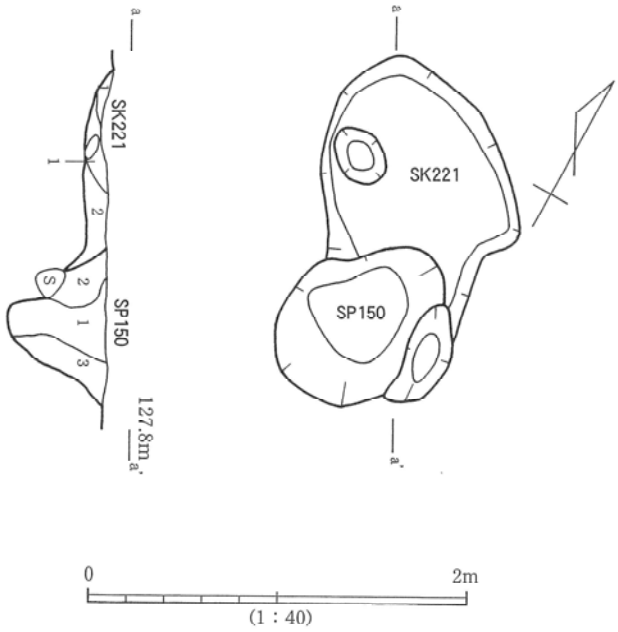


ＦＴＢVISK211 平面図・断面図

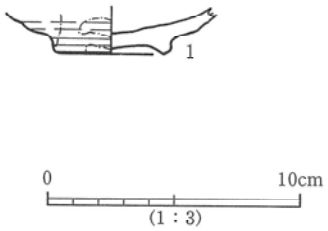


ＦＴＢVISK211 出土遺物

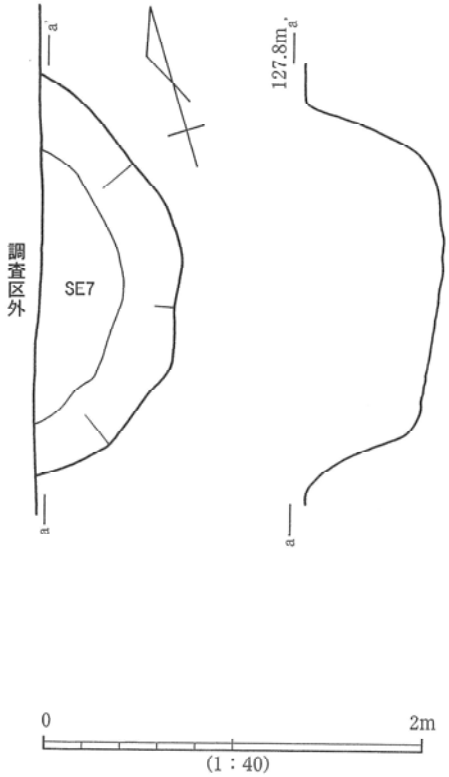
第 64 図



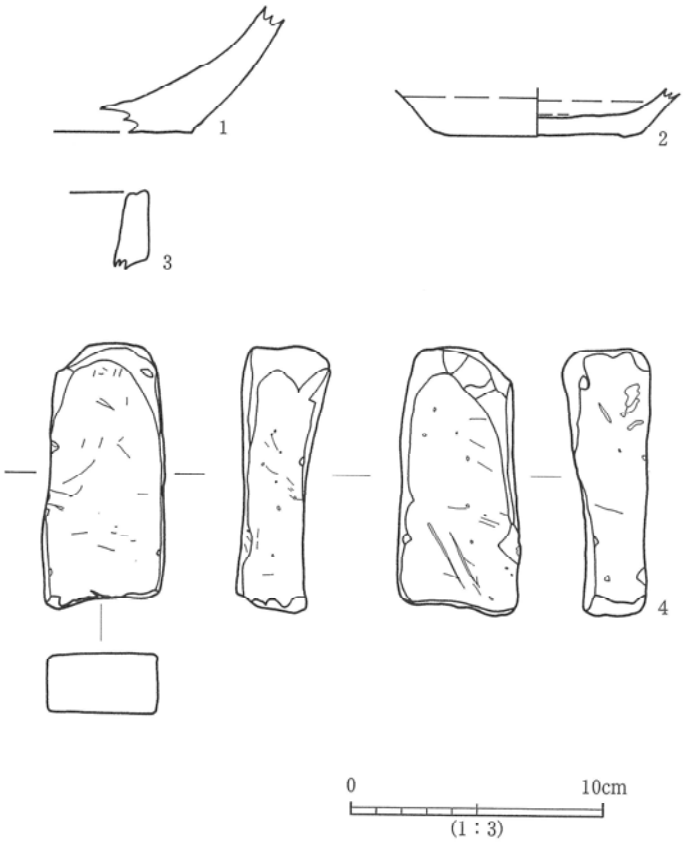
ＦＴＢ VISP150 平面図・断面図



ＦＴＢ VISP150 出土遺物

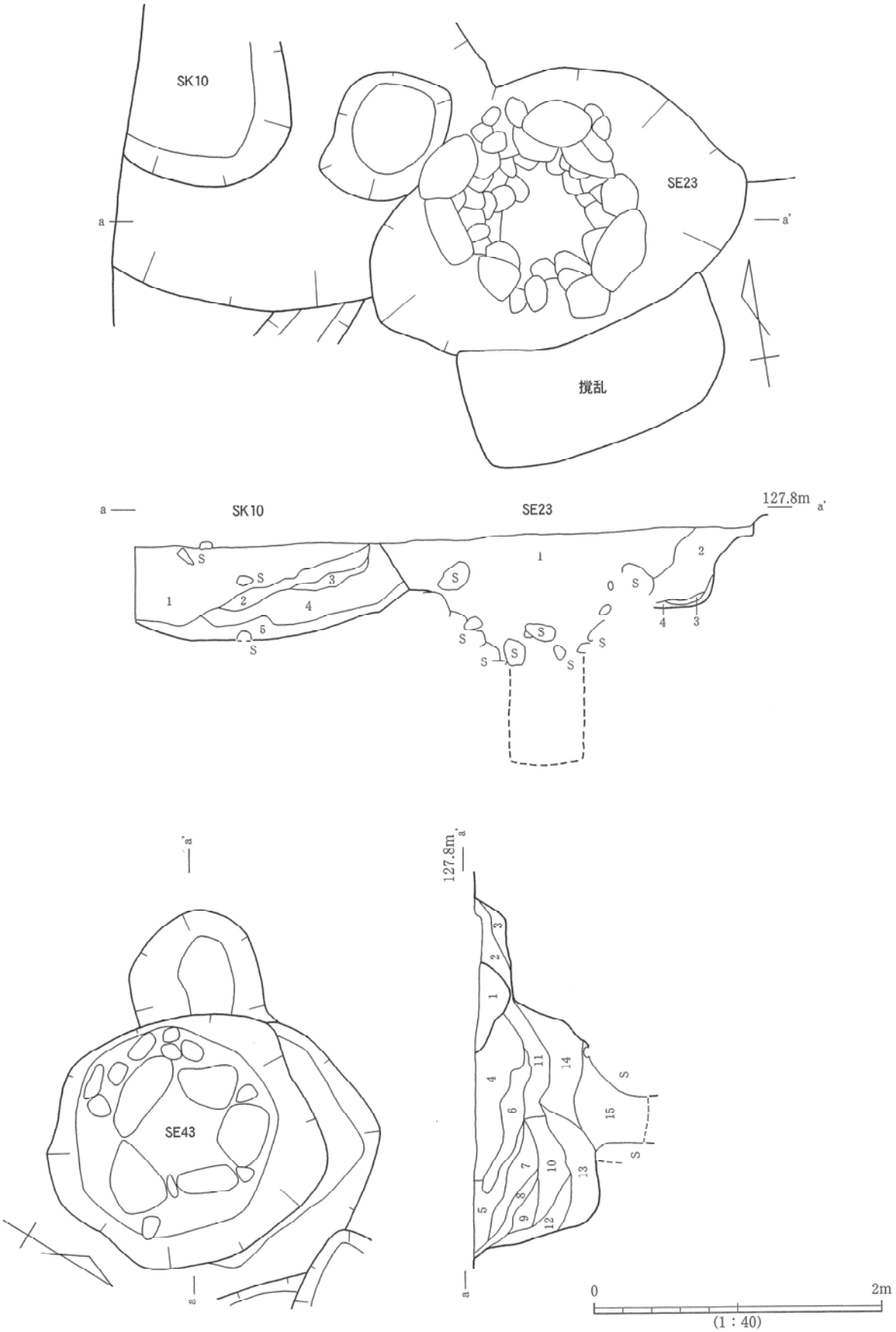


ＦＴＢ VISE7 平面図・断面図



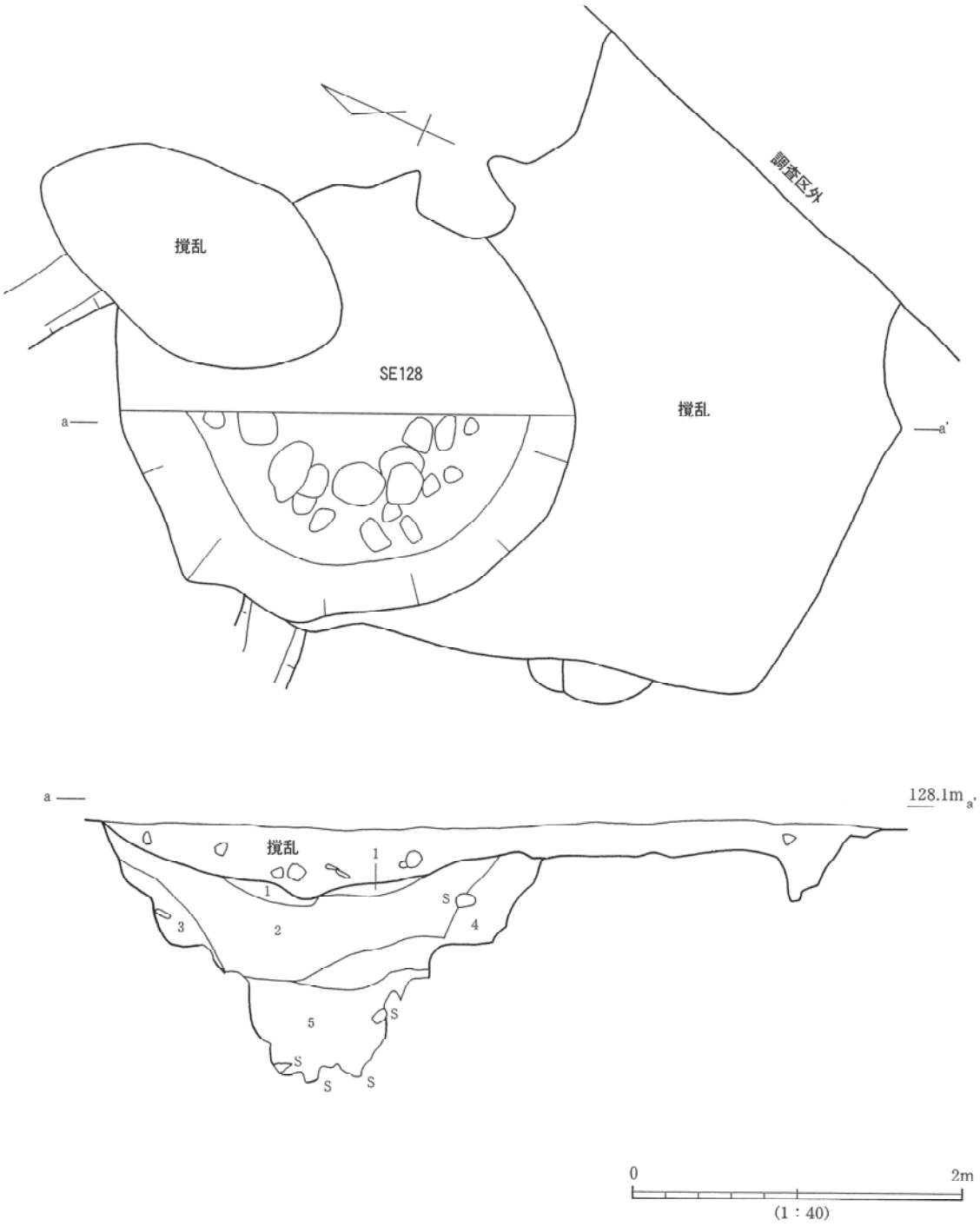
ＦＴＢ VISE7 出土遺物

第 65 図



ＦＴＢⅦSE23・SE43平面図・断面図

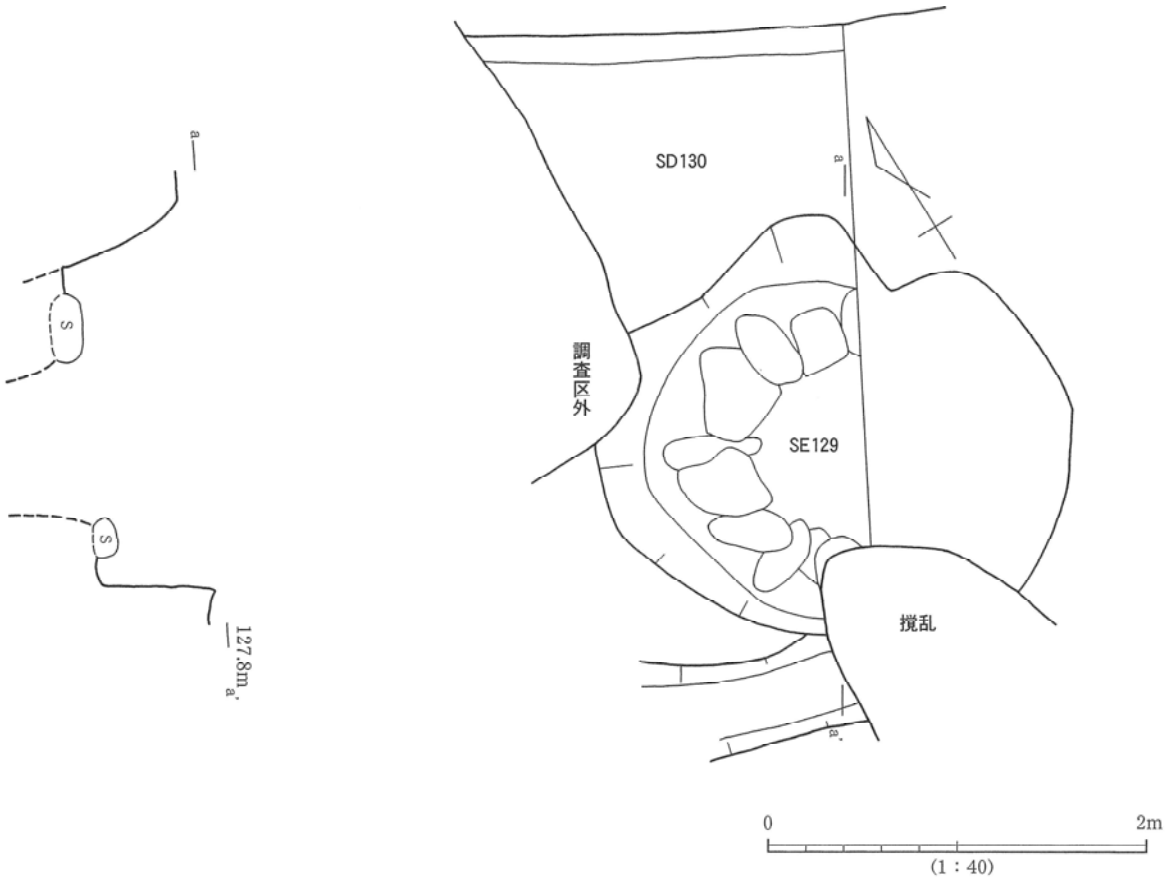
第66図



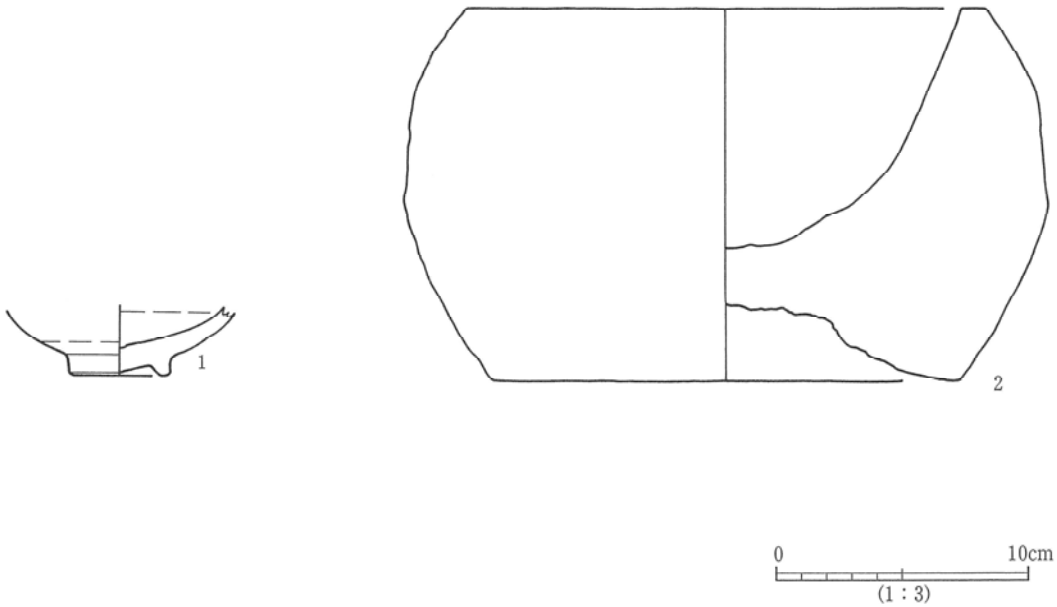
ＦＴＢ VISE128 平面図・断面図

ＦＴＢ VISE128 出土遺物

第 67 図

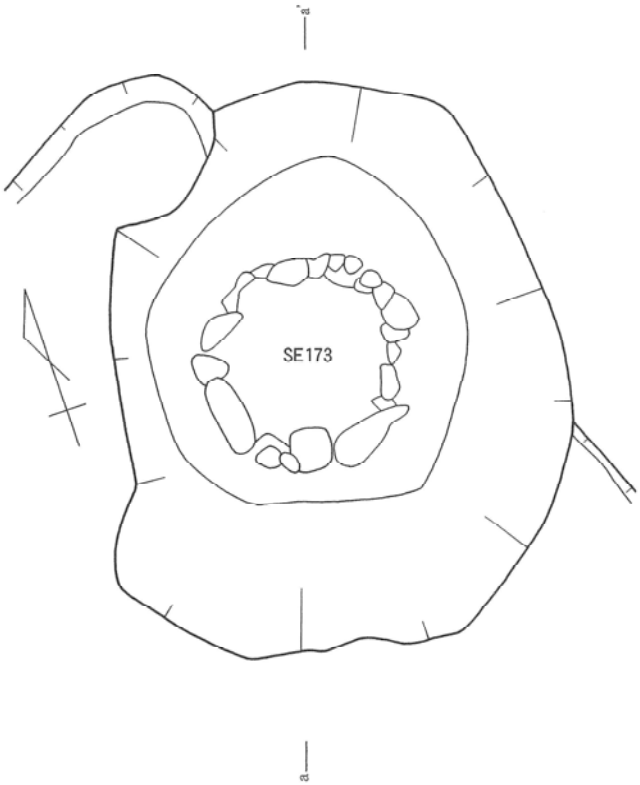


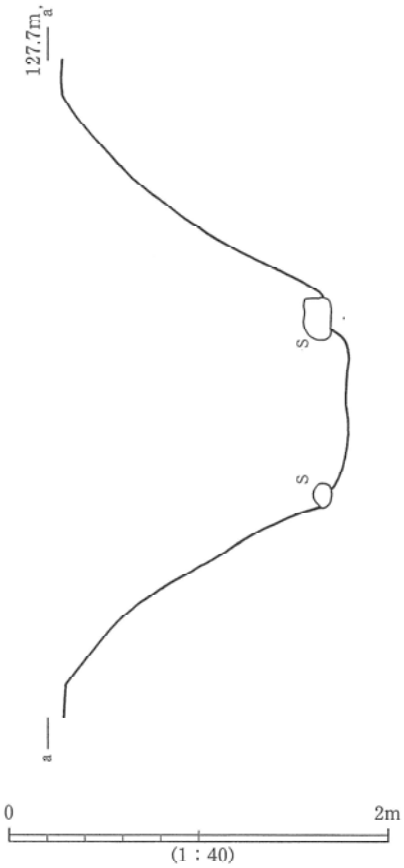
ＦＴＢVISE129 平面図・断面図



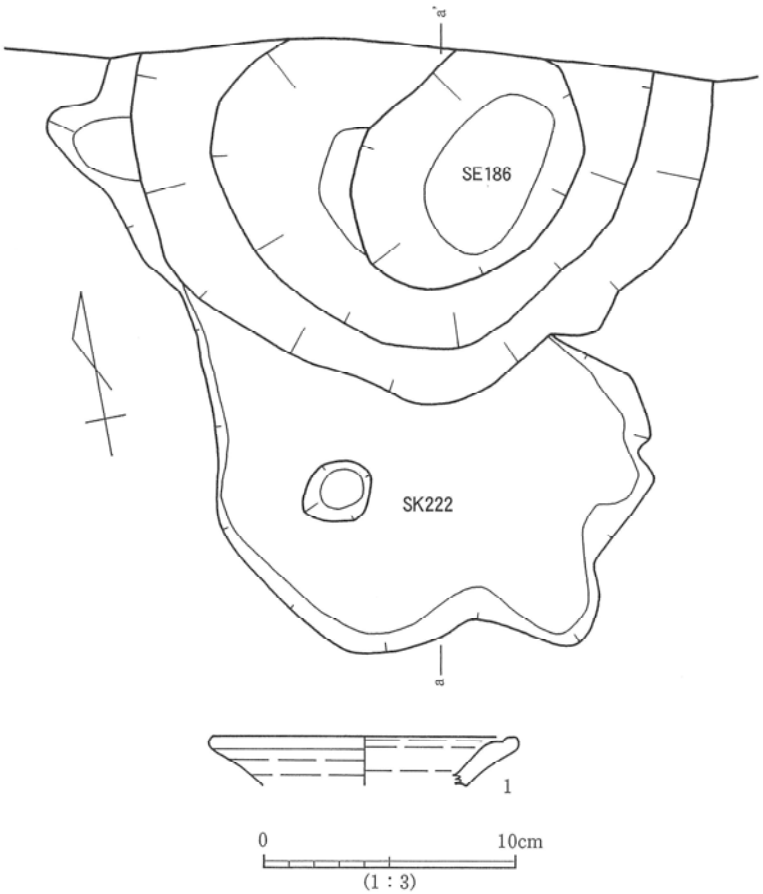
ＦＴＢVISE129 出土遺物

第 68 図

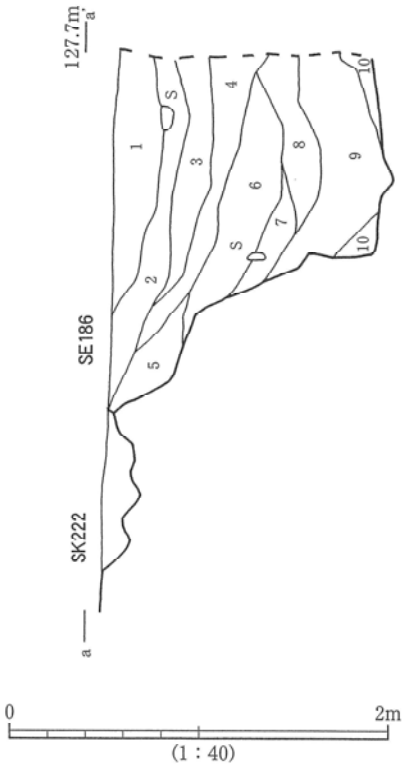




ＦＴＢVISE173 平面図・断面図

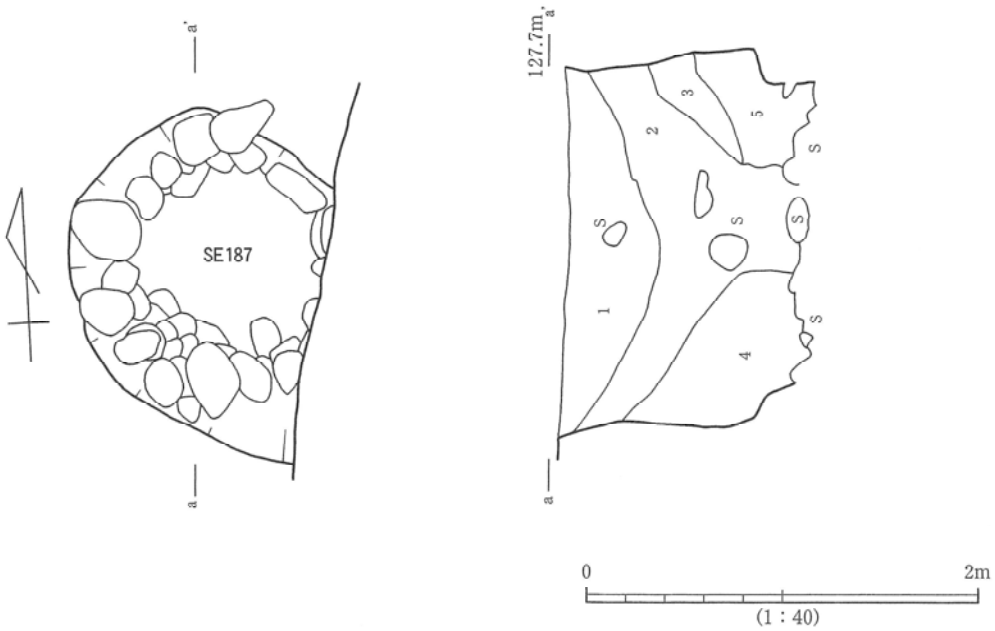


ＦＴＢVISE186 出土遺物

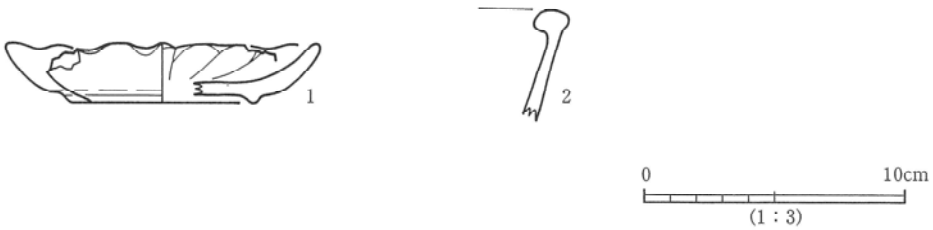


ＦＴＢVISE186 平面図・断面図

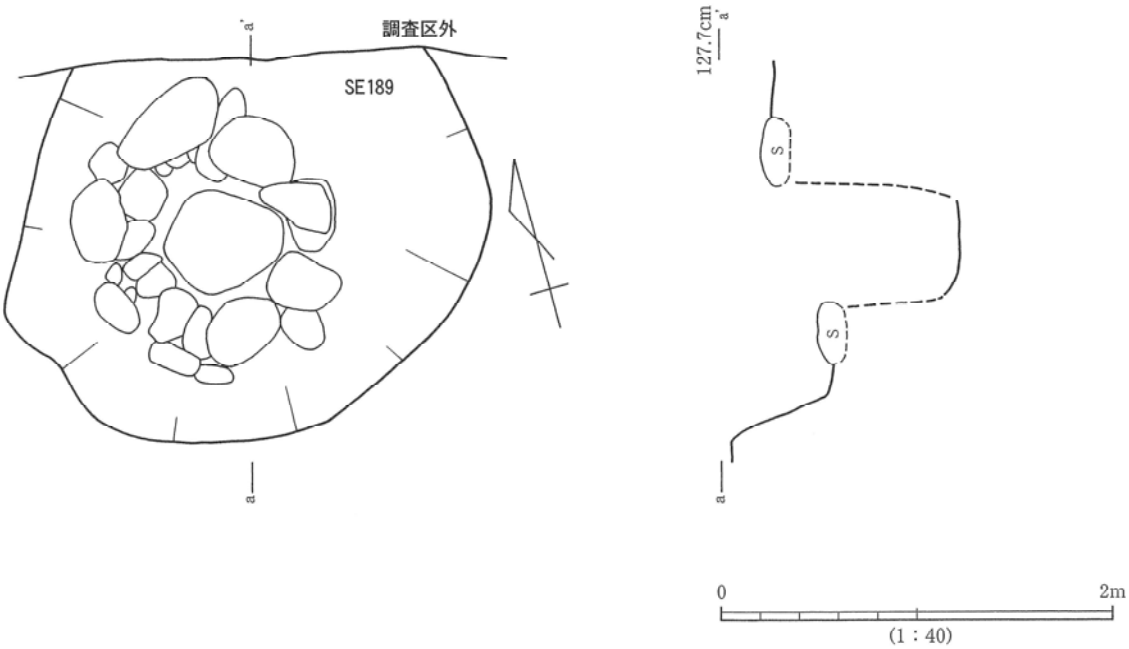
第 69 図



ＦＴＢVISE187 平面図・断面図

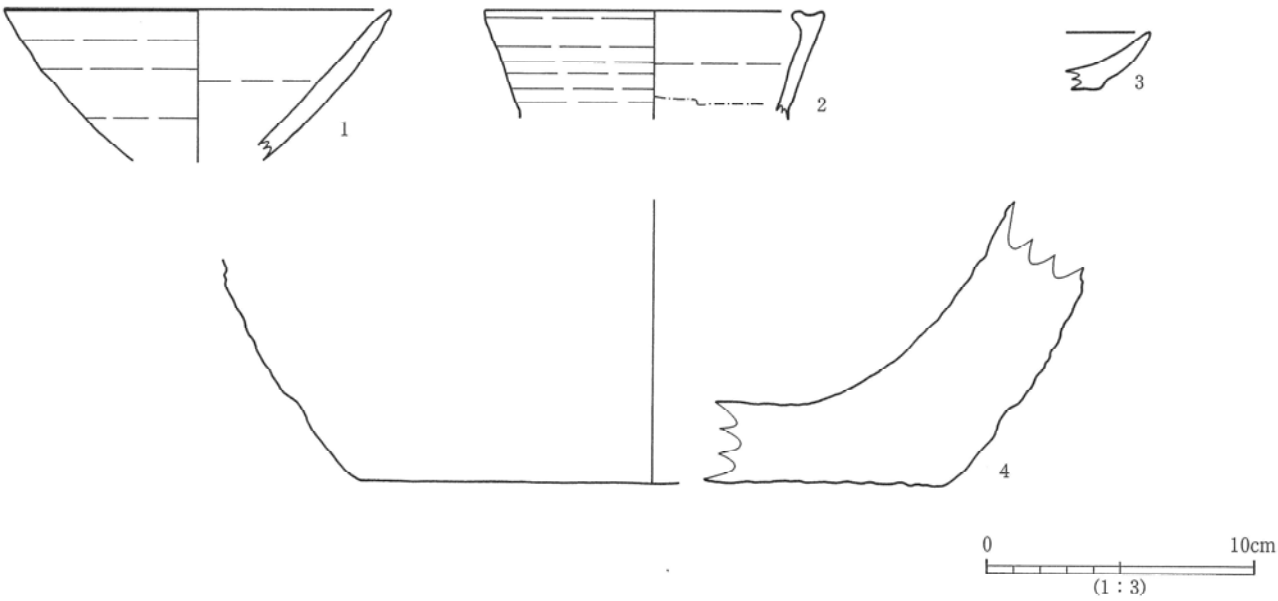


ＦＴＢVISE187 出土遺物

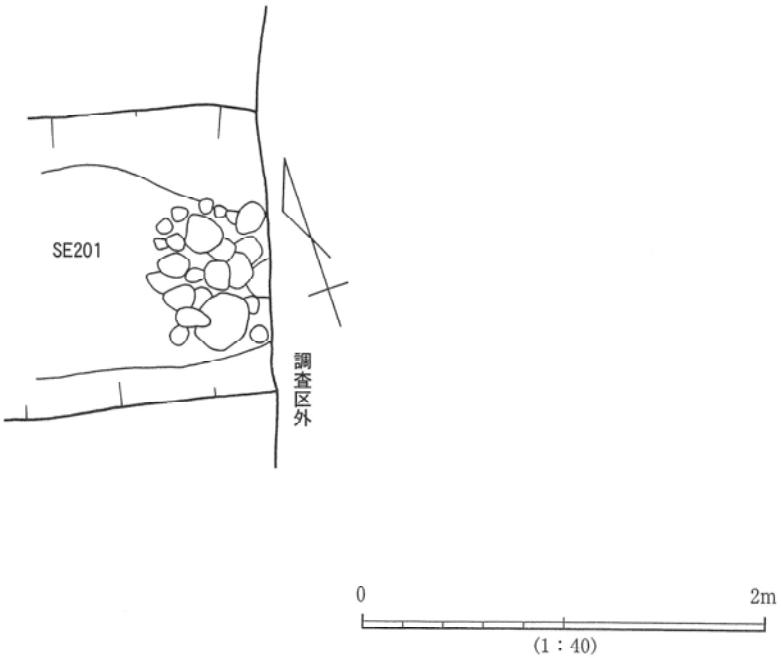


ＦＴＢVISE189 平面図・断面図

第 70 図



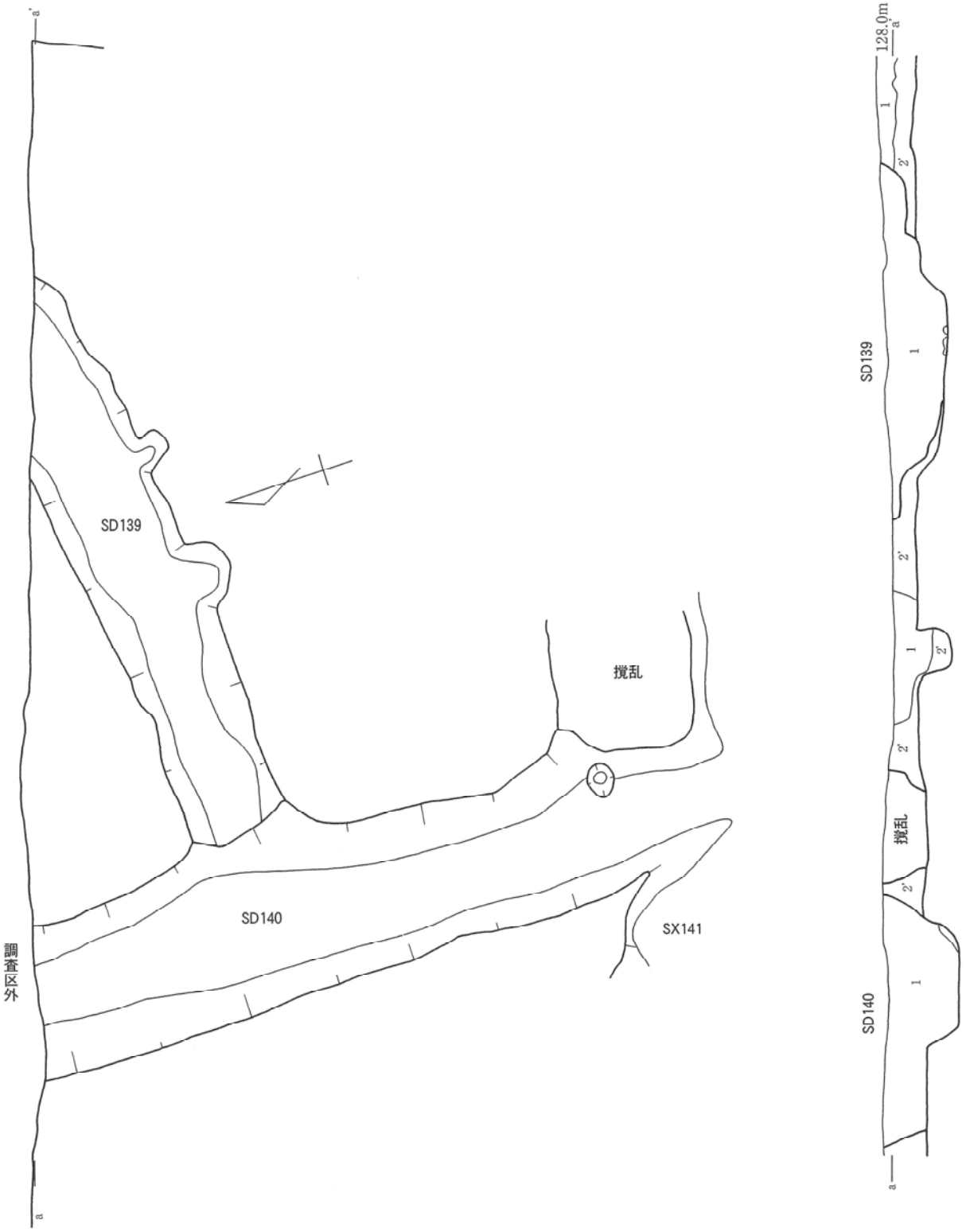
ＦＴＢ VISE189 出土遺物



ＦＴＢ VISE201 平面図

ＦＴＢ VISE201 出土遺物

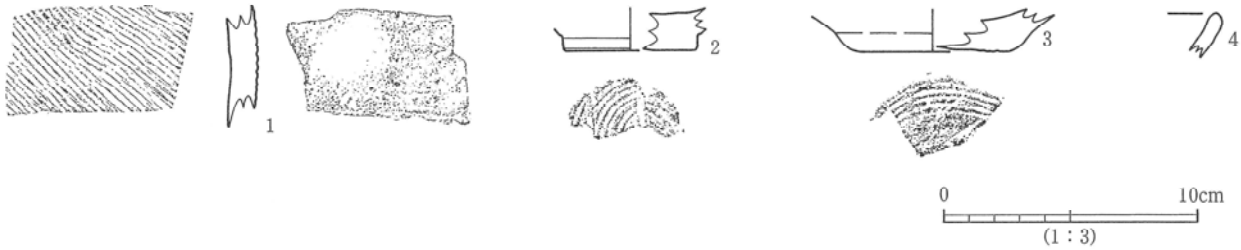
第 71 図



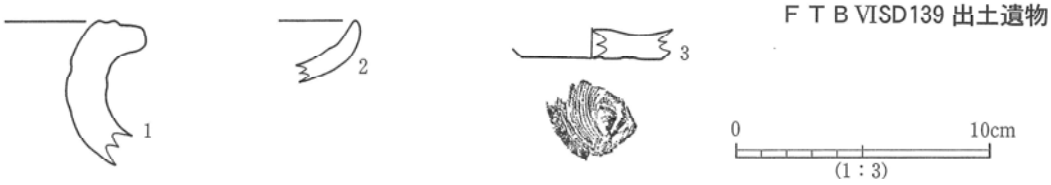
0　2m
(1：60)

ＦＴＢⅥSD139・SD140 平面図・断面図

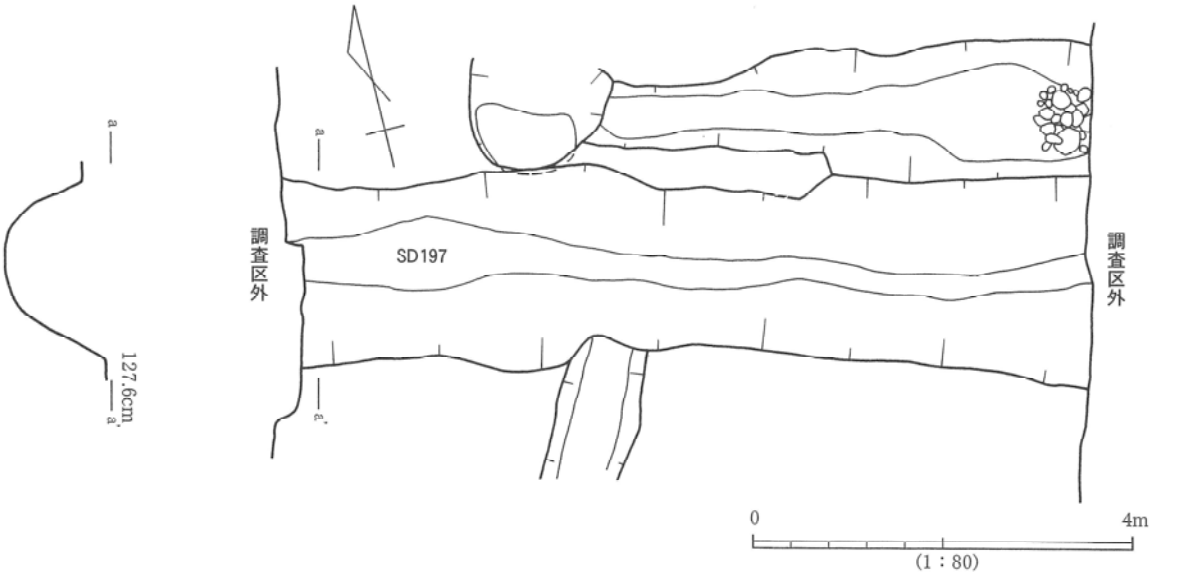
第 72 図



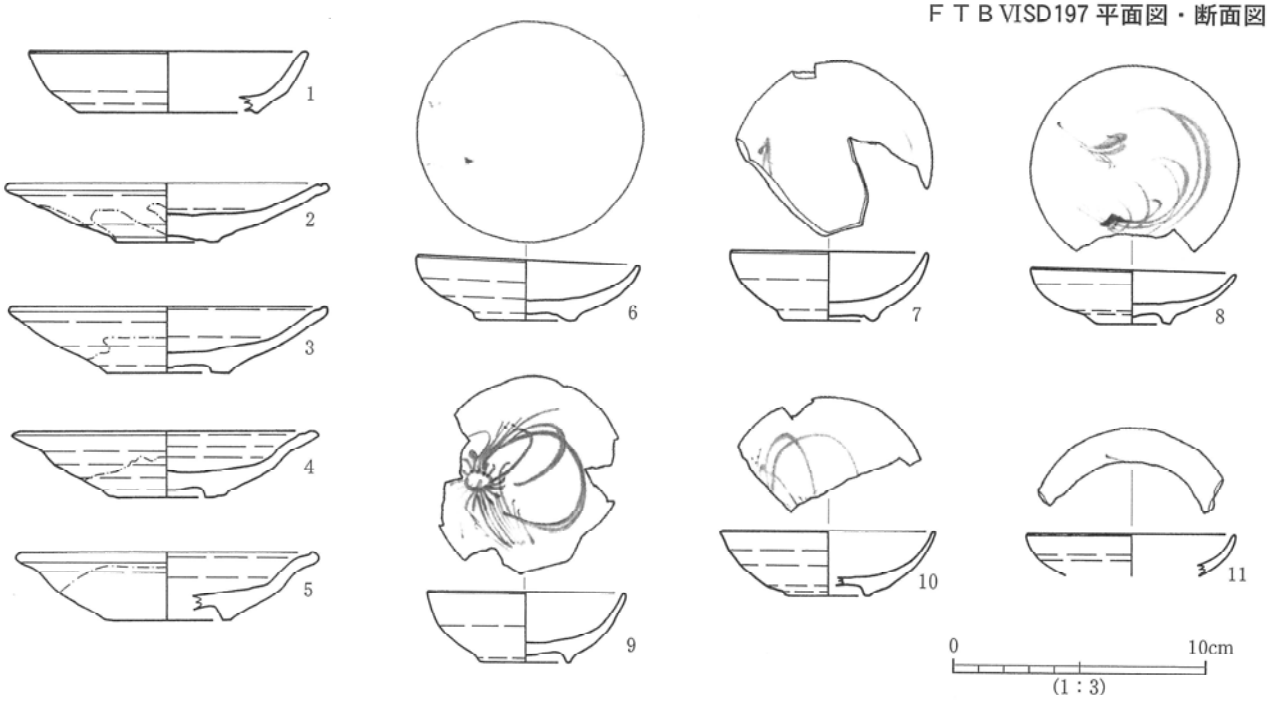
ＦＴＢ VISD139 出土遺物



ＦＴＢ VISD140 出土遺物

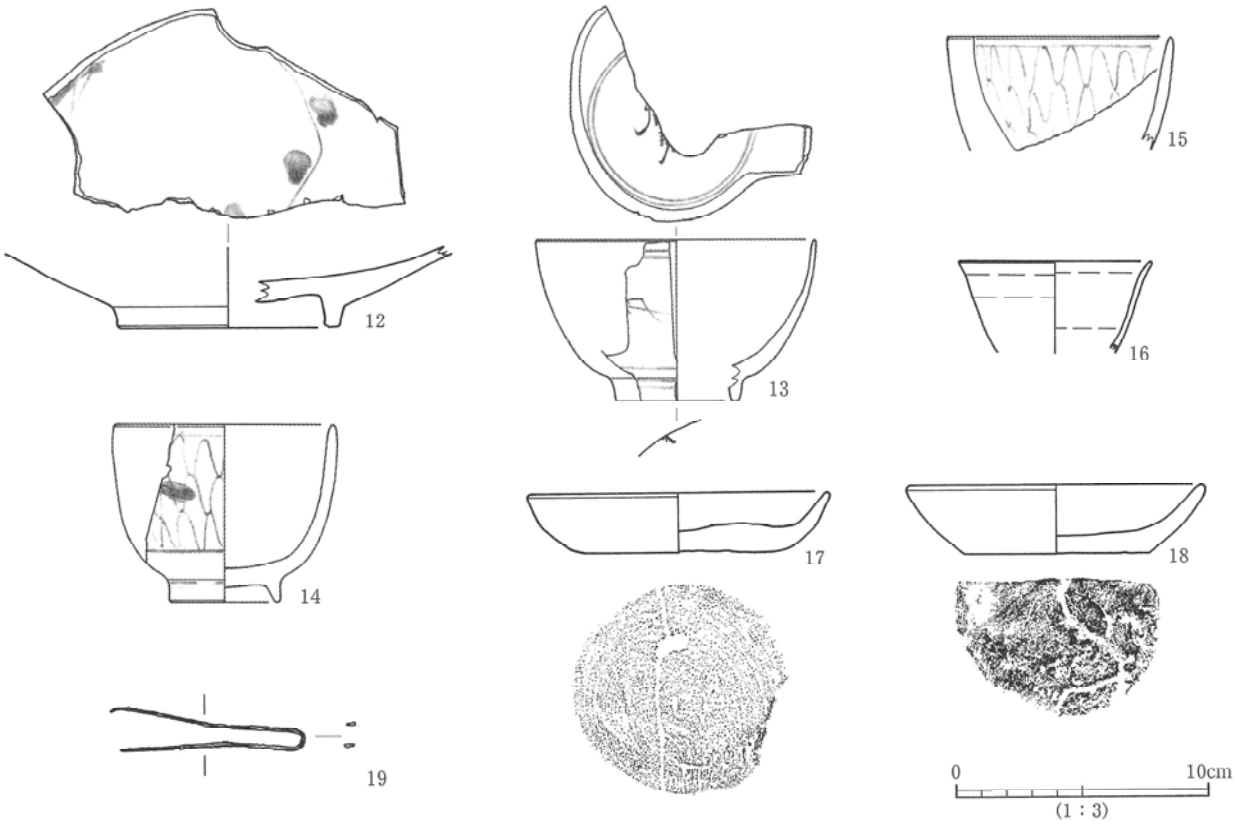


ＦＴＢ VISD197 平面図・断面図

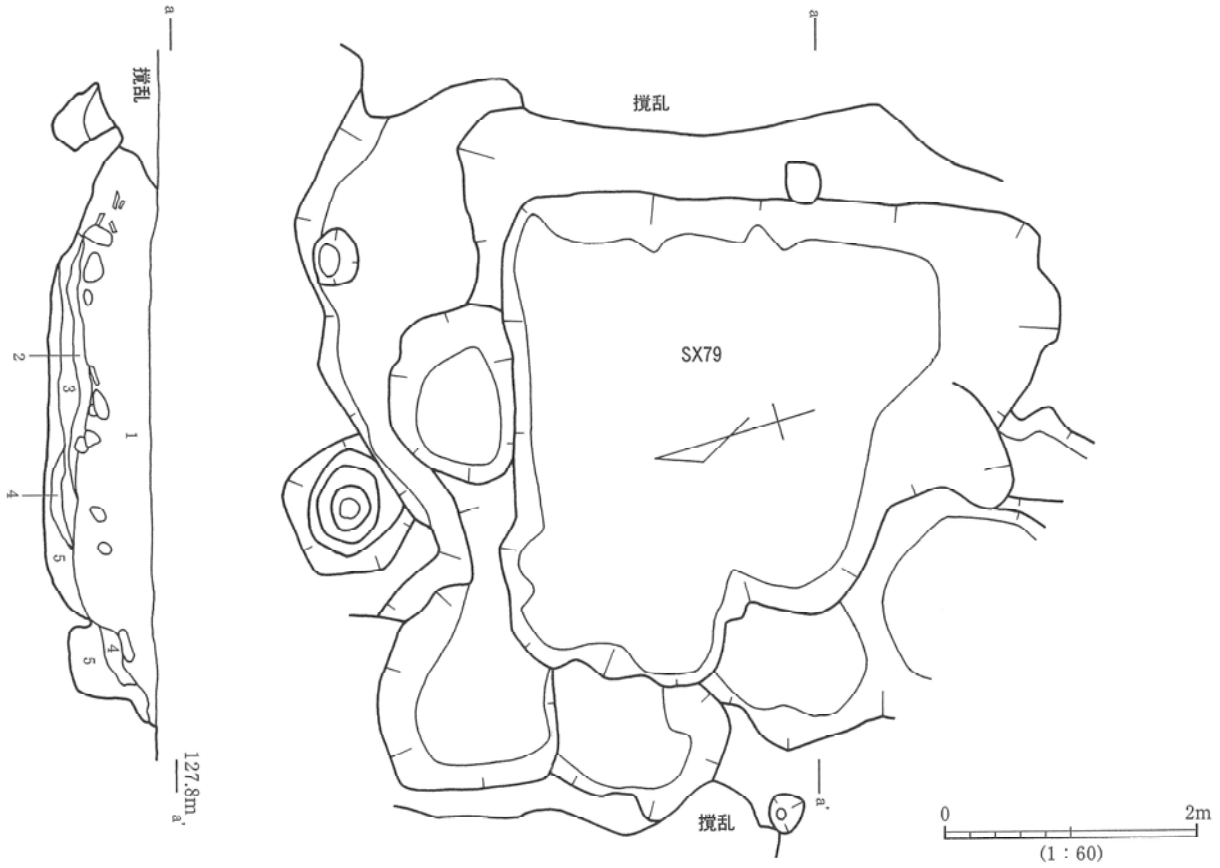


ＦＴＢ VISD197 出土遺物(1)

第 73 図

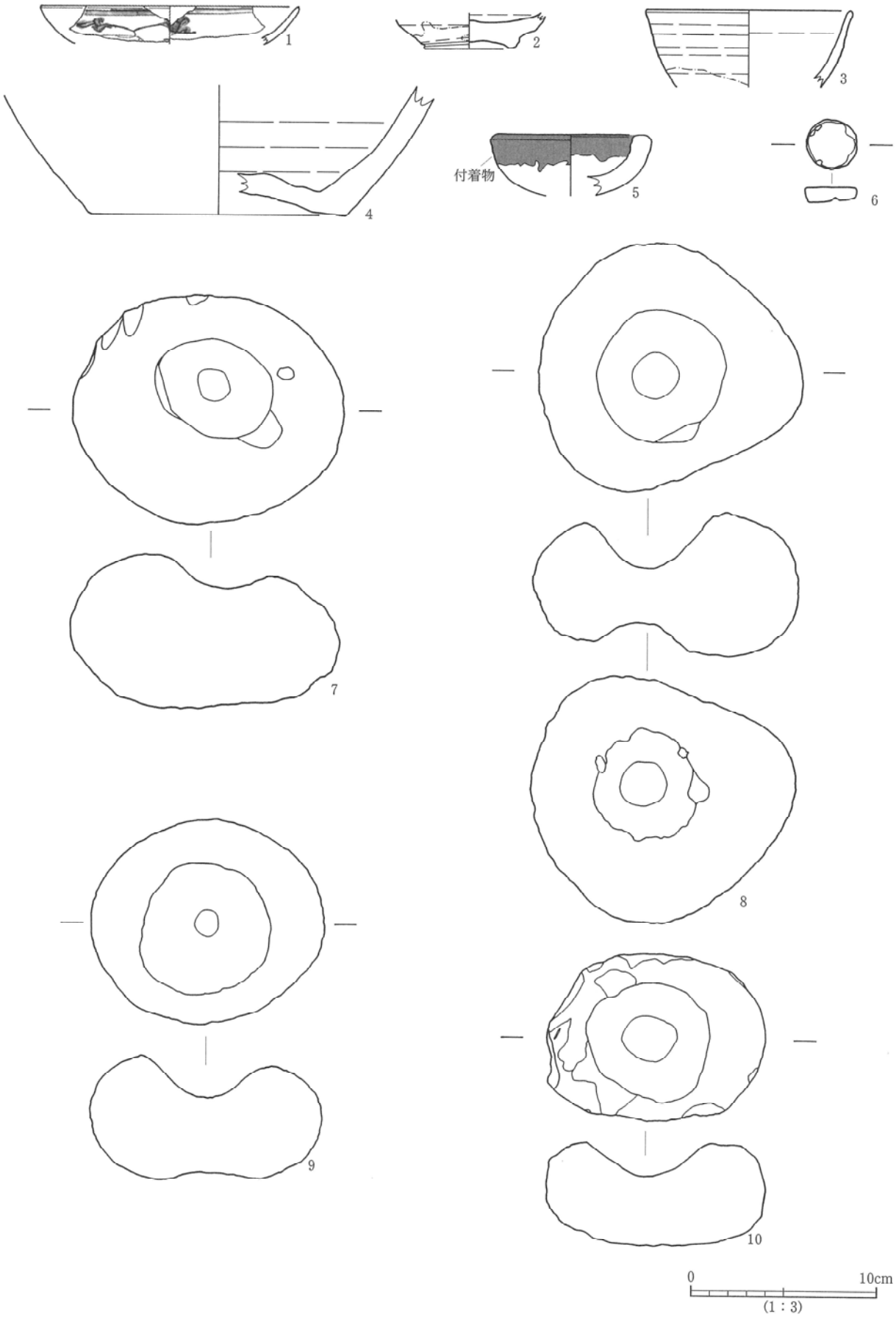


ＦＴＢVISD197出土遺物(2)



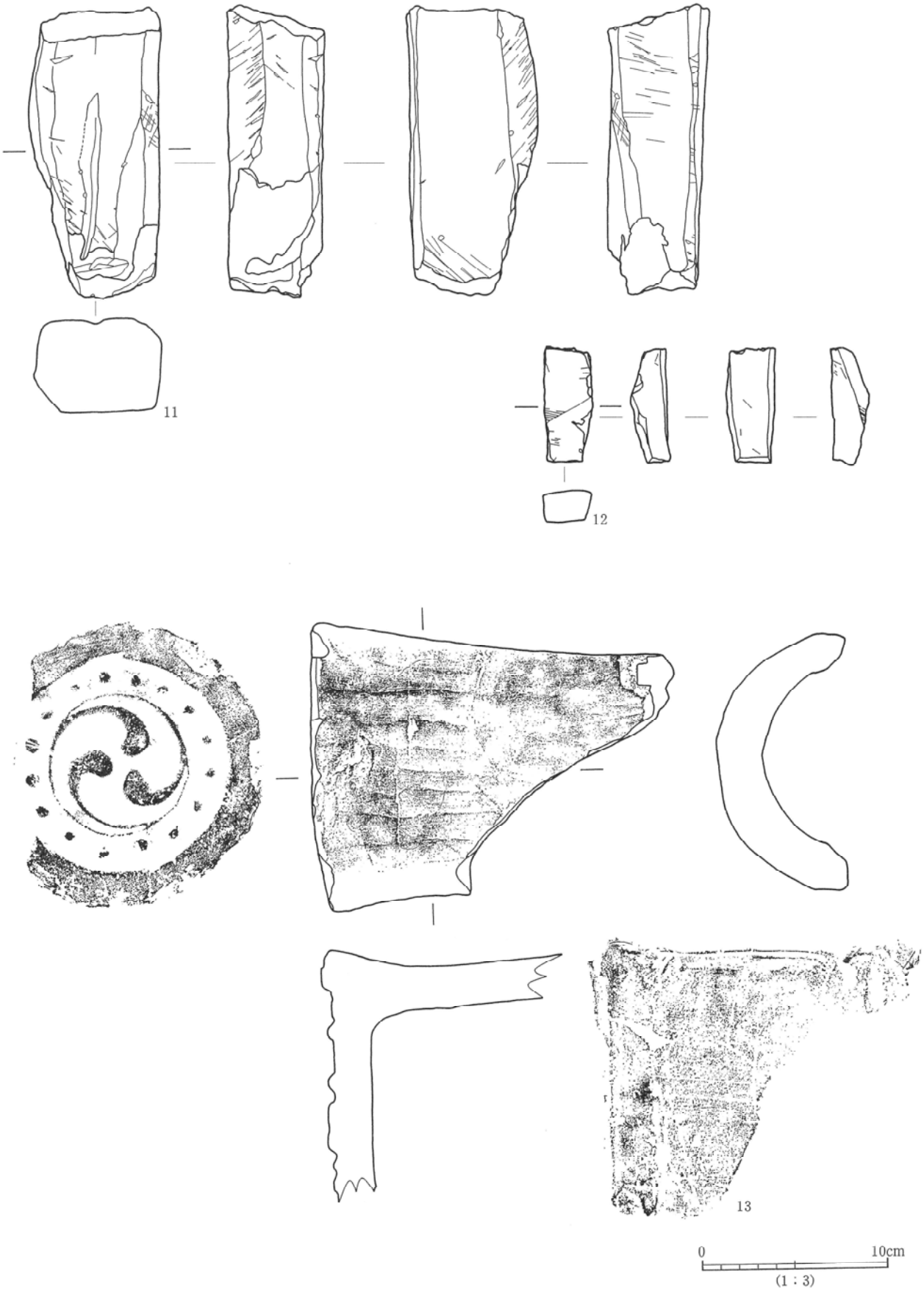
ＦＴＢVISX79平面図・断面図

第74図



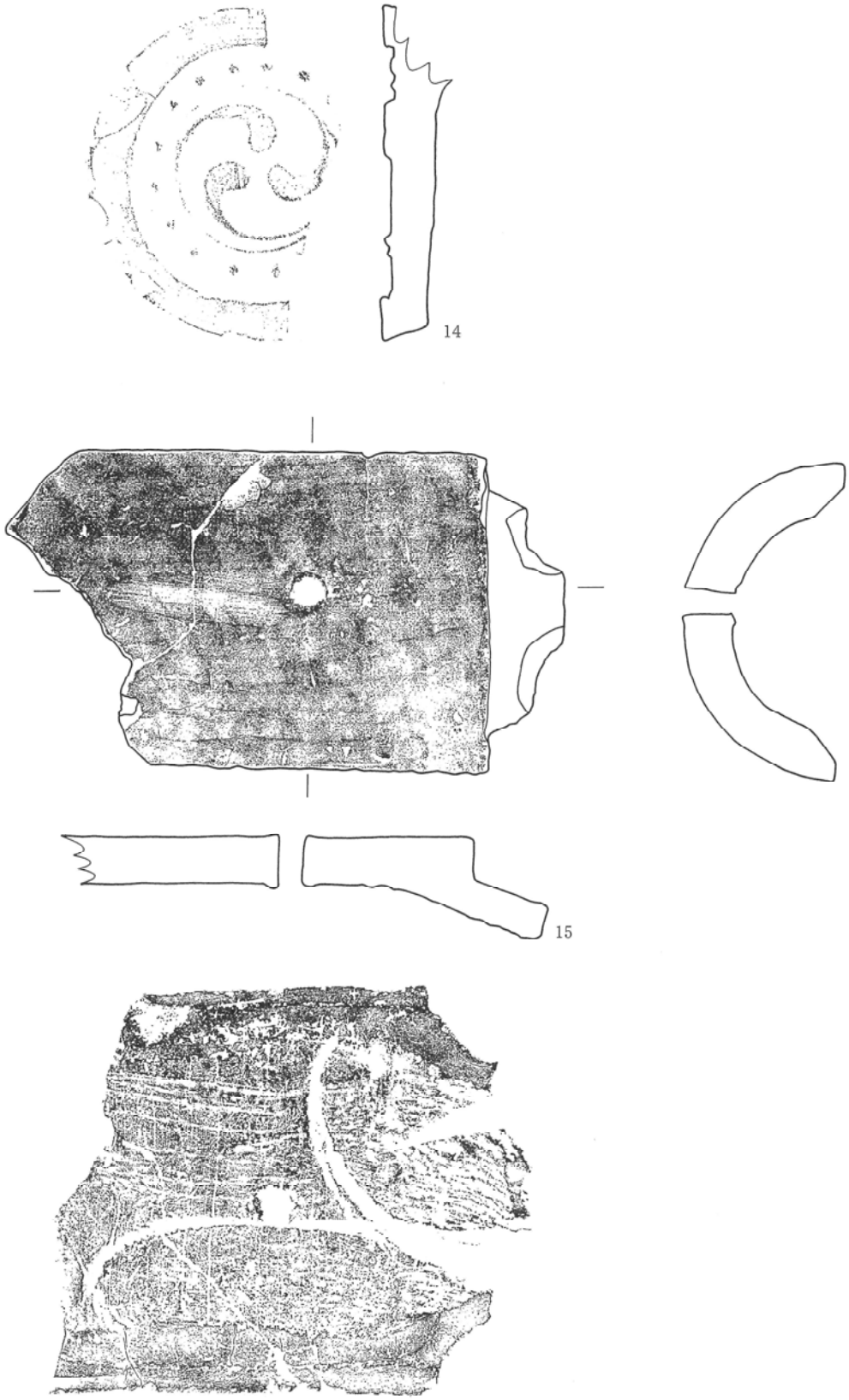
ＦＴＢ VISX79出土遺物(1)

第75図



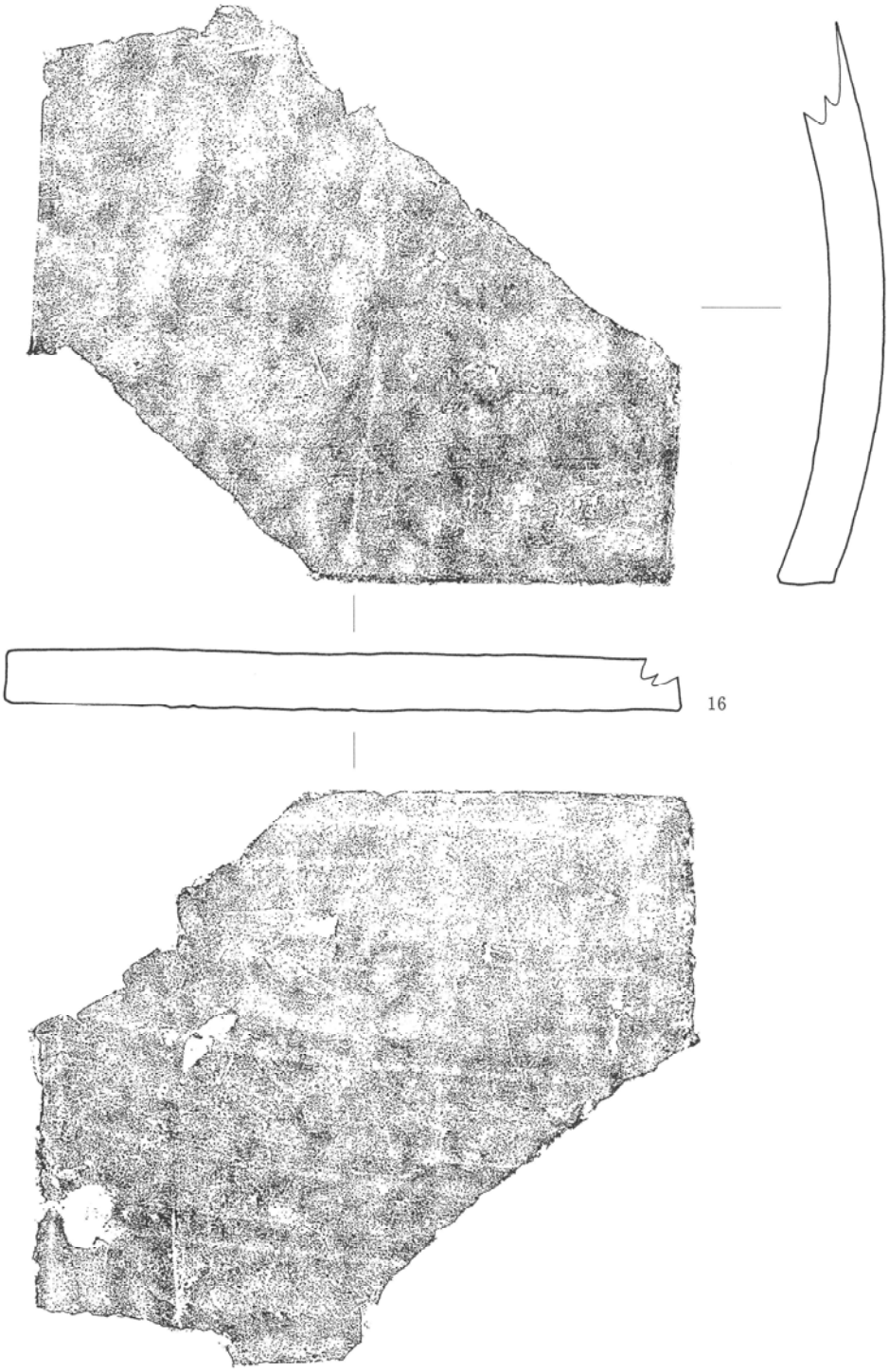
ＦＴＢⅥSX79出土遺物(2)

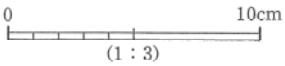
第76図



ＦＴＢ VISX79出土遺物(3)

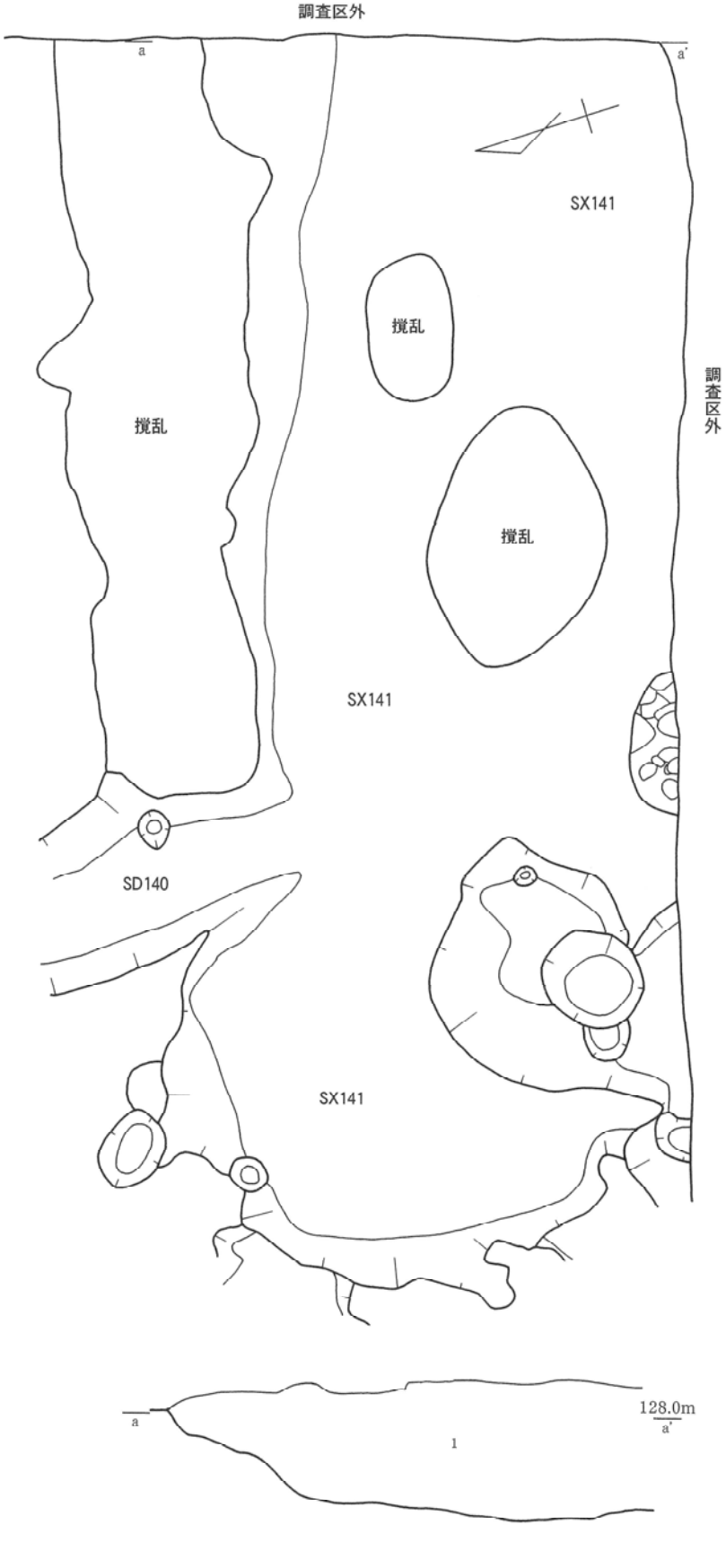
第77図





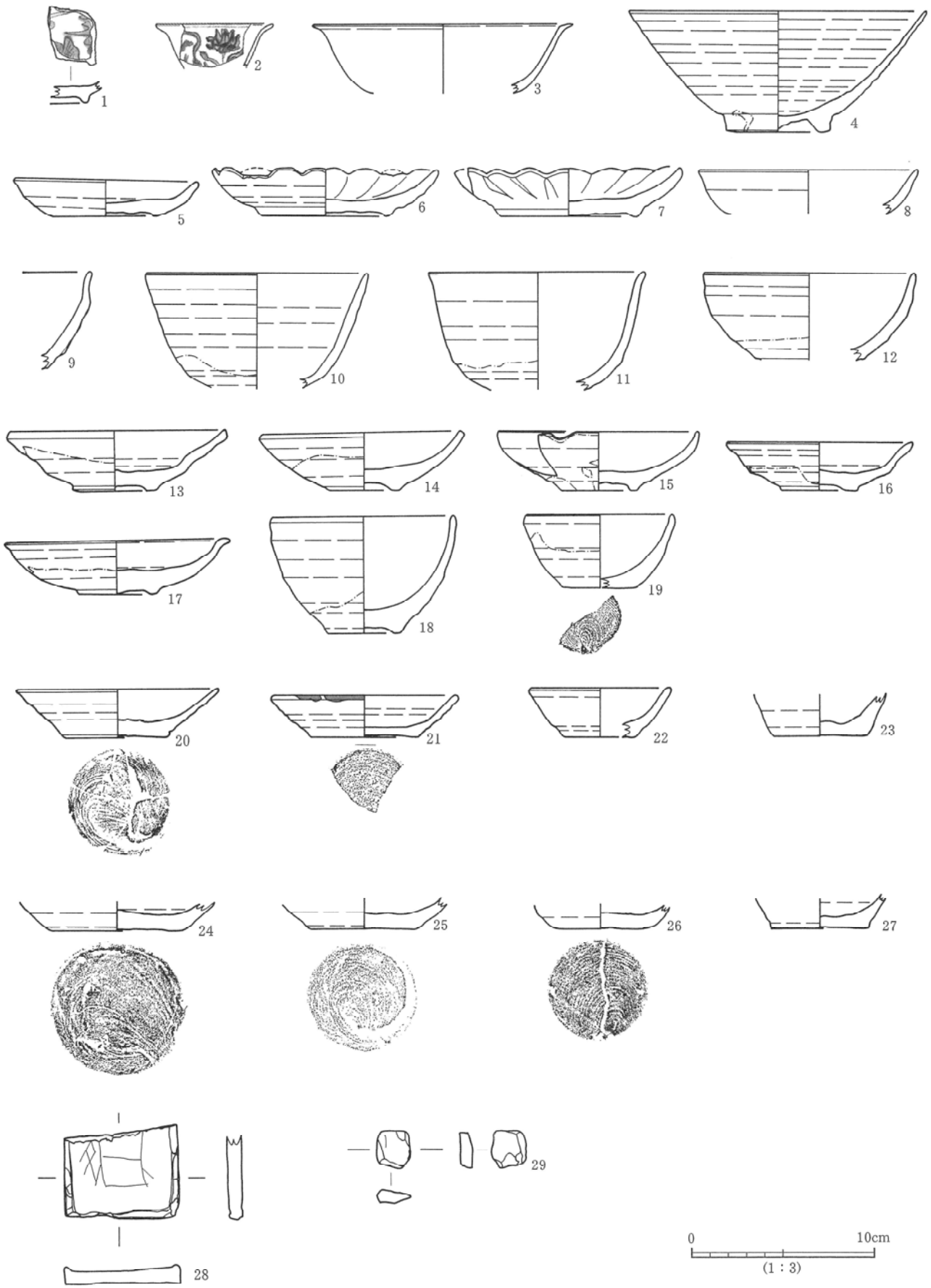
ＦＴＢ VISX79出土遺物(4)

第78図



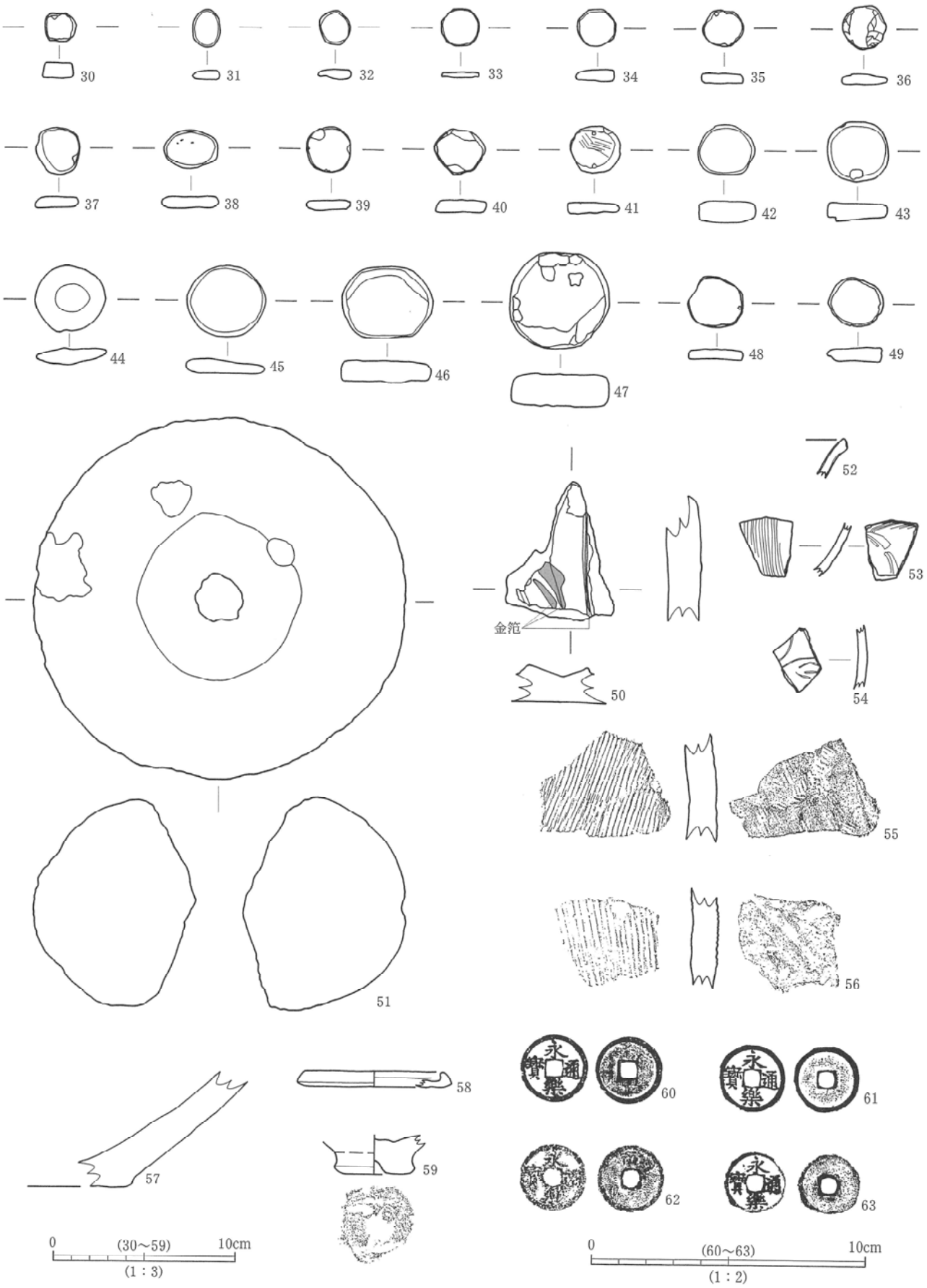
ＦＴＢVISX141平面図・断面図

第79図



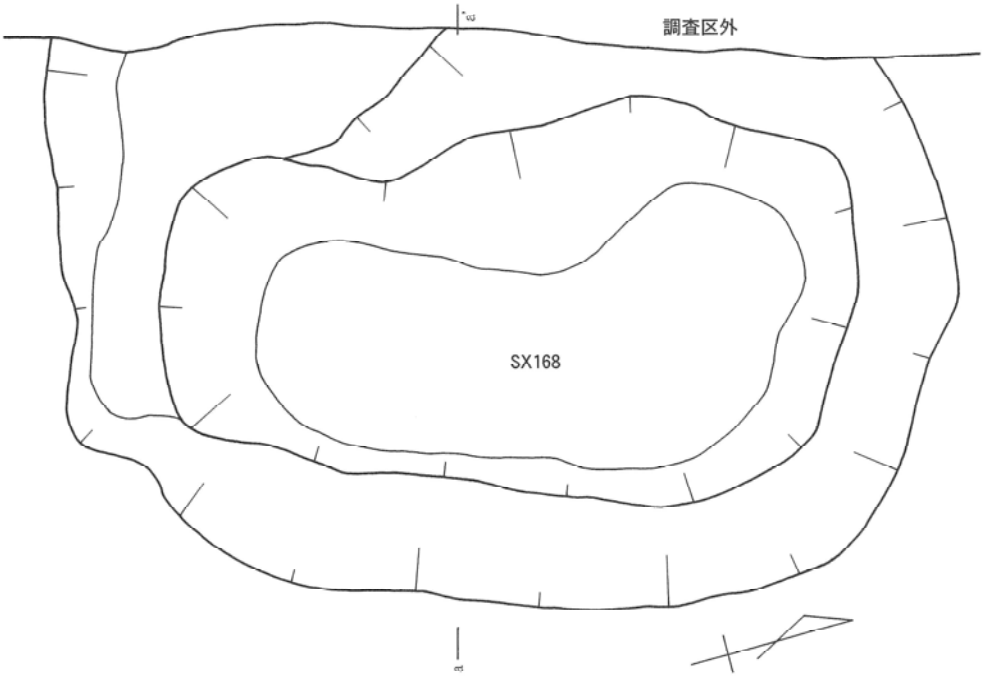
ＦＴＢⅦSX141出土遺物(1)

第80図

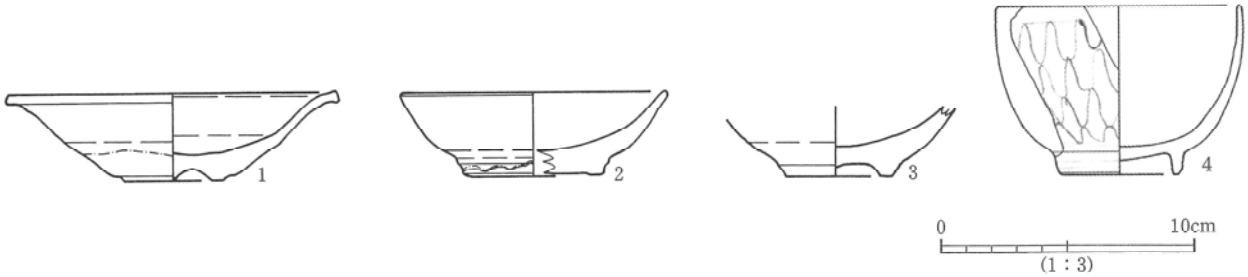


ＦＴＢVISX141出土遺物(2)

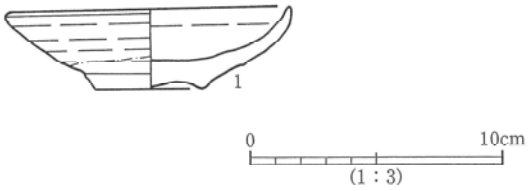
第81図



ＦＴＢⅥSX168平面図・断面図



ＦＴＢⅥSX168出土遺物



ＦＴＢⅥSX125（撹乱）出土遺物

第82図

ＦＴＢⅥSX125（第82図）

特　　徴　近現代の撹乱であるが、近世にさかのぼる遺物（１）のみ図化し掲載した。

（４）　小結

古墳時代から古代にかけての遺構は、非ロクロ成形土師器で有段丸底坏や無段丸底坏が出土する７世紀後半～８世紀初頭に属する遺構と、須恵器や赤焼の坏が出土する８世紀末～９世紀に属する遺構の２つの時期に大別できる。前者は竪穴住居のみ確認され、１区から２区の全域にかけて検出された。後者は竪穴住居のほか、土坑や井戸が検出されたが、竪穴住居は１区の４－12グリッド以南から２区にかけて検出されたのに対して、土坑や井戸は１区のみで確認された。建物は組むことが出来なかったが、柱穴（SP21）が検出されているので、竪穴住居以外の掘立柱建物などで構成される居住域が１区北半にあった可能性が高い。

中世に帰属する遺構は、SK10のみが16世紀であるが、他は12世紀後半～14世紀に帰属する。分布域は１区と４区に立地する。検出されたのは土坑や井戸、溝のみであり、居住施設は確認されなかった。

近世の遺構は、肥前系磁器が出土しない16世紀後半～17世紀初頭と、肥前系磁器が出土する17世紀半ば頃の２時期に大別できる。前者の時期を示す例としては、SX141が出土遺物の良好なセットとして挙げられる。国産陶器では、瀬戸美濃の志野皿や灰釉丸皿など大窯第４段階の製品や、肥前系陶器皿の胎土目段階の製品が主体を占め、輸入陶磁器では景徳鎮系磁器や朝鮮陶器などが出土している。後者の時期では、SD197の出土遺物が良好なセットを示す。輸入陶磁器は出土しておらず、国産陶磁器では肥前系陶器皿の砂目段階の製品や、肥前系磁器の蛇の目高台の小皿や、高台や底部に厚みのある碗、あるいは一重網目文の碗などが主体を占める。近世の遺構は、新旧どちらの時期も全体に分布する。

６　第７次調査（ＦＴＢⅦ）

（１）　遺跡の層序

本調査区は、標高約128mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。

基本層序は、調査区の東壁の南側で観察した。土層は概ね３層に分かれる。現況が砂利敷きで整地された広場であったが、Ⅰ層はこれによる山砂利の整地層である。Ⅱ層及びⅢ層は近世から近代にかけての堆積土であると思われる。Ⅳ層は地山である。

（２）　遺構と遺物の分布

遺構が検出された面は１面のみである。遺構・遺物は縄文時代から近代にかけてのものが確認された。検出されたのは、陥穴跡８基、竪穴住居跡14棟、土坑跡143基、井戸跡12基、溝跡22条、ピット84基、性格不明遺構40基であった。

縄文時代に帰属すると思われる陥穴跡は、Ｇ－６～Ｉ－５～Ｉ－７グリッドに集中している。ただし、やや離れてＦ－４グリッド（SK70）やＬ－７グリッド（SK304）に位置する遺構もある。竪穴住居跡は、Ａ－３～Ｆ－２～Ｌ－５グリッド以南でのみ確認され、Ａ－４～Ｅ－５グリッドやＪ－５～Ｌ－７グリッドに集中している傾向であった。

中世の遺構は、溝跡が南北に走る２条（SD５・SD13）と東西方向に走る１条（SD６）、及び井戸（SE159）がＤ－６グリッドで１基確認できたが、居住施設は検出されなかった。

近世の遺構は、土坑跡、井戸跡、溝跡などが多数検出され、特定の地区に偏ることなくほぼ全体に分布し

ていた。近世に属すると思われるピットが多く検出されたが、建物として組むことができたのは１棟のみで、ほかは建物を構成するに至らなかった。

（３）　検出された遺構と遺物

①　縄文時代（第85図：図版37・38・39）

ＦＴＢⅦSK70・ＦＴＢⅦSK178・ＦＴＢⅦSK267・ＦＴＢⅦSK268・ＦＴＢⅦSK282・ＦＴＢⅦSK283・ＦＴＢⅦSK304・ＦＴＢⅦSK324

特　　徴　縄文時代の陥穴であると考えられる。平面形態は、大半が長軸の長い隅丸方形を呈するが、SK178とSK268は長軸に対して短軸が大きい。断面形態は逆三角形を呈するが、SK178とSK304は逆台形を呈する。土層は全体的に均質で、自然堆積である可能性が高い。逆茂木などの底部施設は確認されなかった。

出土遺物　なし。

時　　期　これらの遺構群は、切り合い関係があるすべての遺構から切られている。また、形態から陥穴と考えられるので、縄文時代の可能性が高い。

②　古墳時代～奈良・平安時代

ＦＴＢⅦST91（第86図：図版39・40）

特　　徴　２つの時期が確認された。古い時期をST91a、新しい時期をST91bと呼称する。ST91aは第７層上面を床面とし、主柱穴はSP326、SP327、SP328の３基が検出された。ST91bはST91aを北東方向に約70cm、南東方向に約80cm拡張して作られ、床面は第６層の上面である。周溝はほぼ全周し。主柱穴はSP94、SP95、SP98の３基が検出された。ST91a、ST91bともにカマドは検出されなかった。

出土遺物　須恵器蓋（１）・坏（２）、土師器甕が出土した。

時　　期　須恵器坏（２）の形状から、８世紀後半～９世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦST144（第87図：図版40）

特　　徴　中央をSD13に大きく切られている。第４層上面が床面である。周溝は東壁の南半でのみ確認できなかったが、検出されている他の壁面では廻らされていた。柱穴はSP168の１基のみ検出された。

出土遺物　土師器坏（１）・高坏（２）・甕（３）、須恵器甕などが出土した。

時　　期　土師器坏や高坏の形状から、おおよそ７世紀頃と考えられる。

ＦＴＢⅦST146（第88図：図版40・41）

特　　徴　東側が大きく調査区外にかかる。地山を直接床面としている。柱穴、周溝、カマドは検出されなかった。なお、ＦＴＢST1038と同一遺構である。

出土遺物　須恵器有台坏（１）・坏（２）、土師器甕が出土した。すべて小破片で、あまり接合しなかった。

時　　期　須恵器有台坏・坏の形状から９世紀前半頃と考えられる。

ＦＴＢⅦST154（第89図：図版41）

特　　徴　SK116、SD５、SX155などに切られ、残存状況は悪い。第４層上面を床面としている。周溝は土層観察では第３層が該当することが確認できたが、全体的に掘り込みが浅く、平面プランがどのような形態かについては、把握できなかった。

出土遺物　須恵器坏（１）・甕、土師器甕が出土した。（１）以外はすべて小破片である。

時　　期　（１）から、９世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦST163（第90図：図版41）

特　　徴　遺構のほとんどが調査区外となり、北西部のみがわずかに検出された。第５層上面が床面である。カマドが検出され、ソデは粘土で構築され先端を礫で補強している構造を持つことが認められた。ＦＴＢST1055と同一遺構である。

出土遺物　土師器坏（１、２）・甕、須恵器坏（３）が出土した。（１）は床面から逆位で出土した。

時　　期　有段丸底坏（１）が出土しているので、７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦST185（第91・92図：図版41・42）

特　　徴　SD13やSX141、SX176に切られる。検出面からの深さが約40～50cmと深く、残存状況は良好である。第３層上面が床面である。北西カマドで、ソデは粘土で構築されていることが確認できた。周溝は残存している壁面のすべてで確認できた。主柱穴はSP259、SP260の２基が検出された。なお、SK193・SK194は住居覆土の第１層に切られ、かつ第３層を切る状態で検出されたので、住居に伴う土坑であることが認められる。これらの土坑からの出土遺物は無かったが、貯蔵穴などの用途が考えられる。

出土遺物　土師器坏（１）・高坏（２）・甕（３、４）・甑（５）、須恵器壺（６）が出土した。（３）はカマドのソデに上から押しつぶされたような状態で出土した。

時　　期　有段丸底坏坏（１）から、７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦST195（第93・94図：図版42・43）

特　　徴　一辺が約10m四方と、非常に規模の大きい竪穴住居である。第３層を貼り床としているが、非常に薄く部分的に確認されるのみで、それ以外は第４層上面を床面としている。壁柱穴が検出され、東壁で４基確認されるので、本来は12基で上部構造材を支えていたと考えられる。

出土遺物　図化した資料で、（６）が第４層、ほか（１～５、７～14）は第１層から出土しているので、すべてST195に帰属する覆土から出土したことになる。ST196に帰属する覆土からは小破片が出土したのみで、時期を判別できる遺物はなかった。

時　　期　時期の判別する遺物はすべてST195の覆土から出土したが、それらは大きく２つの時期に分けることができる。古い時期に分類できる遺物は、非ロクロ成形の有段丸底坏（２）や無段で平底に近い丸底の坏（２）、あるいは非ロクロ成形の高坏（３～５）、甕（６）である。新しい時期に分類できる遺物は、須恵器蓋（７、８）や、回転ヘラ切り（(12)のみ静止糸切り）で口径に対して底径が大きいタイプの坏（９～14）である。切り合い関係からST195はST196より新しいので、後者の遺物がST195に帰属すると考えられ、時期は８世紀末～９世紀前半と思われる。

ＦＴＢⅦST196（第93・94図：図版42・43）

特　　徴　大半をST195に切られ上層部分が失われている。第12層のみがST196の覆土として検出された。床面は、ST195により切られていると思われる。主柱穴が４基検出された。

出土遺物　ST195の項参照。

時　　期　ST195から出土した遺物のうち、古い時期に分類できる遺物（１～６）は、ST196がST195に切られたため遺物も撹乱され、結果的にST195の覆土から出土したと考えられる。これらの遺物の年代観は８世紀初頭～半ばであるので、ST196も当該時期に相当する可能性が高い。

ＦＴＢⅦST230（第95図：図版42・43・44）

特　　徴　第２層上面を床面としている。カマド、周溝、主柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器甕（１）・坏が出土した。出土遺物は少なく、また（１）以外は小破片である。

時　　期　図化していないが非ロクロ成形の内黒土師器坏が出土しており、７世紀～８世紀と考えられる。

ＦＴＢⅦST234（第96図：図版44）

特　　徴　北西側は調査区外にかかる。床面は削平により失われており、住居中央部はプラン精査の段階ですでに地山面が露出していた。検出されたのは、床面より下層の堆積土である。

出土遺物　土師器坏（１）・高坏（２）・甕、須恵器有台坏（３）が出土した。

時　　期　出土遺物の時期にやや幅があるが、最も生産年代の新しい須恵器有台坏（３）から、住居の埋没年代は８世紀後半～９世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦST270（第97図：図版44・45）

特　　徴　検出面からの深さが非常に浅く、残存状況は良くない。堆積土も第１層のみが検出されたにすぎない。主柱穴はSP209、SP211、SP229の３基が検出された。

出土遺物　須恵器有台坏（１）、土師器甕（２）・坏が出土した。小破片が多く、接合しなかった。

時　　期　図化しなかったが非ロクロ成形内黒平底坏が出土しており、８世紀半ば～後半と考えられる。

ＦＴＢⅦST271（第98図：図版45）

特　　徴　検出面からの深さが非常に浅く、残存状況は良くない。堆積土も第１層のみが検出されたにすぎない。主柱穴はSP201、SP227、SP241、SP322の４基が検出された。

出土遺物　土師器坏（１）・甕（２）、須恵器坏（３）・蓋が出土した。土師器甕は小破片が多く出土したが、あまり接合しなかった。

時　　期　須恵器坏の形状から、８世紀後半～９世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦST272（第99図：図版45）

特　　徴　住居北東部の一部のみ検出された。堆積土も第１層が検出されたのみである。

出土遺物　なし。

時　　期　不明である。

ＦＴＢⅦST276（第100図：図版45）

特　　徴　南側と東側の一部が調査区外にかかり、中央をSD５に大きく切られる。第３層上面を床面としている。カマド、周溝、主柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器坏（１）・甕（２）、須恵器甕などが出土した。

時　　期　土師器坏（１）の形状などから、７世紀～８世紀と考えられる。

ＦＴＢⅦSK103（第101図：図版46）

特　　徴　西側が調査区外にかかる。ほぼ円形を呈し、底面は平坦で壁面はオーバーハングする。

出土遺物　土師器坏（１）・高坏・甕などが出土した。

時　　期　有段丸底坏（１）が出土しており、７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSK119（第102図：図版46）

特　　徴　やや崩れた円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は２層に分かれるが、遺物はすべて第１層から出土した。

出土遺物　須恵器有台坏（１～５）・坏（６）が出土した。有台坏は口径が14～15cmで底径が８～９cm、器高が５cm前後のタイプと、口径・底径は前者と同じだが器高が約４cmのタイプの２形態がある。

時　　期　須恵器有台坏や坏から、８世紀後半～９世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSK277（第103図）

特　　徴　崩れた楕円形を呈し、底面は起伏が激しく壁面は急に立ち上がる。土層にブロックを多く含むので、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物　土師器高坏（１）・甕（２）、須恵器甕が出土した。

時　　期　土師器高坏（１）の形状から、７世紀～８世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSE105（第104図：図版46）

特　　徴　素掘りの井戸である。円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　須恵器甕（１、２）、土師器甕等が出土した。小破片が多く、あまり接合しなかった。

時　　期　年代決定の遺物に乏しいが、甕等の特徴から、おおよそ８世紀～９世紀と考えられる。

ＦＴＢⅦSE147（第104図：図版46）

特　　徴　素掘り井戸である。楕円形を呈し、底面は平坦で壁面はテラスを形成し立ち上がる。

出土遺物　須恵器有台坏（１）・坏（２、３）・甕、土師器甕、赤焼坏などが出土した。須恵器坏（３）は、底部外周に焼成後研磨されたような痕跡があり、砥石などに転用された可能性がある。

時　　期　須恵器有台坏（１）や、赤焼坏が出土していることから、９世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSE220（第105図：図版46）

特　　徴　素掘り井戸である。円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　須恵器坏、土師器甕などが出土した。すべて小破片で、あまり接合しなかった。

時　　期　須恵器坏の形状などから、８世紀後半～９世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSE258（第105図：図版46）

特　　徴　素掘り井戸である。隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物　土師器坏（１）・甕が出土した。土師器甕は小破片のみである。

時　　期　土師器坏（１）は非ロクロ成形で、底部はわずかしか残存していなかったが、平底であり、８世紀半ば～後半と考えられる。

ＦＴＢⅦSE264（第105図：図版47）

特　　徴　素掘り井戸である。円形を呈し、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物　土師器坏（１）・甕（２）などが出土した。

時　　期　土師器坏（１）は非ロクロ成形で外面にケズリ・ナデが、内面にミガキ・黒色処理が施されていることが認められ、おおよそ７世紀～８世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSD10（第106図：図版47）

特　　徴　Ｅ－１グリッドからＫ－４グリッドにかけて、北西－南東方向に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　土師器坏（１）・碗（２）・高坏（３、４、７）・甕（５、６）などが出土した。

時　　期　無段丸底坏（１）と平底の碗（２）が混在することから時期にやや幅があるが、おおよそ８世紀前半～後半と考えられる。

ＦＴＢⅦSD222（第107図：図版47）

特　　徴　Ａ－８グリッドからＤ－９グリッドにかけて、北西－南東方向に直線的に走る溝である。底面は起伏が激しく壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　土師器甕（１）などが出土した。

時　　期　出土遺物からの年代決定は困難だが、SD10やSD244と平行に走るので、これらの溝とほぼ同時期、おおよそ７世紀後半～８世紀後半と考えられる。

ＦＴＢⅦSD244（第108図：図版47）

特　　徴　Ａ－６グリッドからＨ－９グリッドにかけて、北西－南東方向に直線的に走る溝である。土層は、地山に由来するブロックを非常に多く含むので、人為堆積の可能性が高い。

出土遺物　土師器坏（１）・甕（２）・壺（３）、須恵器蓋（４）などが出土した。

時　　期　無段丸底坏（１）が出土しており、７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

③　中世

ＦＴＢⅦSE159（第109図：図版48）

特　　徴　石組井戸である。石組は底面付近で２段ほど確認した。検出された石組より上部には、土層中に井戸の掘り方の埋土や石組等の痕跡は検出されず、初めから２段しか石組は存在しなかったと考えられる。

出土遺物　龍泉窯系青磁碗（１）、姿器系陶器甕（２）のほか、土師器、須恵器が出土した。

時　　期　龍泉窯系青磁碗（１）から、13世紀と考えられる。

ＦＴＢⅦSD５（第110図：図版48）

特　　徴　Ｈ－１グリッドからＩ－７グリッドにかけ、南北に直線的に走る溝である。断面形態は逆台形を呈する。土層は、東側から土が流れ込み堆積したような形態を示す。このような形態は特に、a-a'、b-b'、c-c'の土層断面で顕著である。ＦＴＢSD1068と同一遺構と考えられる。

出土遺物　姿器系陶器鉢（１）、肥前系陶器皿（２）、凹石（３）、石臼（４）、茶臼（５）、龍泉窯系青磁碗、景徳鎮系磁器皿が出土した。このほか、土師器、須恵器の小破片が出土している。

時　　期　遺物の生産年代は、古い製品では、図化していないが出土している龍泉窯系青磁碗が14世紀頃、新しい遺物では肥前系陶器皿が16世紀末～17世紀初頭と幅がある。最終的な埋没年代は、新しい生産年代を示す遺物から16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

ＦＴＢⅦSD６（第111図：図版48・49）

特　　徴　Ａ－１グリッドからＤ－１グリッドにかけて、東西方向に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は、第３層は均質な堆積土であるため自然堆積の可能性が高いが、第１～２層は礫や地山由来のブロックを含むので、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物　姿器系陶器甕（１）のほか、土師器、須恵器の小破片が出土している。

時　　期　時期決定遺物に乏しいが、姿器系陶器が出土し、おおよそ14～15世紀と考えられる。

ＦＴＢⅦSD13（第112図：図版49）

特　　徴　Ｄ－１グリッドからＥ－９グリッドにかけて、南北方向に直線的に走る溝である。Ｅ－７グリッド付近を境にして、北半は幅が小さく深さも浅く、南半は幅が大きく深さも深くなっている。また、南半のＥ－９グリッド以南は壁面に段を有し、それより下方は立ち上がりが急で、上方は立ち上がりが緩やかである。ＦＴＢSD1077およびＦＴＢSD11006と同一遺構と考えられる。

出土遺物　白磁皿（１）、景徳鎮系磁器皿（２）、姿器系陶器甕（３）、瀬戸美濃系陶器皿（４、５）・瓶（６）、円盤状石製品（７）、碁石（８）、砥石（９）、石鉢（10、11）、古銭（12～14）、黒瓦、温石などが出土した。なお、図化しなかったが、景徳鎮系磁器では染付Ｂ１群の皿も出土している。

時　　期　出土遺物の生産年代は、（１）や（３）は15世紀まで遡る可能性が高いが、（５）は16世紀後半である。最終的な埋没年代は、最新の生産年代を示す遺物から16世紀後半と考えられる。

④　近世

ＦＴＢⅦSB322（第113図：図版50）

特　　徴　礎石建物跡である。柱穴の基礎構造は、SP187、SP192、SP202のように径５～20cmの礫を根石として敷いた上に長径約30～40cmの礎石を置いているタイプと、SP329、SP330、SP274、SP331、SP200、SP228のように直接遺構の底面に長径約30～40cmの礎石を置くタイプの2種類がある。なお、南側の梁（SP187、SP192）に対応する礎石は、北側の梁では検出されなかった。

出土遺物　SP274から景徳鎮系磁器碗（1）、SP295から肥前系陶器皿（2）、瀬戸美濃系陶器瓶、黒瓦、SP228から瀬戸美濃系陶器碗が出土した。他に、土師器、須恵器が出土した柱穴もある。

時　　期　柱穴から肥前系陶器が出土しているため、17世紀前半頃と考えられる。

ＦＴＢⅦSK18（第114図：図版50）

特　　徴　隅丸方形を呈し、底面はほぼ平坦で壁面はややオーバーハングして立ち上がる。土層は西側から堆積していった様相が認められる。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器皿（1）、肥前系陶器皿（2）、黒瓦、ロクロかわらけが出土した。

時　　期　図化した遺物は、16世紀末～17世紀初頭の年代が与えられるが、ロクロかわらけがSK25と遺構間接合したので、遺構の時期は17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK25（第114図：図版50）

特　　徴　おおよそ楕円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　ロクロかわらけ（1）の１点のみ出土した。（1）はSK18から出土した破片と接合した。

時　　期　SK26を切るので、17世紀半ば以降である。

ＦＴＢⅦSK26（第114図）

特　　徴　崩れた楕円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　肥前系磁器碗（1）・皿、黒瓦が出土した。

時　　期　肥前系磁器碗から、17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK32（第114図）

特　　徴　円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　漳州窯系磁器皿（1）、景徳鎮系磁器皿、肥前系陶器皿が出土した。

時　　期　出土した遺物は、おおよそ16世紀末～17世紀初頭の年代が与えられるが、SK26を切るので、遺構の年代は17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK29（第115図：図版50）

特　　徴　土層は礫や地山由来のブロックを多く含むので、人為的な堆積の可能性が高い。

出土遺物　ロクロかわらけ（1）、瀬戸美濃系陶器皿・碗、肥前系陶器皿などが出土した。小破片が多く、あまり接合しなかった。

時　　期　肥前系磁器が出土せず、また、SK33に切られるので17世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSK33（第115図：図版50）

特　　徴　土層は礫や地山由来のブロックを多く含むので、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物　肥前系陶器皿（1）、肥前系磁器皿（2）、瀬戸美濃系陶器皿、黒瓦などが出土した。

時　　期　肥前系磁器皿（2）は、口径に対して高台径の小さいいわゆる初期伊万里であるので、17世紀第２四半期頃と考えられる。

ＦＴＢⅦSK58（第116図：図版50）

特　　徴　隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物　碁石（１）の１点のみ出土した。

時　　期　碁石が出土しているので、中世以降だが、詳細な時期は不明である。

ＦＴＢⅦSK73（第117図：図版50）

特　　徴　土層は礫や地山由来のブロックを多く含み、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物　黒瓦丸瓦（１）、瀬戸美濃系陶器皿・碗、肥前系陶器皿・擂鉢が出土している。黒瓦は図化したものは１点のみだが、小破片は多数出土している。

時　　期　肥前系磁器が出土しておらず、17世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSK74（第118図：図版51）

特　　徴　やや崩れた隅丸方形を呈し、底面はやや起伏を帯び壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　肥前系磁器碗（１）、ロクロかわらけ（２、３）、古銭（４）が出土した。

時　　期　出土した古銭（古寛永通寶）の初鋳年が1636年であることや、肥前系磁器碗（１）の特徴から、17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK99（第119図）

特　　徴　円形を呈する。浅く緩やかに立ち上がる土坑である。

出土遺物　産地不明陶器鉢（１）、砥石（２）、円盤状石製品（３）などが出土している。

時　　期　年代決定遺物に乏しいので詳細はわからないが、近世の範疇に収まると思われる。

ＦＴＢⅦSK101（第119図：図版51）

特　　徴　やや崩れた楕円形を呈し、底面はやや起伏を帯び壁面はオーバーハングして立ち上がる。土層は礫や地山由来のブロックを多く含むので、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物　景徳鎮系磁器皿（１）、瀬戸美濃系陶器瓶などが出土した。

時　　期　景徳鎮系磁器の特徴から、16世紀末～17世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSK111（第120図：図版51）

特　　徴　土層は地山由来のブロックを多く含むので、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物　景徳鎮系磁器皿（１）、黒瓦などが出土した。

時　　期　景徳鎮系磁器皿から、16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

ＦＴＢⅦSK156（第121・122図：図版51）

特　　徴　瓦や土器・陶磁器の廃棄土坑と考えられる。遺物は、すべて１層から出土した。

出土遺物　漳州窯系磁器皿（１）、瀬戸美濃系陶器小坏（２）・瓶（３）、肥前系陶器皿（４～７）、ロクロかわらけ（８）、黒瓦平瓦（９～11）が出土した。図化していないが黒瓦の平瓦も多数出土した。

時　　期　出土した肥前系陶器皿は胎土目や鉄絵の製品である。肥前系磁器は出土しておらず、16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

ＦＴＢⅦSK213（第123図：図版51）

特　　徴　やや崩れた隅丸方形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層中にラミナが認められるため、自然堆積により埋没した可能性が高い。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器碗（１）・皿（２）、肥前系陶器碗（３）、景徳鎮系磁器、漳州窯系磁器などが出土した。小破片が多く、あまり接合しなかった。

時　　期　瀬戸美濃系陶器皿（２）から、16世紀末～17世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSK279（第124図：図版51）

特　　徴　土器・陶磁器の廃棄土坑と考えられる。やや崩れた隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁面は垂直に立ち上がる。土層は礫や地山由来のブロックを多く含み人為的な堆積の可能性が高い。

出土遺物　肥前系陶器皿（１～11）、肥前系磁器碗（12、13）、ロクロかわらけ（14）、土堝（15）、凹石（16）、硯（17）、瀬戸美濃系陶器皿、黒瓦などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿が砂目段階の製品で、肥前系磁器碗で高台内無釉の製品であり、17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK280（第125図：図版52）

特　　徴　東側が調査区外にかかる。瓦や陶磁器などの廃棄土坑と考えられる。やや崩れた隅丸方形を呈すると思われ、底面は平坦で、壁面は下半が急に上半が緩やかに立ち上がる。

出土遺物　肥前系陶器皿（１）、肥前系磁器碗（２）、岸窯系陶器擂鉢（３）、硯（４）、温石（５）、黒瓦軒丸瓦（６）・軒平瓦（７）が出土した。図化した黒瓦は２点のみだが、小破片は多数出土した。

時　　期　出土した肥前系陶器皿は砂目段階の製品、肥前系磁器碗は高台や底部に厚みのある製品であり、17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK293（第126図）

特　　徴　全体の形状はわからないが、ほぼ円形を呈し、浅く緩やかに立ち上がる土坑である。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器皿（１）、肥前系陶器皿（２）、砥石（３）などが出土した。（１）はSK281から出土した破片と、（２）はSK294から出土した破片と、それぞれ遺構間接合した。

時　　期　肥前系陶器から、17世紀前半～半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSK298（第126図：図版52）

特　　徴　東側が調査区外にかかる。隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　肥前系陶器皿（１）、瀬戸美濃系陶器皿（２）、凹石（３）、景徳鎮系磁器などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿（１）は胎土目段階の製品であり、16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

ＦＴＢⅦSK303（第127図：図版52）

特　　徴　南側が調査区外にかかる。隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器皿（１）、肥前系磁器などが出土している。

時　　期　瀬戸美濃系陶器皿の特徴から、17世紀前半～半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSE３（第127図：図版52）

特　　徴　石組井戸である。石組は３段ほどしか確認出来なかった。土層は、最下層の11層は井戸が機能している段階の自然堆積と考えられるが、１～10層は地山由来のブロックや礫を多く含むため人為的な堆積と思われる。

出土遺物　肥前系陶器皿（１）、黒瓦などが出土した。

時　　期　（１）は刷毛目唐津の大皿であり、17世紀半ば～後半と考えられる。

ＦＴＢⅦSE62（第128図）

特　　徴　素掘りの井戸である。楕円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。平面規模に対し、底面が深いため井戸で登録したが、土器・陶磁器の廃棄土坑の可能性もある。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器皿（１～４）などが出土した。

時　　期　出土した瀬戸美濃系陶器皿は大窯第３段階～第４段階の製品であり、16世紀半ば～17世紀初頭と考えられる。

ＦＴＢⅦSE71（第128・129図：図版52）

特　　徴　石組井戸である。石組は検出面から約20cmの深さで確認され、底面の深さも約250cmと他の石組井戸に比べ深めである。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器皿（１）・碗、肥前系磁器碗（２）、黒瓦丸瓦（３）・平瓦（４）、凹石（５）、肥前系陶器皿などが出土した。

時　　期　底部の厚い、いわゆる初期伊万里の碗（２）が出土し、17世紀第２四半期と考えられる。

ＦＴＢⅦSE175（第130図：図版53）

特　　徴　石組井戸である。石組はほぼ検出面で確認された。プランの平面形状は楕円形を呈する。石組は円形を呈しプランのやや東側に寄っている。石組の東側をのぞいて径５～20cmの裏込め石が認められる。土層断面は崩落の危険があったため、下層部分は観察できなかった。５層は掘り方の堆積土で、１～４層は井戸が廃絶した後に堆積した土である。

出土遺物　景徳鎮系磁器皿（１）、肥前系陶器皿（２）、黒瓦平瓦（３）、肥前系磁器碗・瓶などが出土した。

時　　期　図化していないが、出土した肥前系磁器から17世紀半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSE206（第131図：図版53）

特　　徴　石組井戸である。石組は検出面から約20cmの深さで確認された。石組の最上段に五輪塔地輪（４）が転用されていた。土層断面は崩落の危険があり、下層部分は観察できなかった。

出土遺物　肥前系陶器皿（１、２）、凹石（３）、五輪塔地輪（４）、景徳鎮系磁器皿、瀬戸美濃系陶器瓶、火打石などが出土した。

時　　期　鉄絵の肥前系陶器皿（１）から、16世紀末～17世紀前半であると考えられる。

ＦＴＢⅦSE242（第132図：図版53）

特　　徴　素掘り井戸である。規模が大きく、本来は石組井戸であった可能性もあるが、土層でその痕跡は認められなかった。上層は撹乱によって大きく切られている。

出土遺物　景徳鎮系磁器碗（１）、肥前系陶器皿（２～４）、火打石（５）、黒瓦などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿は全て胎土目の製品であり、16世紀末～17世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSD１（第133図：図版53）

特　　徴　Ａ－１グリッドからＨ－１グリッドにかけて、東西に直線的に走る溝である。北側が調査区外にかかるため、北側の溝の肩は確認できなかった。Ｄ－１グリッドからＧ－１グリッドにかけて、南側のプランから約10～20cm離れたところで礫が一列に並んでいるのが検出された。

出土遺物　肥前系陶器皿（１）、産地不明陶器（２～４）、産地不明磁器（５～10）、肥前系磁器、黒瓦、赤瓦、ビール瓶、ガラス瓶などが出土した。

時　　期　遺物の生産年代の古いものは、肥前系陶器皿（１）が16世紀末～17世紀前半の年代が与えられるが、新しいものでは、高台裏に「松葉屋洋品店」とある産地不明磁器碗（６、７）や、ビール瓶など、近代にまで下る製品も数多く出土している。周辺で検出された全ての遺構を切り、溝が構築された年代は近世の可能性が高いが、近代まで存続していたことは明らかである。

ＦＴＢⅦSD64（第134図）

特　　徴　Ｈ－３グリッドからＩ－３グリッドにかけて、東西に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層に地山由来のブロックを多く含み人為的堆積の可能性が高い。

出土遺物　遺物はすべて１～３層から出土した。肥前系陶器皿（１、２）、砥石（３）、五輪塔火輪（４、５）、景徳鎮系磁器碗、石鉢などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿はすべて砂目の製品であるため、17世紀前半～半ばと考えられる。

ＦＴＢⅦSD107（第135・136図：図版54）

特　　徴　Ａ－４グリッドからＢ－６グリッドまで南北方向に直線的に走り、Ｂ－６グリッドで東西方向に向きを変え、Ｆ－６グリッドまで直線的に走る溝である。Ｂ－６グリッド付近では、径５～20cmほどの礫が１層から７層にかけて検出された。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器皿（１、５）・碗（４）、肥前系陶器皿（２、６）、景徳鎮系磁器皿（３）、五輪塔空風輪（７）、黒瓦などが出土した。

時　　期　瀬戸美濃の大窯第４段階の製品（１）や、肥前系陶器の鉄絵の皿（２）が出土していることから、16世紀末～17世紀前半と考えられる。

ＦＴＢⅦSP28（第136図）

特　　徴　楕円形を呈し、底面は丸みを帯び最深部はやや北に寄る。壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　とりべ（１）の１点のみ出土した。

時　　期　とりべが出土していることから中世～近世と考えられるが、詳細は不明である。

ＦＴＢⅦSX55（第137図：図版54）

特　　徴　隅丸方形を呈し、底面は西側が浅く東側はやや深い。長さ250～300cmに渡り礫が東西に並び、明瞭なもので６単位ほど検出された。これらは遺構底面でなく、主に６層上面

で検出された。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器瓶（１）、肥前系陶器皿（２～５）、円盤状石製品（６～９）、石臼(10)、景徳鎮系磁器皿、漳州窯系磁器皿、黒瓦などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿で目跡が確認できるものは全て砂目で、17世紀前半～半ばと考えられる。

（４）　小結

縄文時代と考えられる陥穴跡は、前述のようにＧ－６～Ｉ－５～Ｉ－７グリッドにかけて集中する傾向にある。ただし、軸線の方向や並びにはあまり規則性は認められない。切り合い関係もなく、これらの遺構が同時期に存在したものなのか、異なる時期なのかは不明である。

古墳時代から古代の遺構は、大別して以下の５つの時期が存在する。古い順から、①非ロクロ成形の土師器坏で外面に稜を有し丸底のタイプの土師器坏（ST163№.１やST185№.１など）が出土する、７世紀～８世紀初頭に属する遺構、②非ロクロ成形で無段丸底の土師器坏（SD10№.１など）が出土する８世紀前半～半ばに属する遺構、③非ロクロ成形で平底の土師器坏（SE258№.１など）が出土する８世紀半ば～後半に属する遺構、④須恵器坏で口径と底径の法量の差があまりないタイプ（ST195№.９～13など）が出土する８世紀後半～９世紀前半に属する遺構、⑤須恵器坏で口径が底径の２倍以上の法量があるタイプ（ST154№.１）が出土する９世紀半ばに属する遺構、である。中でも多く検出された時期は、①の遺構と、④の遺構である。これらは特定のグリッドに集中せず、調査区全体に分布していた。

次に、遺構別に特徴を概観すると、竪穴住居は、地山を直接床面としているものはST146のみで、他は竪穴の掘り方の上層を床面としており、ST195にはシルト質の貼り床が検出されている。カマドは、ST163とST185でのみ検出されたが、共に北西カマドで、ソデは粘土で構築されST163は先端を礫で補強しているのが確認された。柱穴は、確認された住居はほとんどが４本柱の主柱穴を有するが、ST195のみ住居の規模が大きいためか、壁柱穴であった。

また、溝はSD10、SD222、SD244の３条検出された。出土した遺物の年代幅が広いが、おおよそ７世紀後半～８世紀後半であると考えられ、３遺構とも平行に走っており、同時期に存在したと考えられる。

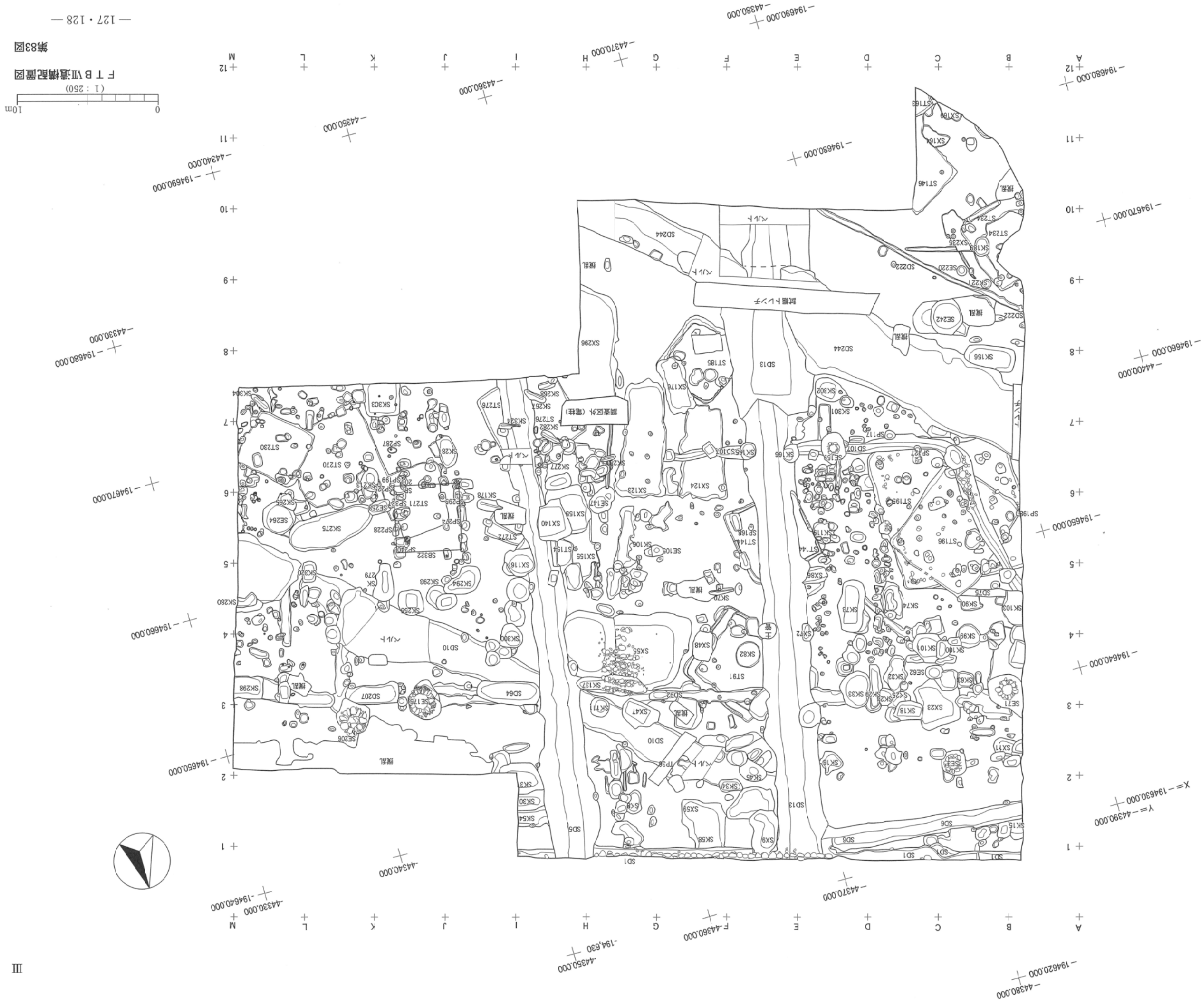
中世の遺構は、井戸１基と溝３条が検出された。検出された井戸SE159は、山形城三の丸跡地内の発掘調査で検出された中世の井戸としては、珍しい石組の井戸である。ただし、数多く検出されている近世の石組井戸に比して、石組は２段のみで使用されている礫も小さく、石組は小規模である。

中世の溝は新旧関係が認められ、切り合いからSD６がSD13よりも古い。一方、SD13とSD５は平行に走ることから、同時期に存在したと考えられる。規模に関しては、古い時期のSD６は幅が150cm前後であるのに対して、SD５は最大幅が380cm、SD13は同635cmと新しい時期の溝の方が大規模である。掘立柱建物などの居住施設は、検出されていない。

近世の遺構は、他の調査区と同様、肥前系磁器が出土しない16世紀後半～17世紀初頭までと、肥前系磁器が出土する17世紀半ば頃の２時期に大別することができる。

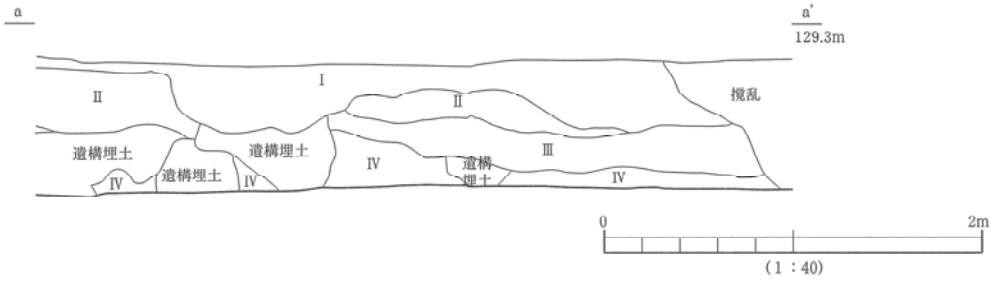
前者の時期の遺構についてはあまり良好なセットに恵まれなかったが、SK156などに比較的時期が明瞭な遺物が多い。SK156出土陶磁器の内訳としては、国産陶器では瀬戸美濃の小坏や瓶など、或いは肥前系陶器皿の胎土目段階製品が主に出土し、輸入陶磁器では漳州窯系磁器が出土している。

後者の時期の遺構では、SK279出土遺物が良好なセットを示す。輸入陶磁器は出土せず、国産陶磁器では肥前系陶器皿の砂目段階製品や、肥前系磁器において高台や底部に厚みのある碗、あるいは一重網目文の碗などが出土している。

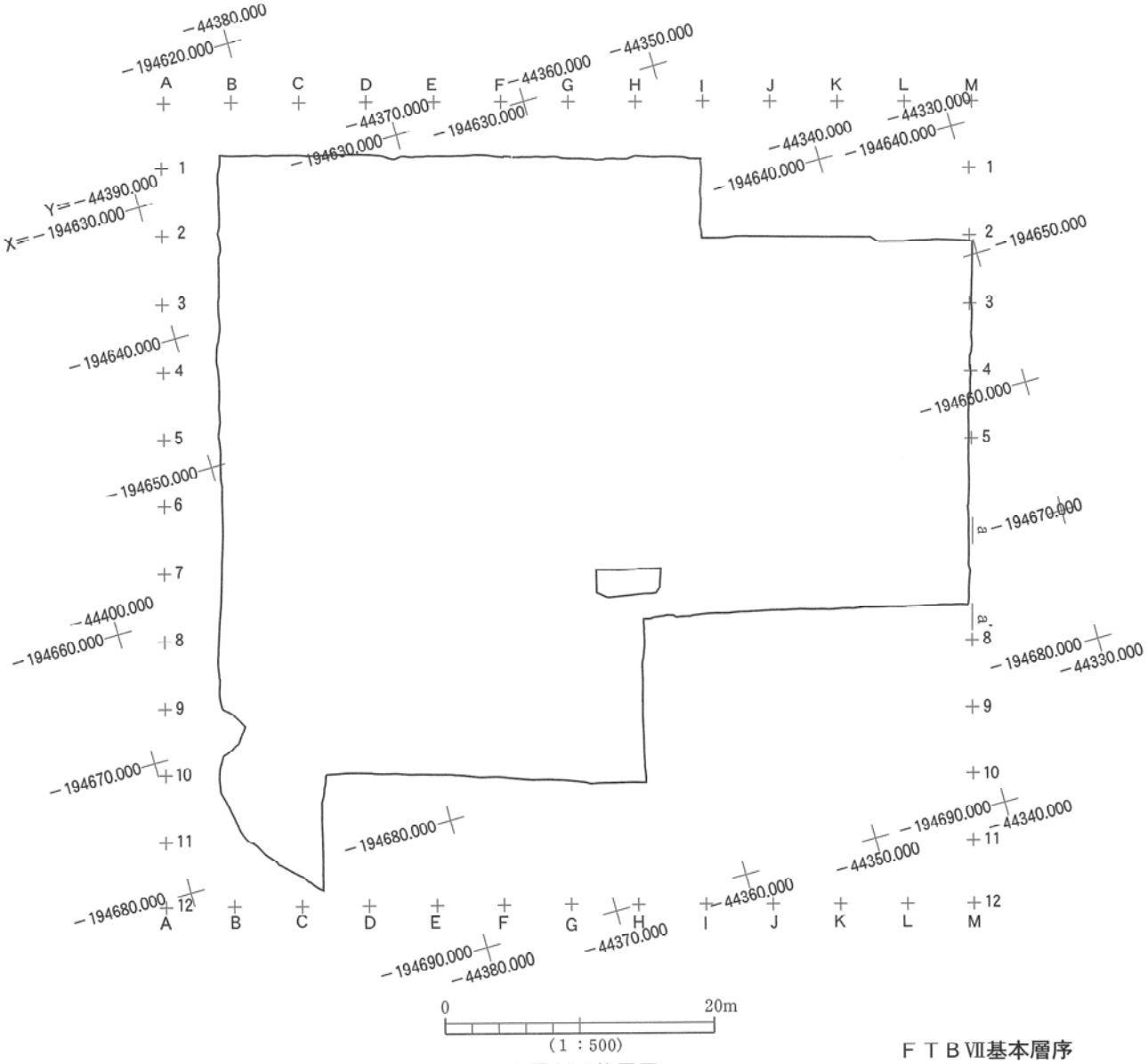


ＦＴＢⅦ遺構配置図

第83図



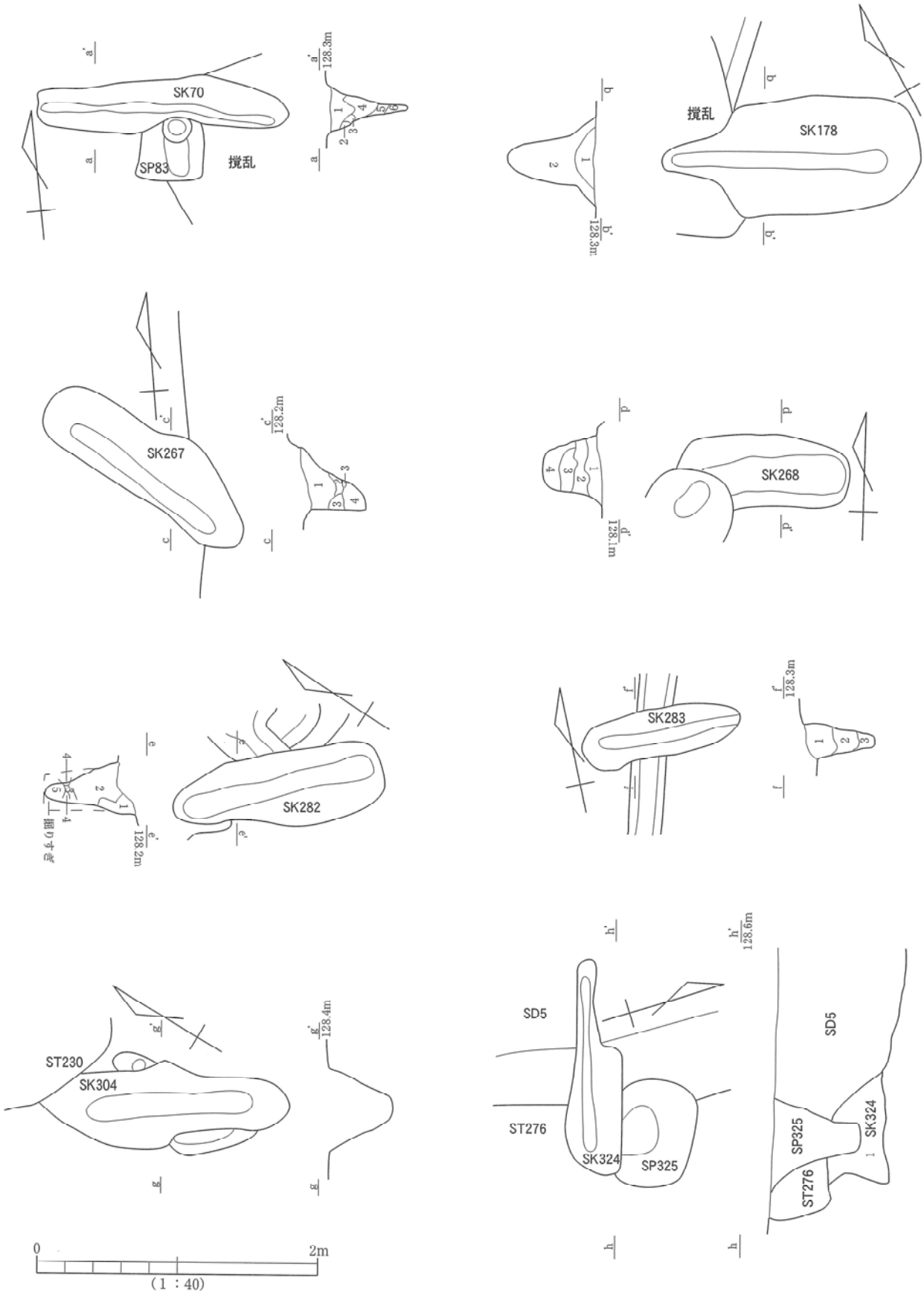
Ⅰ　10YR4/3　にぶい黄褐色礫　山砂利による整地層
Ⅱ　10YR3/2　黒褐色細砂　炭化物を含む、径0.2～10cmほどの礫を含む
Ⅲ　10YR2/3　黒褐色細砂　炭化物を含む、Ⅱ層よりやや粘性がある
Ⅳ　10YR4/6　褐色シルト　地山



土層断面位置図

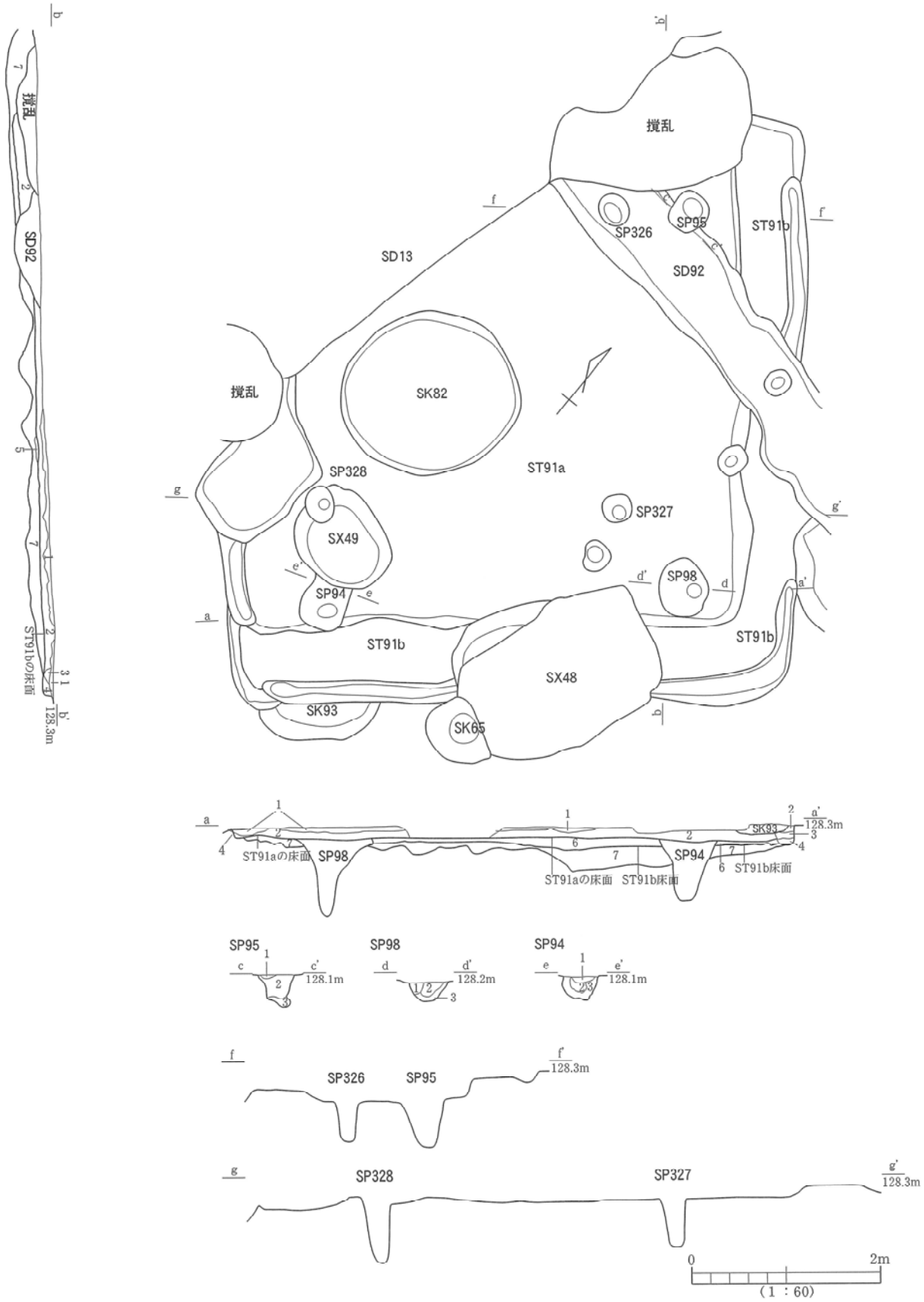
ＦＴＢⅦ基本層序

第84図



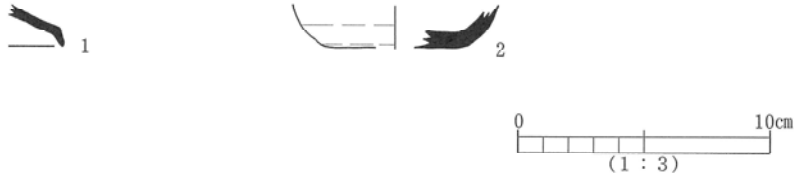
ＦＴＢⅦSK70・SK178・SK267・SK268・SK282・SK283・SK304・SK324平面図・断面図

第85図

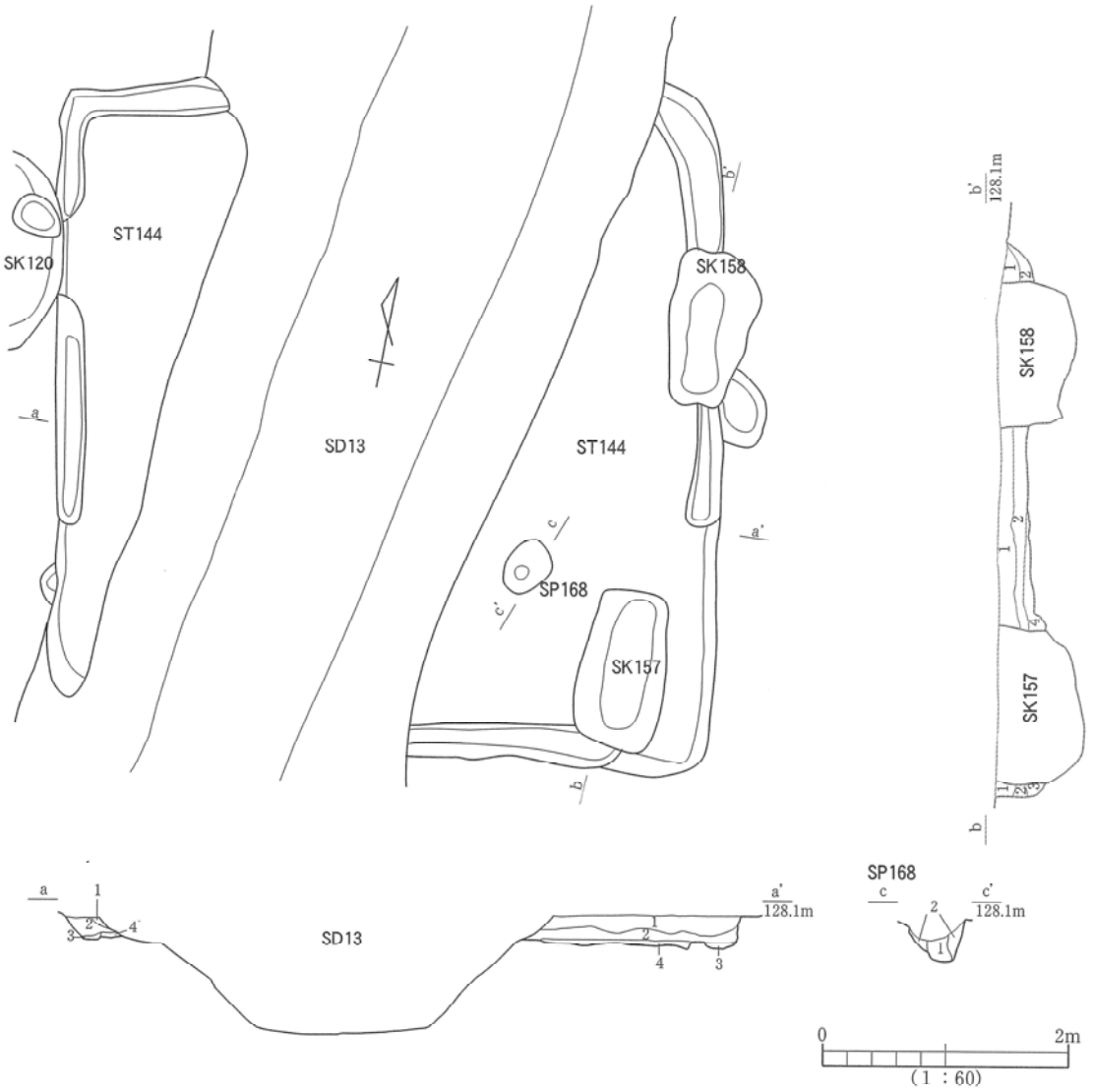


ＦＴＢⅦST91a・ST91b平面図・断面図

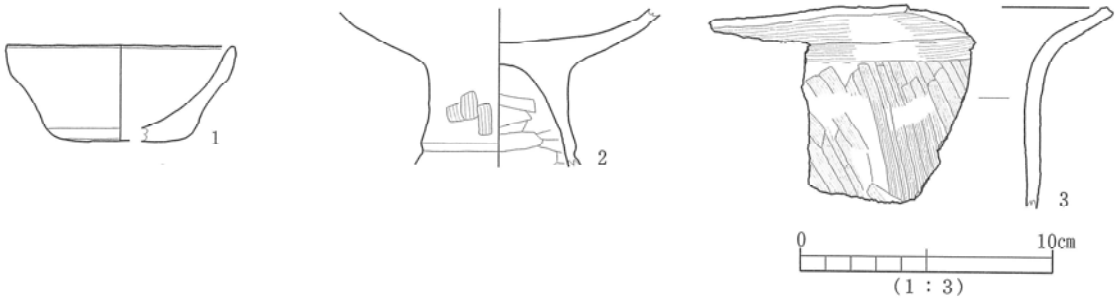
第86図



ＦＴＢⅦST91出土遺物

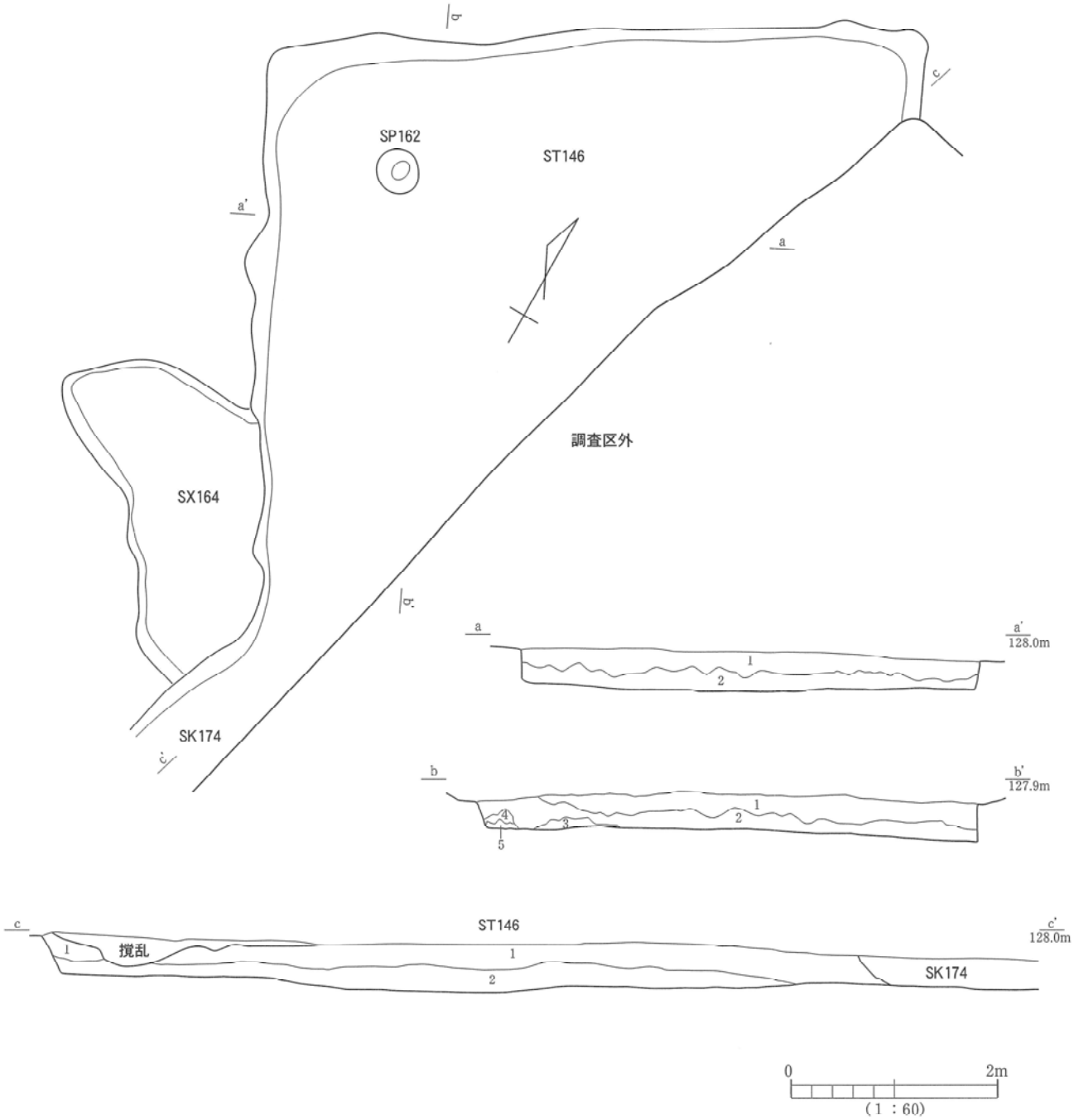


ＦＴＢⅦST144平面図・断面図



ＦＴＢⅦST144出土遺物

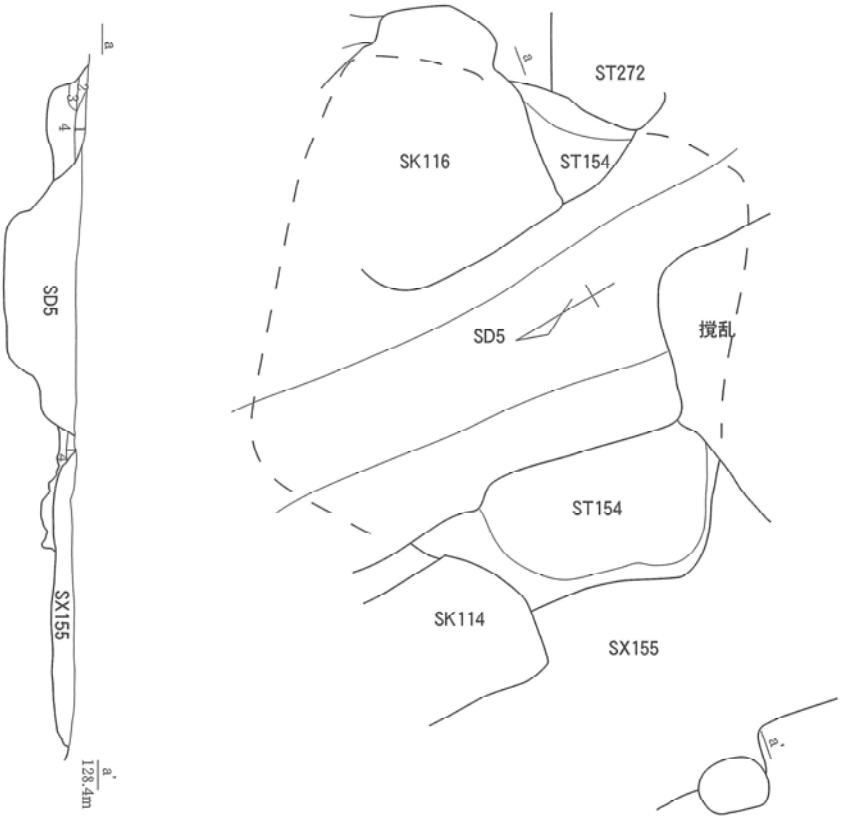
第87図

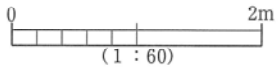


ＦＴＢⅦST146平面図・断面図

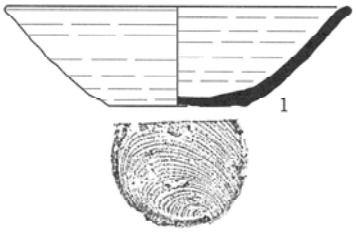
ＦＴＢⅦST146出土遺物

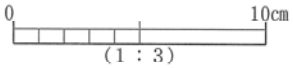
第88図





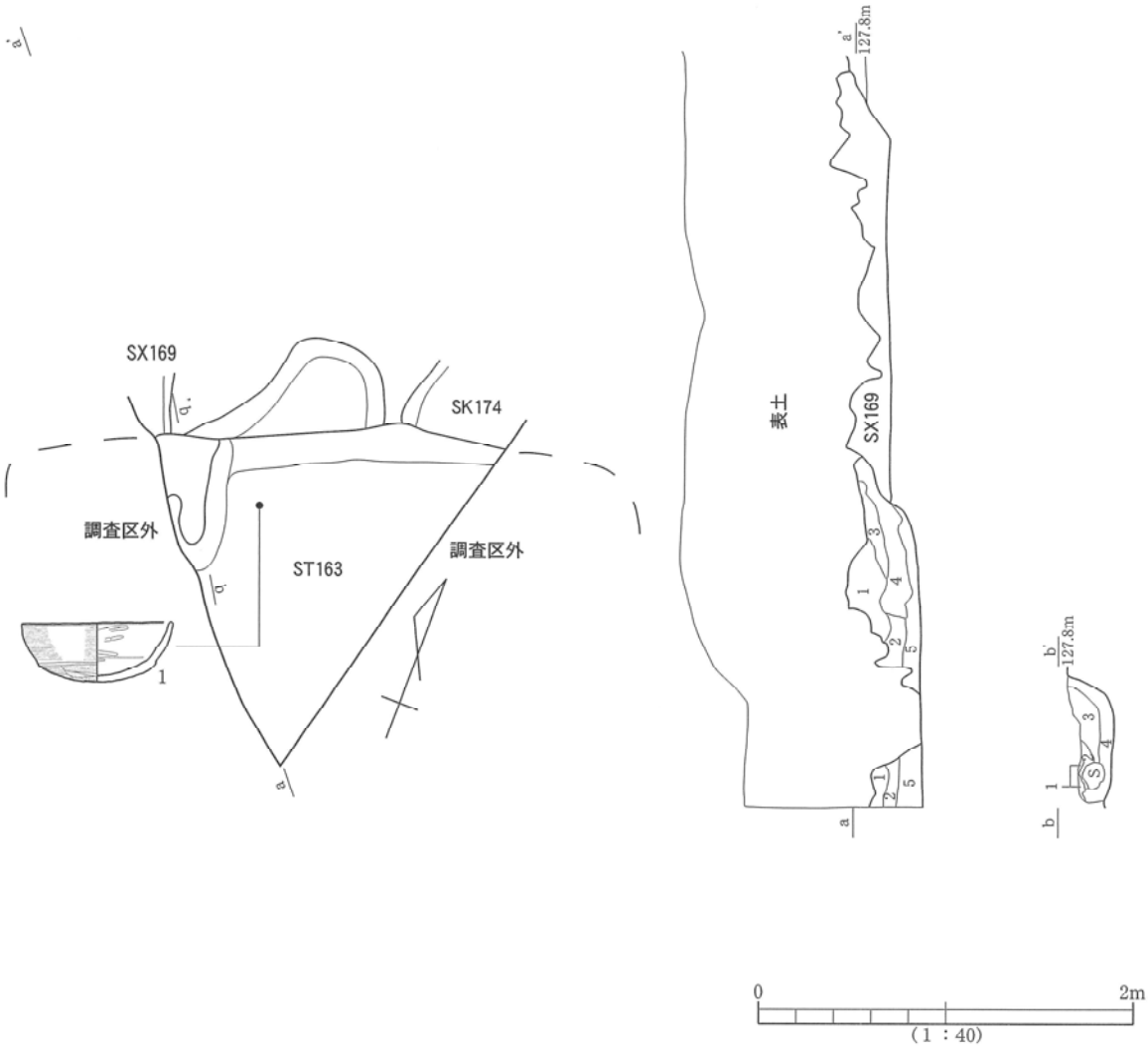
ＦＴＢⅦST154平面図・断面図



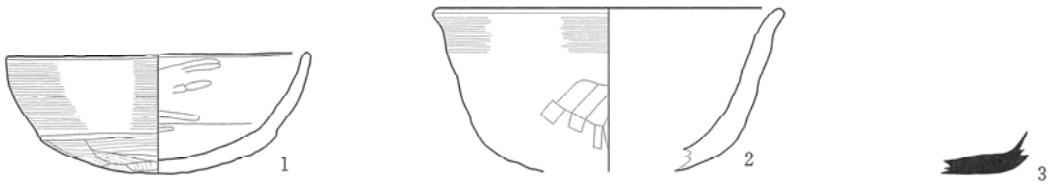


ＦＴＢⅦST154出土遺物

第89図

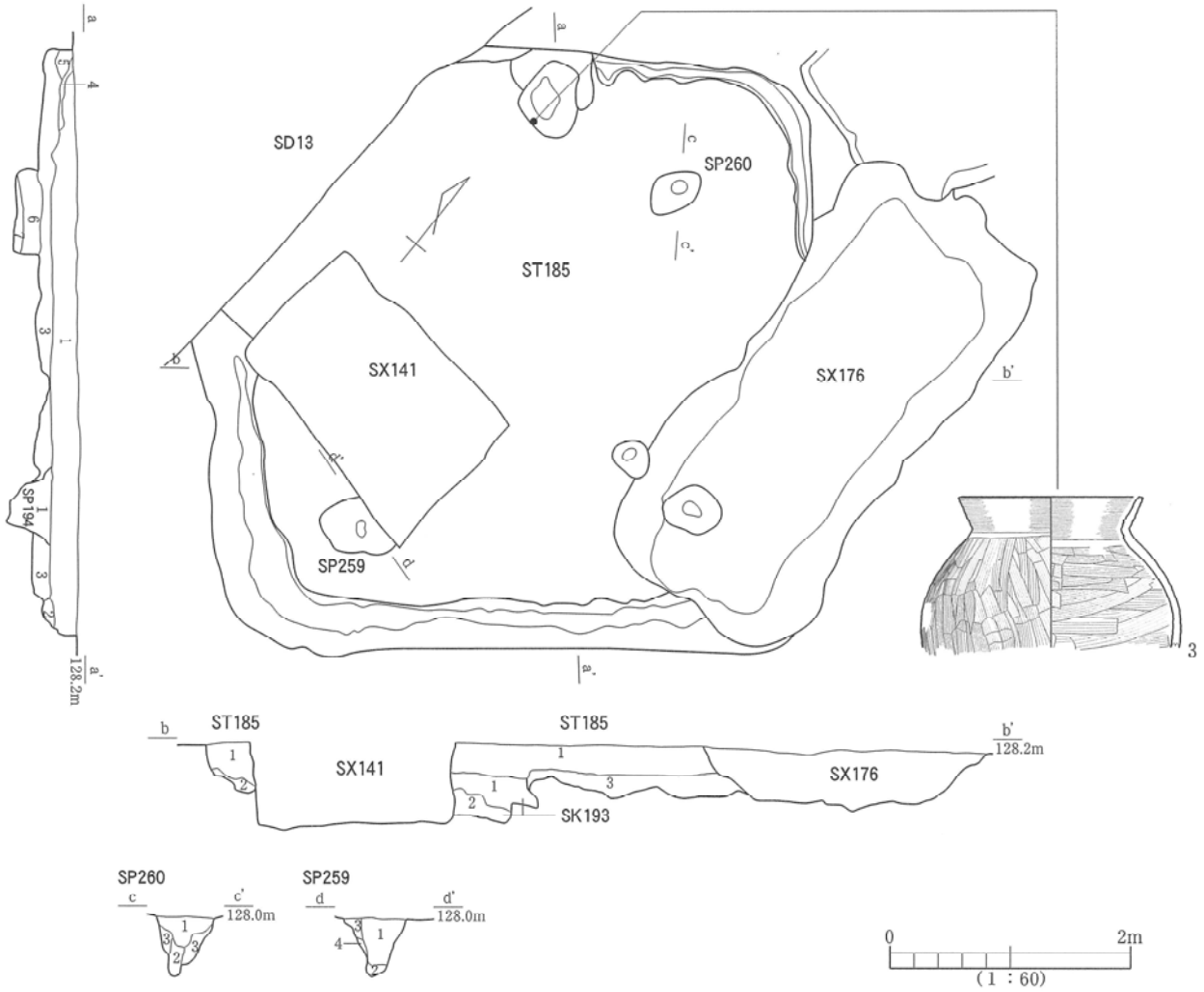


ＦＴＢⅦST163平面図・断面図

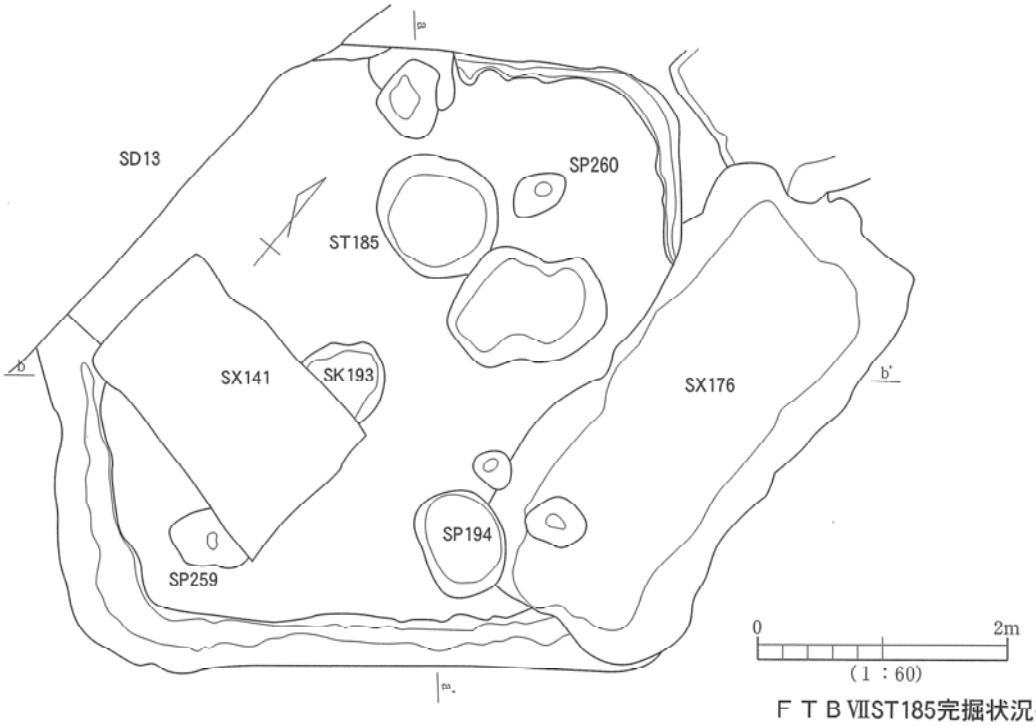


ＦＴＢⅦST163出土遺物

第90図

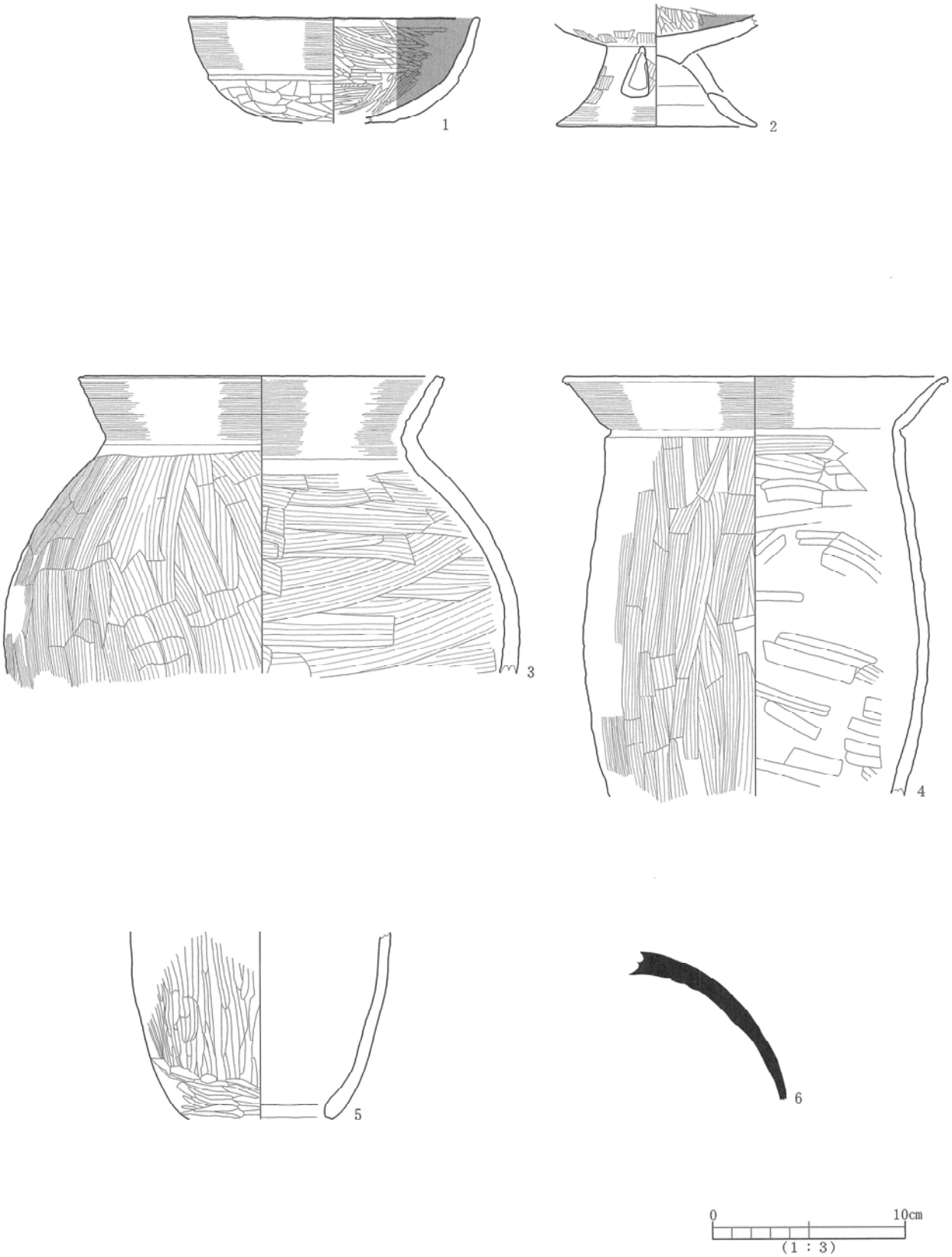


ＦＴＢⅦST185床面検出状況平面図・断面図



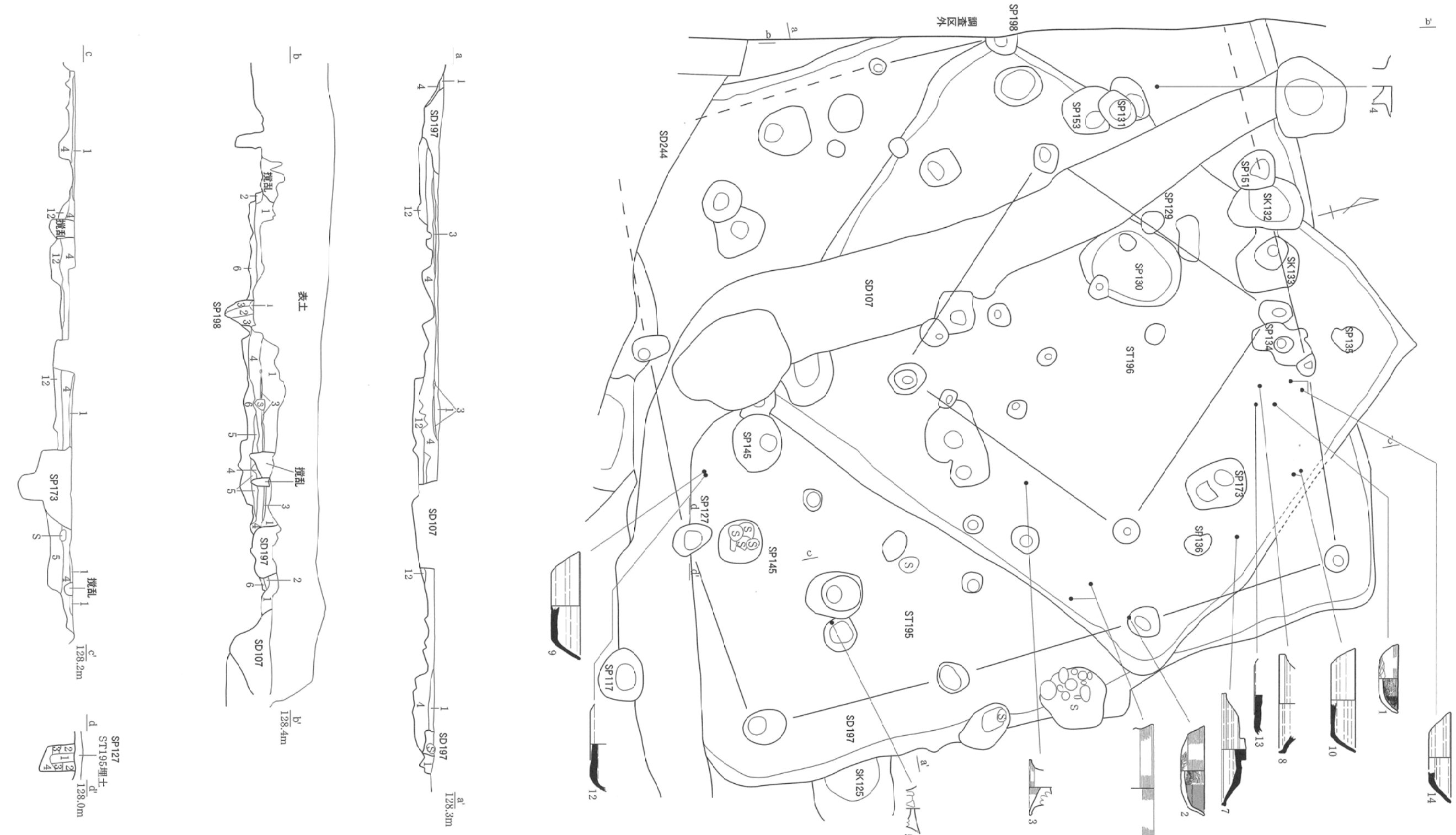
ＦＴＢⅦST185完掘状況平面図

第91図



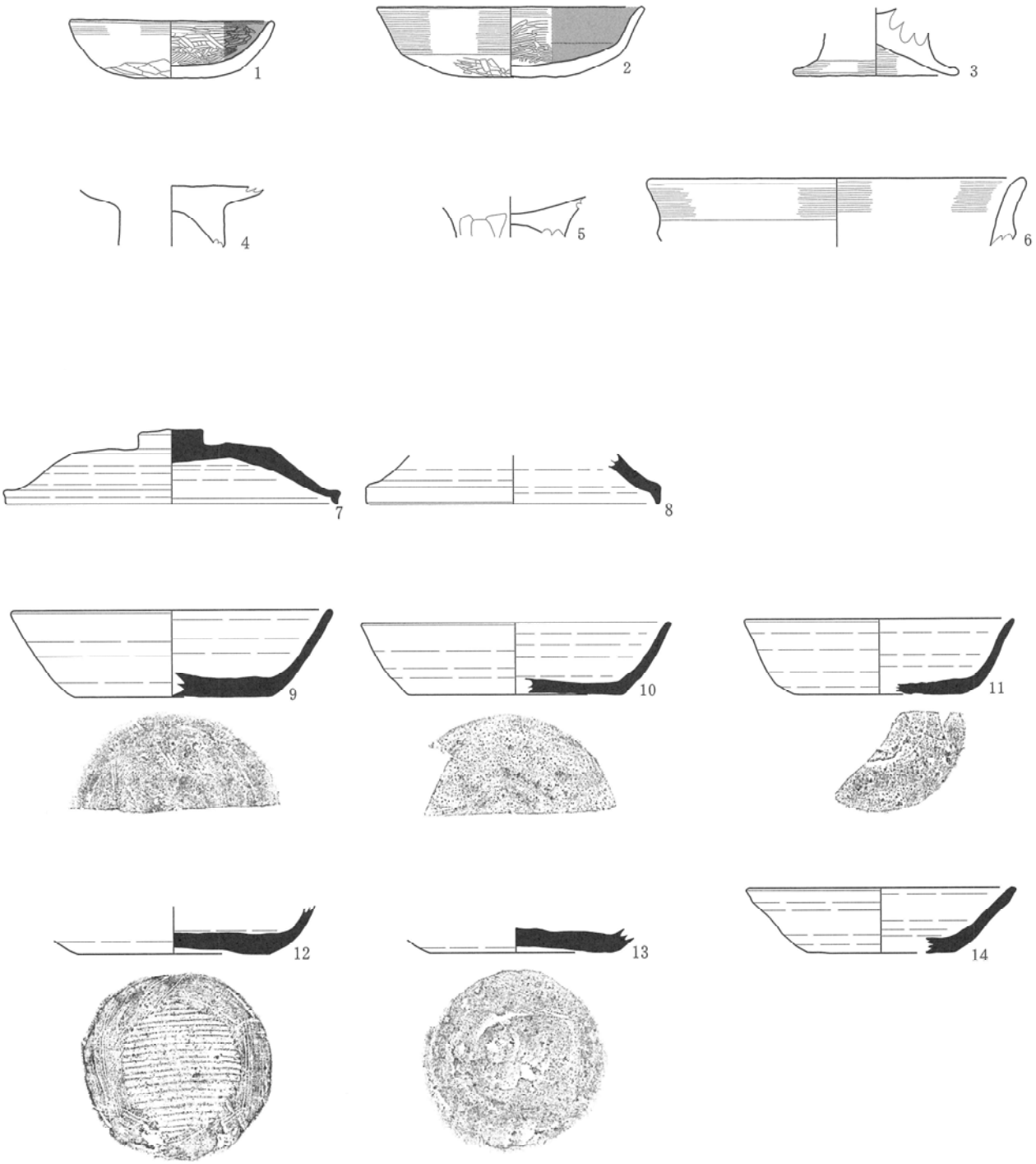
ＦＴＢⅦST185出土遺物

第92図



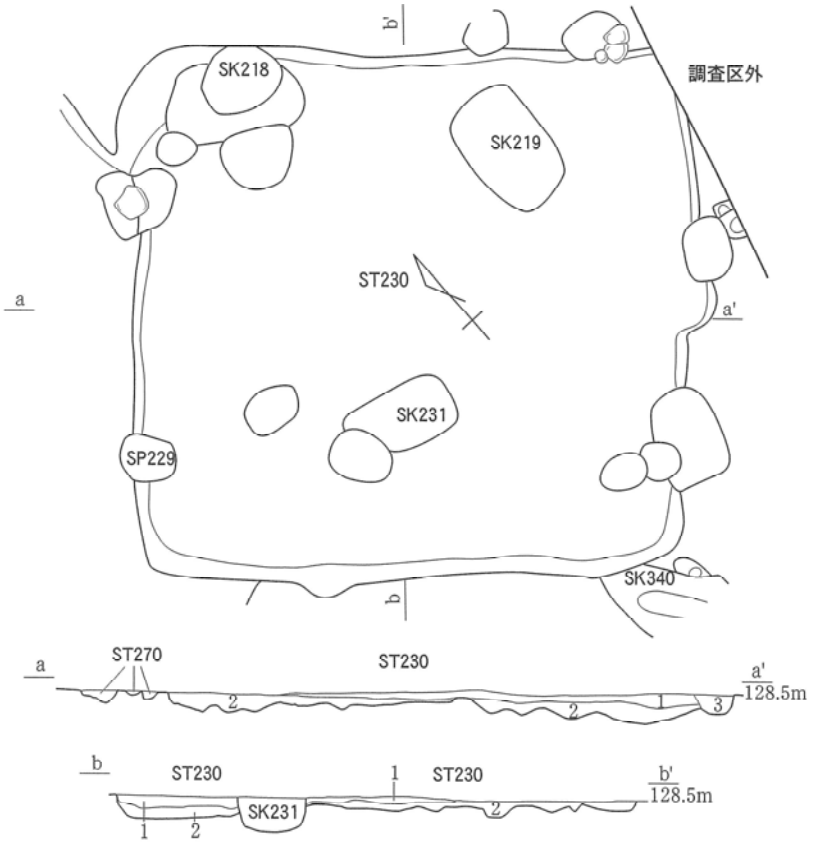
F T B Ⅶ ST195・ST196平面図・断面図

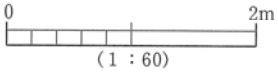
第93図



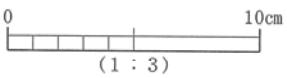
ＦＴＢⅦST195・ST196出土遺物

第94図



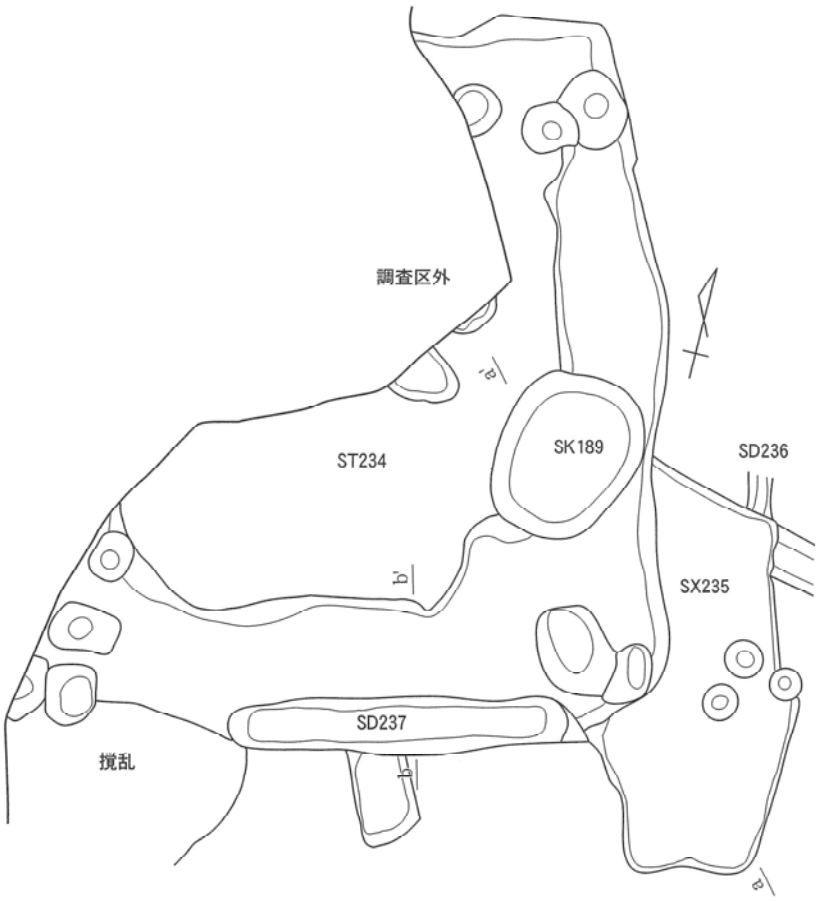


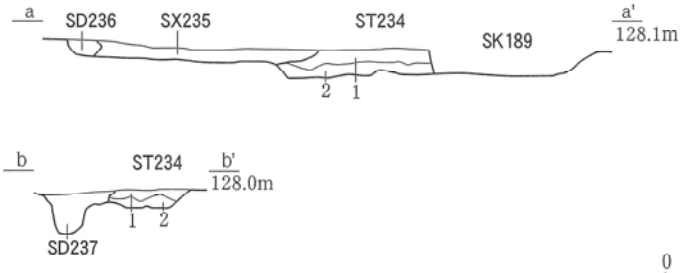
ＦＴＢⅦST230平面図・断面図

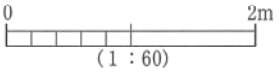


ＦＴＢⅦST230出土遺物

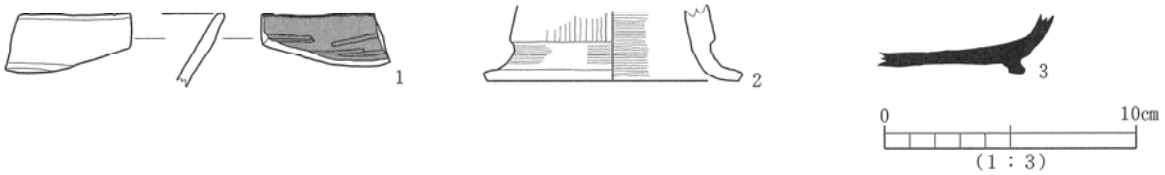
第95図





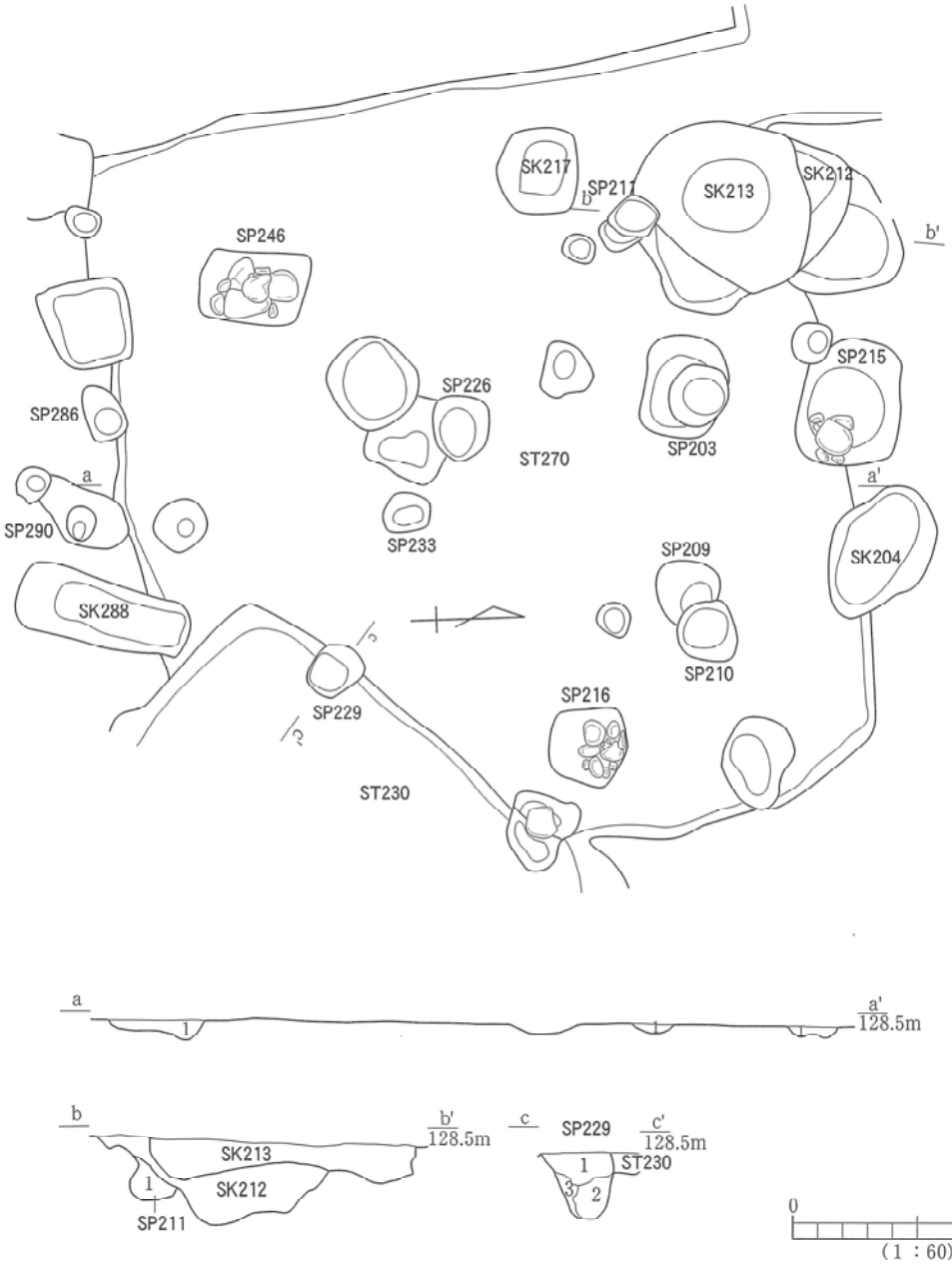


ＦＴＢⅦST234平面図・断面図



ＦＴＢⅦST234出土遺物

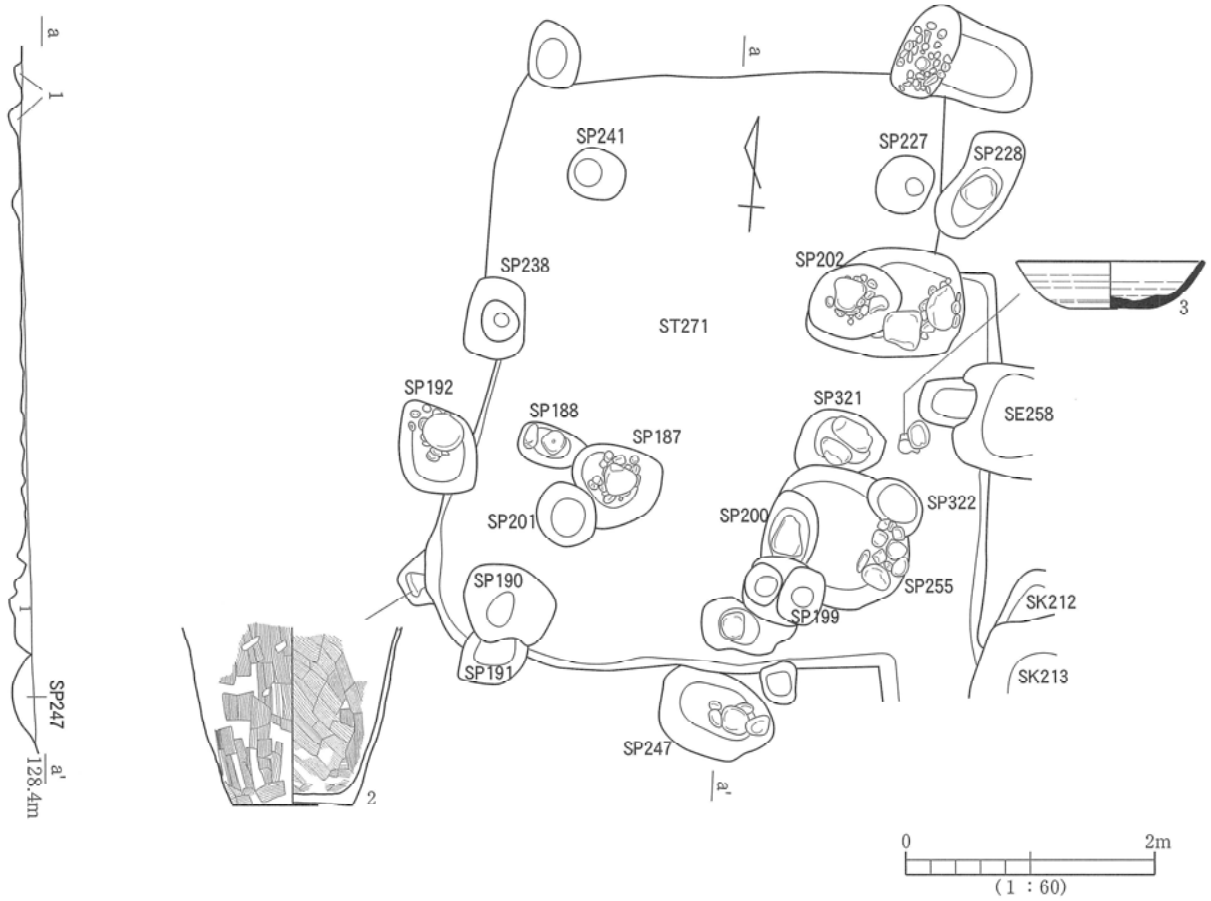
第96図



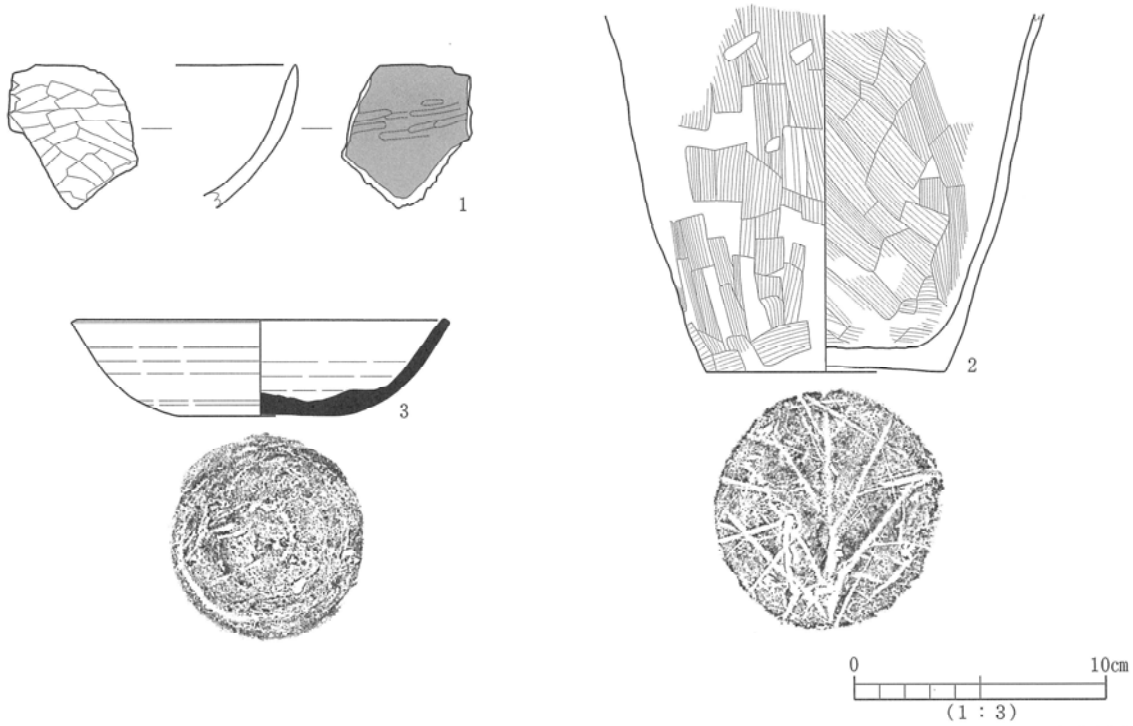
ＦＴＢⅦST270平面図・断面図

ＦＴＢⅦST270出土遺物

第97図

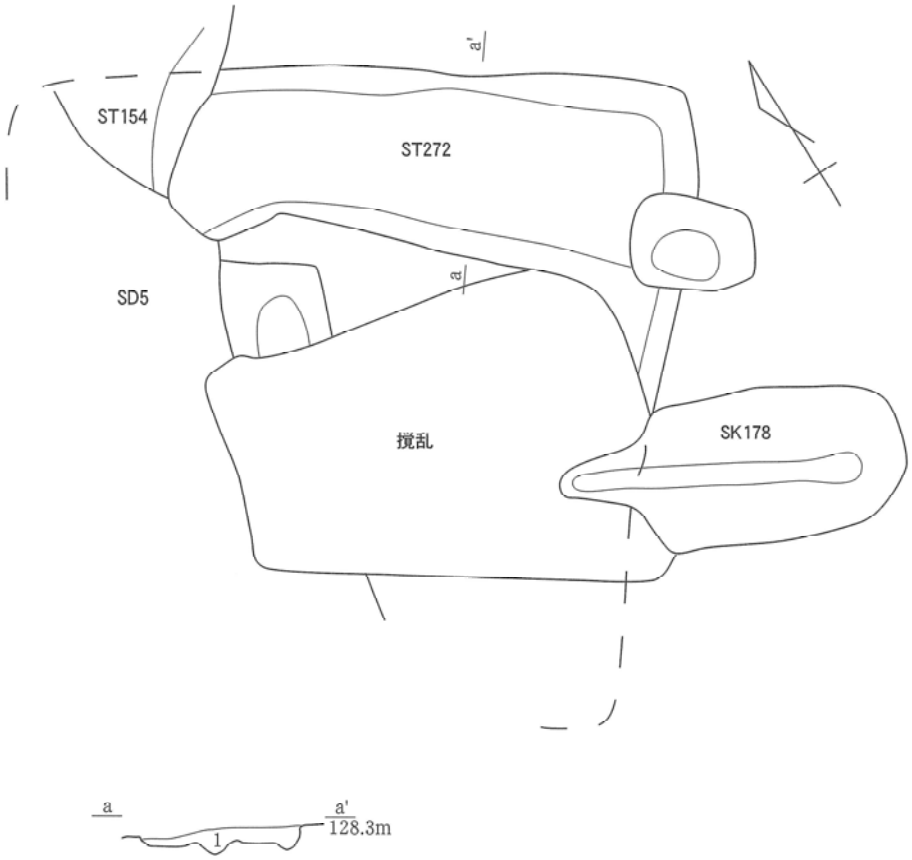


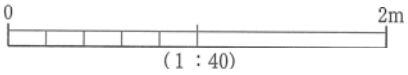
ＦＴＢⅦST271平面図・断面図



ＦＴＢⅦST271出土遺物

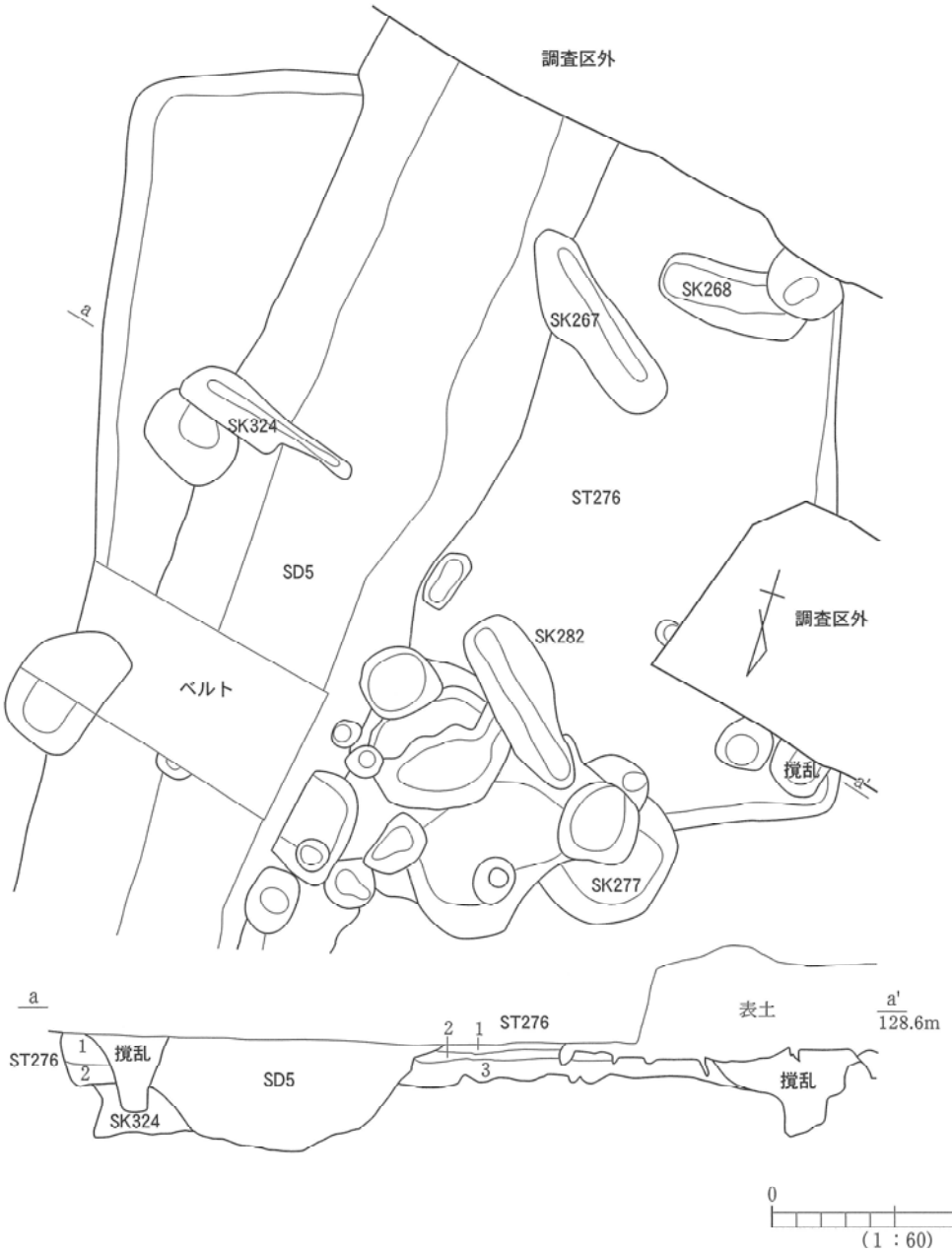
第98図



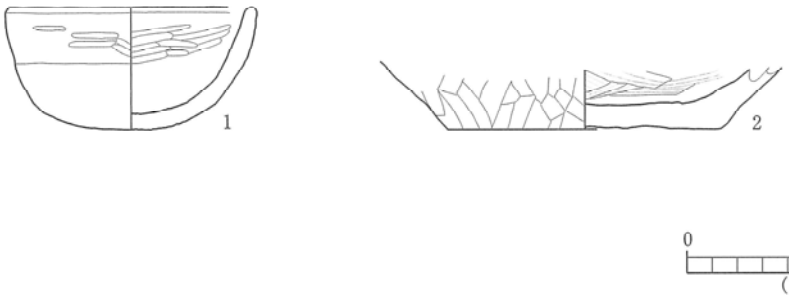


ＦＴＢⅦST272平面図・断面図

第99図

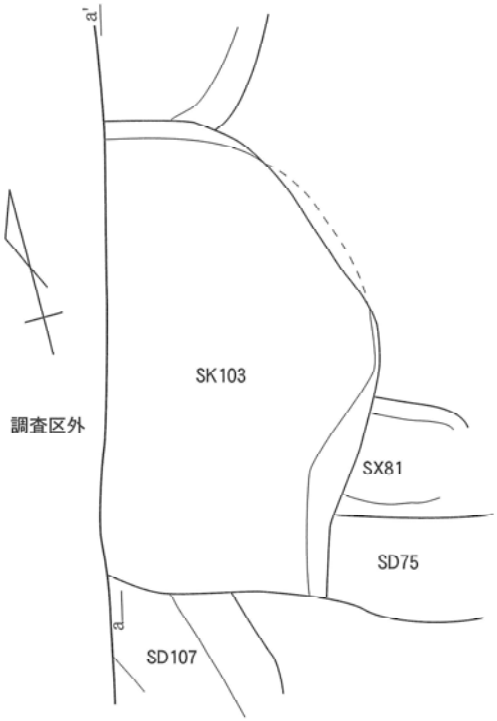


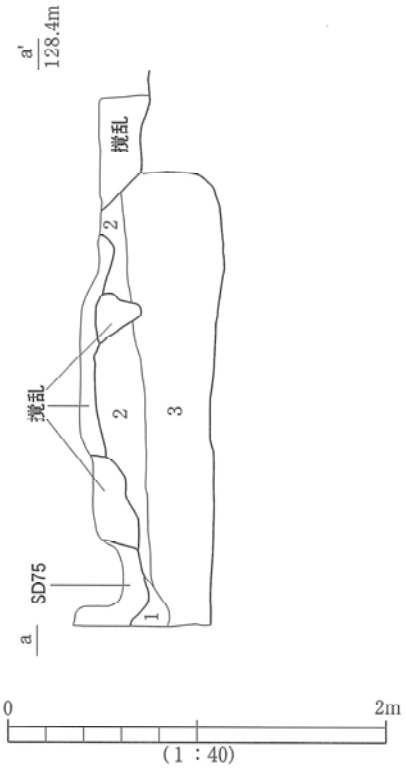
ＦＴＢⅦST276平面図・断面図



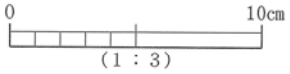
ＦＴＢⅦST276出土遺物

第100図



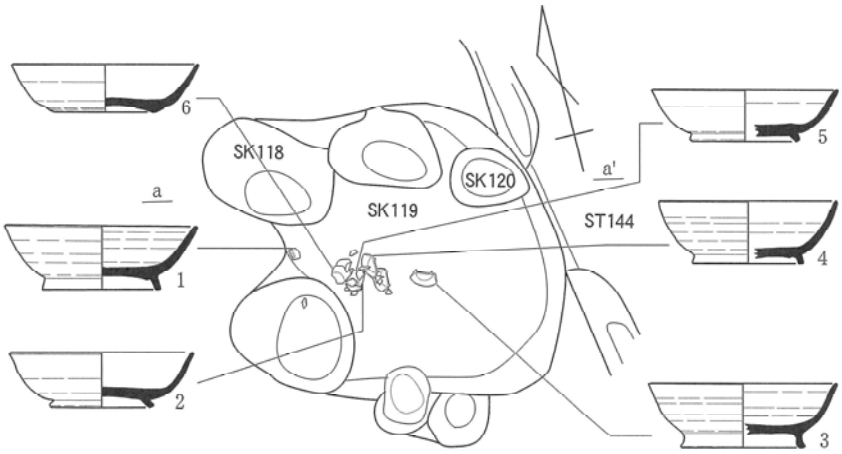


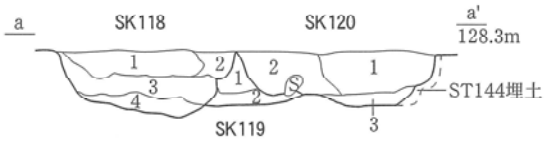
ＦＴＢⅦSK103平面図・断面図

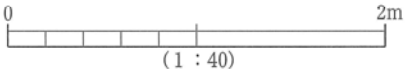


ＦＴＢⅦSK103出土遺物

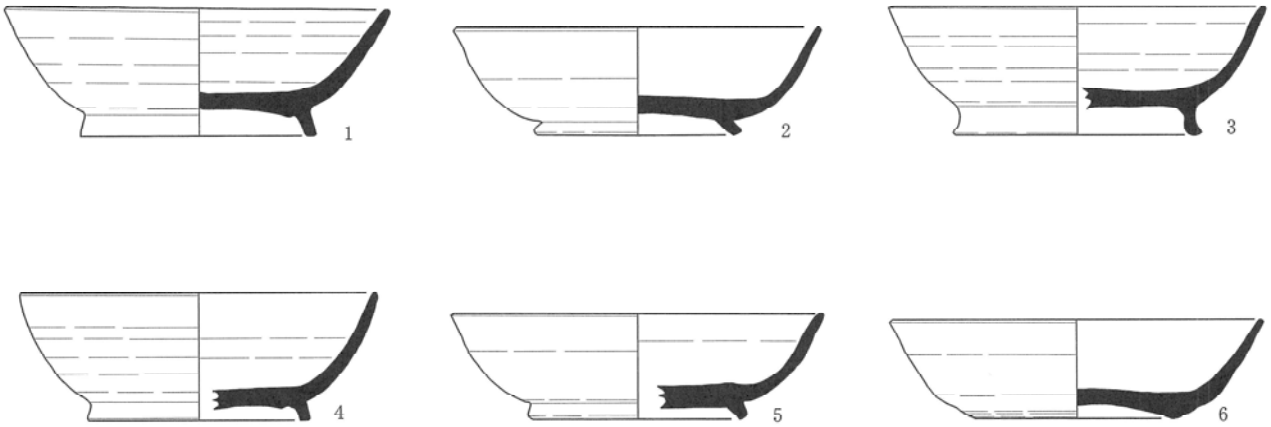
第101図

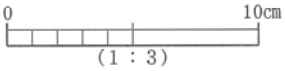






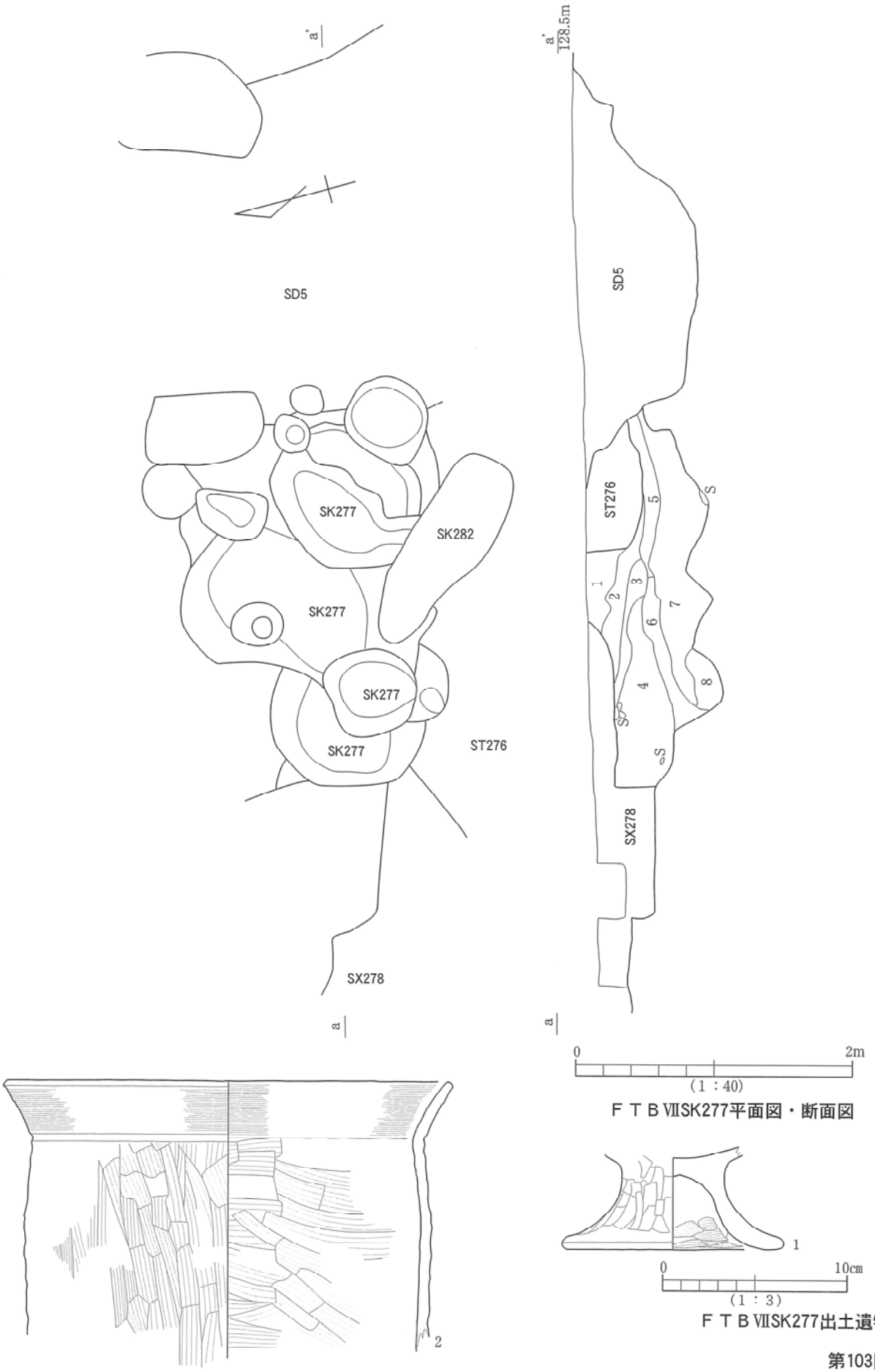
ＦＴＢⅦSK119平面図・断面図





ＦＴＢⅦSK119出土遺物

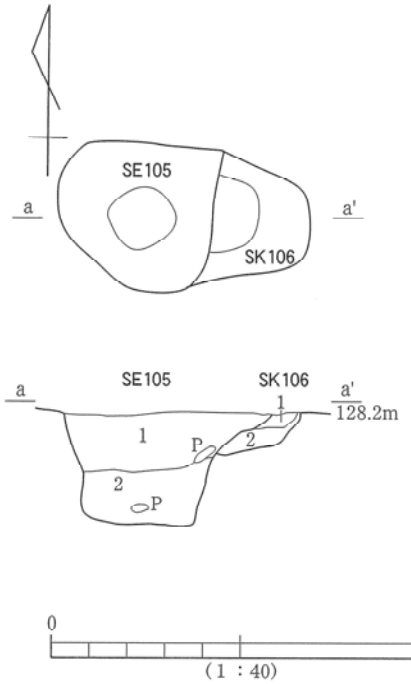
第102図



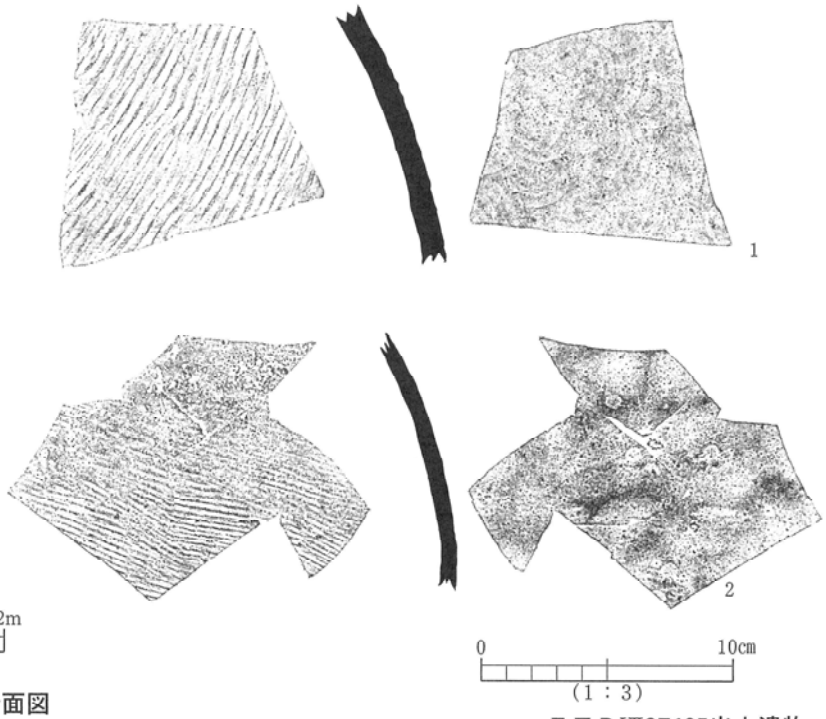
ＦＴＢⅦSK277平面図・断面図

ＦＴＢⅦSK277出土遺物

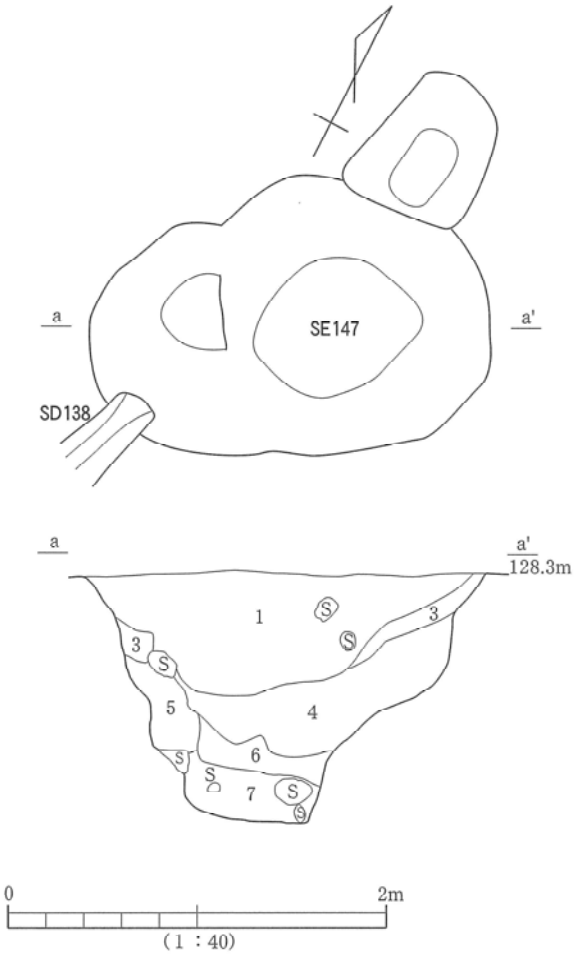
第103図



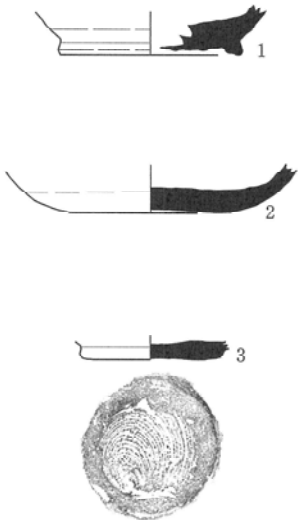
ＦＴＢⅦSE105平面図・断面図



ＦＴＢⅦSE105出土遺物

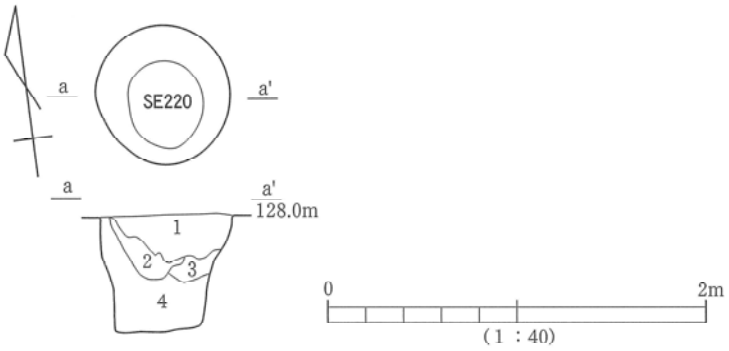


ＦＴＢⅦSE147平面図・断面図

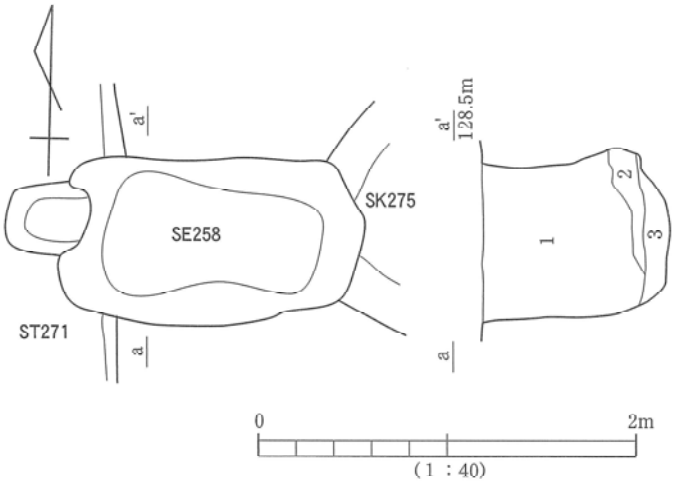


ＦＴＢⅦSE147出土遺物

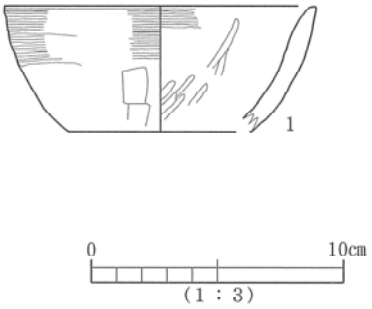
第104図



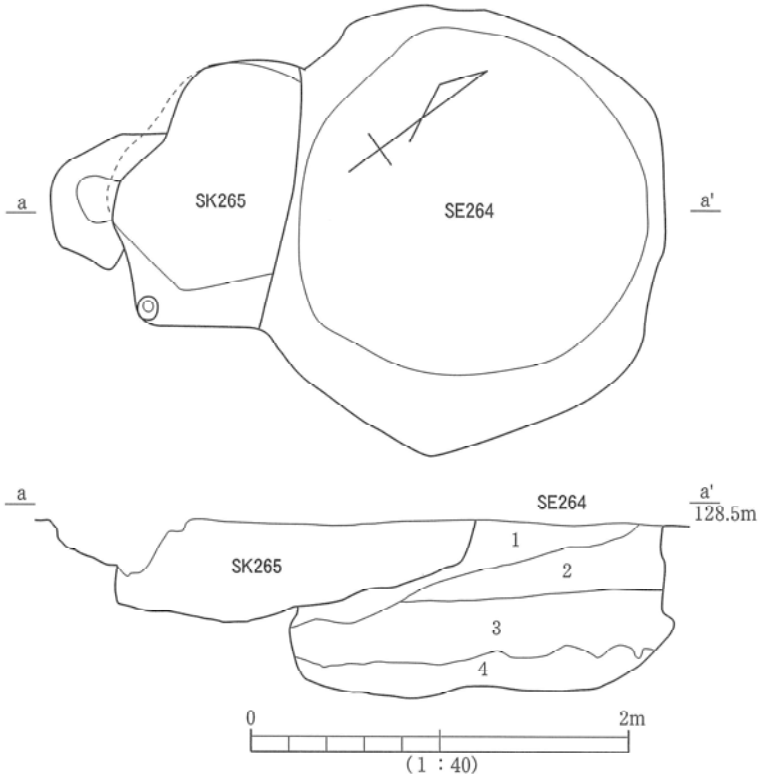
ＦＴＢⅦSE220平面図・断面図



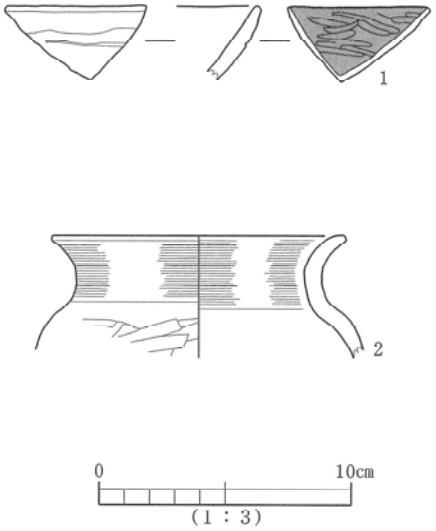
ＦＴＢⅦSE258平面図・断面図



ＦＴＢⅦSE258出土遺物

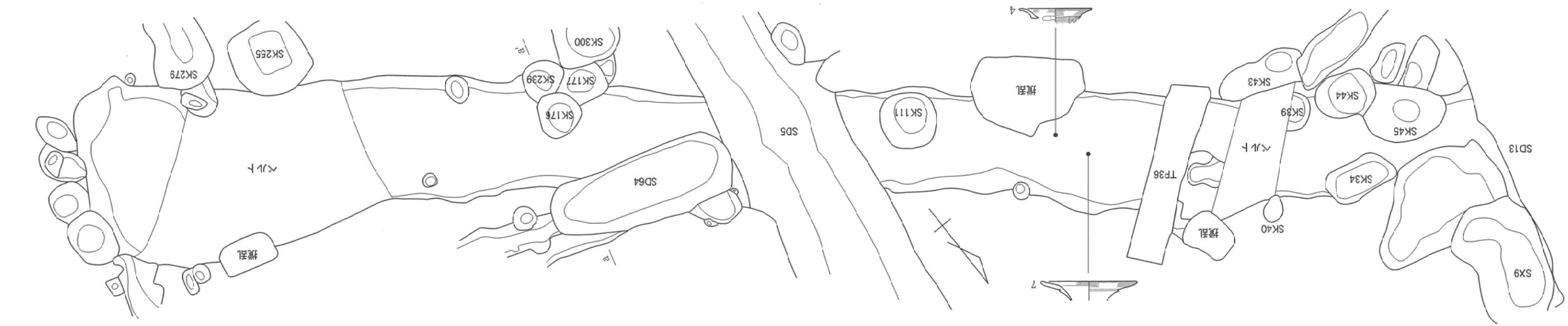


ＦＴＢⅦSE264平面図・断面図

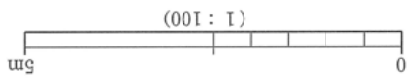


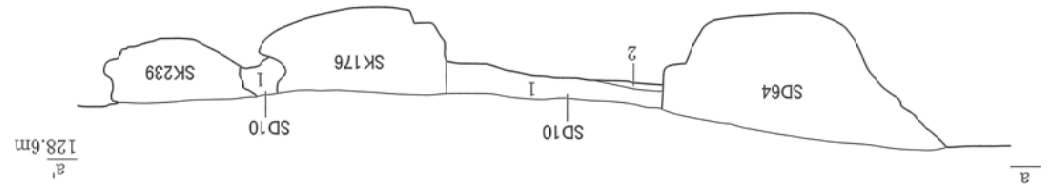
ＦＴＢⅦSE264出土遺物

第105図

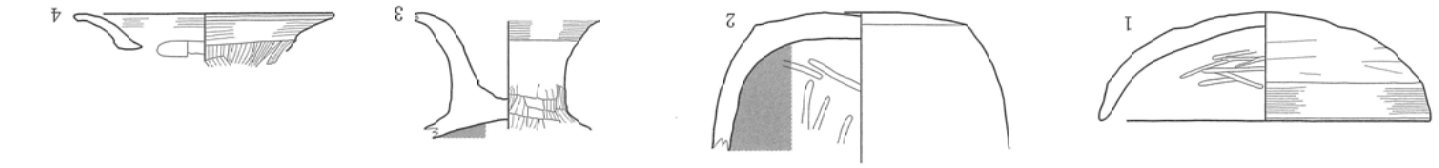


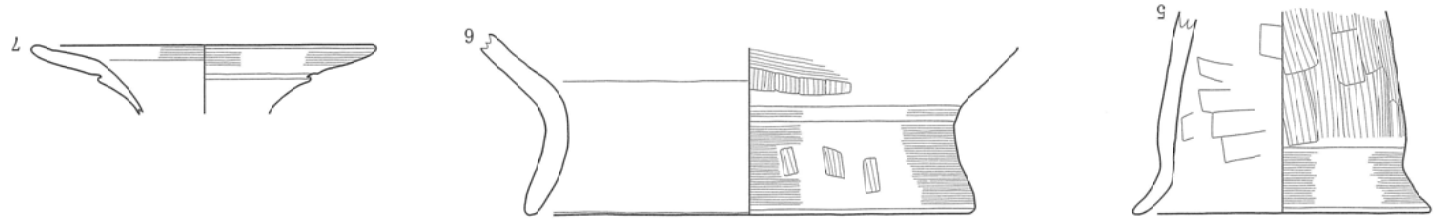
F T B Ⅶ SD10平面図



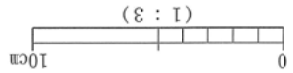


F T B Ⅶ SD10断面図

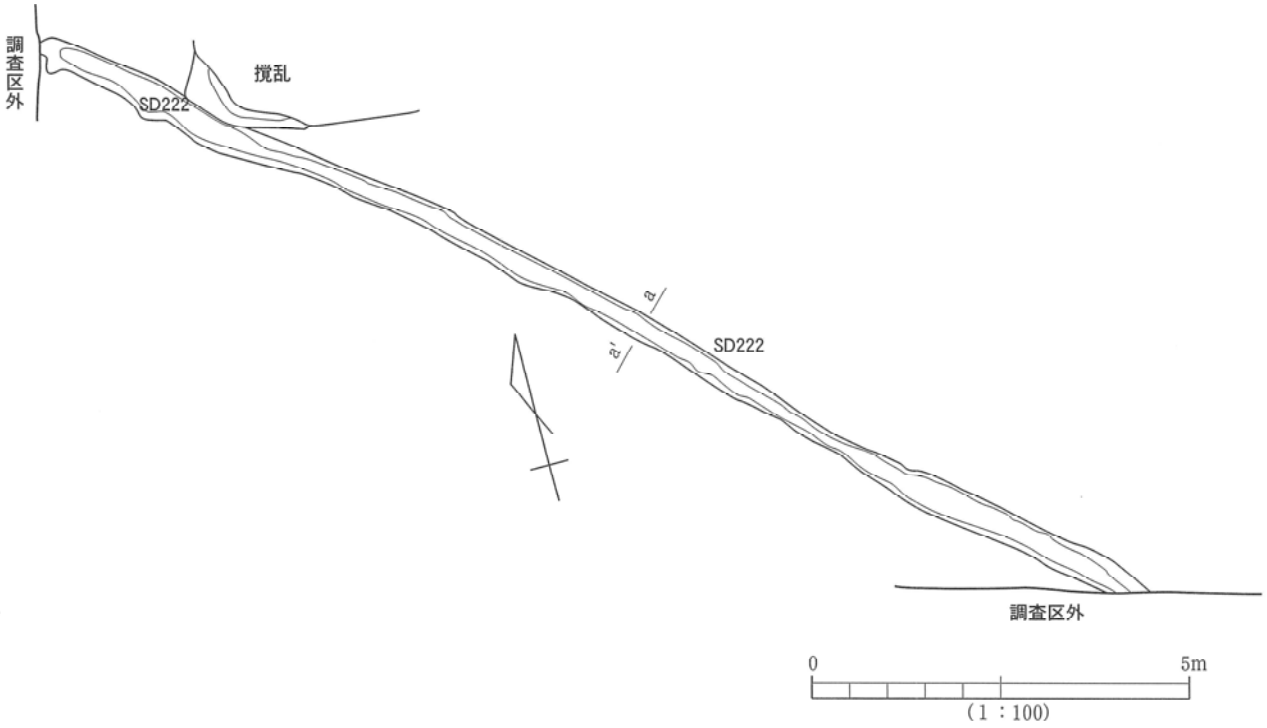




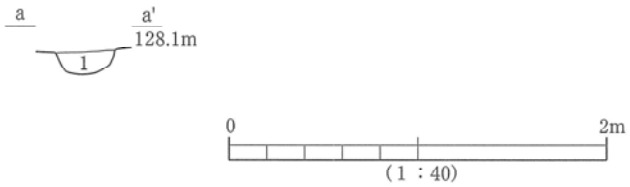
F T B Ⅶ SD10出土遺物



第106図



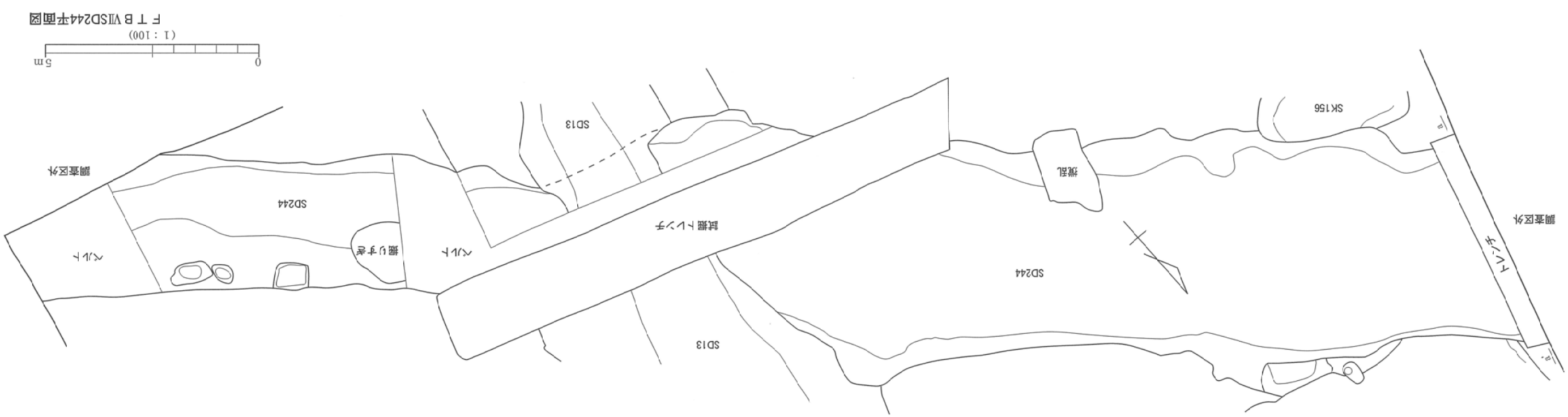
ＦＴＢⅦSD222平面図



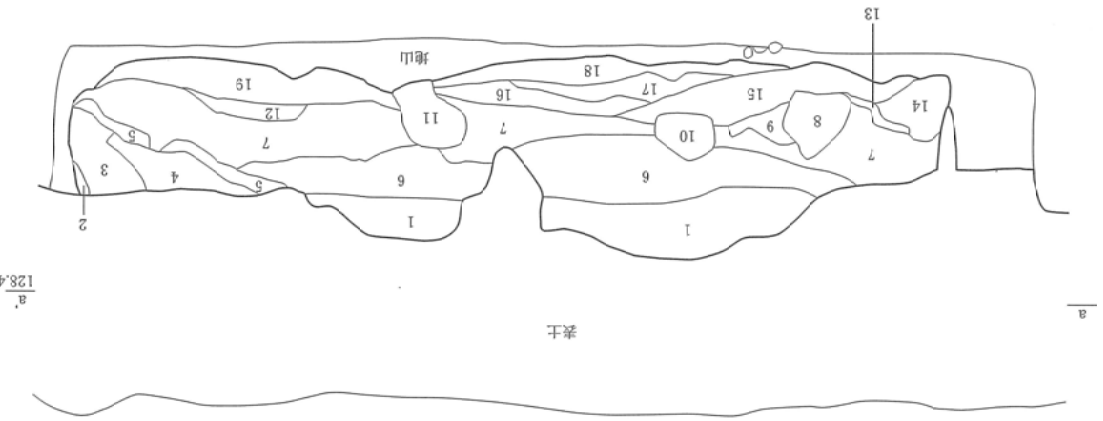
ＦＴＢⅦSD222断面図

ＦＴＢⅦSD222出土遺物

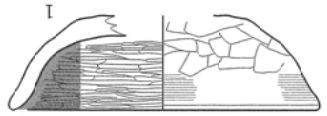
第107図

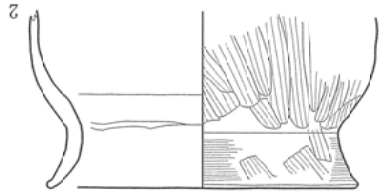


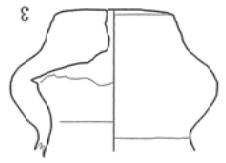
フ ト B Ⅶ SD244平面図



フ ト B Ⅶ SD244断面図

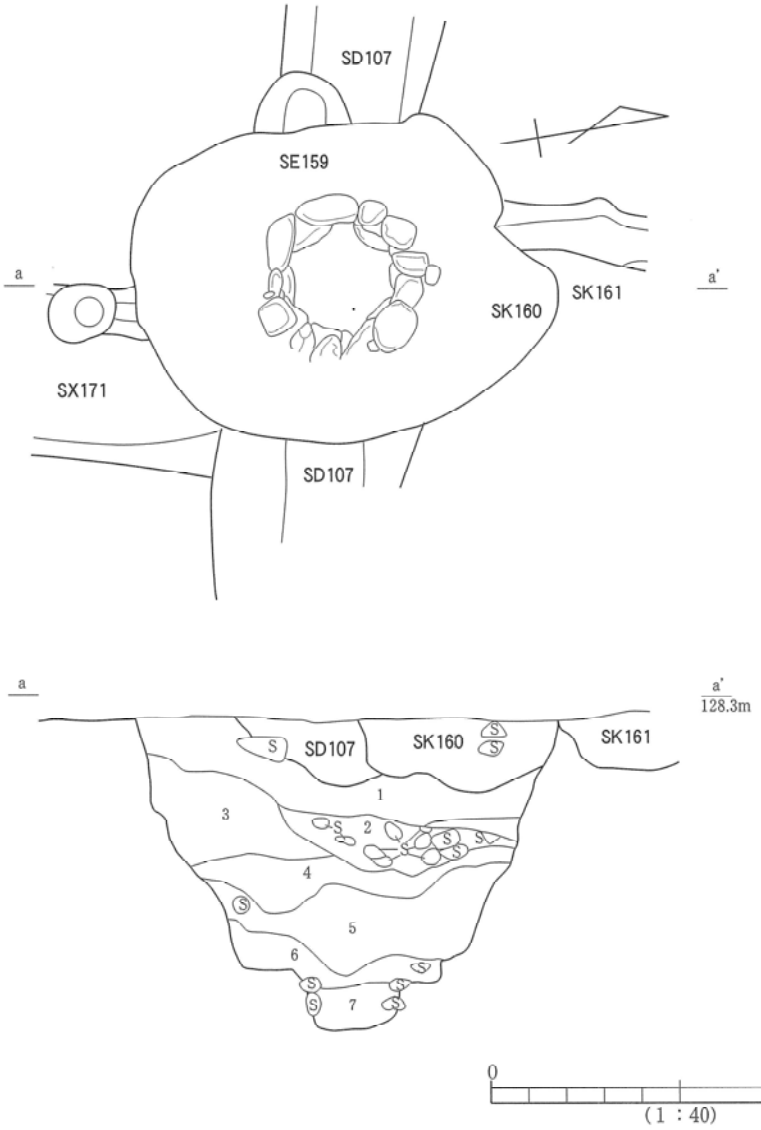






フ ト B Ⅶ SD244出土遺物

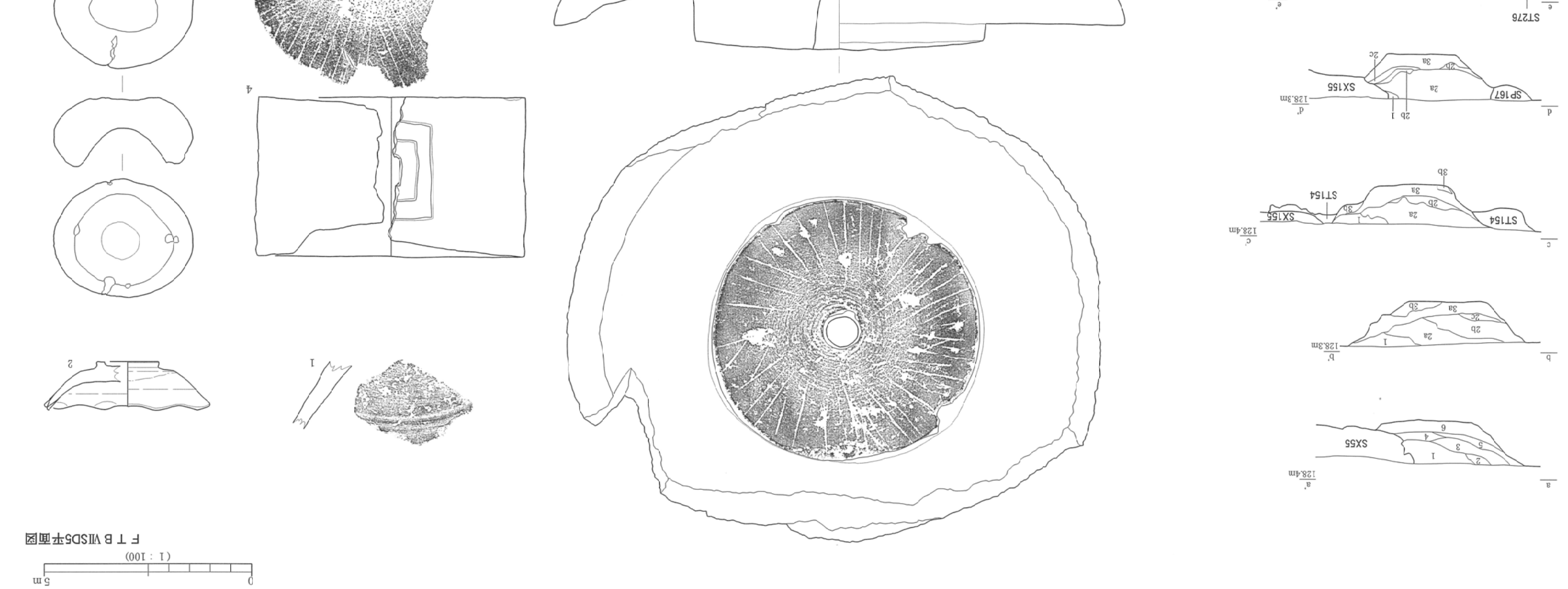
第108図



ＦＴＢⅦSE159平面図・断面図

ＦＴＢⅦSE159出土遺物

第109図

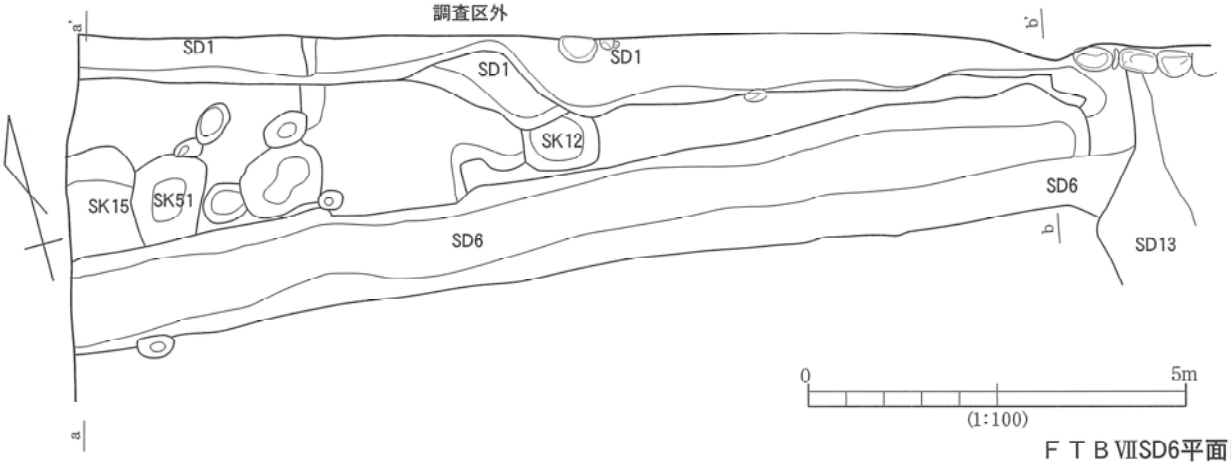


F T B Ⅶ SD5平面図

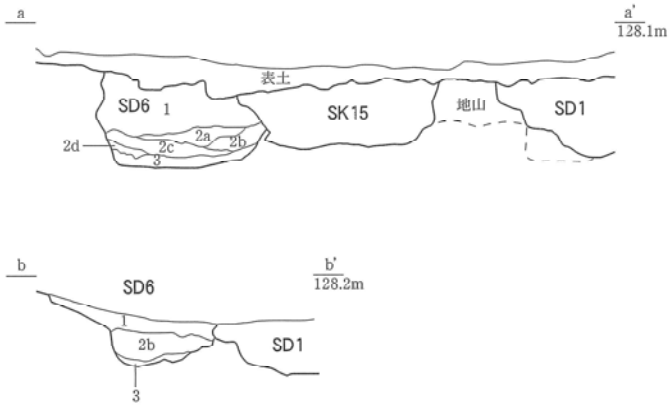
F T B Ⅶ SD5断面図

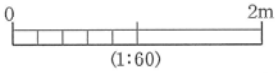
F T B Ⅶ SD5出土遺物

第110図

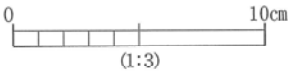


ＦＴＢⅦSD6平面図



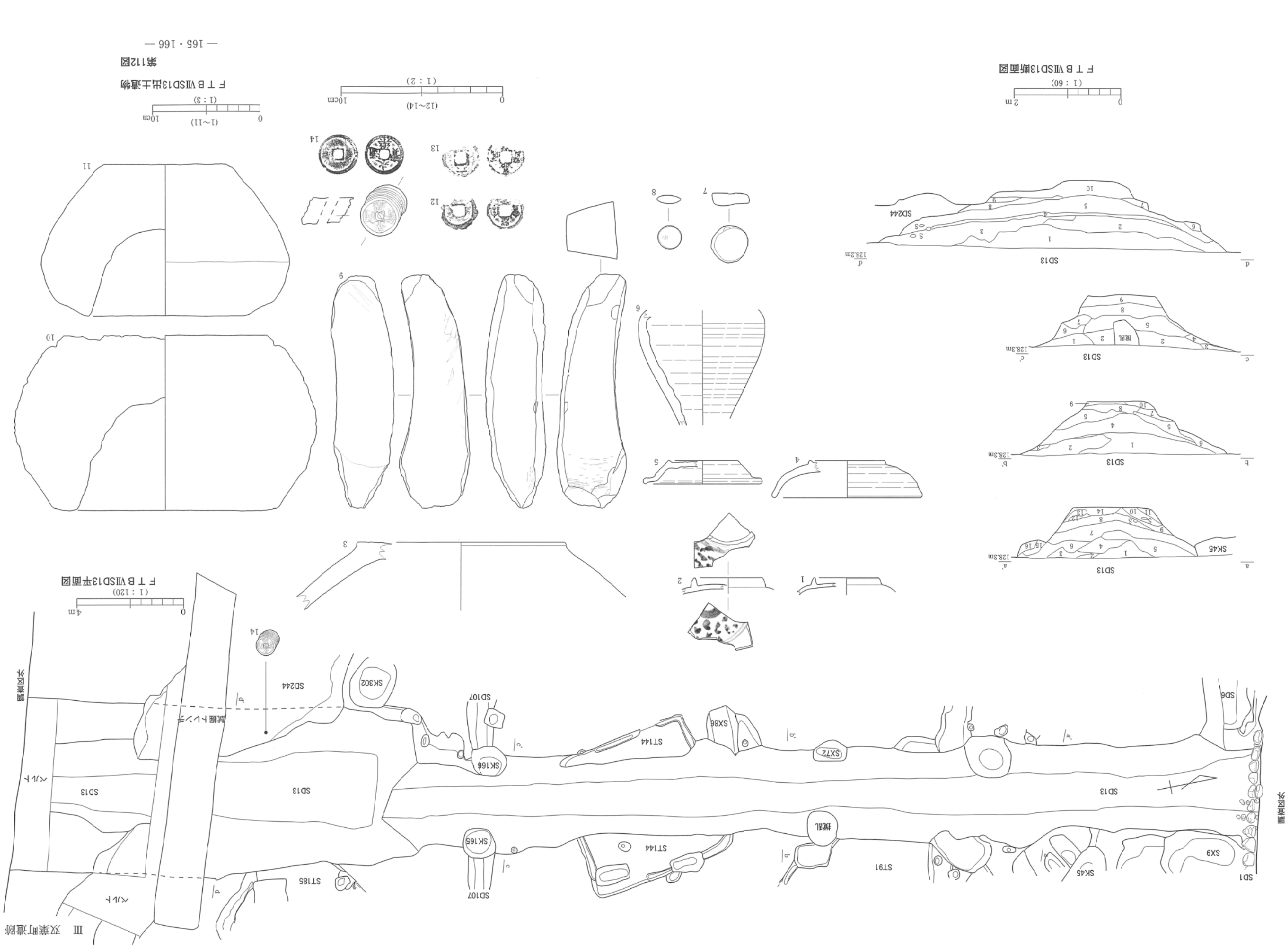


ＦＴＢⅦSD6断面図



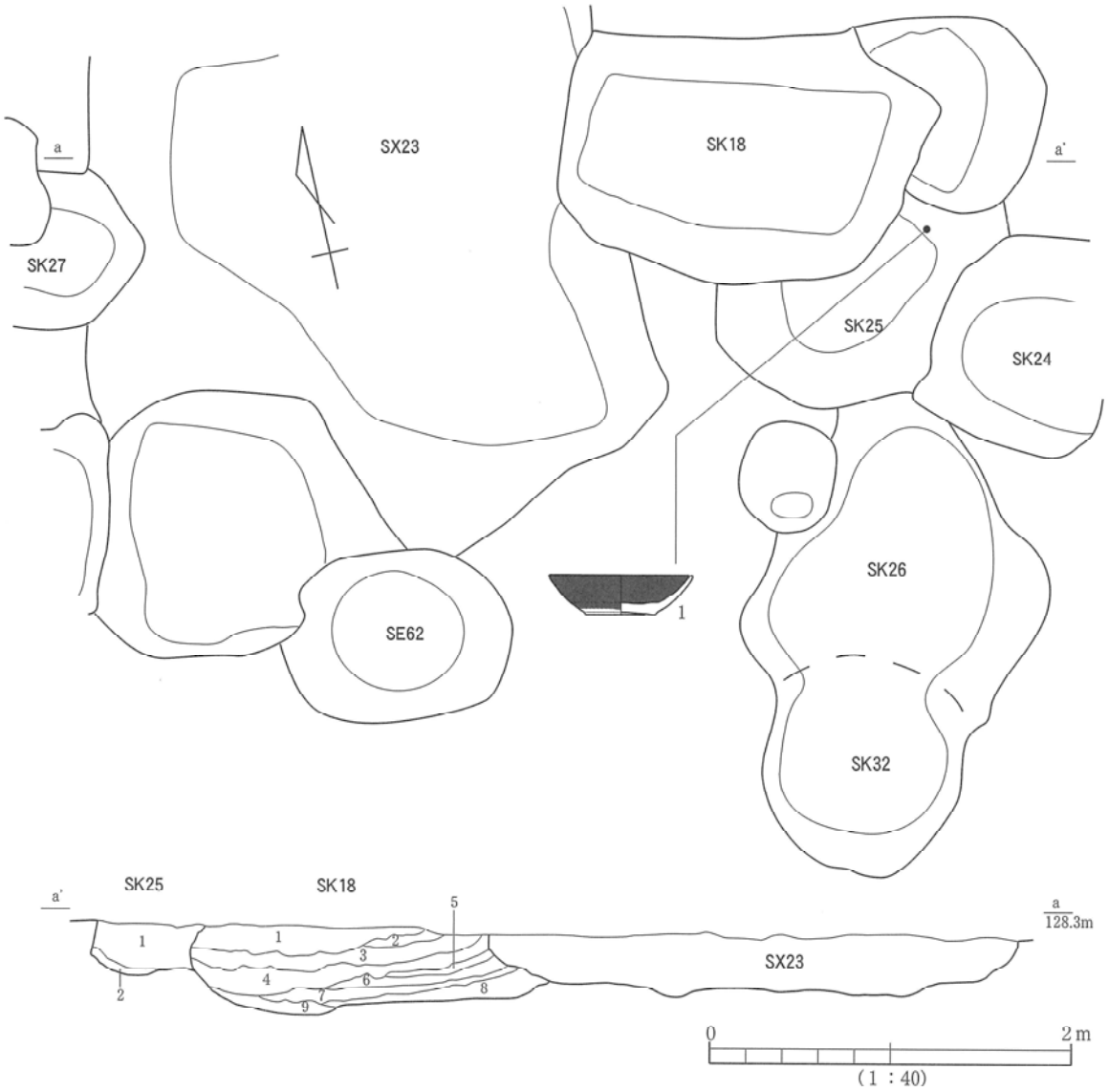
ＦＴＢⅦSD6出土遺物

第111図

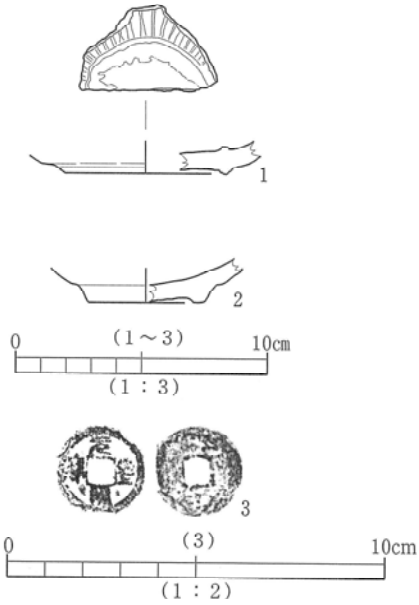

SD1
SX9
SK45
ST91
撹乱
ST144
SD107
SK165
ST185
SD13
SK166
SX72
SX86
ST144
SD107
SK302
SD244
SD6
試掘トレンチ
ベルト
ベルト
SD13
SD13
文区海鼠
文区海鼠
(1 : 120)
0
4m
F T B Ⅶ SD13平面図
(1 : 60)
0
2m
F T B Ⅶ SD13断面図
SD13
a
a'
128.3m
SK45
SD13
b
b'
128.3m
SD13
c
c'
128.3m
撹乱
SD13
d
d'
128.2m
SD244
(1～11)
0
10cm
(1 : 3)
F T B Ⅶ SD13出土遺物
(12～14)
0
10cm
(1 : 2)

第112図

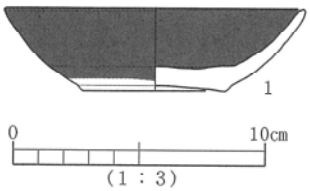
SP329
SP330
SP274
SP331
SP295
SP296
SP273
SP332
SP240
SP227
SP228
SP202
ST271
SP333
SP321
SP188
SP187
SP192
SP200
SP225
SP201
SP199
SP332
SP240
SP228
SP202
SP333
SP225
128.4m
128.4m
128.4m



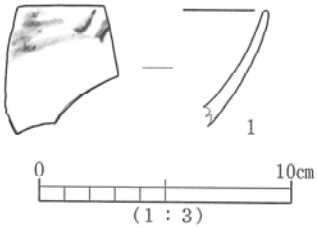
ＦＴＢⅦSK18・SK25・SK26・SK32平面図・断面図



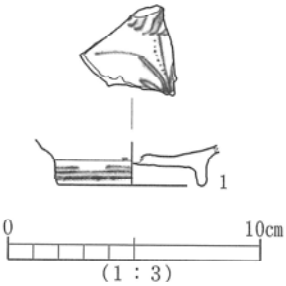
ＦＴＢⅦSK18出土遺物



ＦＴＢⅦSK25出土遺物

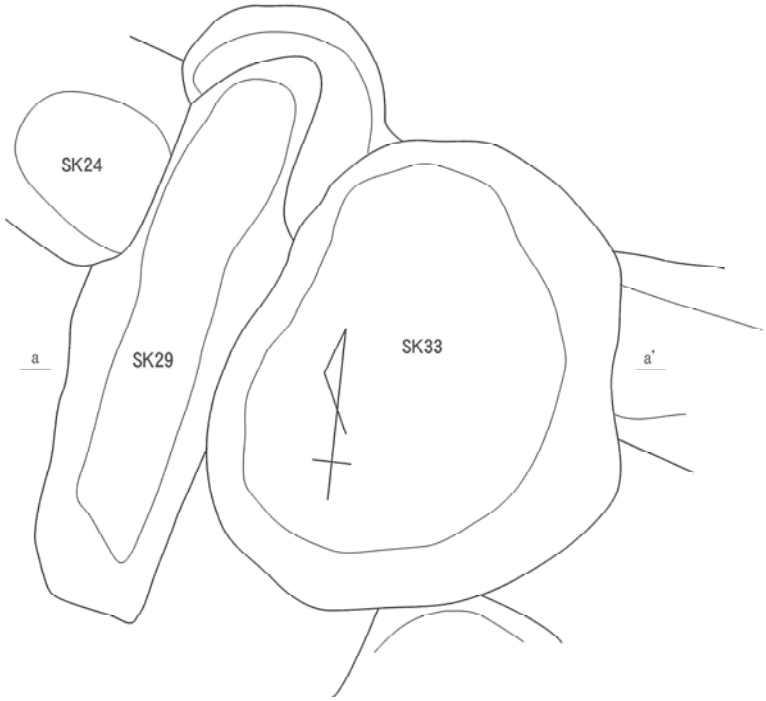


ＦＴＢⅦSK26出土遺物

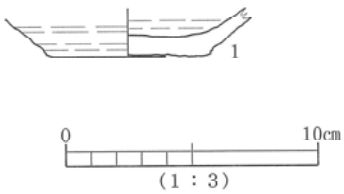


ＦＴＢⅦSK32出土遺物

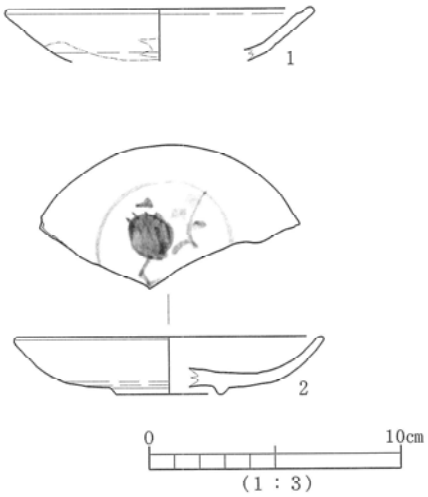
第114図



ＦＴＢⅦSK29・SK33平面図・断面図

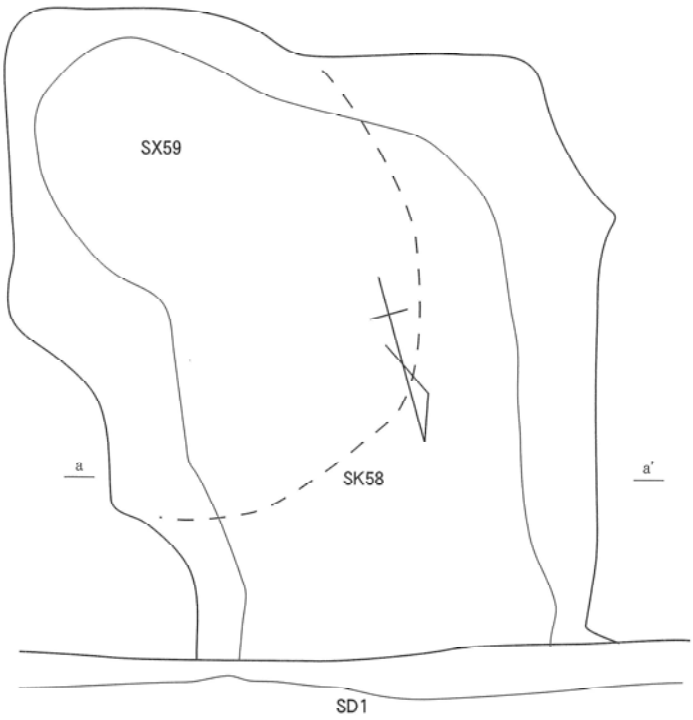


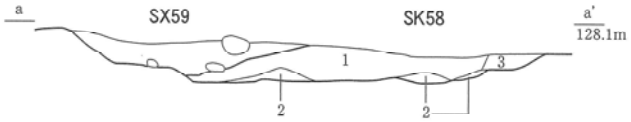
ＦＴＢⅦSK29出土遺物

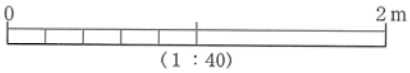


ＦＴＢⅦSK33出土遺物

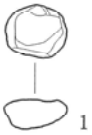
第115図

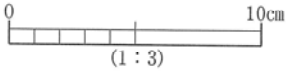






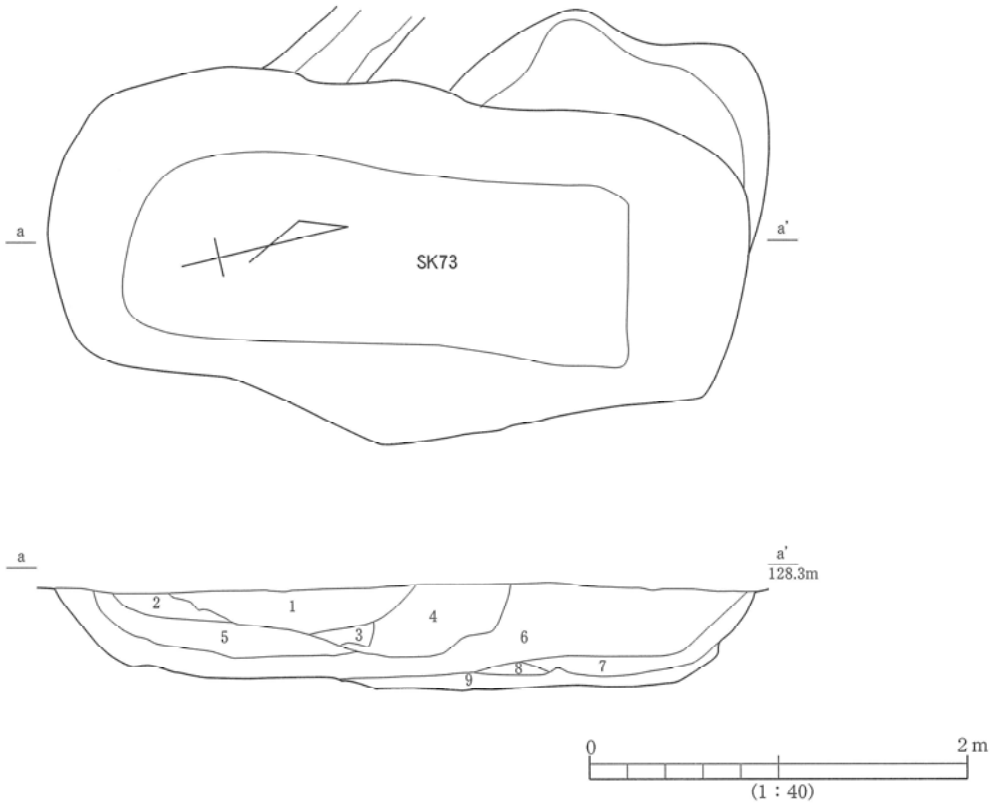
ＦＴＢⅦSK58平面図・断面図



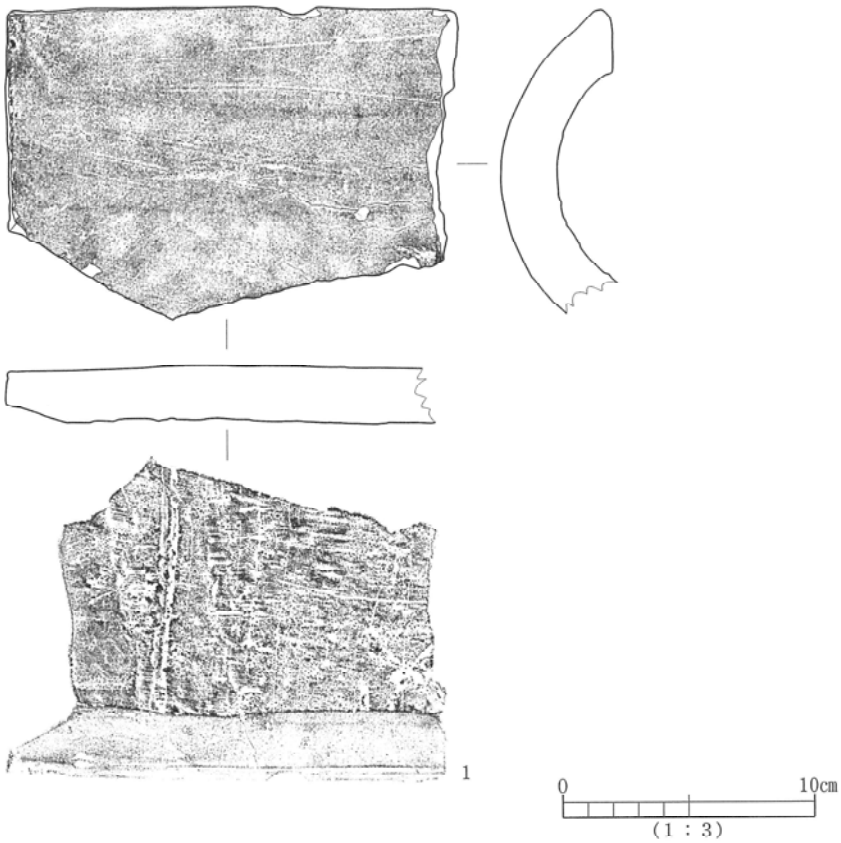


ＦＴＢⅦSK58出土遺物

第116図

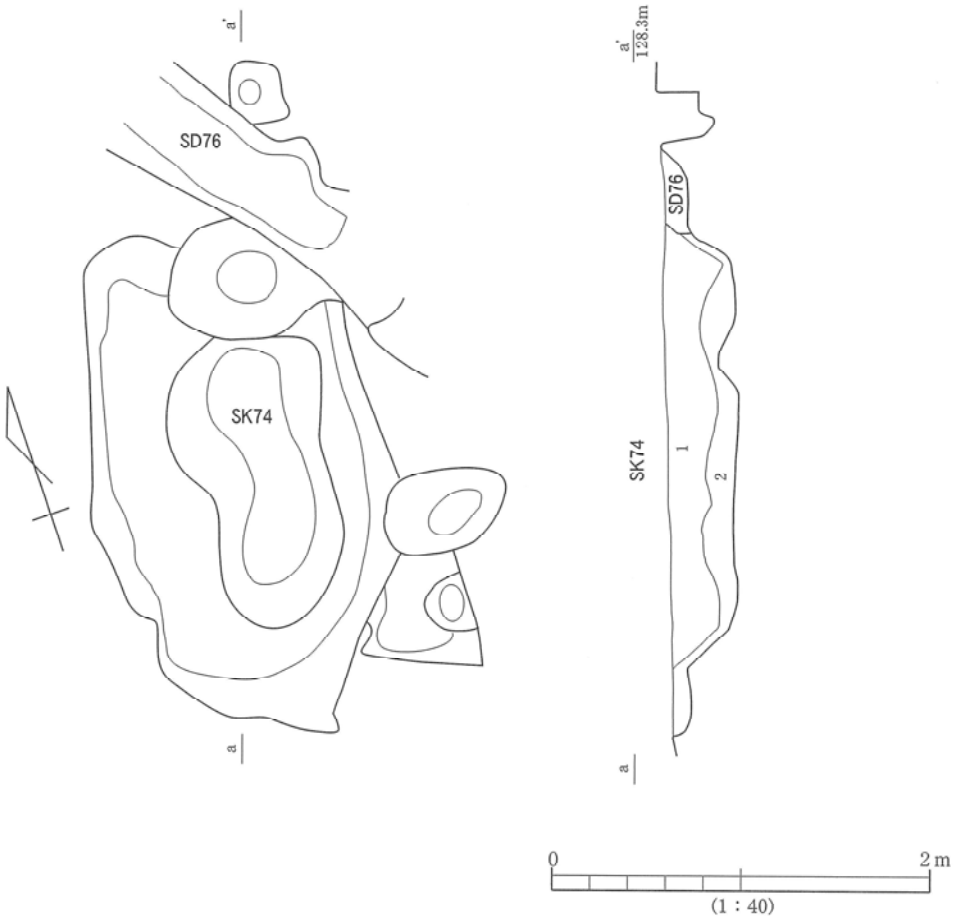


ＦＴＢⅦSK73平面図・断面図

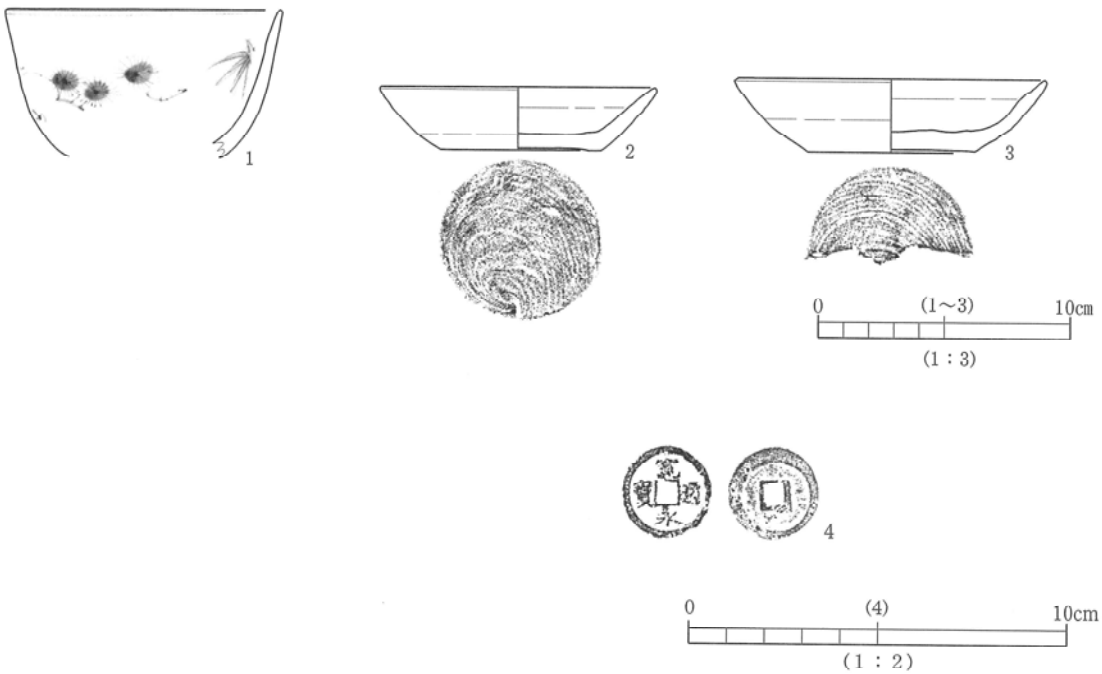


ＦＴＢⅦSK73出土遺物

第117図

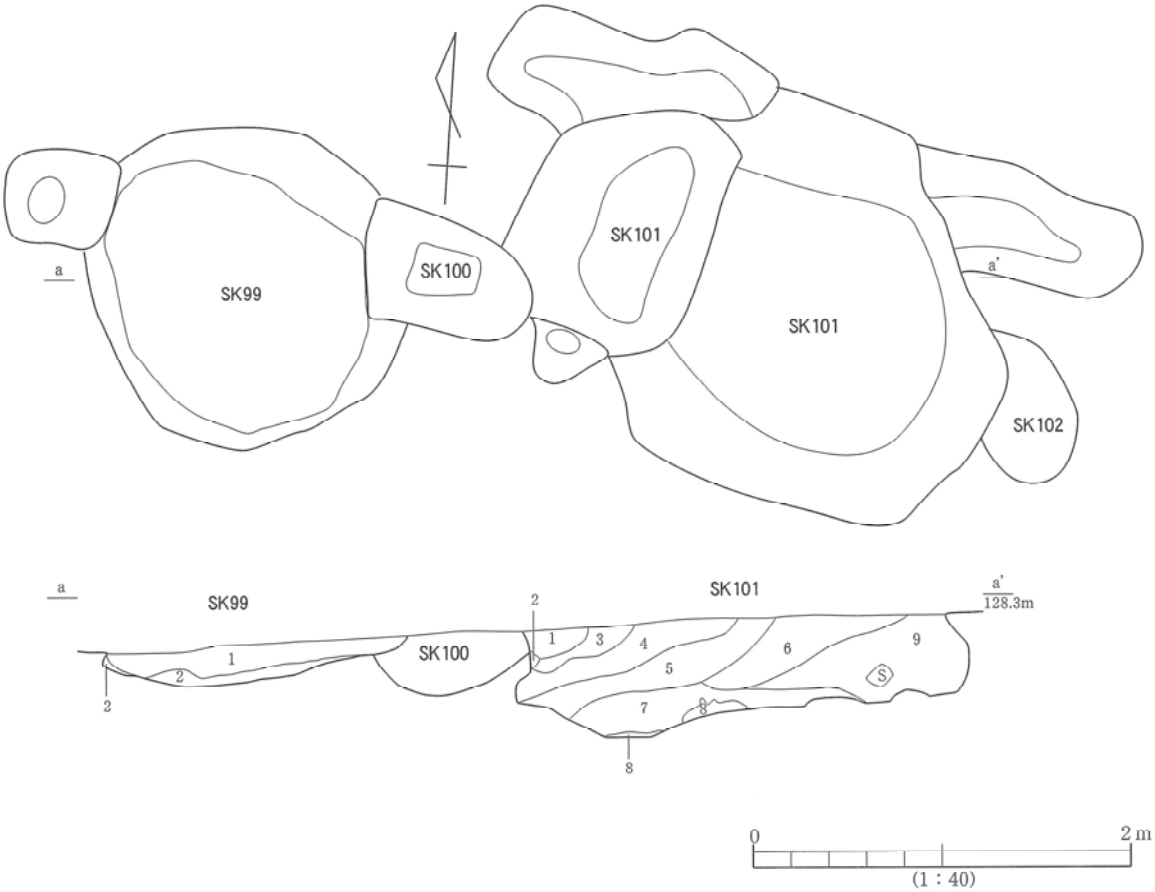


ＦＴＢⅦSK74平面図・断面図

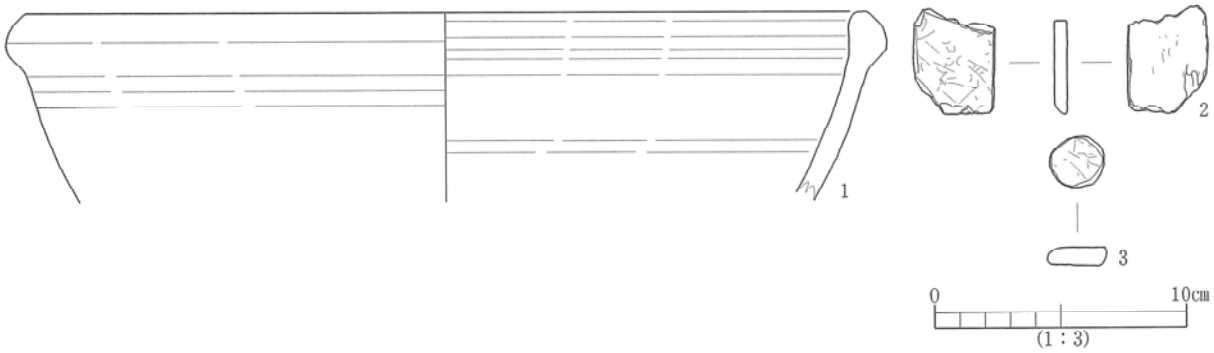


ＦＴＢⅦSK74出土遺物

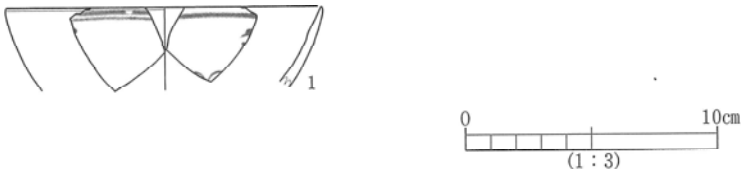
第118図



ＦＴＢⅦSK99・SK101平面図・断面図

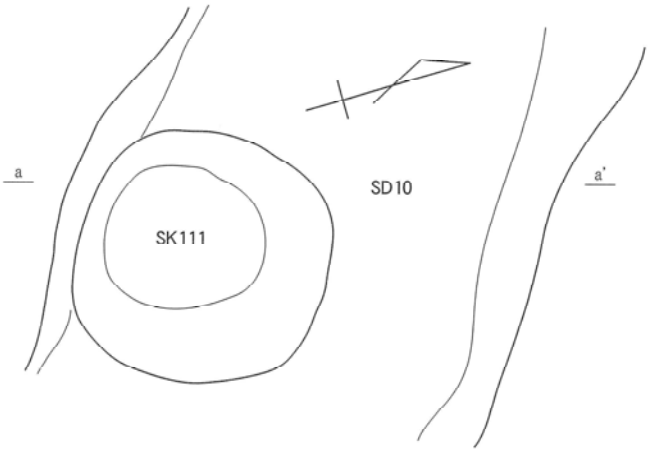


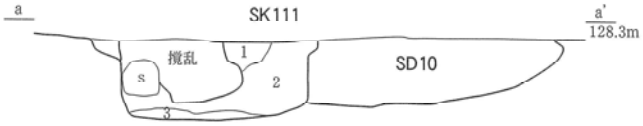
ＦＴＢⅦSK99出土遺物

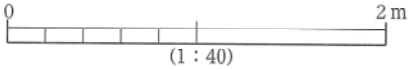


ＦＴＢⅦSK101出土遺物

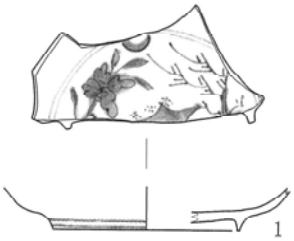
第119図

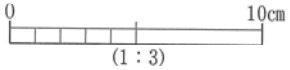






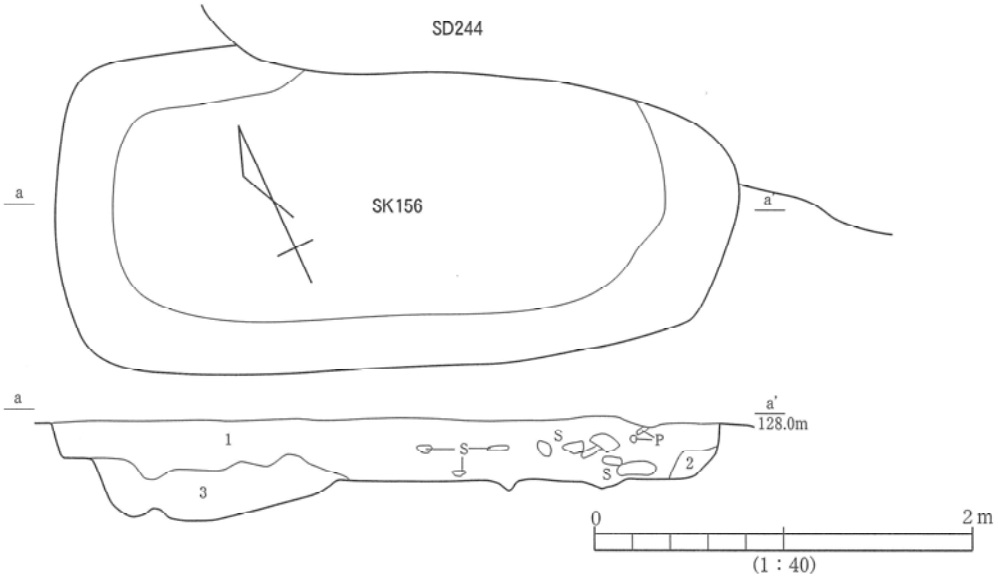
ＦＴＢⅦSK111平面図・断面図



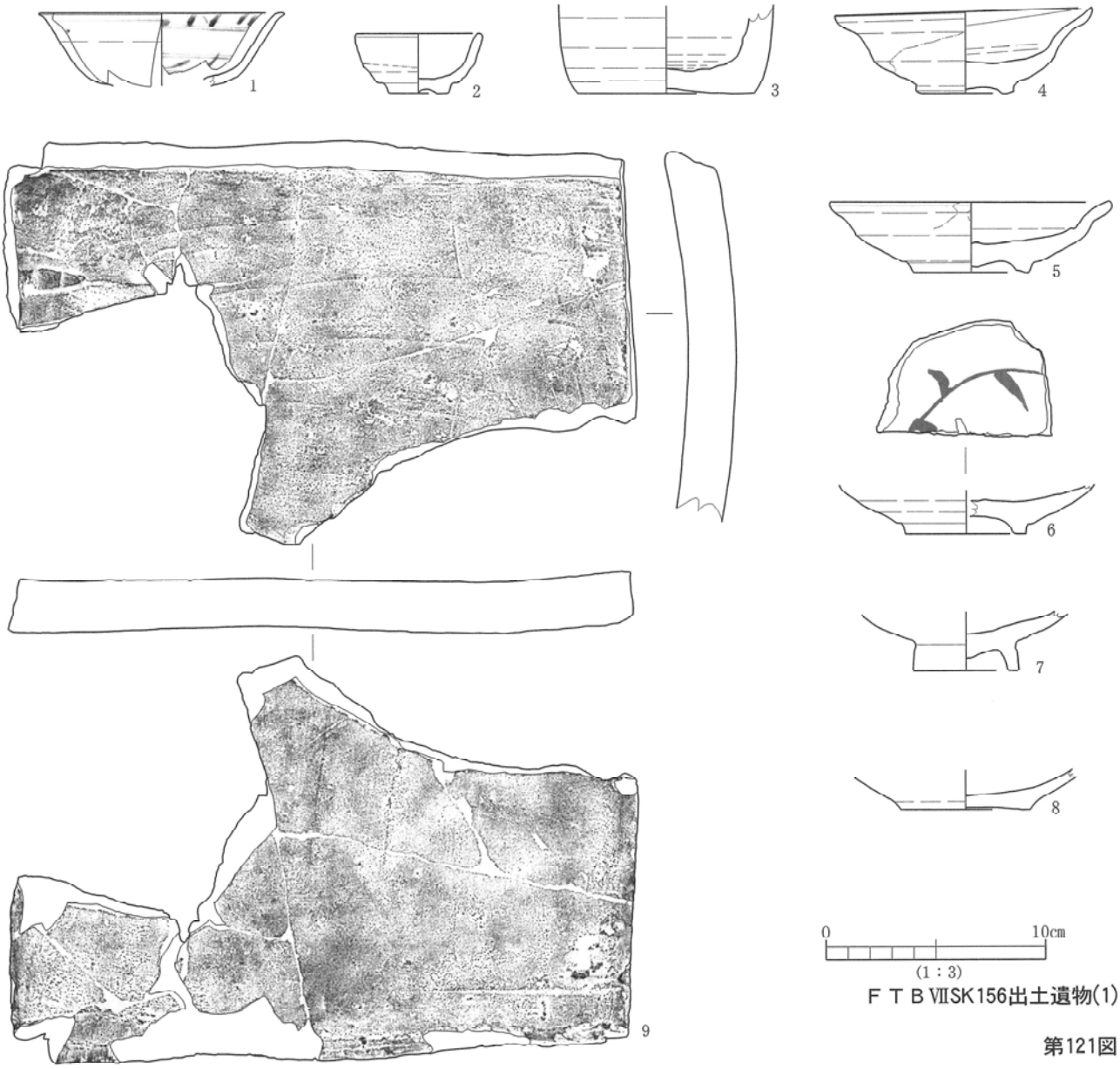


ＦＴＢⅦSK111出土遺物

第120図

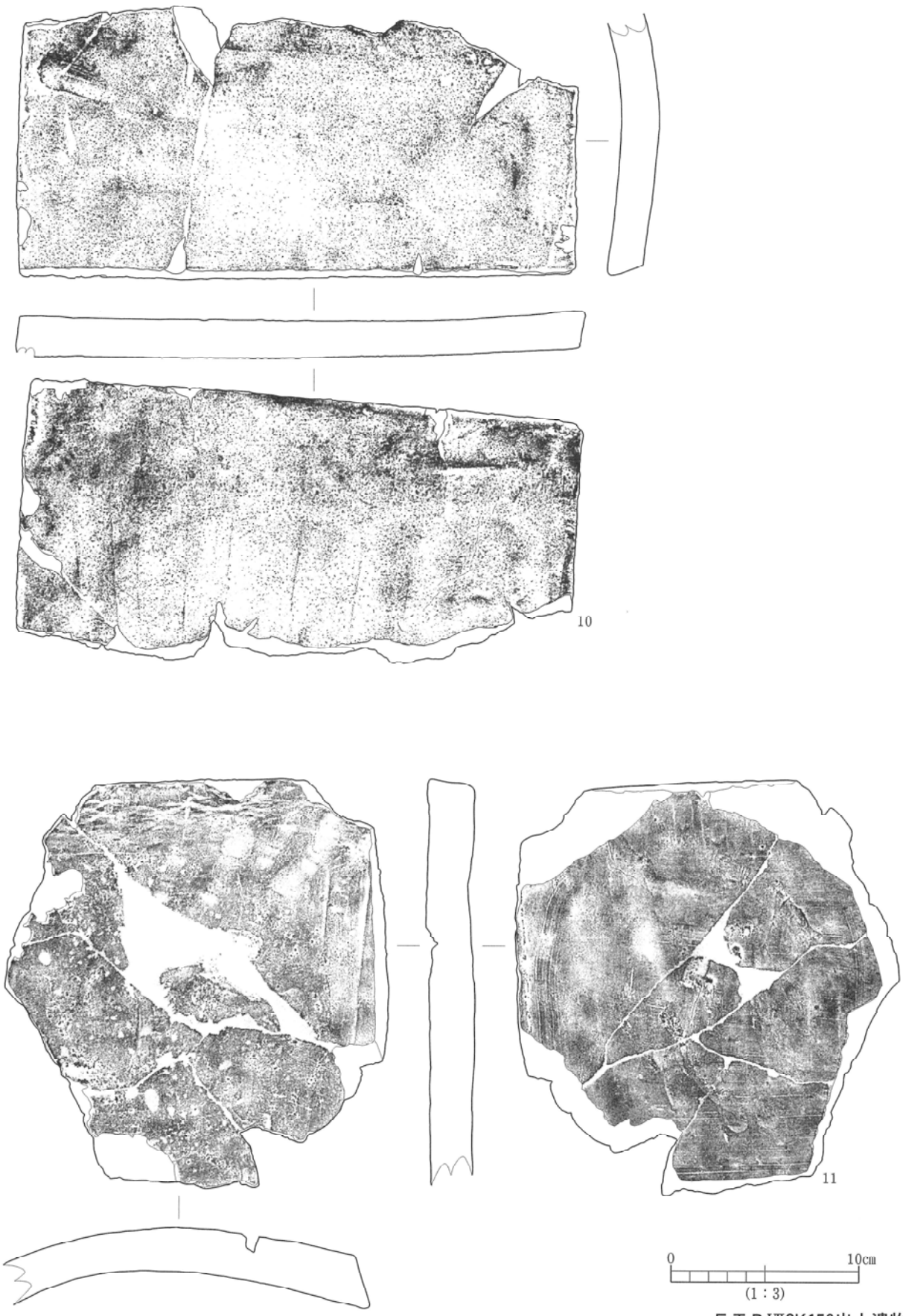


ＦＴＢⅦSK156平面図・断面図



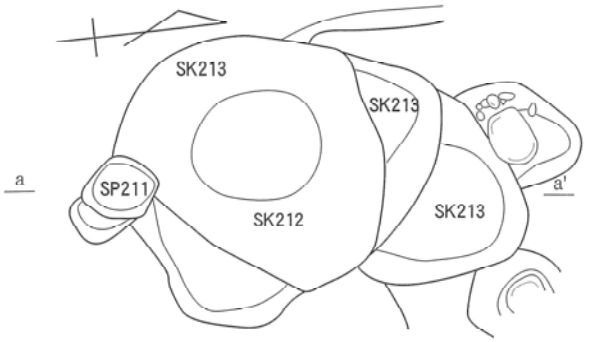
ＦＴＢⅦSK156出土遺物(1)

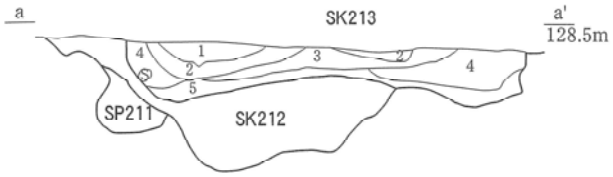
第121図

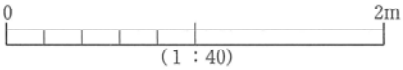


ＦＴＢⅦSK156出土遺物(2)

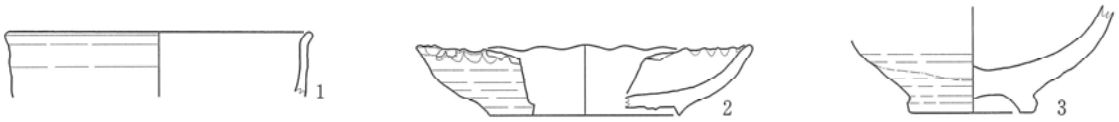
第122図

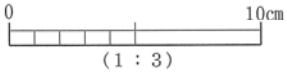






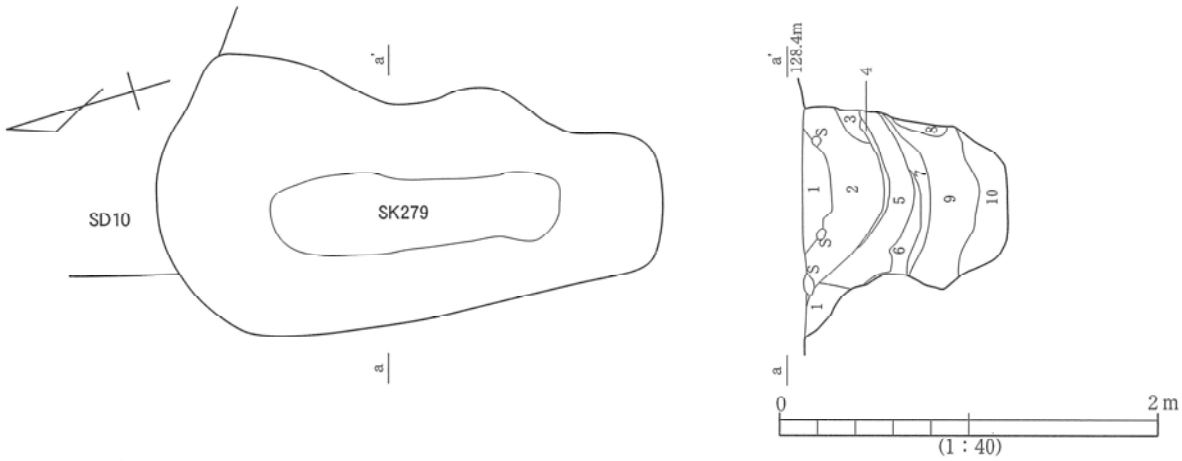
ＦＴＢⅦSK213平面図・断面図



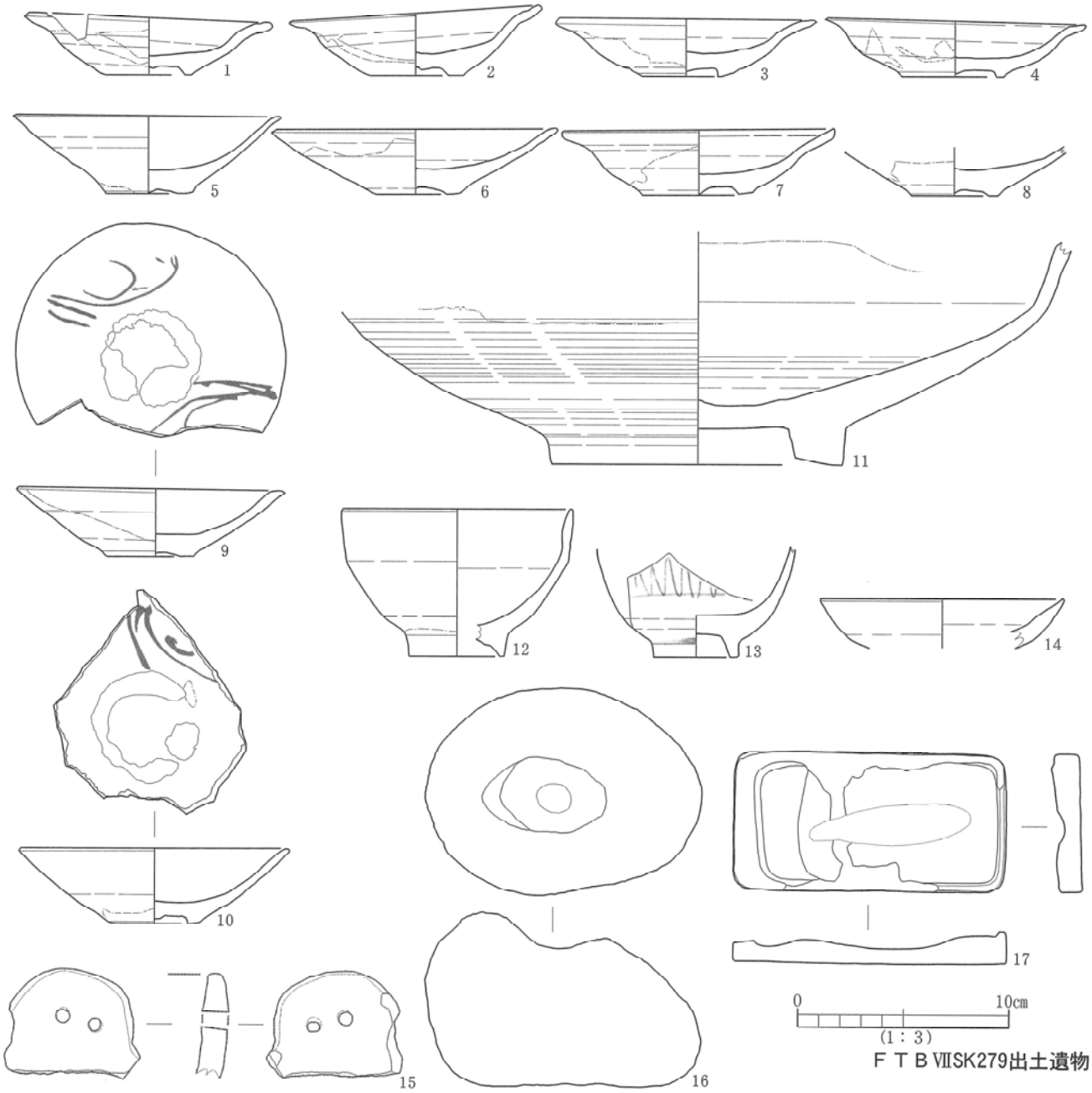


ＦＴＢⅦSK213出土遺物

第123図



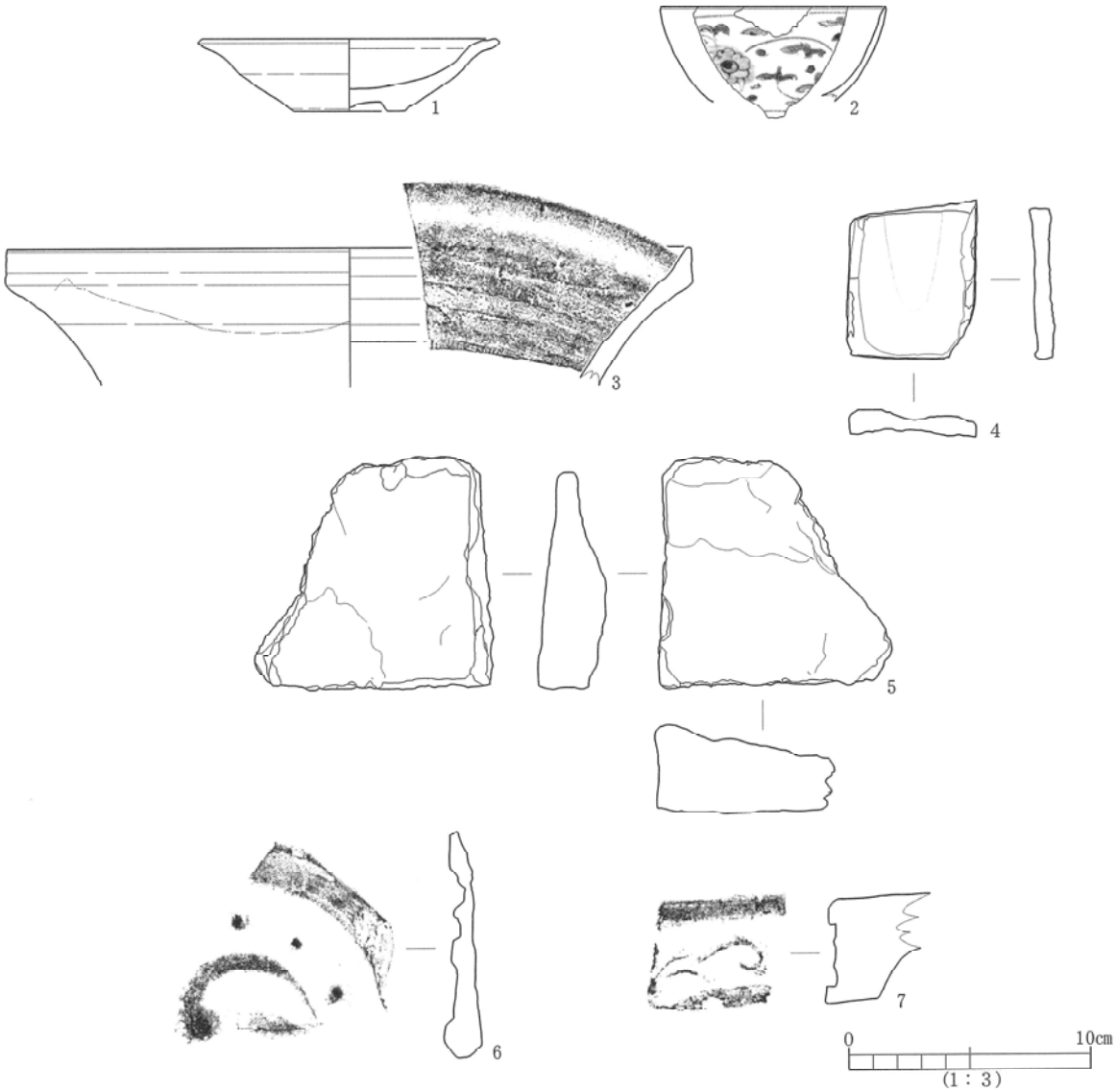
ＦＴＢⅦSK279平面図・断面図



ＦＴＢⅦSK279出土遺物

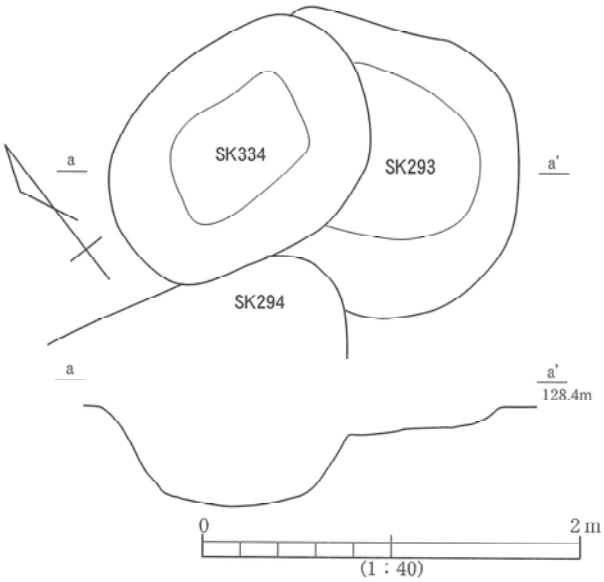
第124図

ＦＴＢⅦSK280平面図・断面図

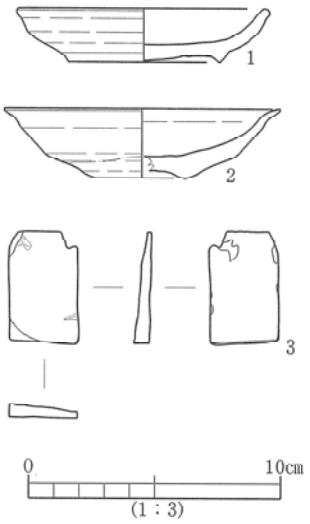


ＦＴＢⅦSK280出土遺物

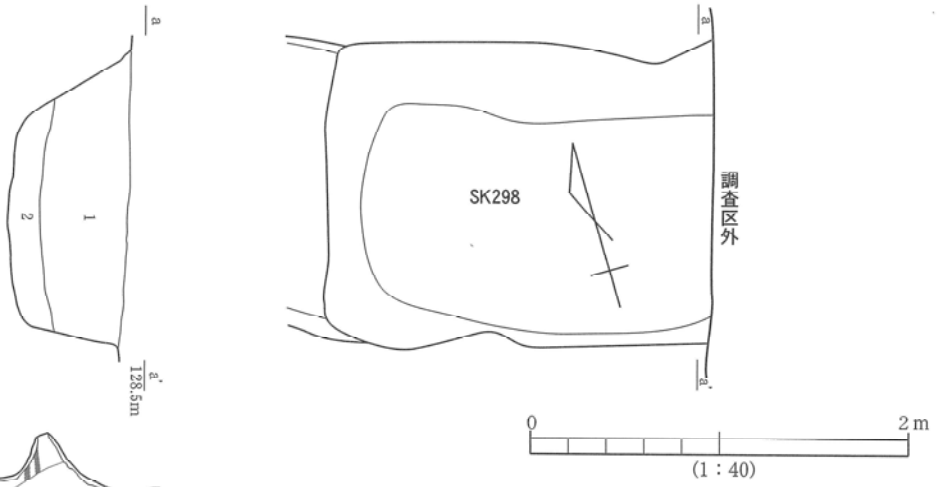
第125図



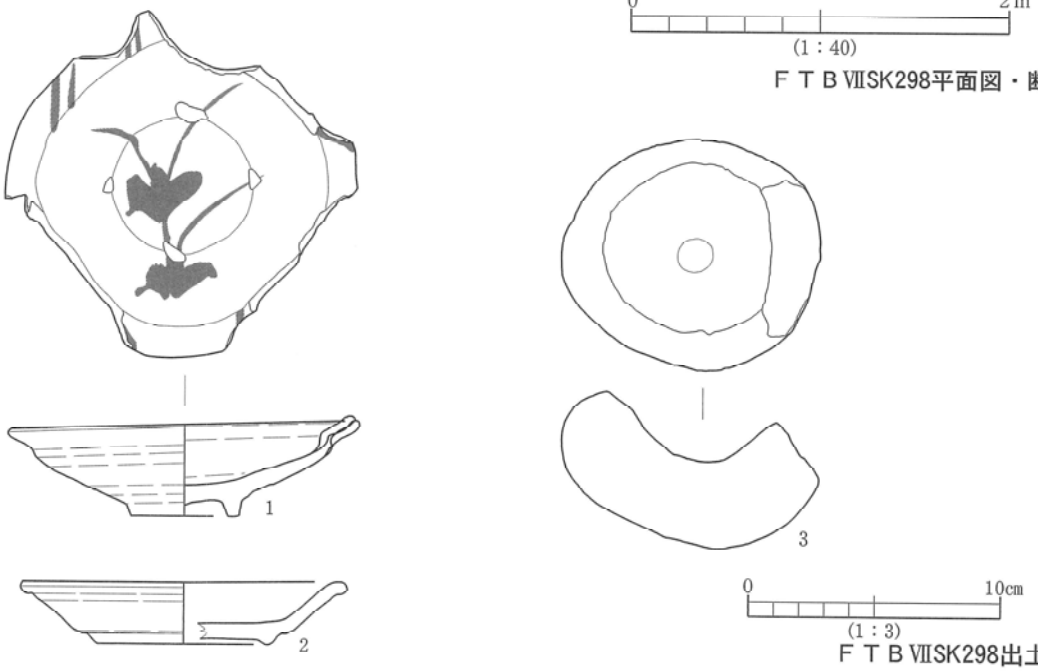
ＦＴＢⅦSK293平面図・断面図



ＦＴＢⅦSK293出土遺物

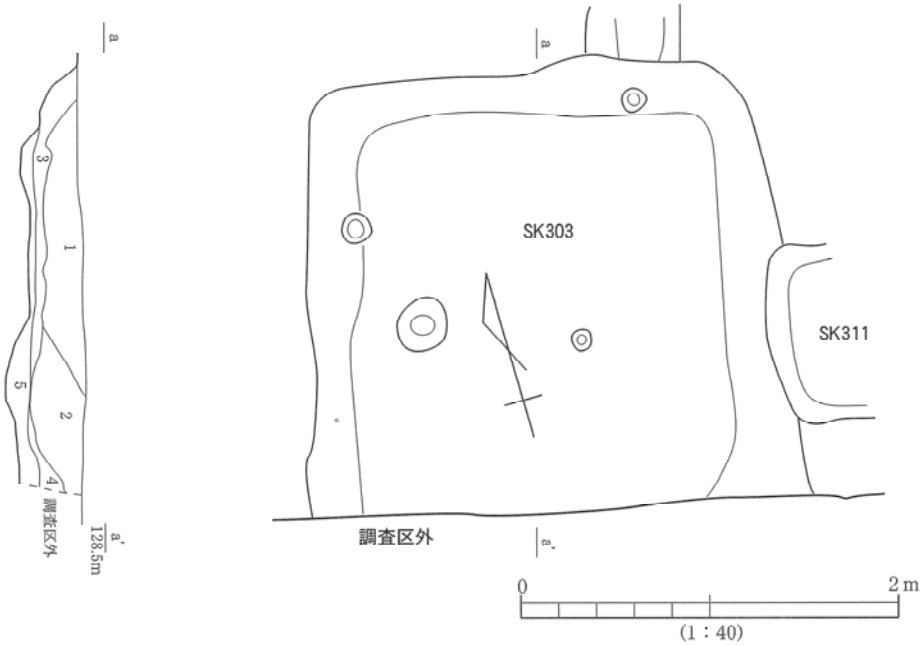


ＦＴＢⅦSK298平面図・断面図

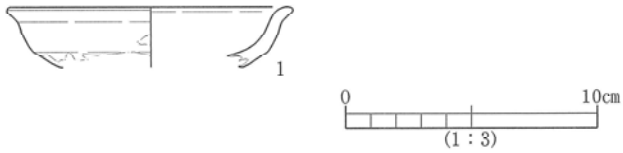


ＦＴＢⅦSK298出土遺物

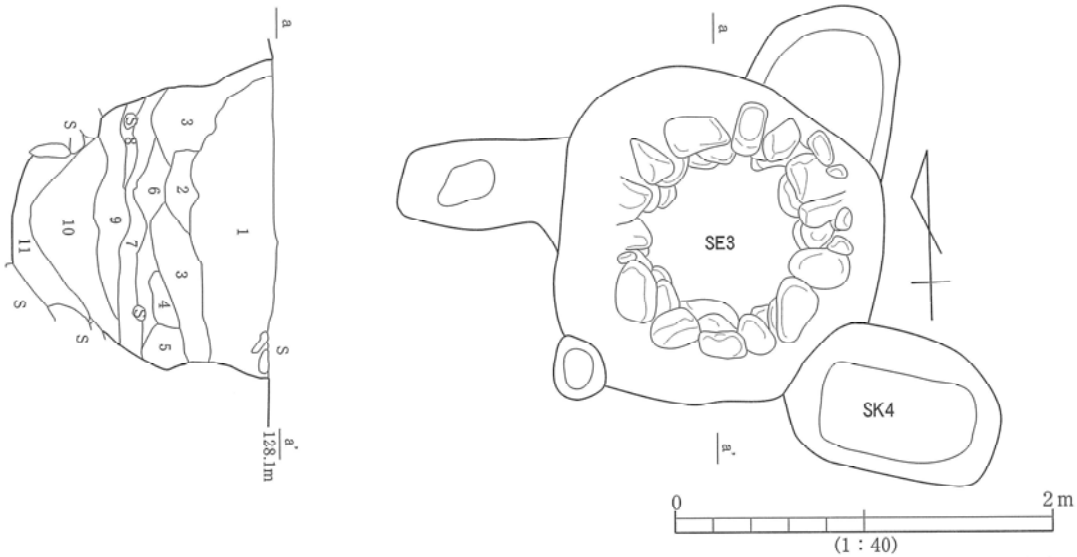
第126図



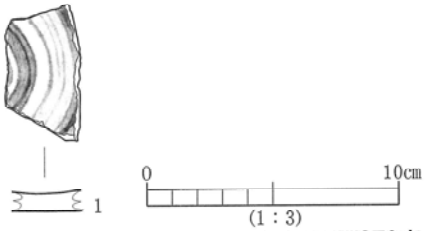
ＦＴＢⅦSK303平面図・断面図



ＦＴＢⅦSK303出土遺物

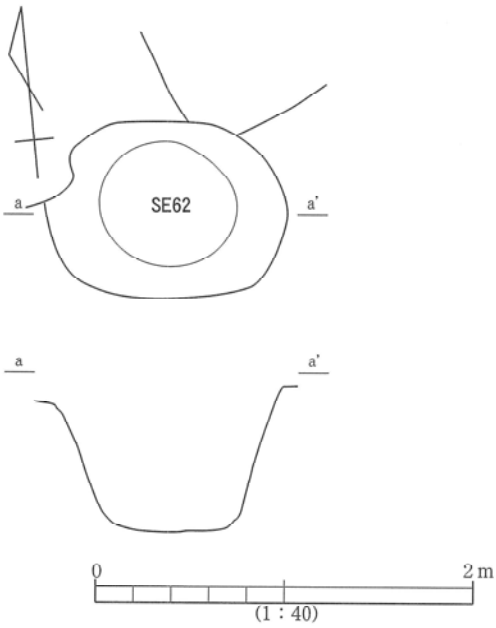


ＦＴＢⅦSE3平面図・断面図

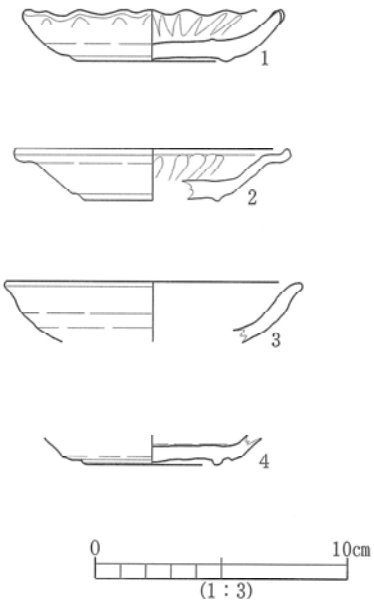


ＦＴＢⅦSE3出土遺物

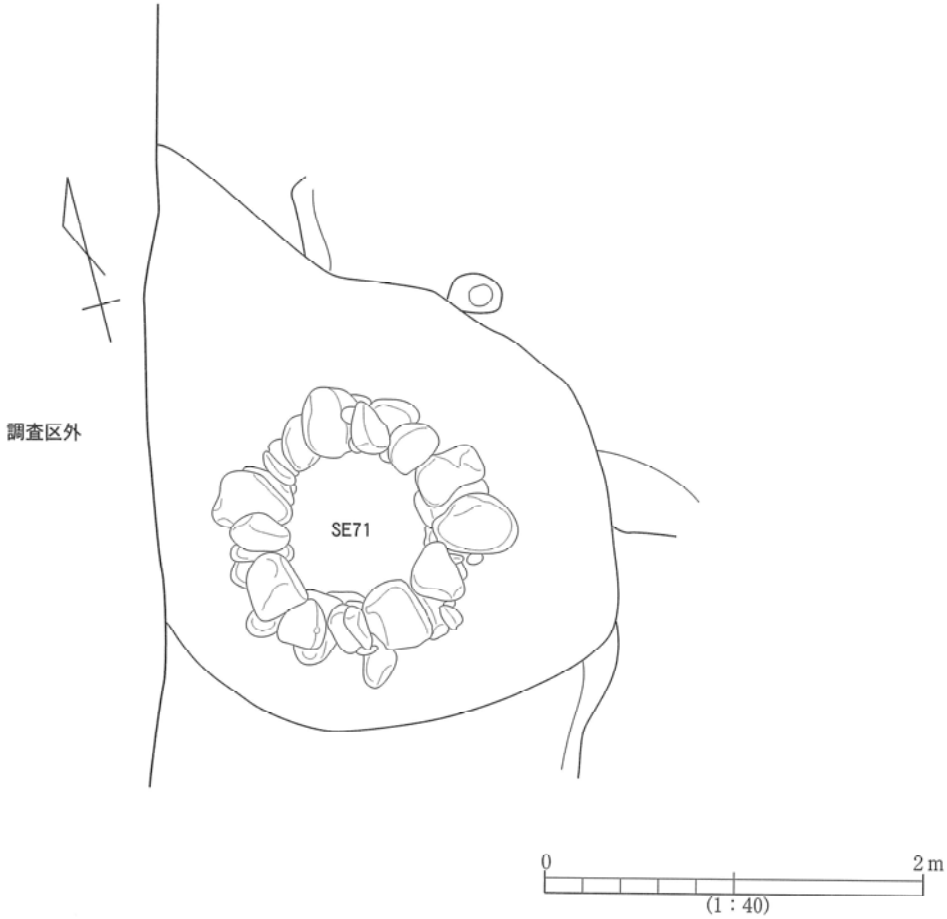
第127図



ＦＴＢⅦSE62平面図・断面図

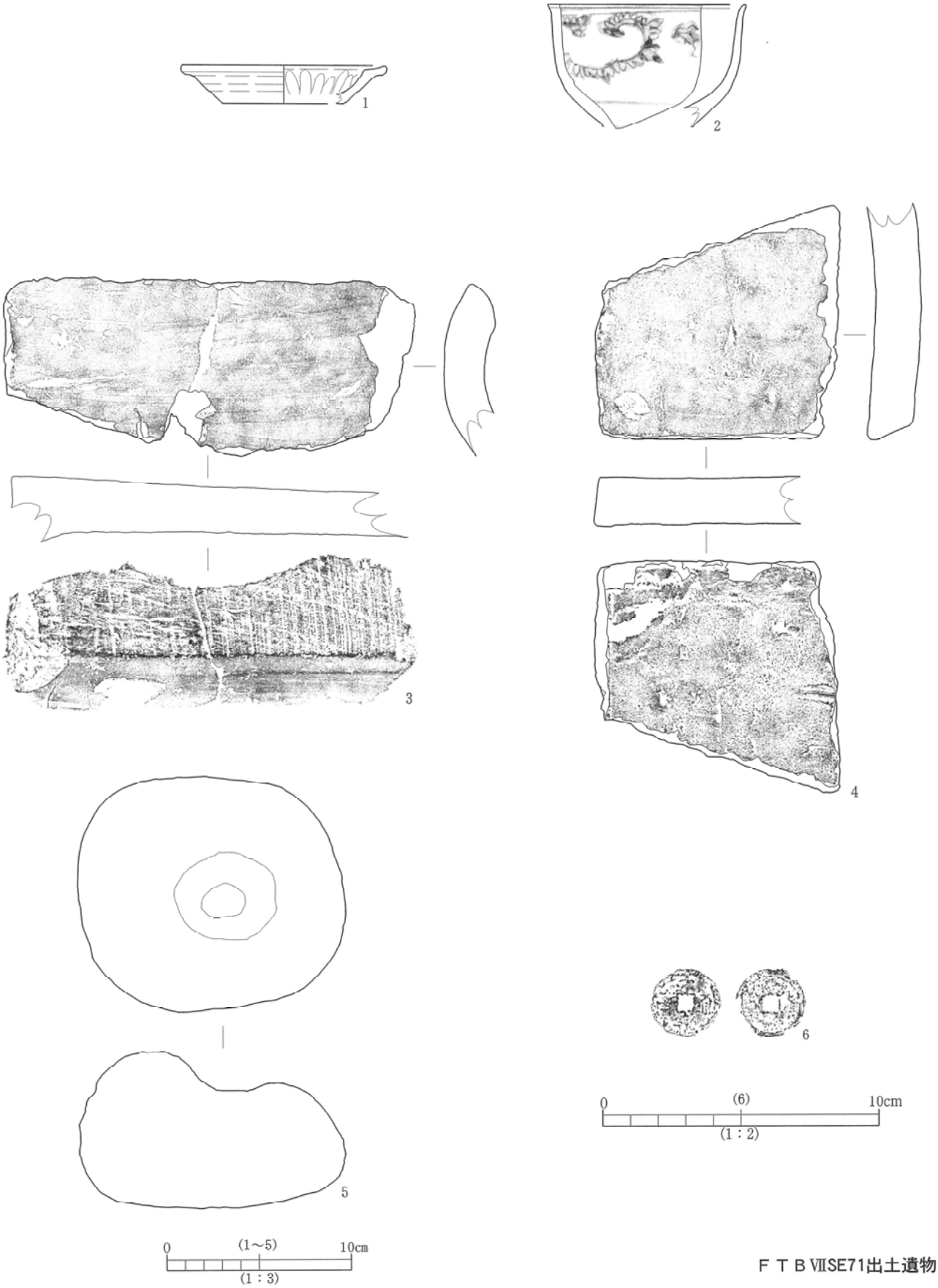


ＦＴＢⅦSE62出土遺物



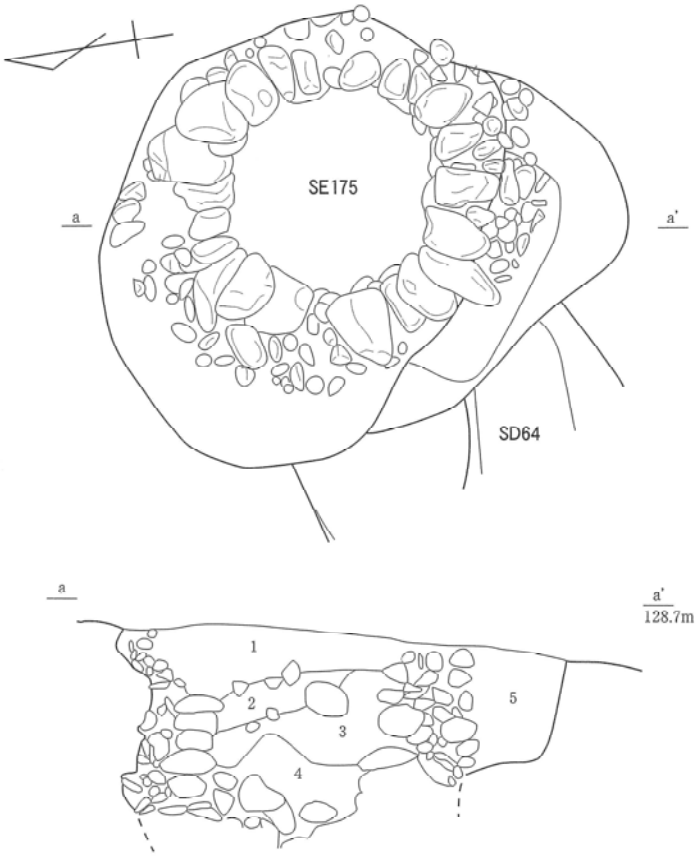
ＦＴＢⅦSE71平面図

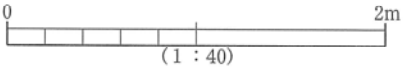
第128図



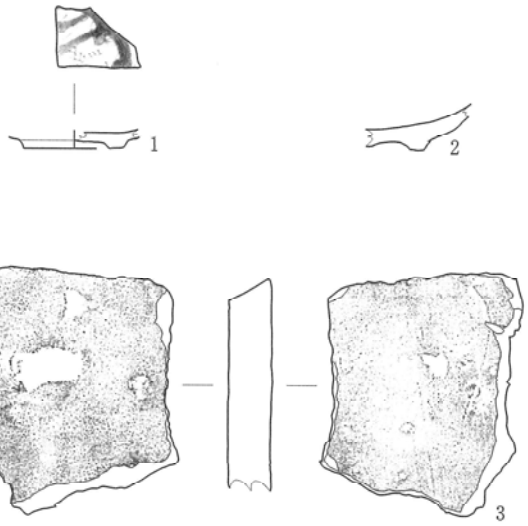
ＦＴＢⅦSE71出土遺物

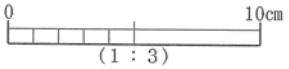
第129図





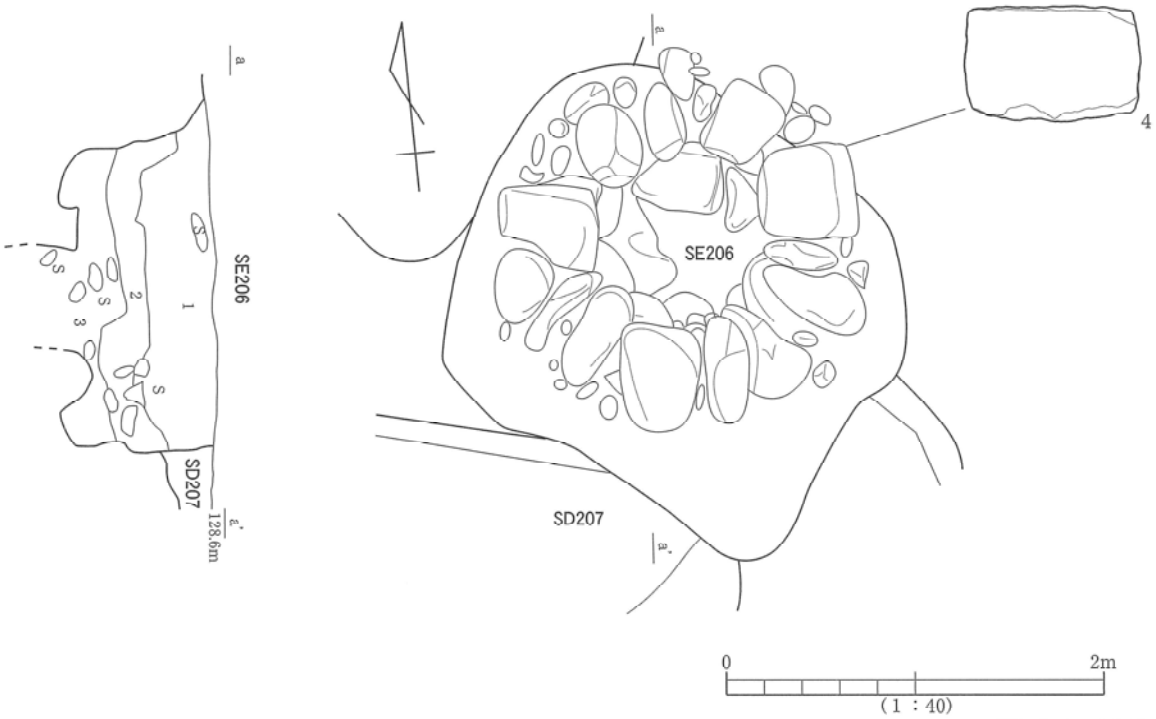
ＦＴＢⅦSE175平面図・断面図



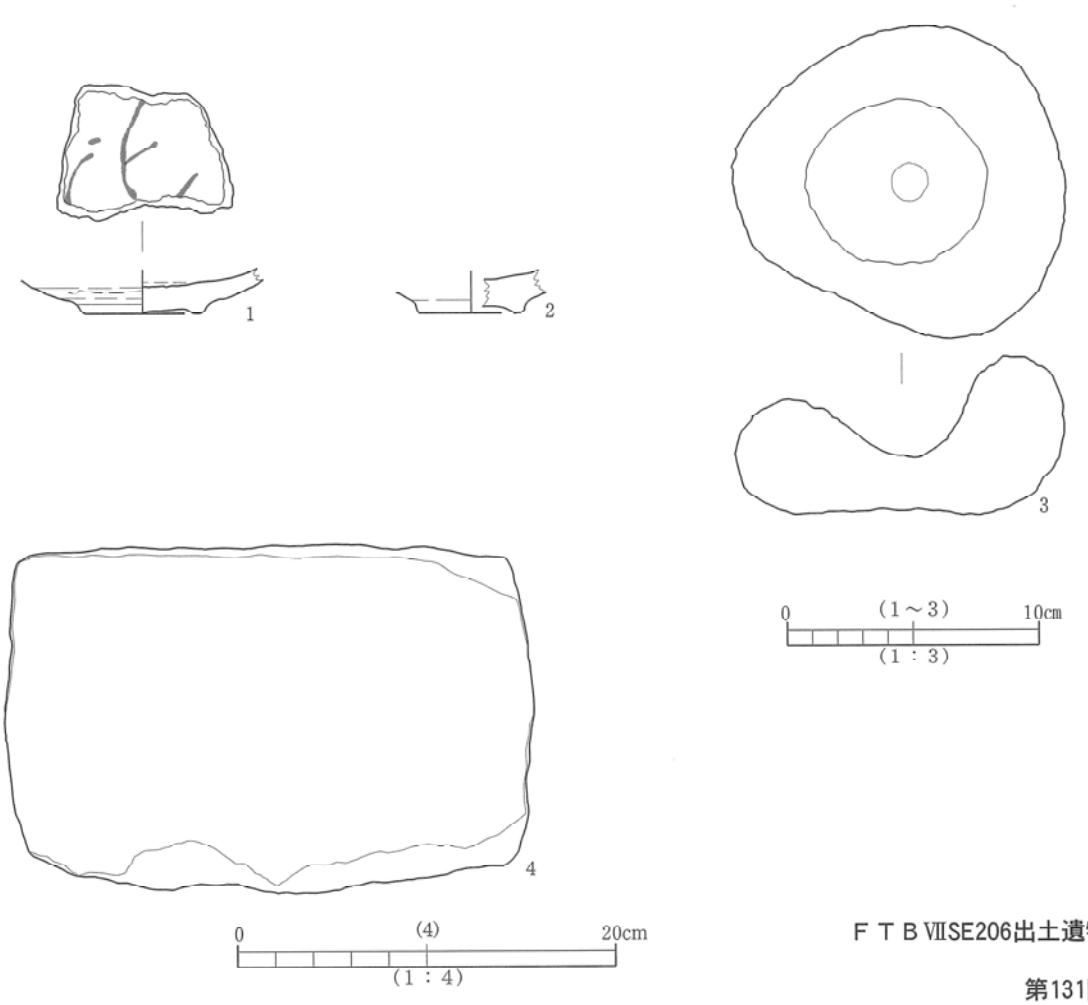


ＦＴＢⅦSE175出土遺物

第130図

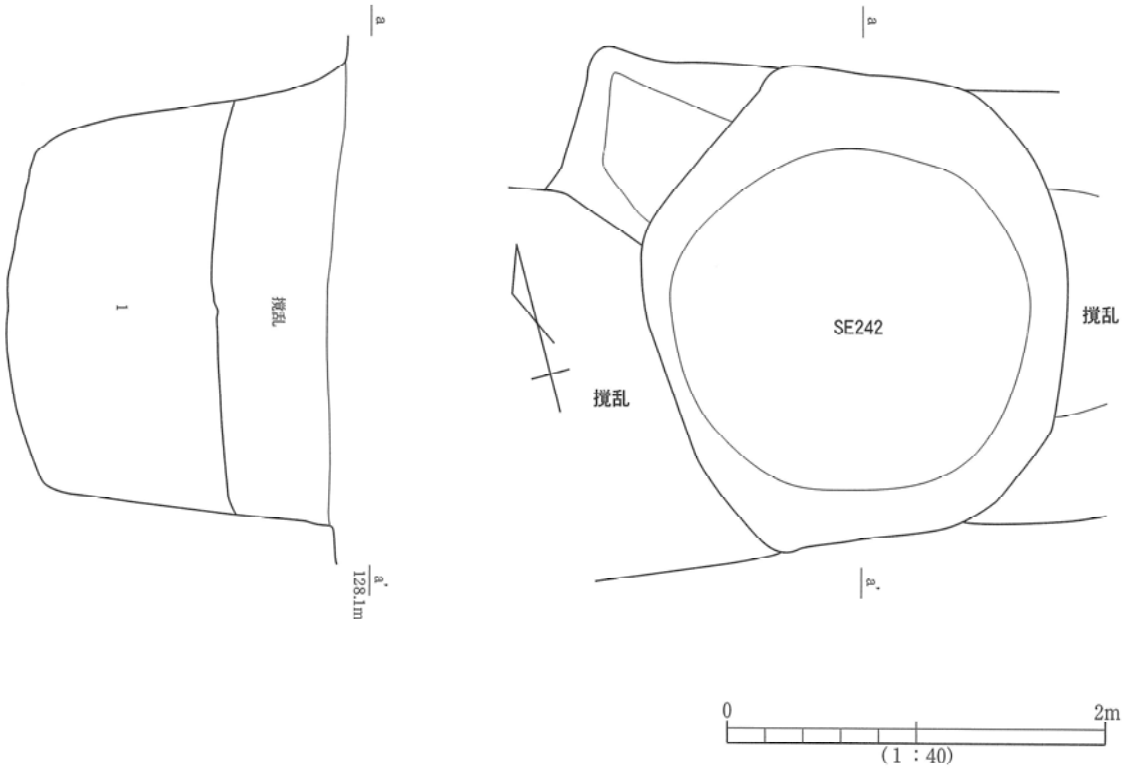


ＦＴＢⅦSE206平面図・断面図

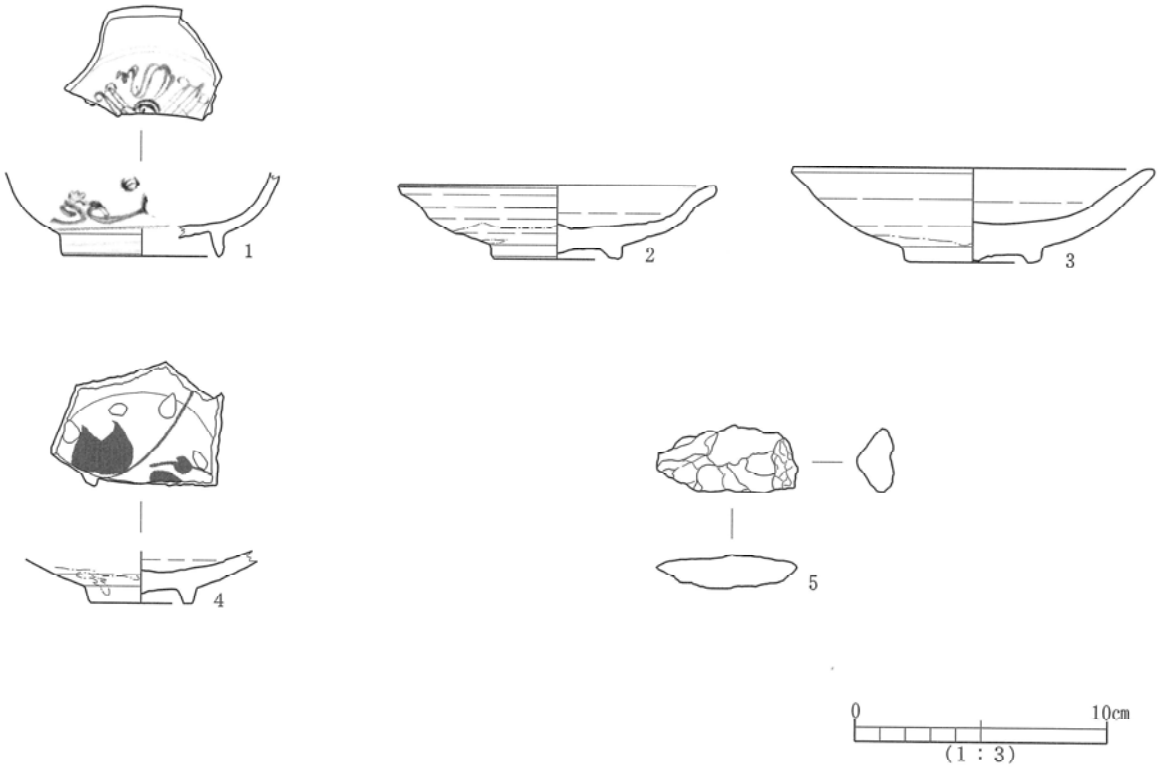


ＦＴＢⅦSE206出土遺物

第131図

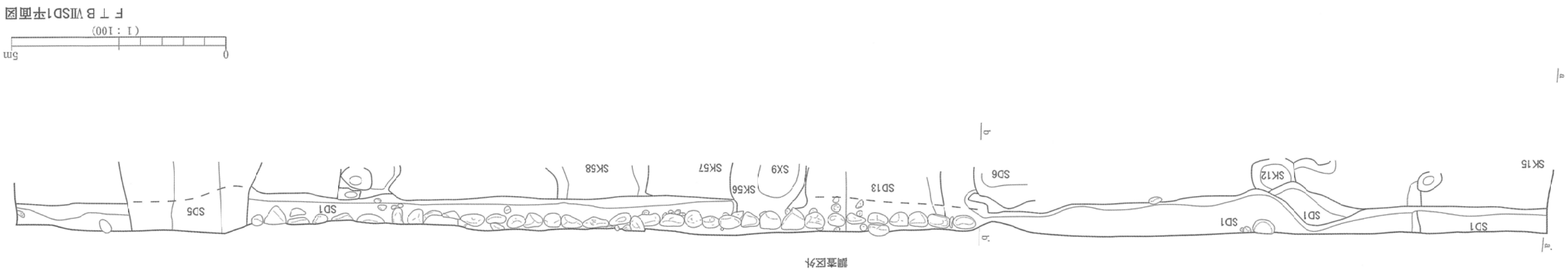


ＦＴＢⅦSE242平面図・断面図

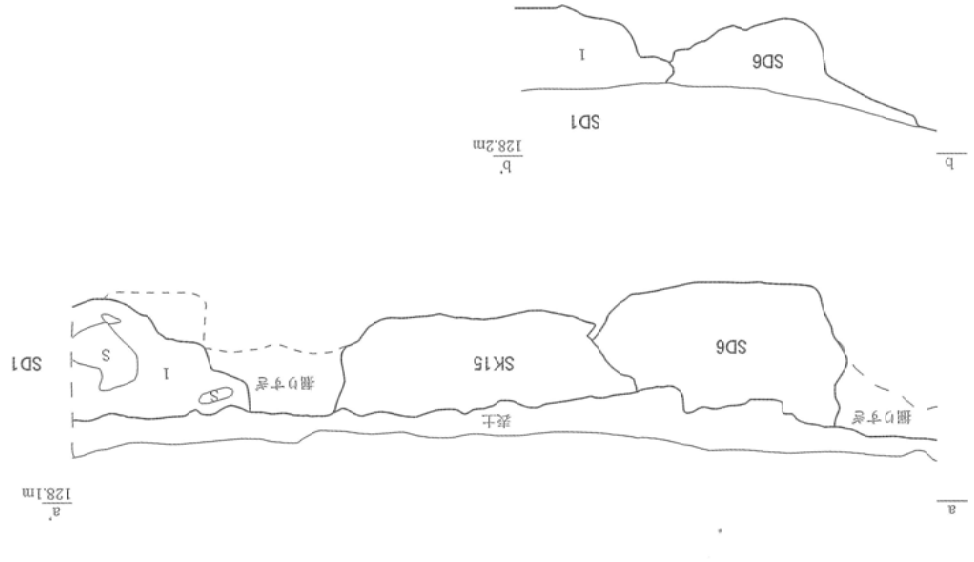


ＦＴＢⅦSE242出土遺物

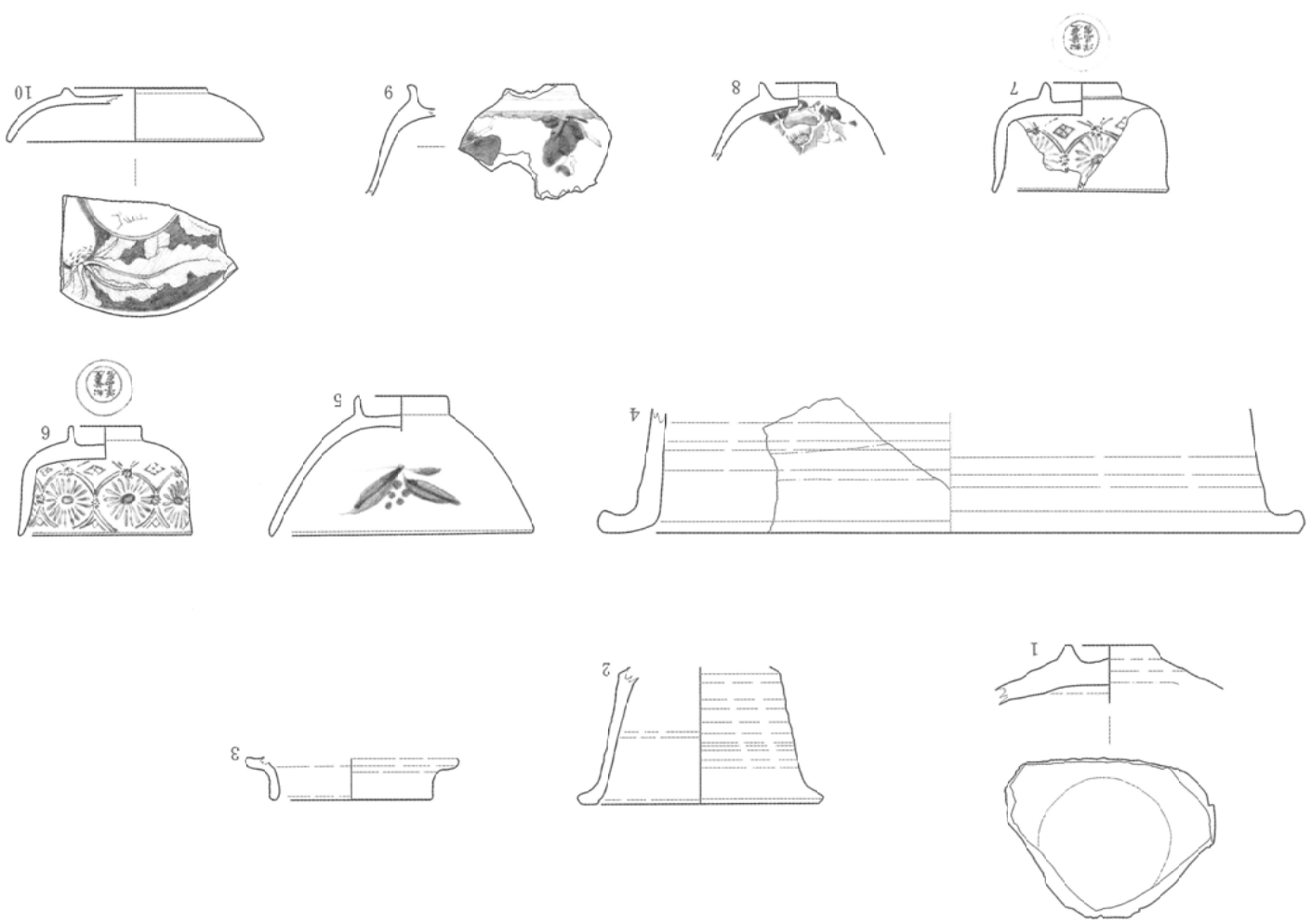
第132図



F T B Ⅶ SD1平面図

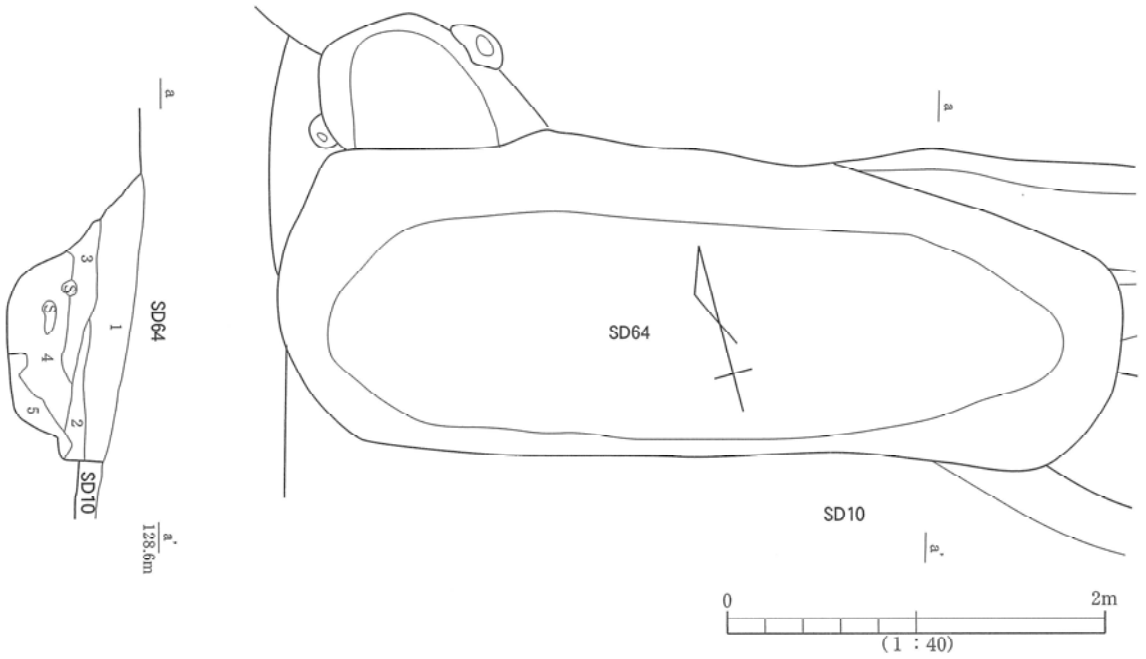


F T B Ⅶ SD1断面図

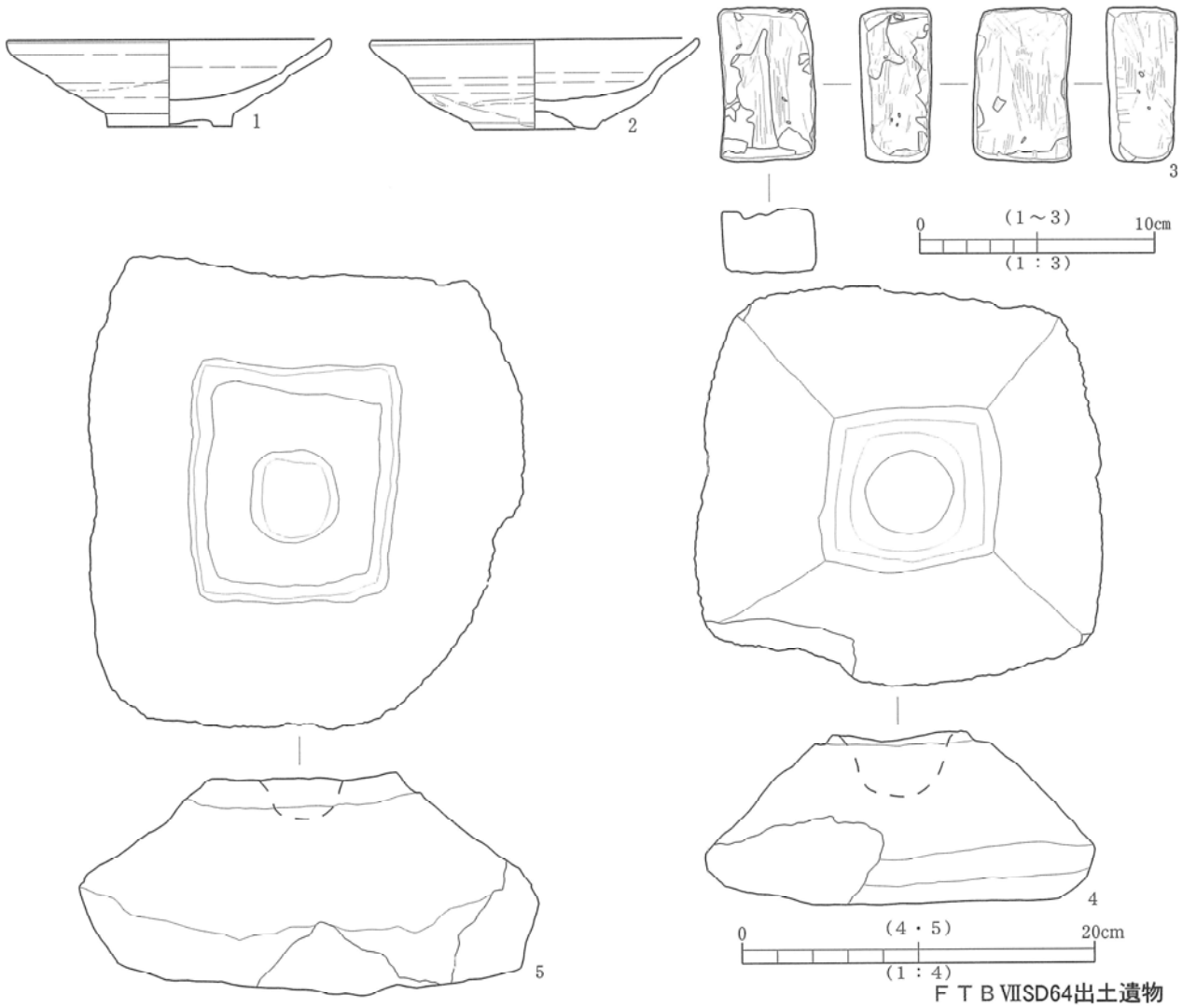


F T B Ⅶ SD1出土遺物

第133図

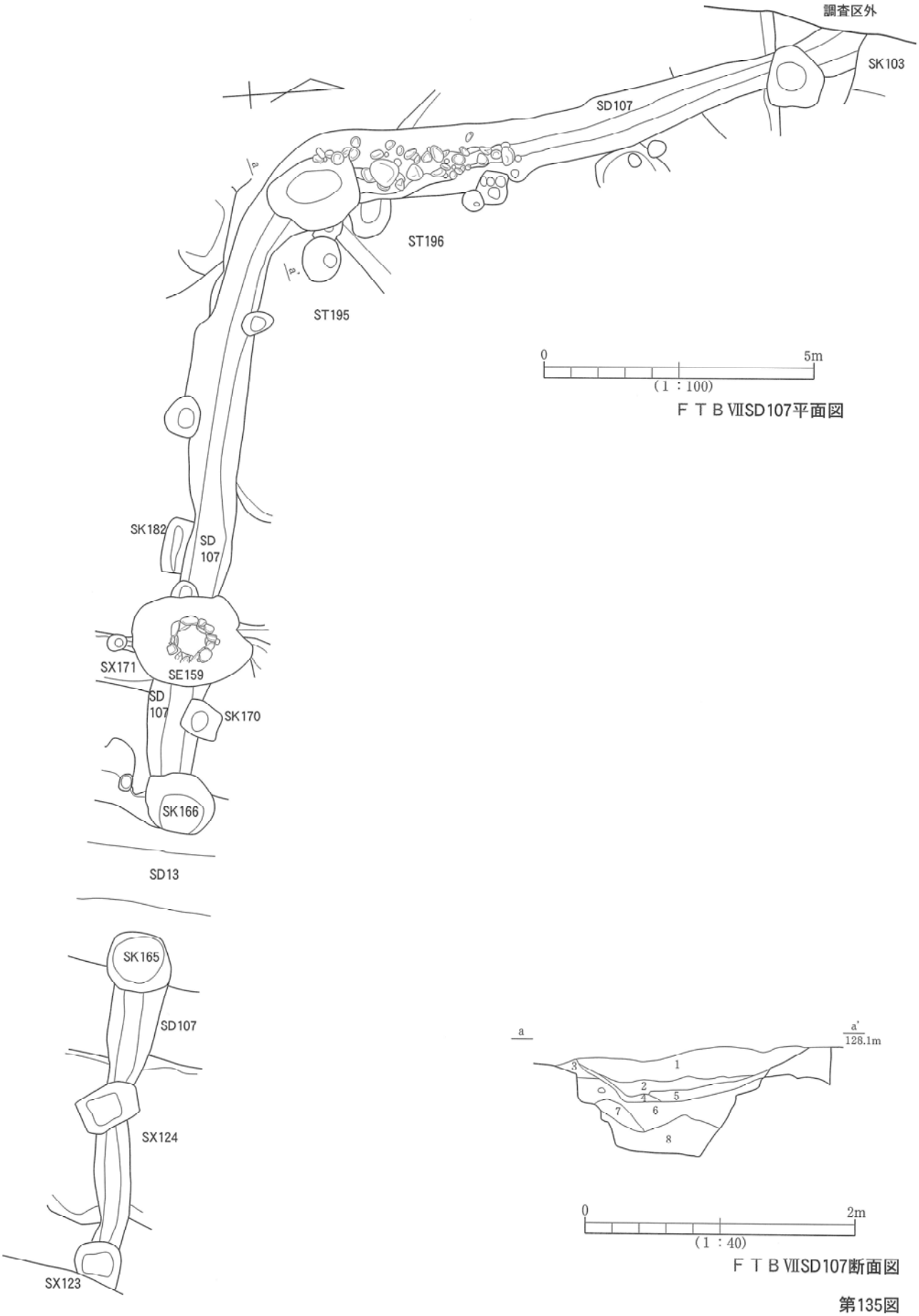


ＦＴＢⅦSD64平面図・断面図



ＦＴＢⅦSD64出土遺物

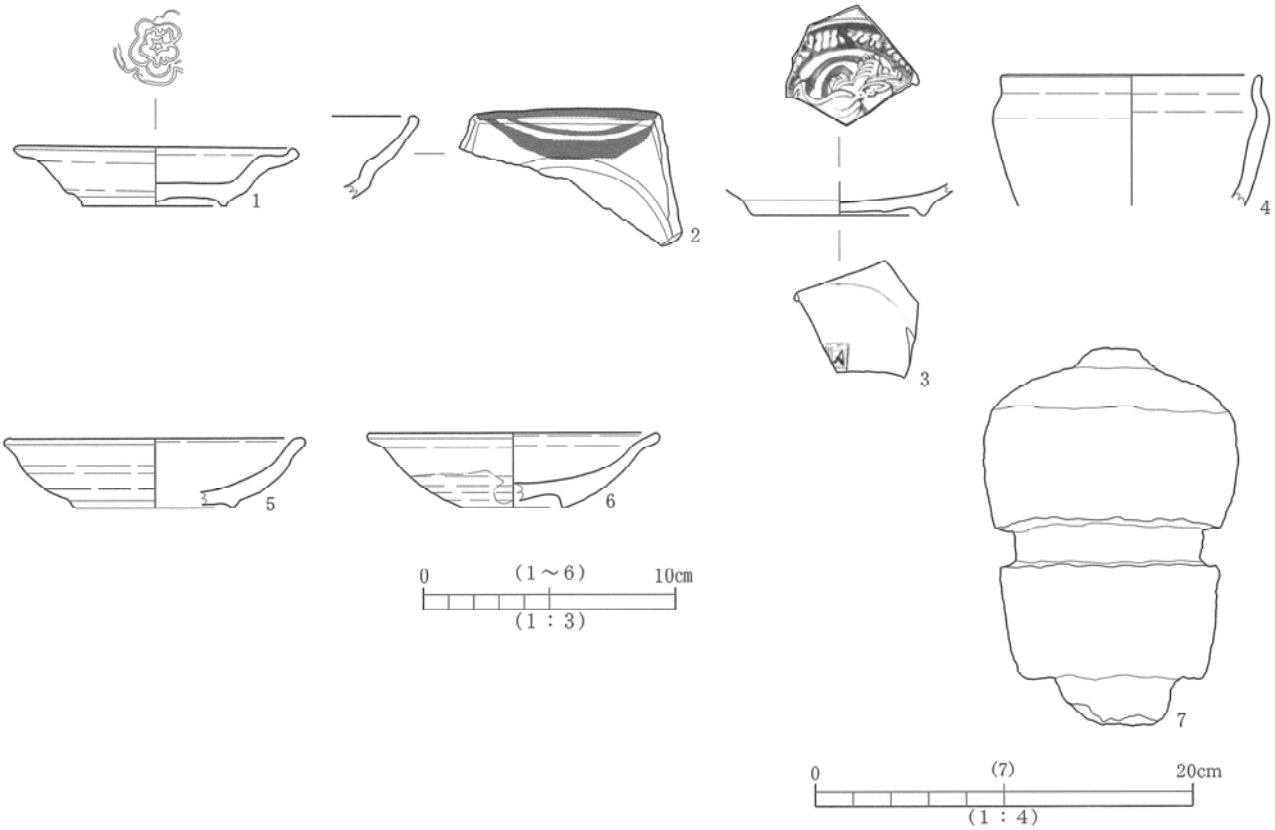
第134図



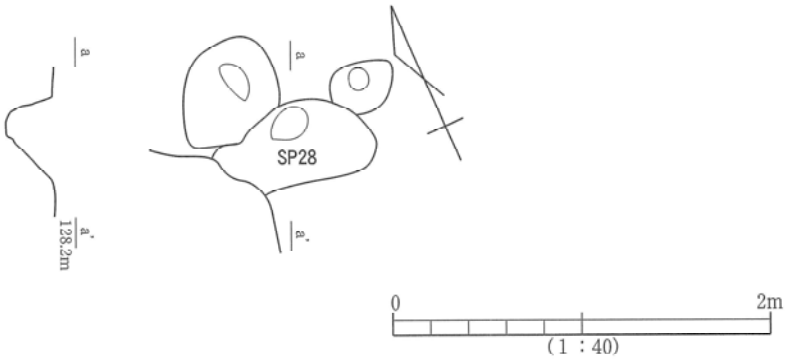
ＦＴＢⅦSD107平面図

ＦＴＢⅦSD107断面図

第135図



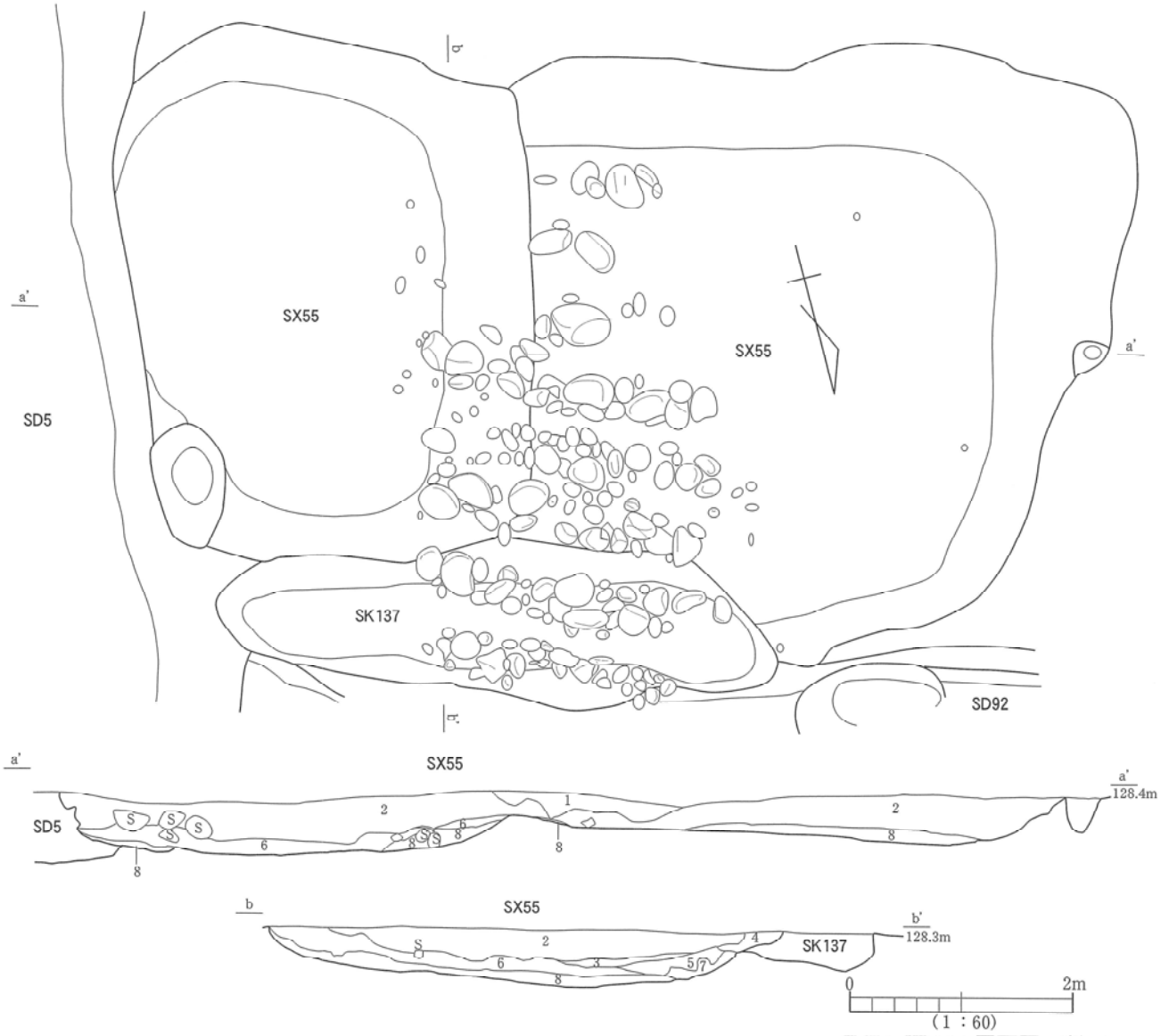
ＦＴＢⅦSD107出土遺物



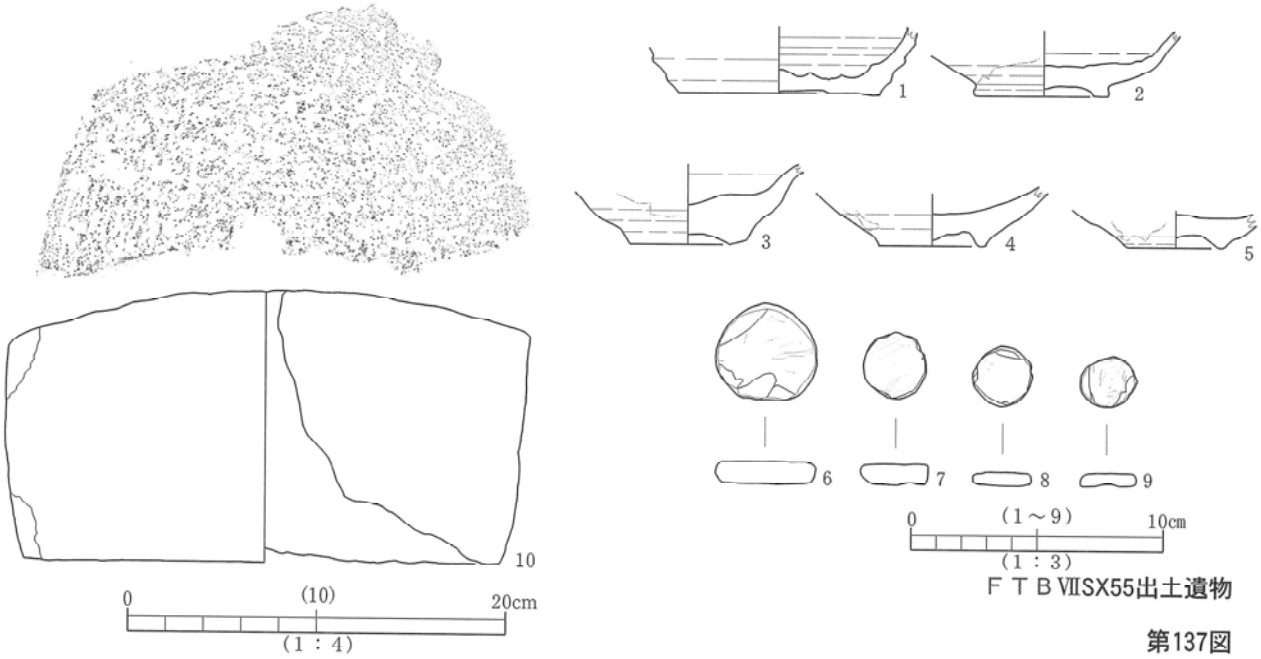
ＦＴＢⅦSP28平面図・断面図

ＦＴＢⅦSP28出土遺物

第136図



ＦＴＢⅦSX55平面図・断面図



ＦＴＢⅦSX55出土遺物

第137図

居住施設については、礎石建物跡のSB322、１棟のみが検出された。その他では建物を組むことはできなかったが、Ｃ－４グリッド～Ｄ－６グリッドやＫ－６グリッドで礎石を有する柱穴が複数検出されており、本来はこれらも礎石建物跡の痕跡を残すものと考えられる。加えて、これら礎石建物跡と考えられる遺構の近辺には対を成す様に瓦廃棄土坑が検出された。SB322あるいはＫ－６グリッドにあったと考えられる礎石建物跡と瓦廃棄土坑であるSK280、同様にＣ－４グリッドからＤ－６グリッドにあったと推定される礎石建物跡と瓦廃棄土坑であるSK158、といった関係が認められる。このことから、おそらくこれらの礎石建物跡は瓦を有する建築物であったと考えられる。

近世から近代にかけての溝と考えられるSD１は、調査区北端で検出され、遺構の大半が調査区外のため全体の形状は判然としないが、石を積み上げて護岸した水路と思われる。近世中期以降の山形城絵図によると、SD１が検出された場所は山形五堰の一部である水路が存在した箇所に相当する。山形五堰は、鳥居氏が藩主の頃に城下町や周辺農地の灌漑・水害防止を目的に作られたものである。現存し旧来からの姿を保つ山形五堰の構造を見ると、溝の両岸に石を積み上げた構造を有する。以上のことから、調査区外にかかる北側面にも同様の石組があるものと思われ、SD１は山形城絵図に記載されている山形五堰の水路の一部と考えられる。

７　第１次調査（ＦＴＢ）（山形城三の丸土塁跡調査部分）

（１）　調査の方法

平成９年度から実施した双葉町遺跡の発掘調査（ＦＴＢ）で、旧地目である東ソー山形工場敷地南端部に、山形城三の丸跡の土塁が存在することが絵図や地形から想定された。しかし発掘調査の実施にあたり、調査期間上の制約から、全面調査でなく部分的にトレンチを入れ、土層断面の観察及び記録をとることとした。

土塁が存在する部分は、東ソー山形工場跡地と周辺敷地との境界を示すコンクリートのブロック塀が設置され、その内側が植樹帯となっていた。重機でブロック塀や植樹帯及び産業廃棄物である鉱滓を撤去した後、トレンチを任意で４箇所に設定した。土層断面はトレンチの西側で観察し、記録を作成した。

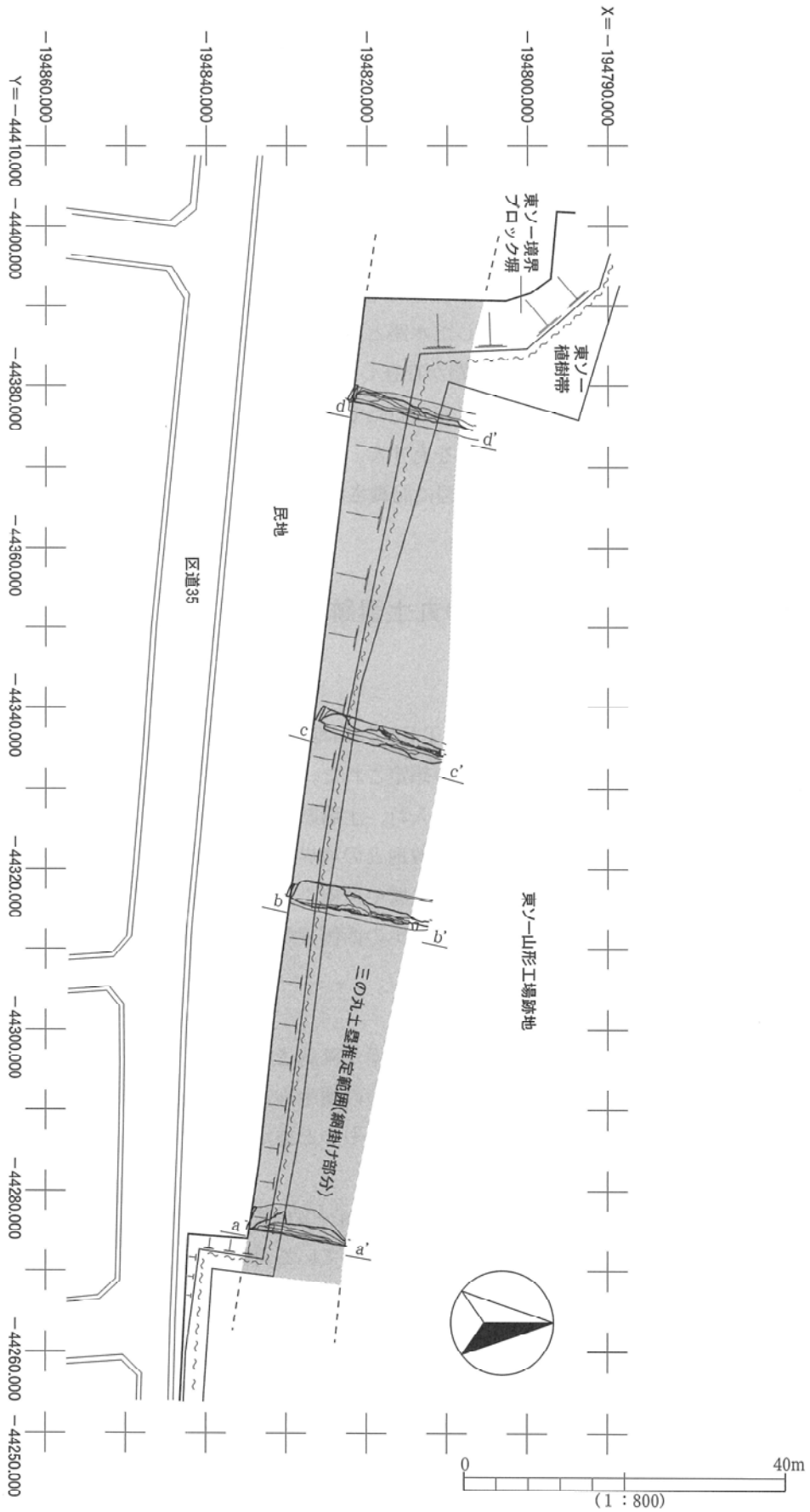
（２）　調査の成果（第138～140図：図版63・64）

設定したトレンチ４ヶ所のすべてで土塁と推測し得る断面が確認された。

全体的な傾向として、地山に由来すると推定される褐色の砂礫や砂質土が交互に堆積している状況が把握できた。三の丸の堀を掘った際の土砂を土塁築造に利用したものと推定されるため、土塁の本体に地山由来の堆積土が検出されたと考えられる。

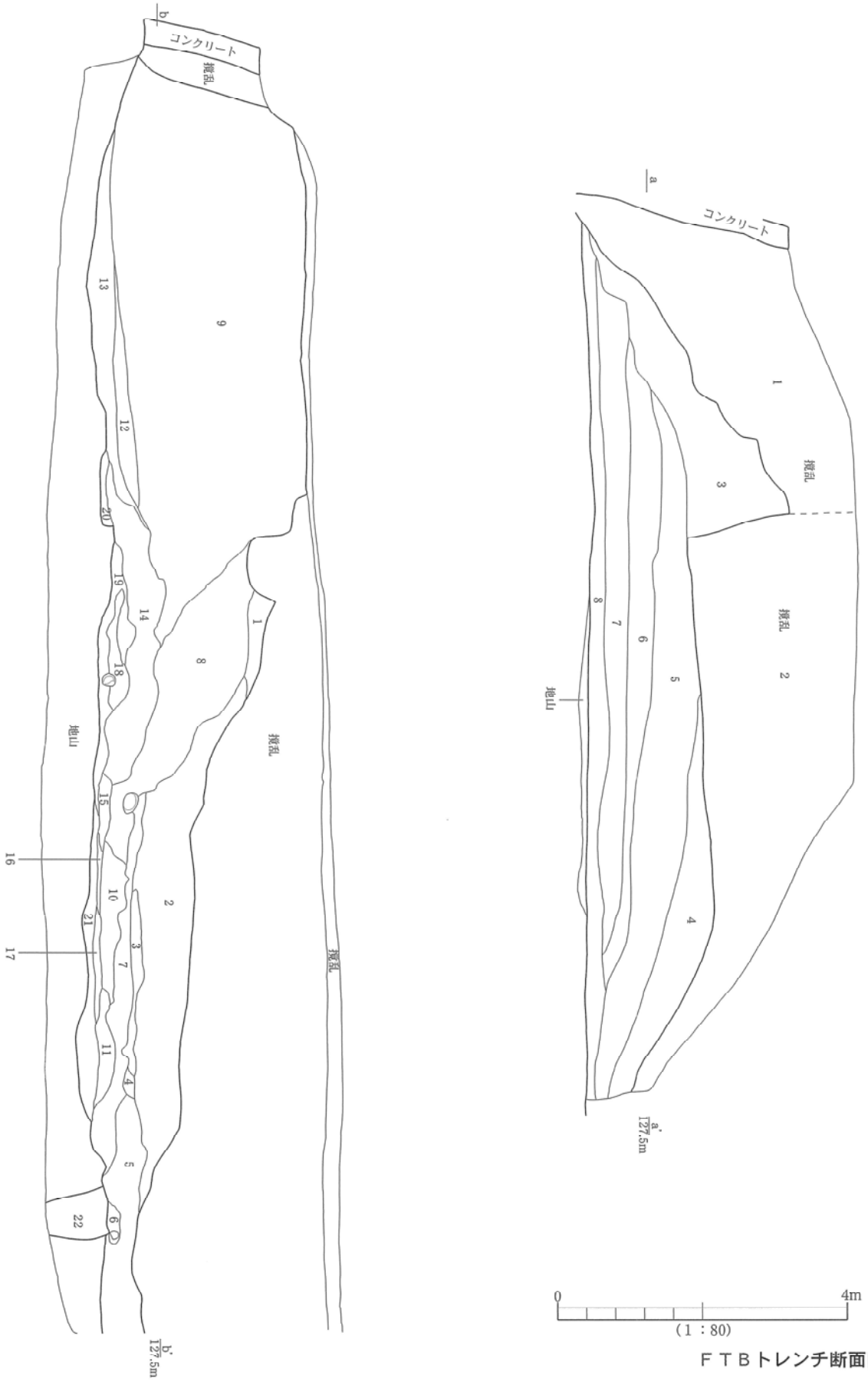
土塁の規模は、幅が12m～16.5m、地山面からの高さが1.6m～３mである。ただし、南側が設置されているブロック塀によって壊されており、また土塁上部も削平されている可能性が高いので、本来はこれ以上の規模であったものと考えられる。

土塁表面に堆積していた旧表土はほとんどの箇所で検出できなかったが、c－c'トレンチでは、16層に礫の集積が検出され、これが土留めの施設とも考えられたので、この層が旧表土である可能性がある。しかし、２～５層も堆積状況から土塁の一部を構成する層位と捉えられたので、16層が旧表土の一部だとすると、２つの時期が存在することになるが、判然としない。ただ、c－c'トレンチの以外で旧表土は確認できなかったので、後世に土塁表面は削平されている可能性が高い。近代以降、土塁を崩して堀を埋め立てていると考えられる。



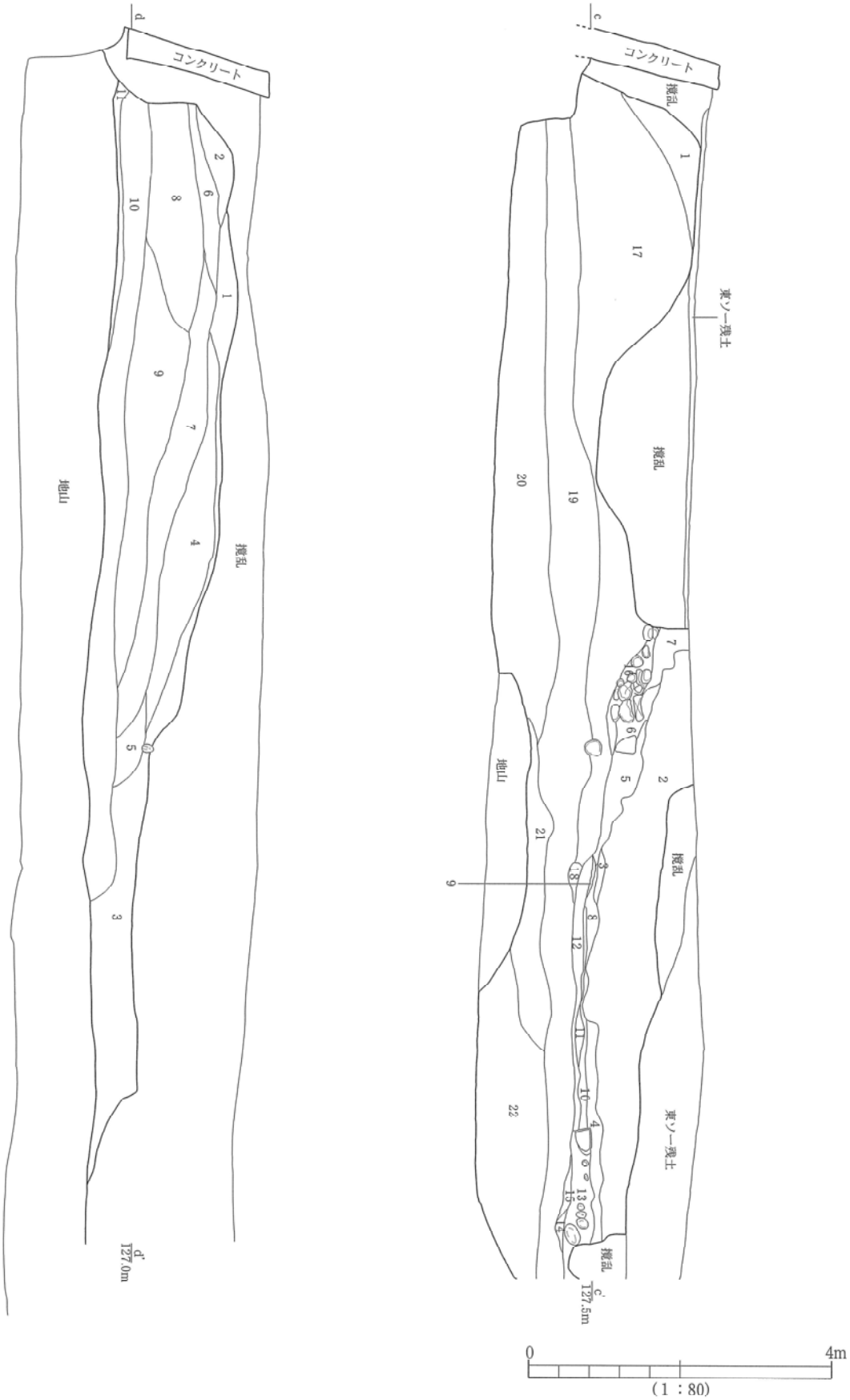
ＦＴＢ土塁調査区概要図

第138図



ＦＴＢトレンチ断面図(1)

第139図



ＦＴＢトレンチ断面図(2)

第140図

Ⅳ　城南町遺跡

1　第１次調査（ＪＯＮ）

（1）　遺構と遺物の分布

本調査区は、標高約131mを測る。基本層序の観察、記録は行わなかった。グリッド杭は、７m間隔で設定した。

遺構・遺物の検出面は、１面のみである。検出された遺構は、土坑跡８基・溝跡２条・ピット数基が検出された。遺構の時期は、SK06のみ近世初頭に属すると判断したが、時期不明の遺構が大半であった。

（2）　検出された遺構と遺物

① 近世

ＪＯＮSK06（第142図：図版65・66）

特　　徴　平面形態はやや崩れた隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる浅い土坑である。土層中に焼土や炭化物を多く含む層があったので、火災後の処理土坑の可能性がある。

しかし、調査区が狭小のため、同様の痕跡が他の遺構には認められず、詳細は不明である。

出土遺物　龍泉窯系青磁碗（１）、景徳鎮系磁器皿（２～４）、漳州窯系磁器碗（５）、瀬戸美濃系陶器青織部向付（６、９）・皿（７、８）、肥前系陶器皿（10）・瓶（11）、越前甕などが出土した。

時　　期　龍泉窯系青磁など一部生産年代の古い遺物が含まれるが、景徳鎮系磁器が16世紀末～17世紀初頭に属し、瀬戸美濃系陶器が大窯第４段階から第５段階であるので、16世紀末～17世紀初頭であると考えられる。

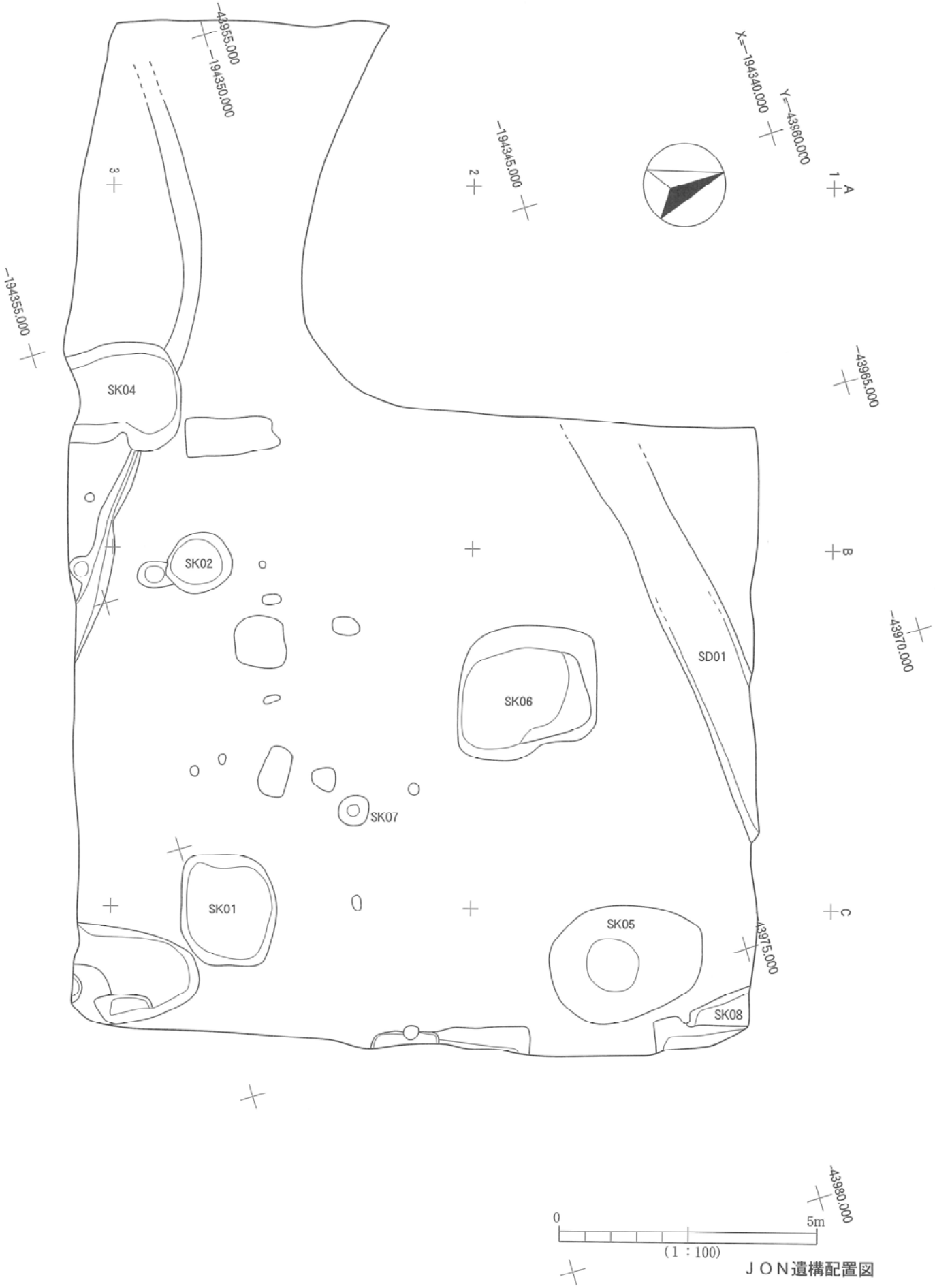
（3）　小結

時期がはっきりし、遺物がまとまって出土した遺構はSK06のみである。他の検出された遺構は、土師器や須恵器の小破片などが出土しているのみで、それらから８世紀～９世紀以降の埋没年代が与えられるが、詳細は不明である。

2　第３次調査（ＪＯＮⅢ）

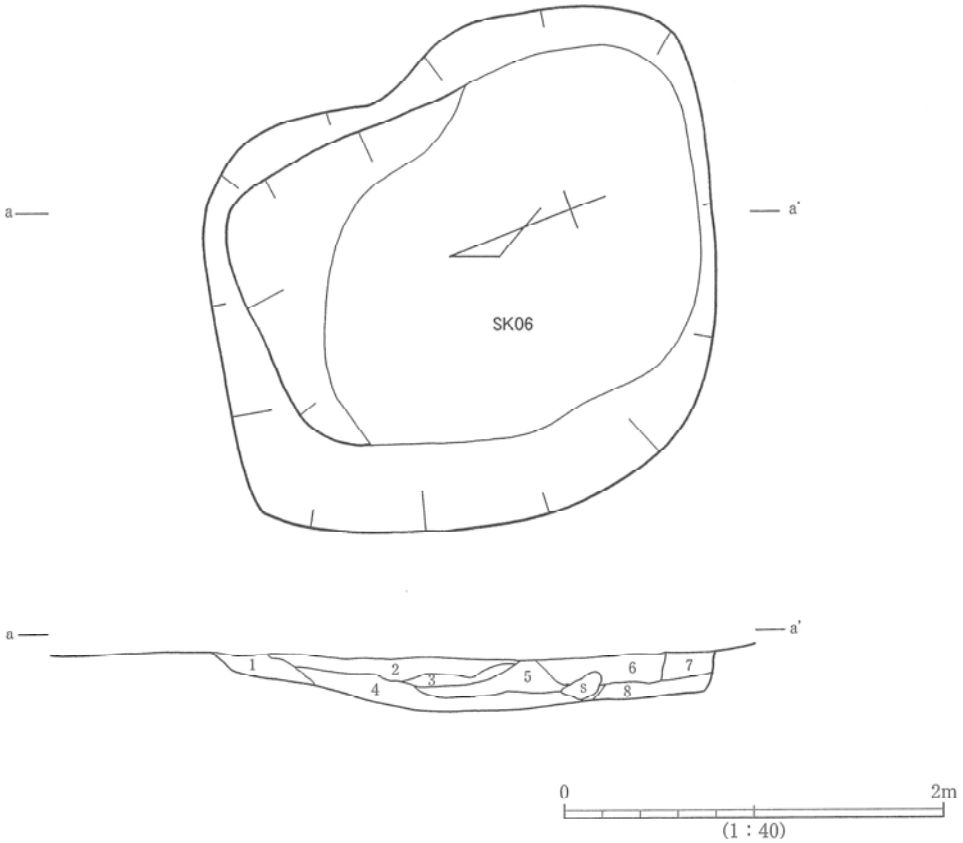
（1）　遺跡の層序

本調査区は、標高で128m～129mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。基本層序は、１区の北壁の西側で観察した（第144図）。土層は、おおむね水平に堆積している。Ⅰ層は現代の整地層で、Ⅱ層は近代以降の堆積土である。近代練兵場の塹壕と思われる溝は、一部この層を切っている。Ⅲa層及びⅢb層は近世から近代にかけて堆積したものと思われる。Ⅳ層～Ⅵ層は地山で均質であり、出土遺物はない。

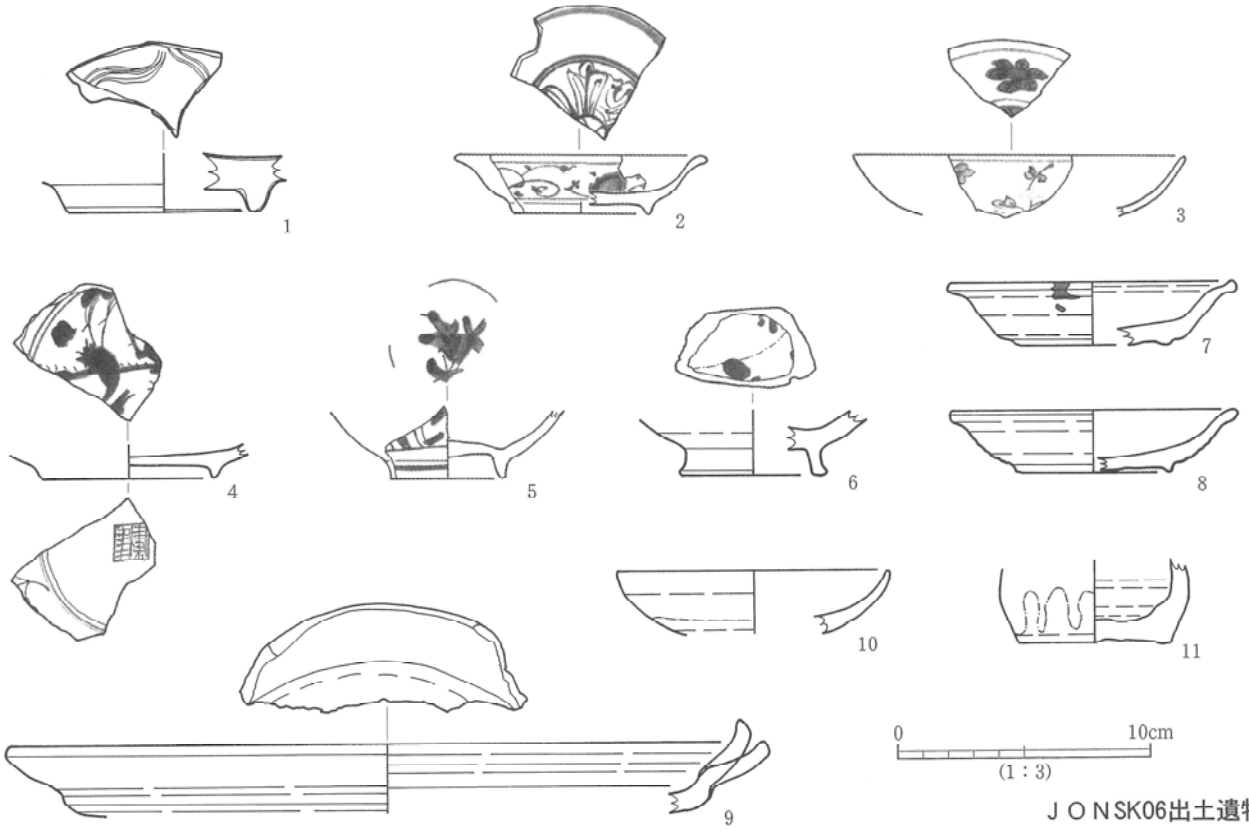


ＪＯＮ遺構配置図

第141図



ＪＯＮSK06平面図・断面図



ＪＯＮSK06出土遺物

第142図

（2）　遺構と遺物の分布

遺構の検出面は１面のみである。遺構・遺物は、近世～近代のものが検出された。検出されたのは、竪穴住居跡１棟、土坑28基、井戸跡が１基、溝跡が15条、ピット104基、性格不明遺構４基が検出された。このうちSD２やSD113などの溝跡は近代以降の遺構である。ほかは、竪穴住居跡１棟は古代、それ以外はほぼ近世に帰属する。

（3）　検出された遺構と遺物

①　奈良・平安時代

ＪＯＮⅢST122（第145図：図版68・71）

特　　徴　南側が調査区外にかかる。北カマドで、ソデはシルトで構築されているのが確認された。地山を直接床面としている。

出土遺物　須恵器坏（1）、土師器甕（2）が出土した。

時　　期　須恵器坏（1）が、静止糸切りで口径に比して底径が大きいタイプであることから、８世紀後半～９世紀初頭であると考えられる。

②　近世

ＪＯＮⅢSK133（第146図：図版69・71）

特　　徴　やや崩れた隅丸方形を呈し、底面はやや丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器青織部向付（1）の１点のみ出土した。

時　　期　（1）は瀬戸美濃登窯第１小期に属することから、17世紀前半であると考えられる。

ＪＯＮⅢSK136（第146図：図版69・71）

特　　徴　北側が調査区外にかかり、土坑の約半分ほどしか検出できなかった。SX144を切る。ほぼ円形を呈し、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。２層～４層で多量の礫が検出された。

出土遺物　肥前系陶器皿（1）、産地不明陶器灯明皿（2）、ロクロかわらけなどが出土した。産地不明の陶磁器が多く出土した。

時　　期　肥前系陶器皿（1）は刷毛目が施され、生産年代は17世紀後半～18世紀前半だが、他の産地不明陶磁器でこれより年代が下ると思われる陶磁器が出土しており、詳細は不明である。

ＪＯＮⅢSK140（第146図：図版69・71）

特　　徴　円形を呈し、底面は平坦で壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器天目茶碗（1）、景徳鎮系磁器、肥前系陶器皿などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿に目跡が砂目の製品であるので、17世紀前半～半ばであると考えられる。

ＪＯＮⅢSP141（第146図：図版69・71）

特　　徴　北側が調査区外にかかり、土坑の約半分ほどしか検出できなかった。SK136を切る。円形を呈し、底面は狭く丸みを帯び壁面は急に立ちあがる。

出土遺物　肥前系陶器擂鉢（1）、黒瓦丸瓦（2）・軒丸瓦（3）、肥前系磁器、ロクロかわらけが出土した。

時　　期　SK136を切るので、17世紀後半以降であるが詳細は不明である。

ＪＯＮⅢSX142（第146図：図版69・71・72）

特　　徴　南北に長い隅丸方形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物　景徳鎮系磁器皿（１、２）、瀬戸美濃系陶器皿（３）、肥前系磁器皿（４）・碗（７、８）・小坏（９、10）・蓋(11)・壺(12)、肥前系陶器碗（５、６）、ロクロかわらけ(14)、焼塩壷(15)、砥石(16)、硯(17)、黒瓦などが出土した。図化していないが、小破片の黒瓦が多数出土した。

時　　期　出土遺物の生産時期に16世紀後半～17世紀半ばと幅がある。

ＪＯＮⅢSX144（第146図：図版69・72）

特　　徴　西側が撹乱に切られ、北側が調査区外にかかる。隅丸方形を呈し、１・２層ともに径５～40cmほどの礫を多く含む。

出土遺物　肥前系陶器皿（１）・擂鉢（５）、肥前系磁器碗（２）・瓶（３）、産地不明陶器小坏（４）、ロクロかわらけ（６）、黒瓦などが出土した。

時　　期　高台断面三角形の肥前系磁器碗（２）が出土しており、17世紀半ばであると考えられる。

ＪＯＮⅢSE10（第150図）

特　　徴　石組の井戸である。北側が調査区外にかかり、石組はやや崩れた状態で検出された。

出土遺物　肥前系磁器の小破片の１点のみ出土した。器種などは不明である。

時　　期　肥前系磁器が出土しているので、17世紀半ば以降であるが、詳細は不明である。

ＪＯＮⅢSD95（第150図：図版70・72）

特　　徴　南北に直線的に走る溝である。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　龍泉窯系青磁碗（１）、肥前系陶器碗（２）、円盤状石製品（３）などが出土した。

時　　期　肥前系陶器（１）から、17世紀前半であると考えられる。

ＪＯＮⅢSD120（第151図：図版70・72）

特　　徴　北西から南東にかけて直線的に走る溝である。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　肥前系陶器碗（１）、ロクロかわらけ（２、３）、瀬戸美濃系陶器などが出土した。

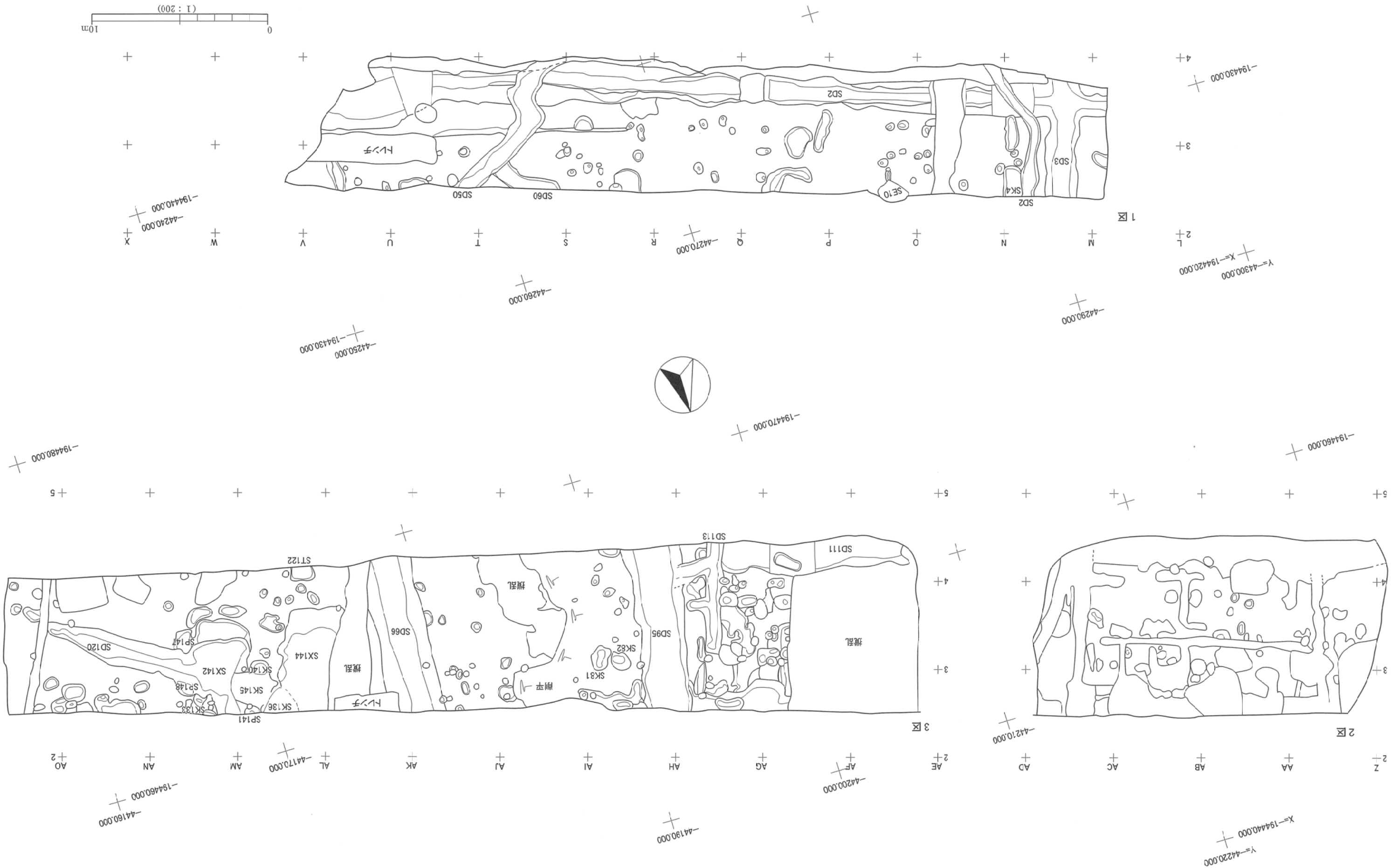
時　　期　肥前系陶器碗（１）は砂目の製品であるので、17世紀前半～半ばであると考えられる。

（４）　小結

遺構は、２区は近現代の塹壕や水道管などによる撹乱が非常に多い。

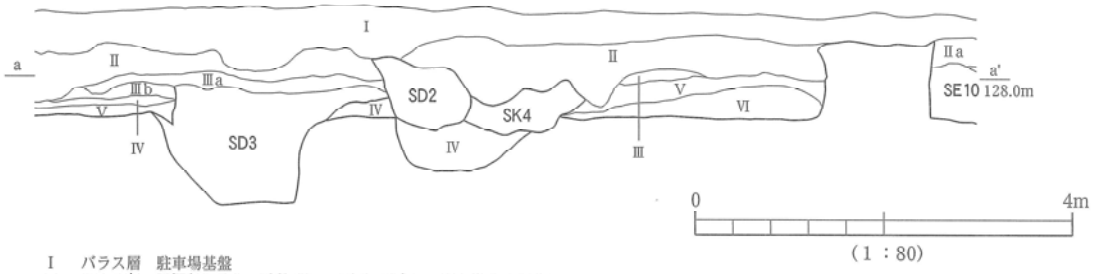
古代の遺構は、３区の竪穴住居跡１棟のみである。

近世の遺構は１区と３区に多く分布する。特にAK－２～AM－３に分布する遺構からは、近世に帰属する遺物が多数出土している。建物の柱穴と思われるピットは多く検出されたが、建物を構成するに至らなかった。

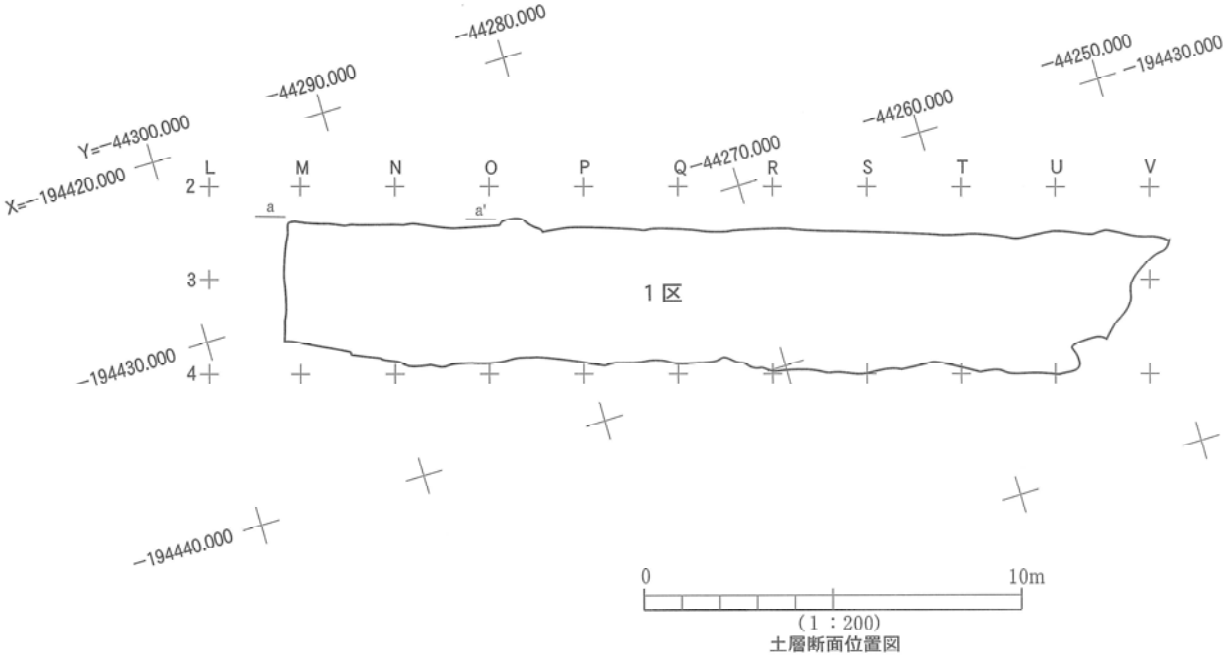


JONⅢ遺構配置図

第143図



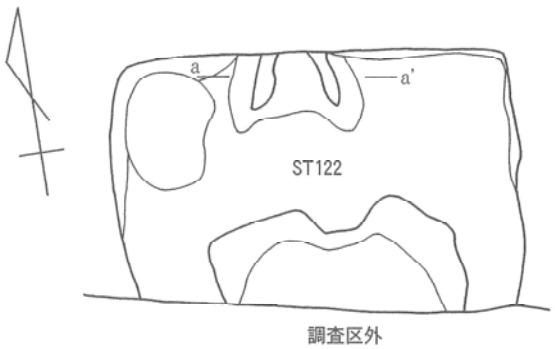
Ⅰ　バラス層　駐車場基盤
Ⅱ　10YR3/2　黒褐色シルト　礫(径10～50?)を5％含む、炭化物を１％含む
Ⅲa　10YR2/2　黒褐色シルト　灰黄褐色砂をわずかに含む、鉄分含む、炭化物含む
Ⅲb　10YR2/2　黒褐色シルト　灰黄褐色砂をブロック状に20％含む、鉄分含む
Ⅳ　10YR1.7/1 黒色粘土　均質
Ⅴ　10YR6/2　灰黄褐色シルト　均質
Ⅵ　10YR6/2　灰黄褐色砂　ほぼ均質、鉄分わずかに含む

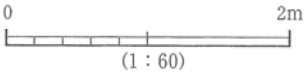


土層断面位置図

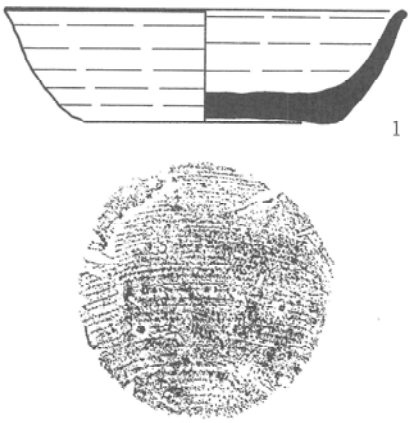
ＪＯＮⅢ基本層序

第144図



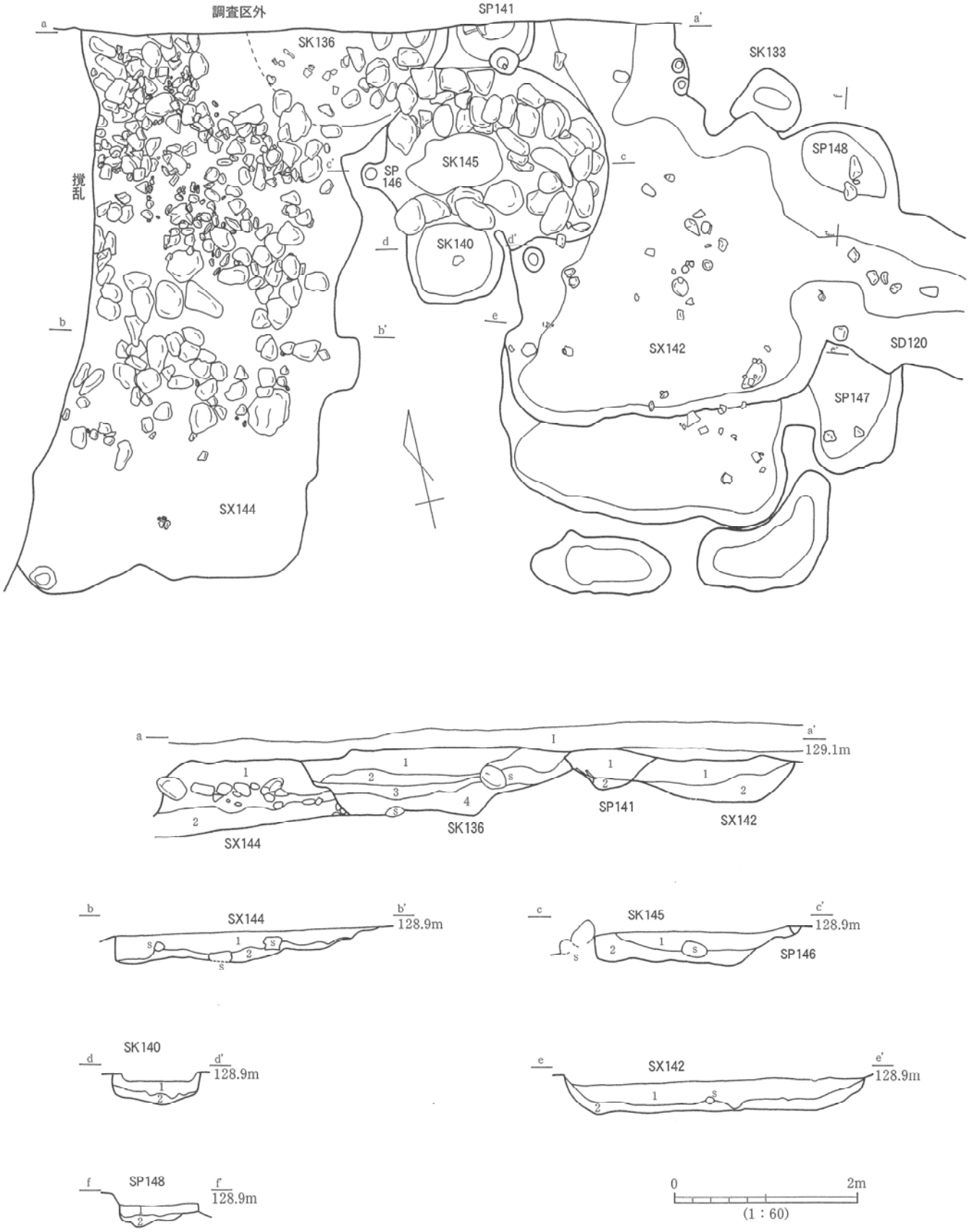


ＪＯＮⅢST122 平面図・断面図



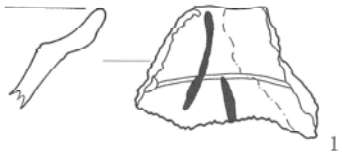
ＪＯＮⅢST122 出土遺物

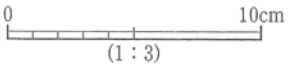
第145図



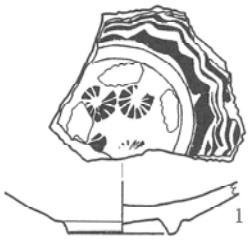
ＪＯＮⅢSK133・SK136・SK140・SP141・SX142・SX144平面図・断面図

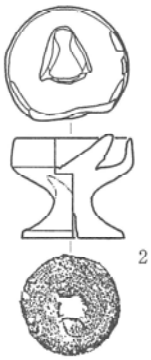
第146図

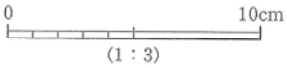




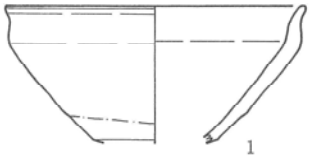
ＪＯＮⅢSK133出土遺物

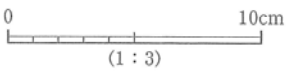




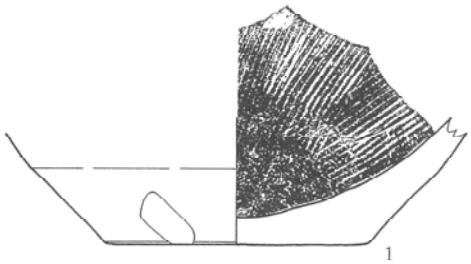


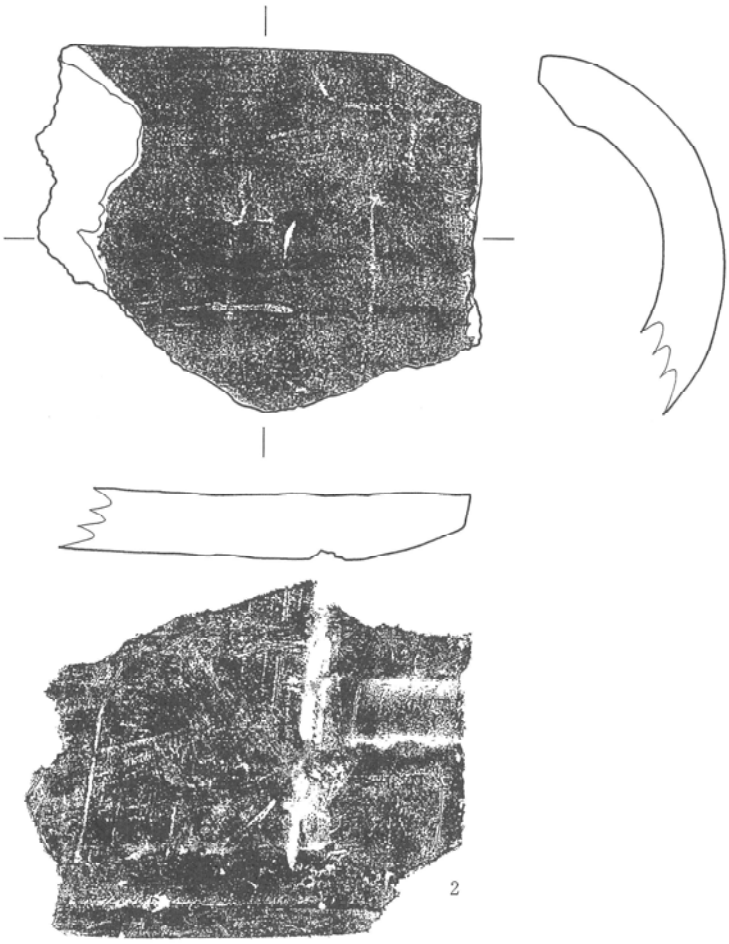
ＪＯＮⅢSK136出土遺物

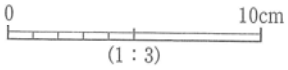




ＪＯＮⅢSK140出土遺物

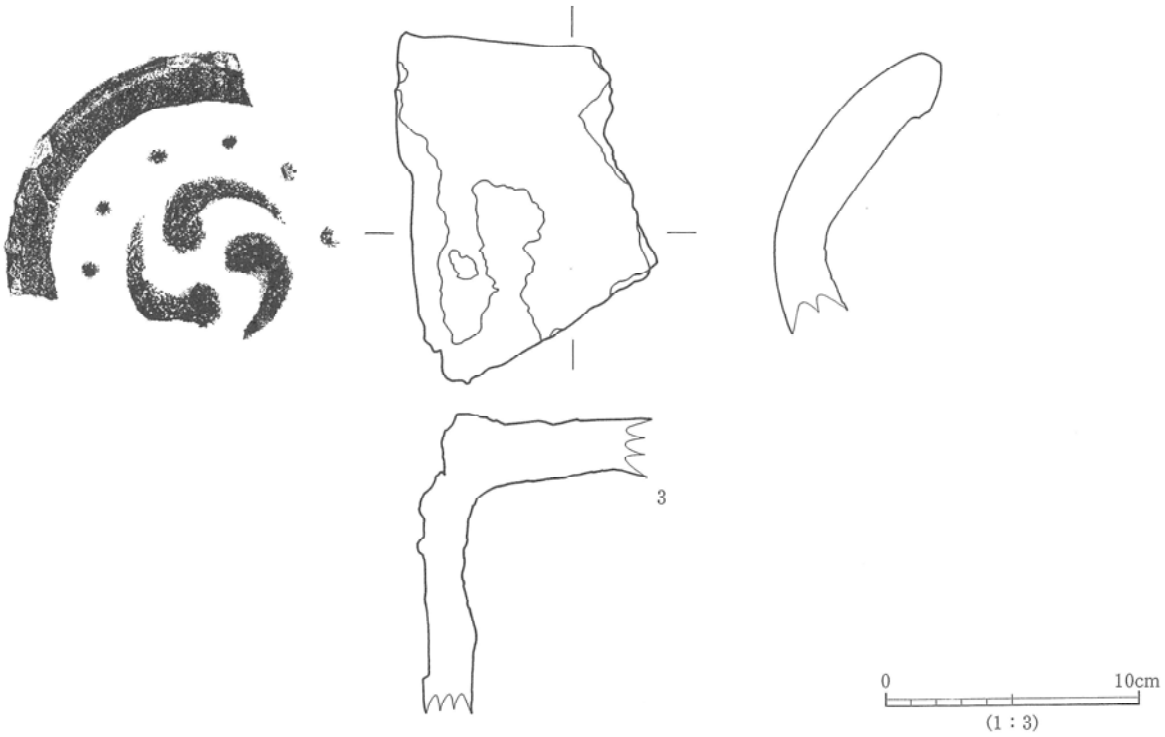




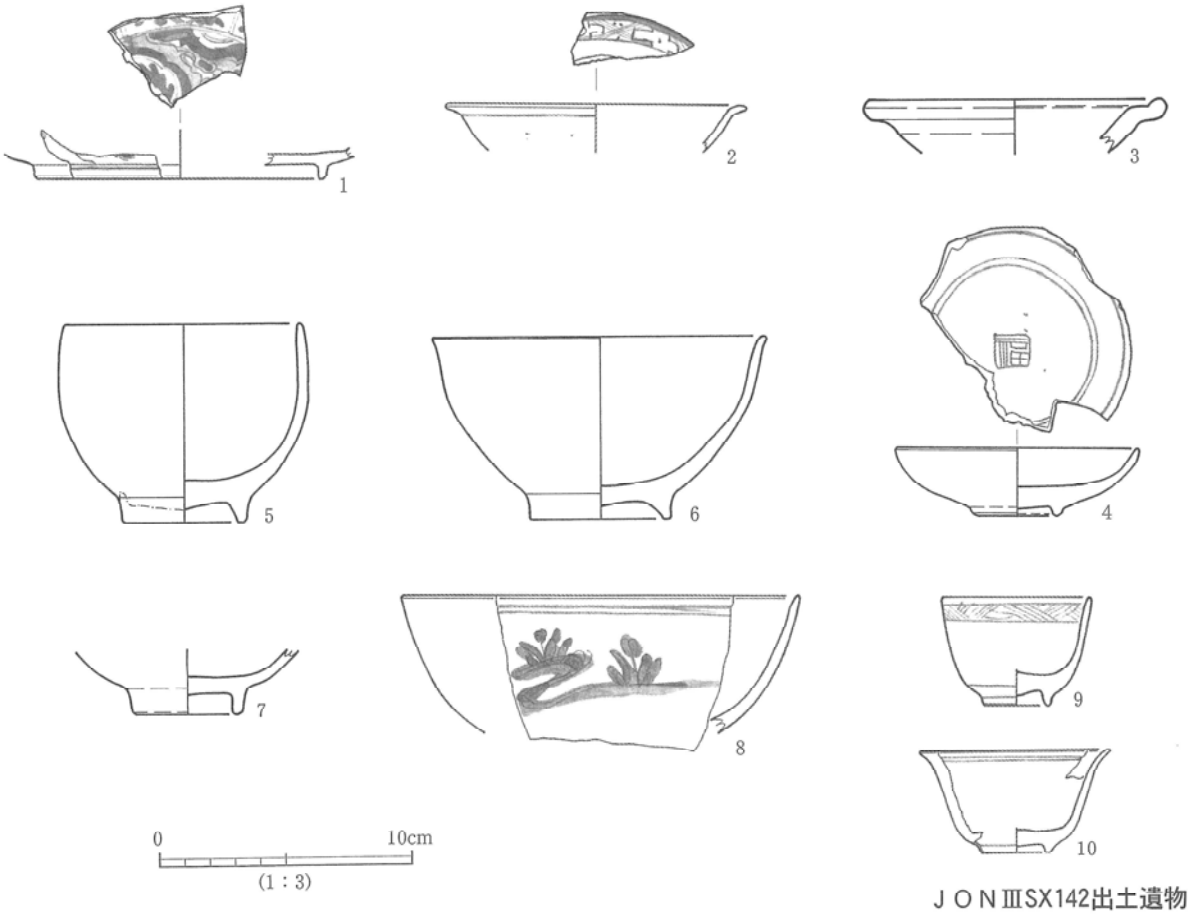


ＪＯＮⅢSP141出土遺物(1)

第147図

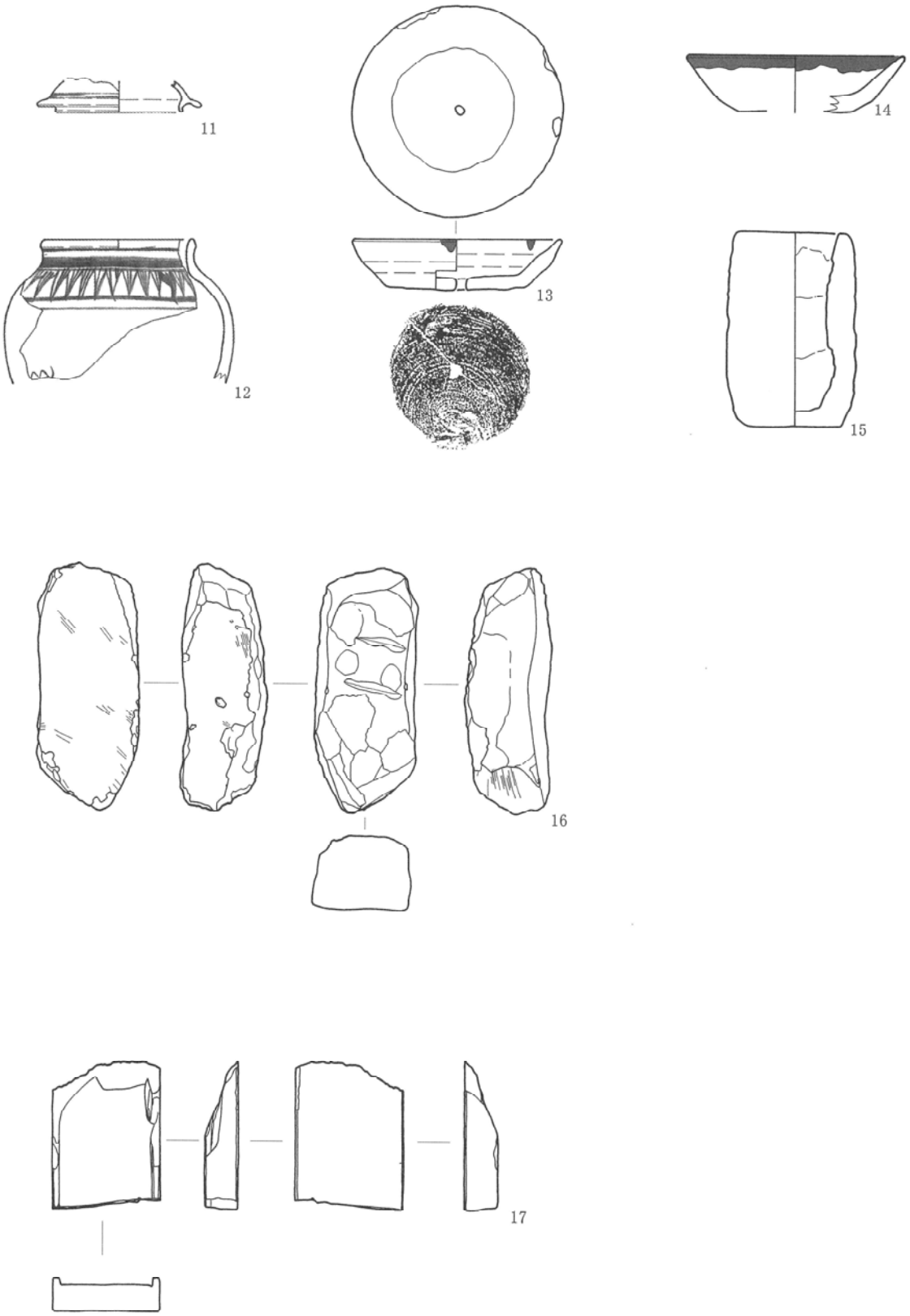


ＪＯＮⅢSP141出土遺物(2)



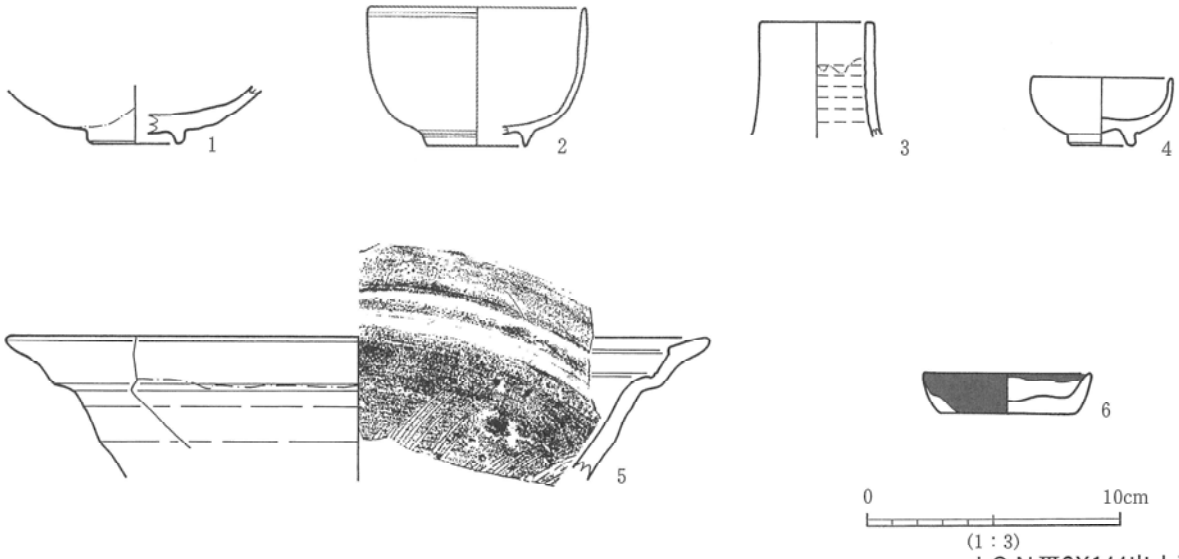
ＪＯＮⅢSX142出土遺物(1)

第148図

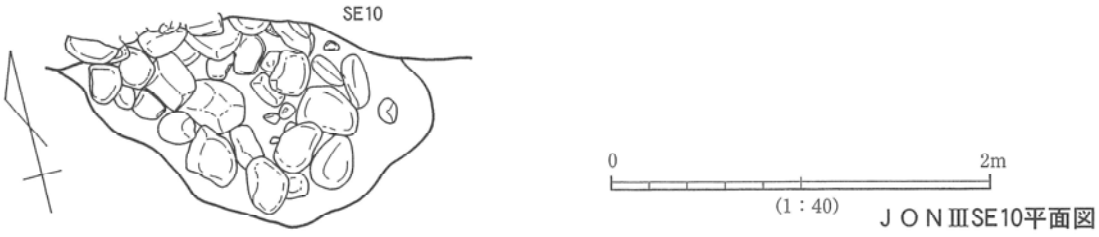


ＪＯＮⅢSX142出土遺物(2)

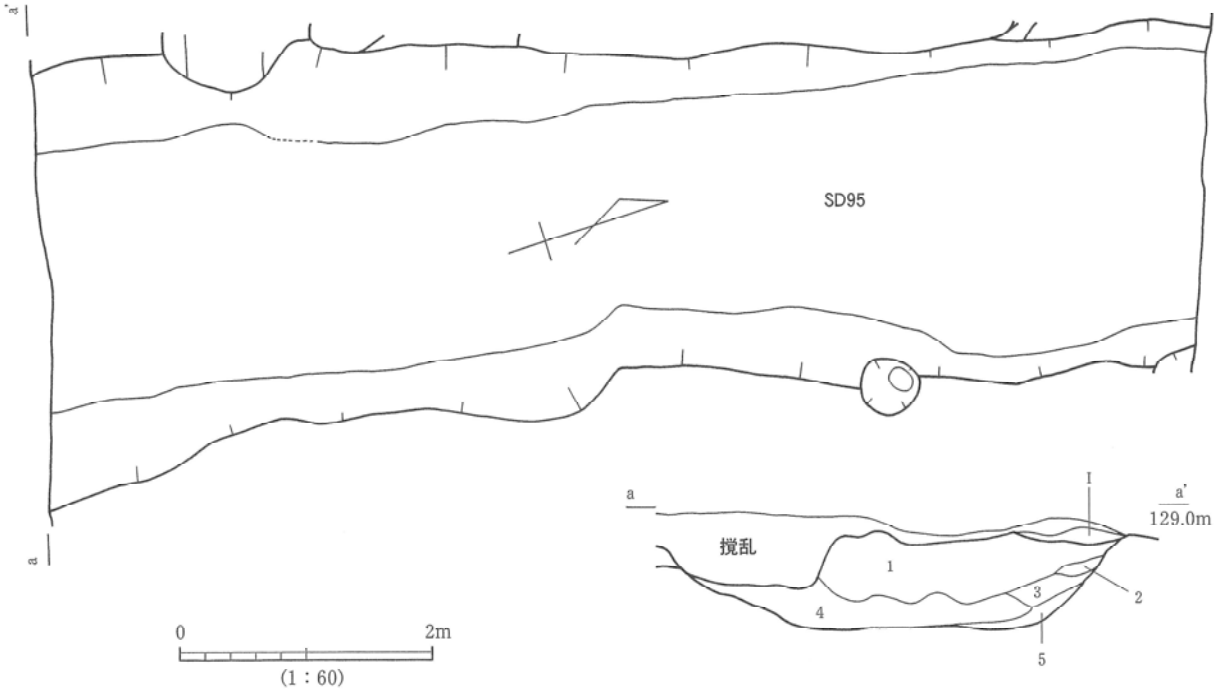
第149図



ＪＯＮⅢSX144出土遺物

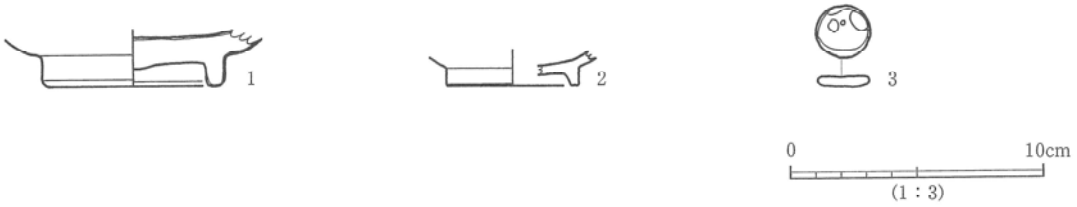


ＪＯＮⅢSE10平面図

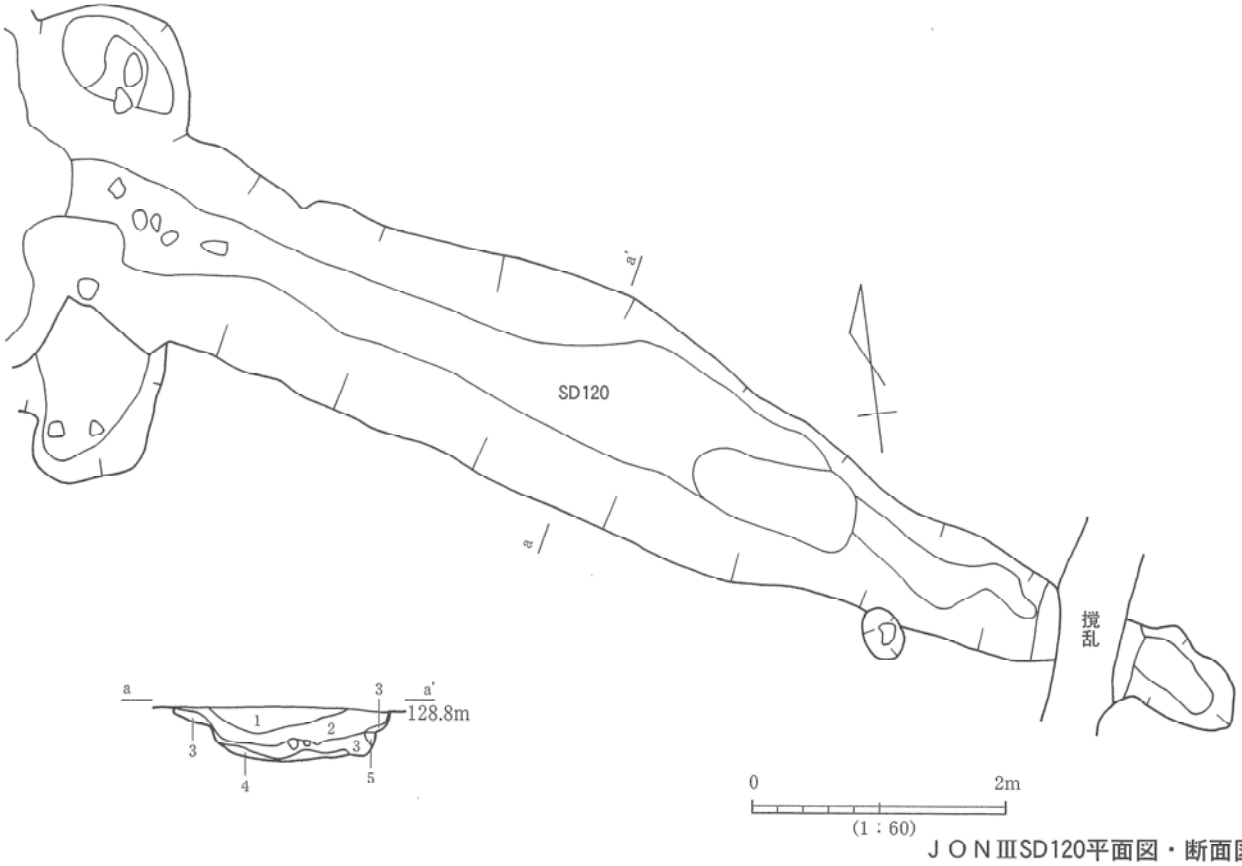


ＪＯＮⅢSD95平面図・断面図

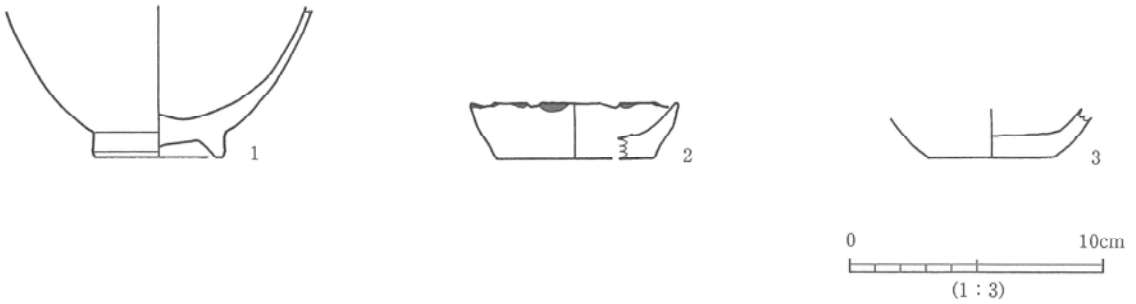
第150図



ＪＯＮⅢSD95出土遺物



ＪＯＮⅢSD120平面図・断面図



ＪＯＮⅢSD120出土遺物

第151図

3　第４次調査（ＪＯＮⅣ）

（１）　遺跡の層序

本調査区は、標高約129mを測る。基本層序は、調査区の西壁の南側で観察した。

土層は、概ね水平に堆積している。調査以前は国鉄アパート敷地であったため、Ⅰ層は、撹乱層である。Ⅱ層～Ⅲ層は、近代以降の堆積土であると考えられる。

（２）　遺構と遺物の分布

遺構・遺物の検出面は、１面のみである。古代から近代にかけての遺構が検出された。竪穴住居跡５棟、土坑19基、井戸跡が４基、溝跡が13条、ピット26基、掘立柱建物跡１棟、性格不明遺構10基が検出された。全体的に、国鉄アパート基礎と思われる３ヶ所（Ａ－１～Ｂ－３及びＡ－７～Ｂ－９、Ａ－13～Ｂ－16グリッド）が大きく撹乱されていたが、その他は遺構の残存状況は良好であった。

古代の遺構は竪穴住居跡５棟でＡ－５～Ｃ－７グリッドに４棟が集中し、Ａ－16グリッドに１棟が他と離れて検出されている。中世の遺構は溝跡SD33の１条のみ検出された。近世の遺構は、土坑、井戸、ピット、溝、性格不明遺構など多岐に渡り、調査区全体に分布している。

（３）　検出された遺構と遺物

①　古墳時代～奈良・平安時代

ＪＯＮⅣST20（第154図：図版73・74）

特　　徴　北カマドで、かすかにソデのみ検出された。シルトで構築されるのが確認できた。

出土遺物　土師器坏・甕などが出土した。すべて小破片で、ほとんど接合しなかった。

時　　期　不明である。

ＪＯＮⅣST39（第155図：図版73・74）

特　　徴　南から東側を撹乱に切られる。北カマドで、東側のソデのみ検出され粘土で構築されているのが確認された。６層上面を床面としている。

出土遺物　土師器甕が出土した。すべて小破片で、ほとんど接合しなかった。

時　　期　不明である。

ＪＯＮⅣST42（第155図：図版73・74）

特　　徴　東側をST43に、南側を撹乱に切られ、ごくわずかの範囲しか検出されなかった。

出土遺物　土師器甕が出土した。すべて小破片で、ほとんど接合しなかった。

時　　期　ST43に切られるので８世紀後半～９世紀前半より以前であるが、詳細は不明である。

ＪＯＮⅣST43（第155図：図版73・74・77）

特　　徴　東側が調査区外にかかる。SK70は竪穴に伴う遺構だが、出土遺物はなく、性格は不明である。

出土遺物　須恵器有台坏（１）・坏（２）、土師器甕（３）などが出土した。

時　　期　須恵器有台坏（１）の形状などから、８世紀後半～９世紀前半であると考えられる。

ＪＯＮⅣST73（第156図）

特　　徴　検出面からの深さは浅く、残存状況は悪い。周溝が北壁と西壁の一部で検出された。

出土遺物　なし。

時　　期　不明である。

②　近世

ＪＯＮⅣSK34（第157図：図版74・77）

特　　徴　隅丸方形を呈する土坑で、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は１層のみで、礫を多量に含み、人為的な堆積であると考えられる。

出土遺物　瀬戸美濃系陶器碗（１）・皿（２）、肥前系陶器皿（３）、肥前系磁器皿（４、５）・碗（６～９）、龍泉窯系青磁、瓦質ほうろく、石鉢、黒瓦などが出土した。

時　　期　遺物の生産年代は、瀬戸美濃系陶器碗（１）・皿（２）は16世紀末～17世紀前半、肥前系磁器碗（７）は広東碗18世紀末～19世紀前半と幅がある。土坑への最終的な遺物廃棄年代は、最新の生産年代を示す遺物から、18世紀末～19世紀前半であると考えられる。

ＪＯＮⅣSE30（第158図）

特　　徴　石組の井戸である。石組は検出面で確認された。

出土遺物　肥前系磁器の小破片が１片のみ出土した。

時　　期　肥前系磁器が出土しているので、17世紀半ば以降であるが、詳細は不明である。

ＪＯＮⅣSE46（第158図：図版74）

特　　徴　石組の井戸である。石組の礫は長径約30～50cmと、他の石組井戸より大きい。

出土遺物　なし。

時　　期　他の石組井戸はおおよそ近世に属するので、本遺構も近世であると思われる。

ＪＯＮⅣSE47（第158図：図版74）

特　　徴　石組の井戸である。石組は検出面で確認された。形状はSE30と類似している。

出土遺物　なし。

時　　期　他の石組井戸はおおよそ近世に属するので、本遺構も近世であると思われる。

ＪＯＮⅣSE60（第158図：図版75）

特　　徴　石組の井戸である。石組の礫は径５～15cmと小さく、壁面にへばりつくように組まれていた。

出土遺物　なし。

時　　期　他の石組井戸はおおよそ近世に属するので、本遺構も近世であると思われる。

ＪＯＮⅣSD29（第159・160図：図版75）

特　　徴　南北に直線的に走る溝である。東側が調査区外にかかる。13～14層は均質な層で溝が機能している段階の堆積土だが、１～12層は地山由来のブロックを多く含むみ人為的な堆積であると考えられる。

出土遺物　漳州窯系磁器皿(1)、瀬戸美濃系陶器皿(2)・黒織部、肥前系磁器仏飯器(3)、ロクロかわらけ(4、5)、姿器系陶器、景徳鎮系磁器などが出土した。

時　　期　出土遺物の生産年代にやや幅があるが、最終的な溝の埋没年代は、肥前系磁器が出土しているので、17世紀半ば以降であると考えられる。

ＪＯＮⅣSD33（第159・160図：図版75・77）

特　　徴　東西に直線的に走る溝である。東および西側が調査区外にかかり全体の様子はわからないが、幅が約690cmと規模が非常に大きい。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　白磁皿(1)、瀬戸美濃系陶器皿(2)、姿器系陶器甕(3)、洪武通寶(4)、石鉢等が出土した。

時　　期　出土遺物の生産年代は、おおよそ14世紀～17世紀初頭幅があるが、瀬戸美濃系陶器皿(2)は大窯段階の製品で最新の生産年代を示すので、最終的な埋没年代は、16世紀代であると考えられる。

ＪＯＮⅣSD36（第160・161図：図版75・77）

特　　徴　東西に直線的に走る溝で、東はSD49およびSD50へと分岐するような構造をもつ。SD49、SD50とは同時期である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物　肥前系磁器碗(1)、ロクロかわらけ(2)などが出土した。

時　　期　肥前系磁器碗(1)に蛸唐草文が施され、18世紀以降であるが詳細は不明である。

ＪＯＮⅣSD37（第161・162図：図版75・78）

特　　徴　東西に直線的に走る溝である。西側に径10～50cmほどの礫が集積しているのが検出された。底面は起伏を帯びており、土層は人為的に堆積した様相を呈している。

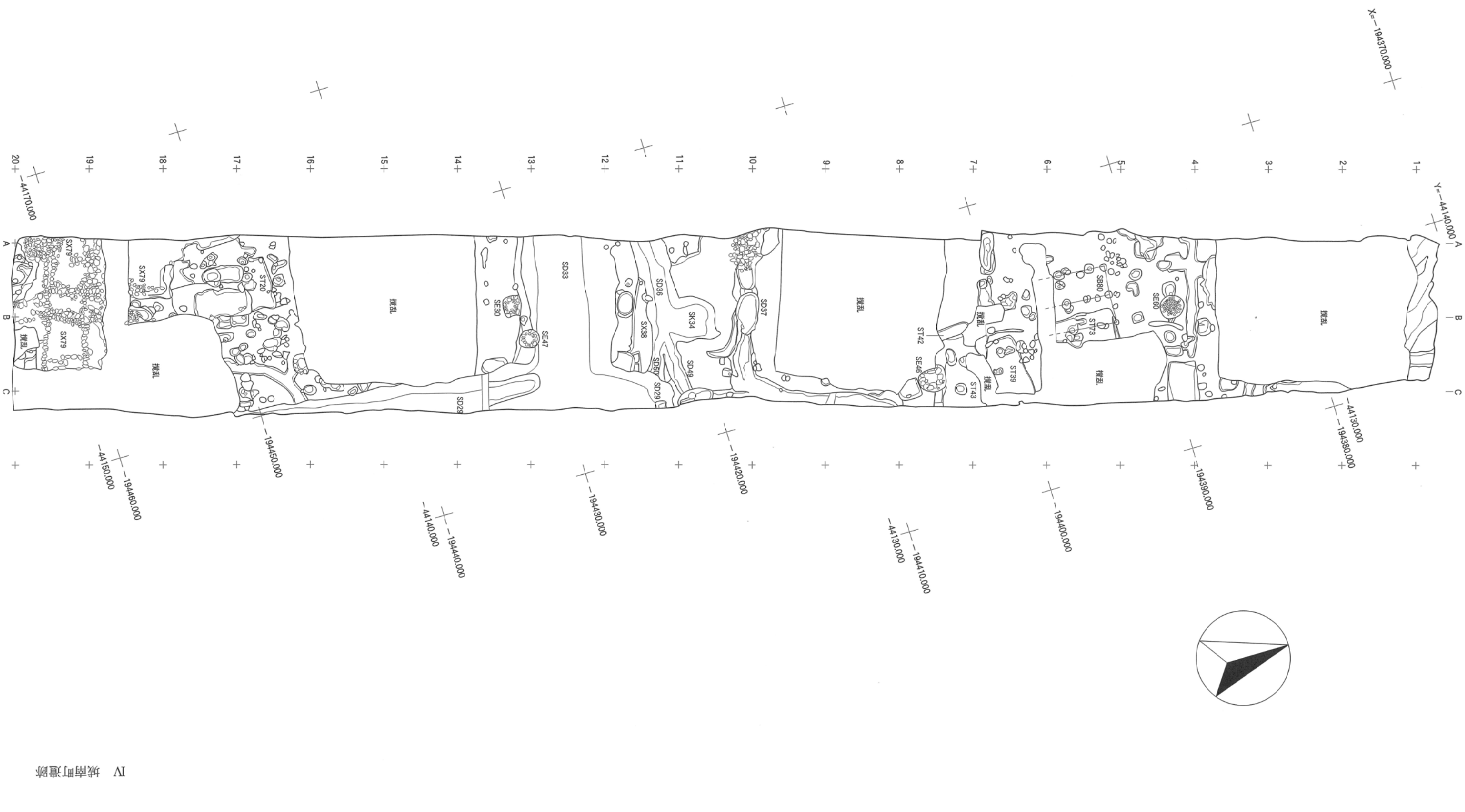
出土遺物　景徳鎮系磁器皿(1、2)、瀬戸美濃系陶器碗(3、4)、肥前系陶器皿(5～7)・向付(8)、円盤状石製品(9～13)、古銭(14、15)、ロクロかわらけ、黒瓦、信楽などが出土した。

時　　期　肥前系陶器皿で目跡が確認できるものはすべて胎土目なので、16世紀末～17世紀初頭である。

ＪＯＮⅣSX79（第163～167図：図版75～81）

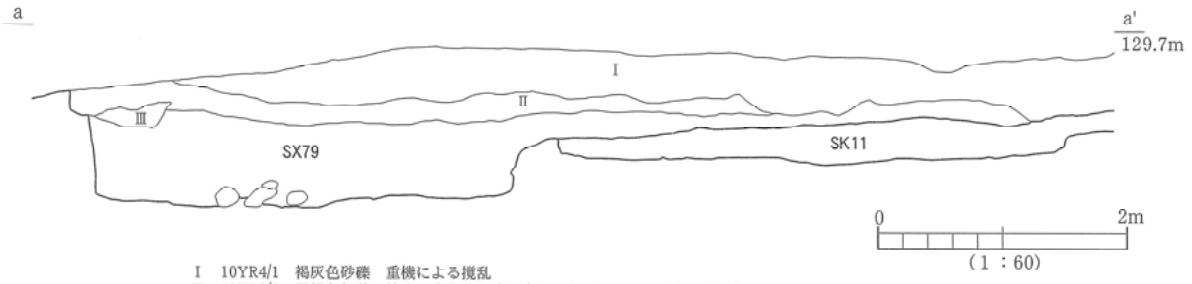
特　　徴　東側を撹乱に切られ、南側と西側が調査区外にかかるため、全体の形状は不明である。礫を積み上げて区画しているような様相を呈している。礫はほぼ検出面から地山面の高さに至るまで組まれており、高さは最大で約80cmを測る。地下室のような遺構の可能性がある。

出土遺物　龍泉窯系青磁水注？(1)、景徳鎮系磁器皿(2～3)、漳州窯系磁器碗(4)、瀬戸美濃系陶器皿(5)・香炉(6)・天目茶碗(7)・小鉢(8)・碗(9)・蓋？(10)・青織部大皿(11)、肥前系陶器皿(12～18)・碗(19～21)・火入(22)・天目台？(23)・擂鉢(38)、越中瀬戸皿(24)、産地不明陶器(25)、肥前系磁器皿(26)・碗(27～36)・仏飯器(37)、ロクロかわらけ(39～46)、焼塩壺(47)、土師質ほうろく(48～51)、黒瓦軒丸瓦(52、53)、石鉢(54)、砥石(55)、円盤状石製品(56～58)、火打石(59～61)、古銭(62～65)、五輪塔火輪(66)・地輪(67)などが出土した。遺構が廃絶した後に、土器・陶磁器などを大量に廃棄したよ

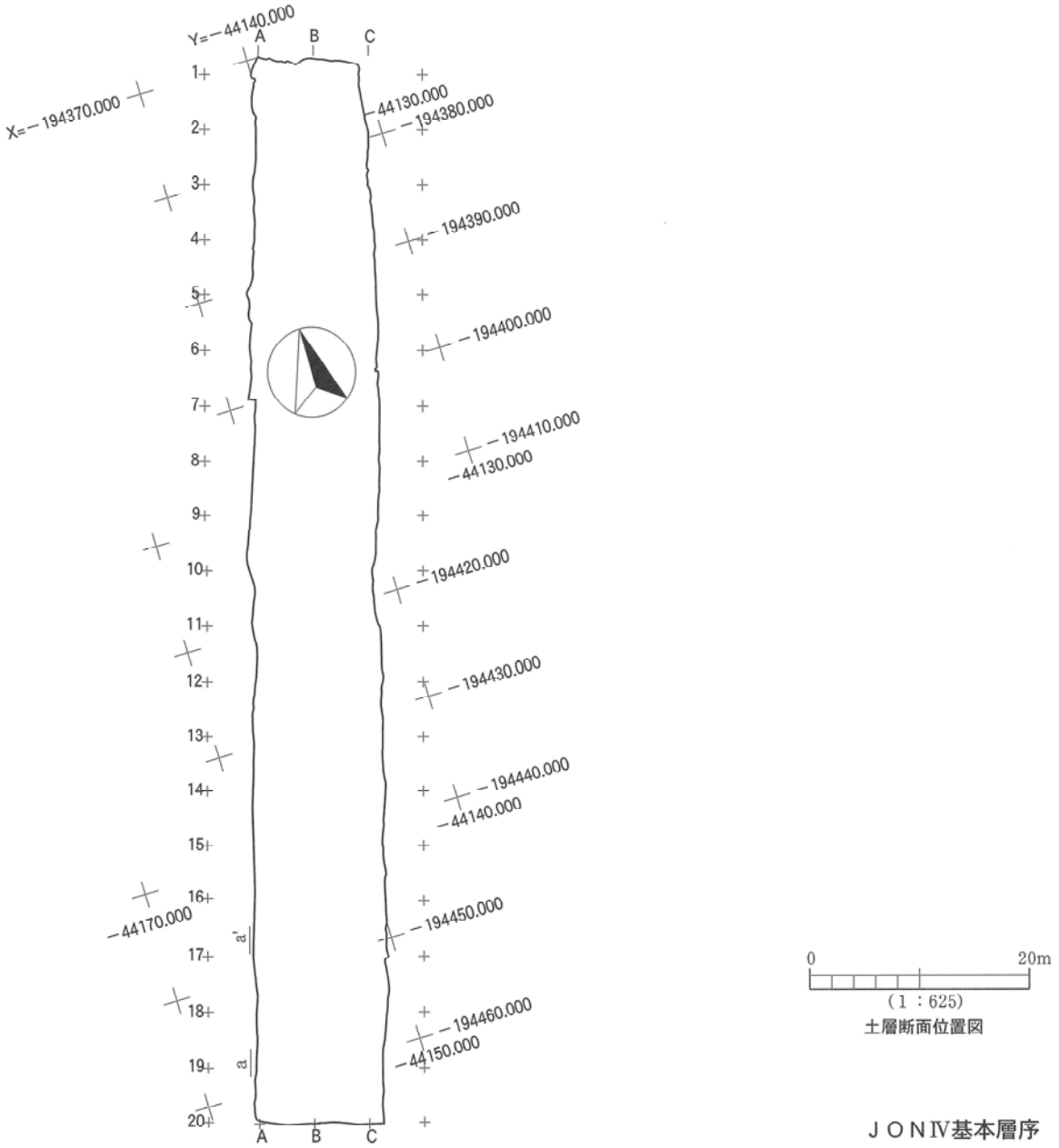


J O N IV遺構配置図

第152図



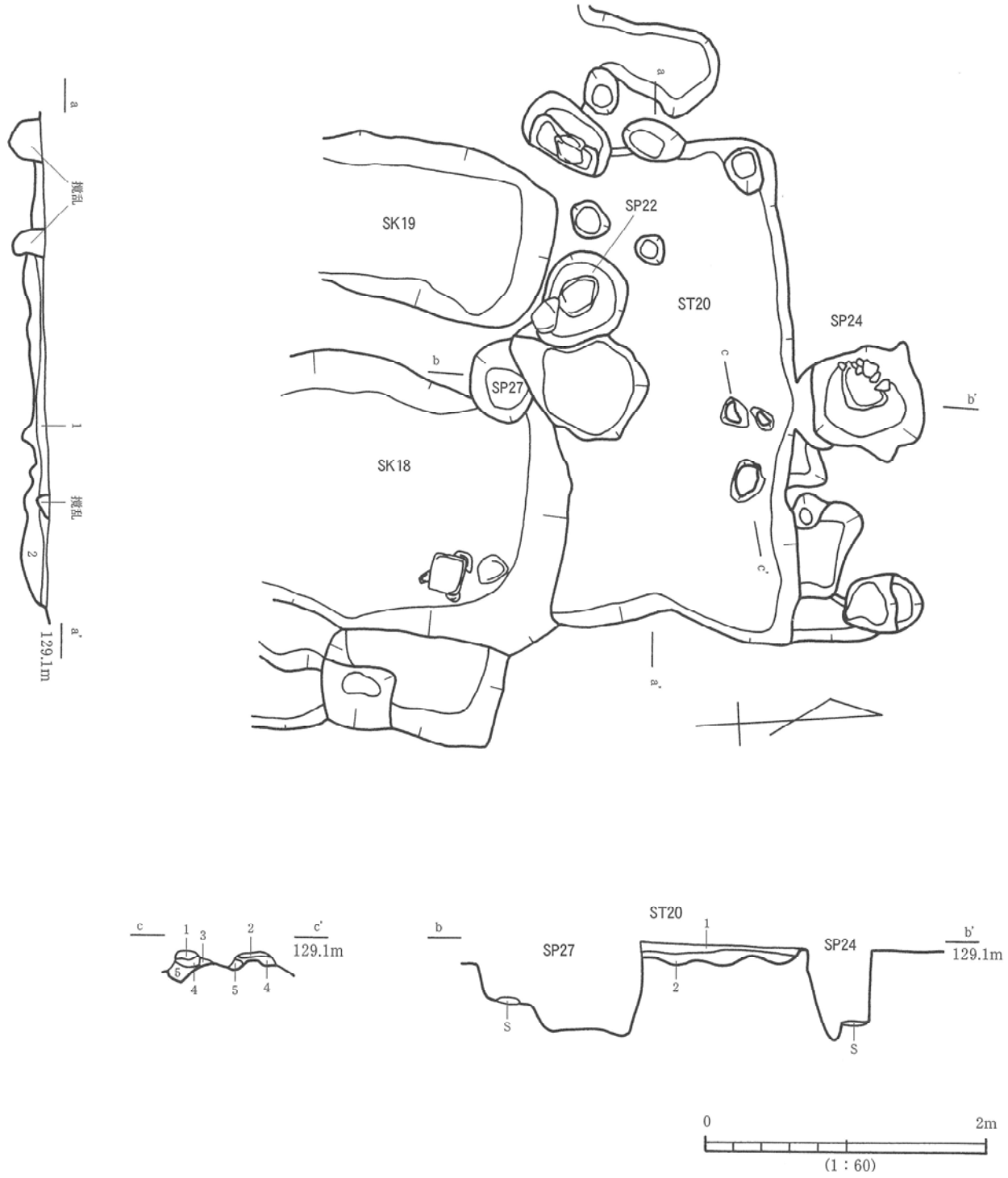
Ⅰ　10YR4/1　褐灰色砂礫　重機による攪乱
Ⅱ　10YR3/2　黒褐色粗砂　挑土、炭化物を少し含む、径0.5～1cmの礫を少し含む
Ⅲ　10YR2/2　黒褐色細砂



土層断面位置図

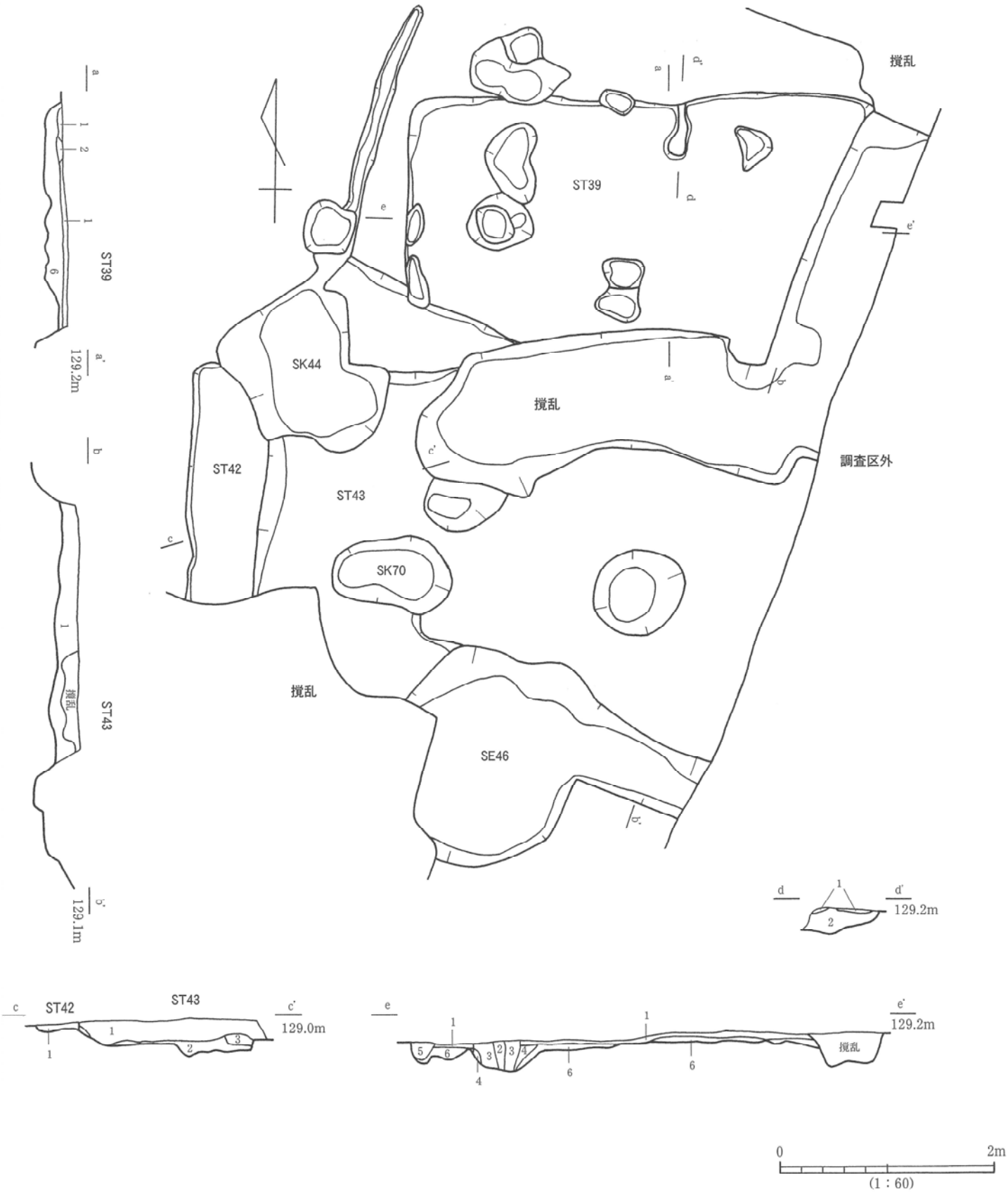
ＪＯＮⅣ基本層序

第153図



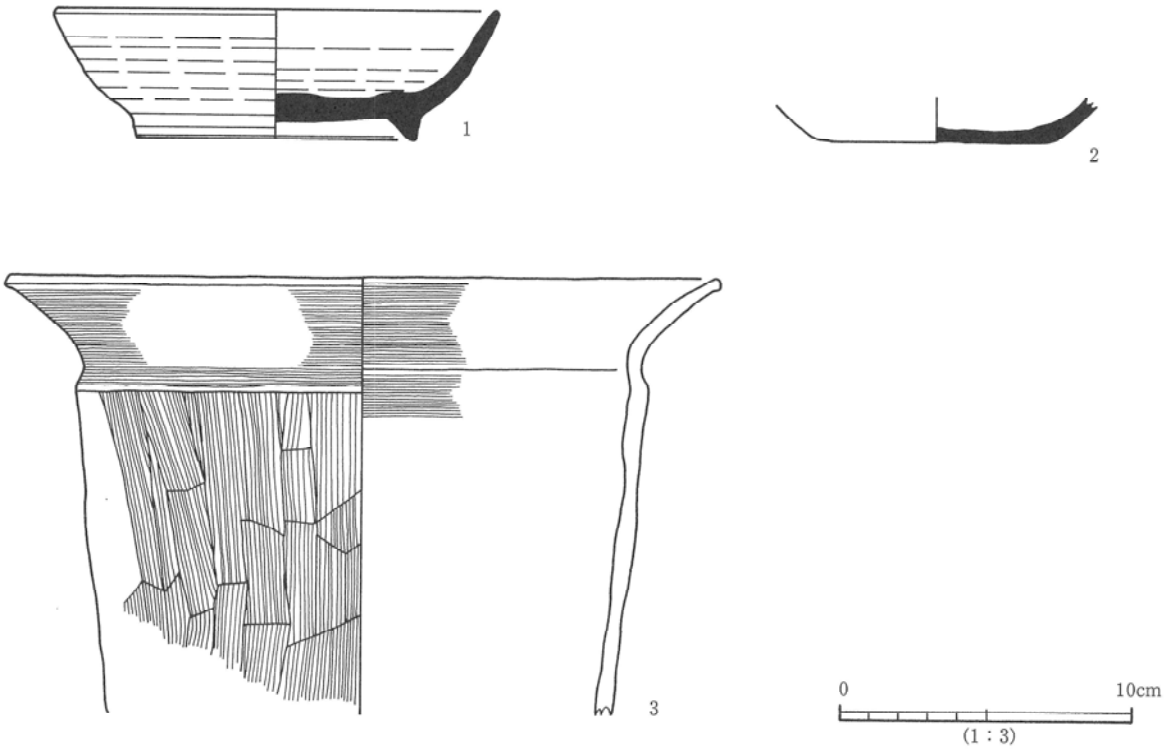
ＪＯＮⅣST20 平面図・断面図

第 154 図

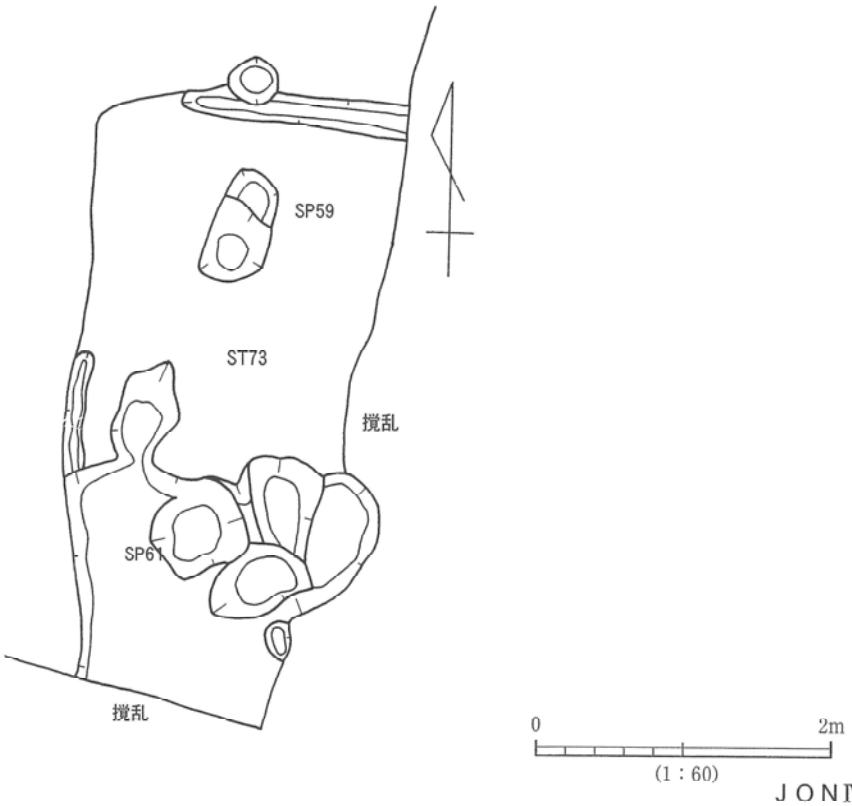


ＪＯＮⅣST39・ST42・ST43 平面図・断面図

第 155 図

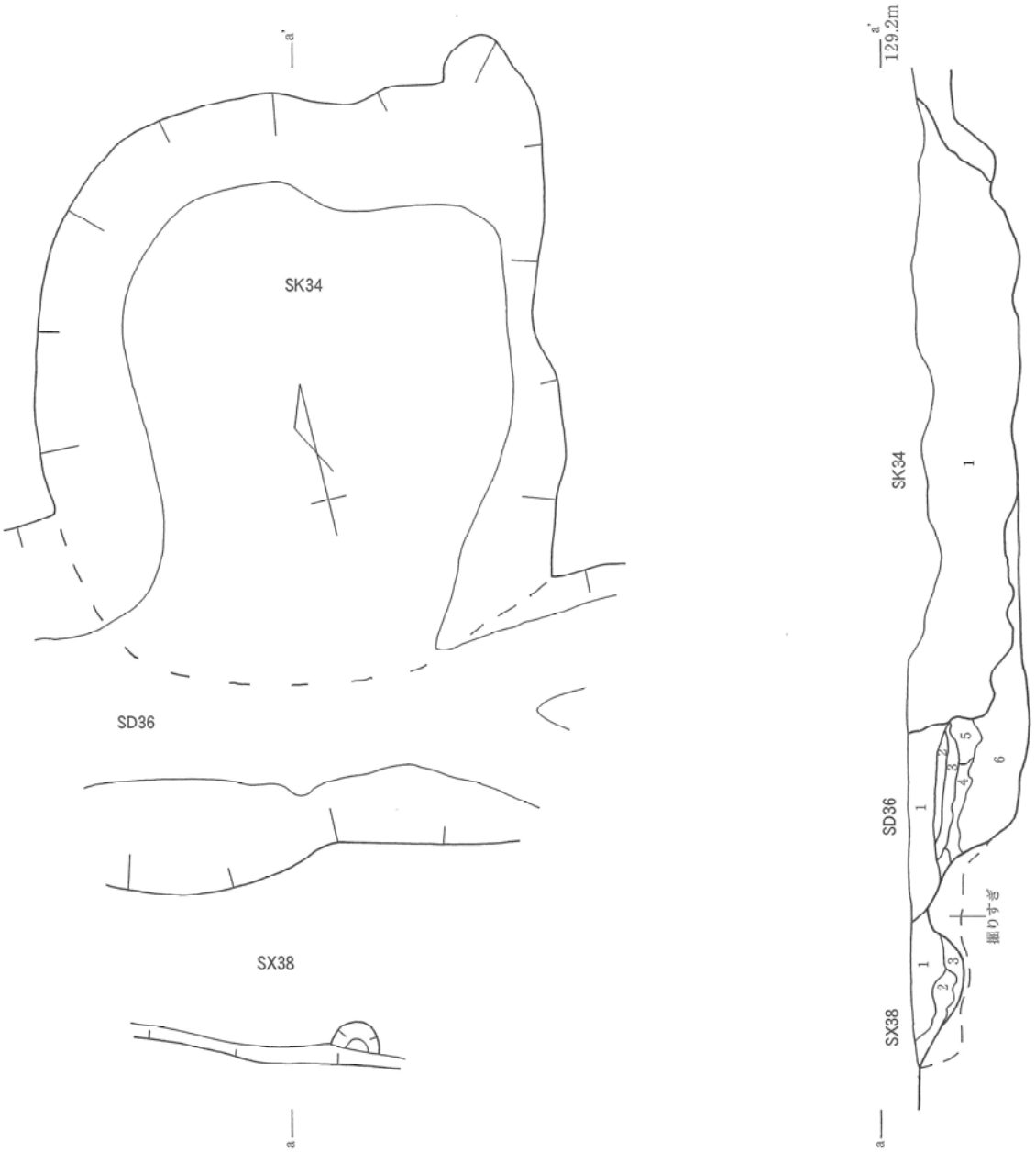


ＪＯＮⅣST43 出土遺物



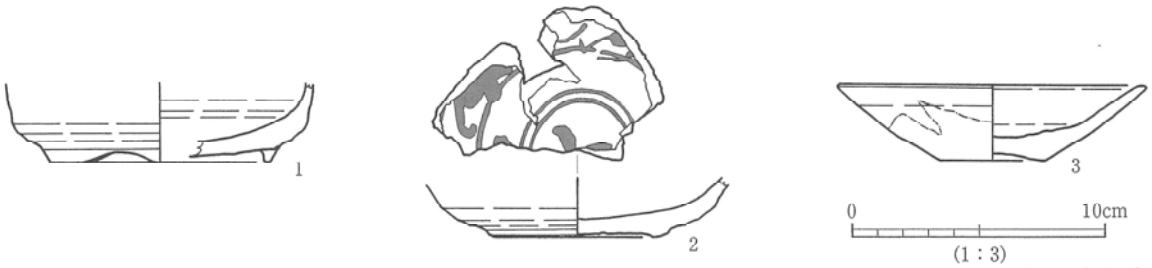
ＪＯＮⅣST73 平面図

第 156 図



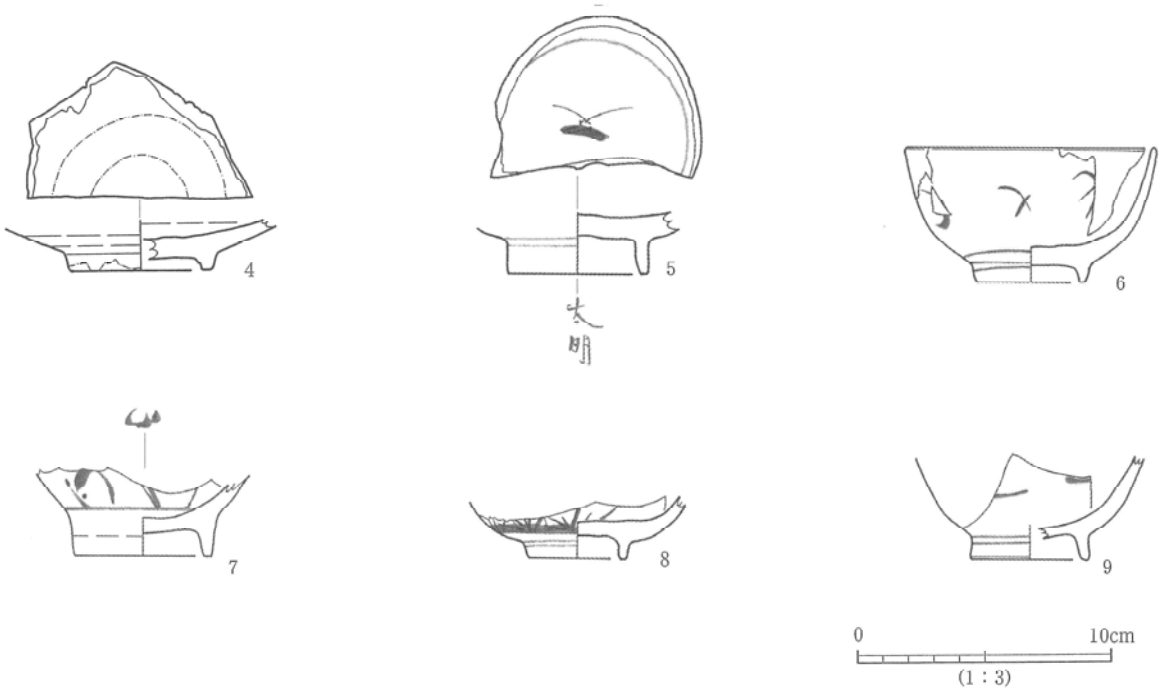
0　2m
(1：40)

ＪＯＮⅣSK34平面図・断面図

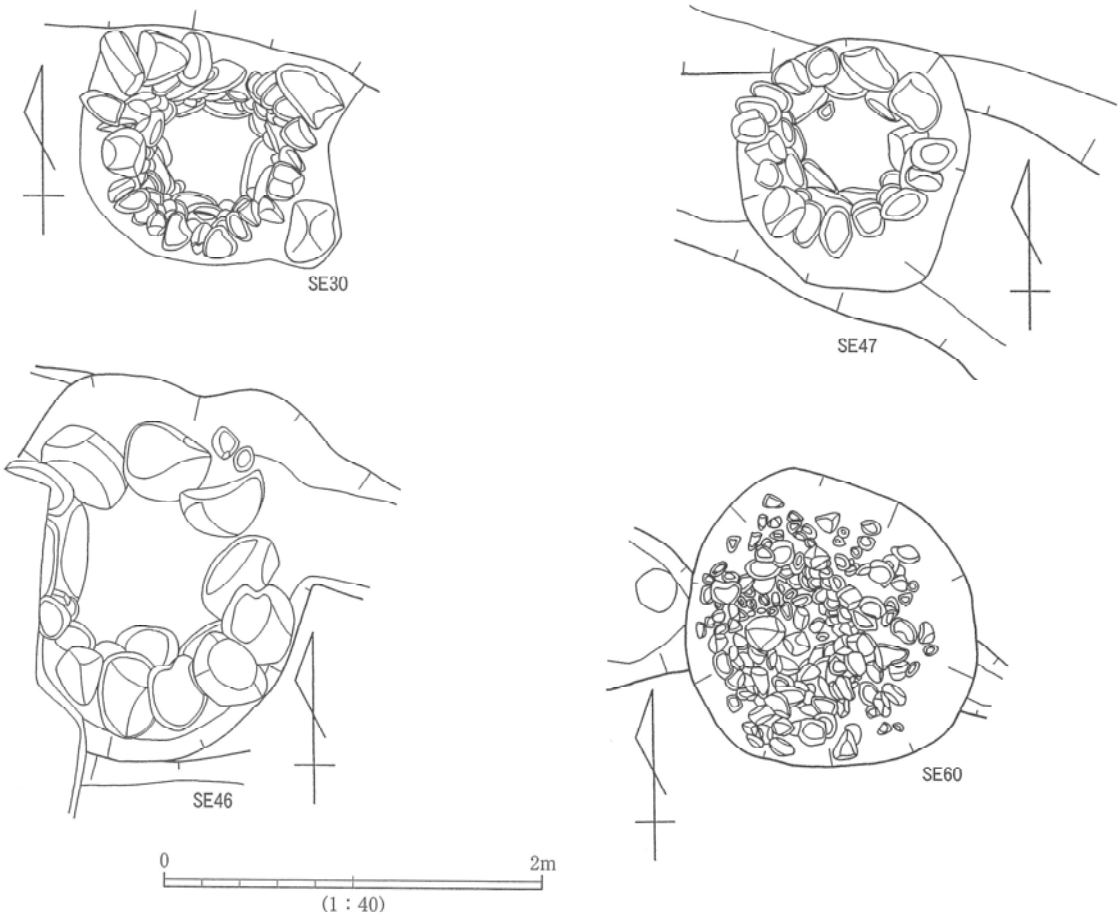


ＪＯＮⅣSK34出土遺物(1)

第157図

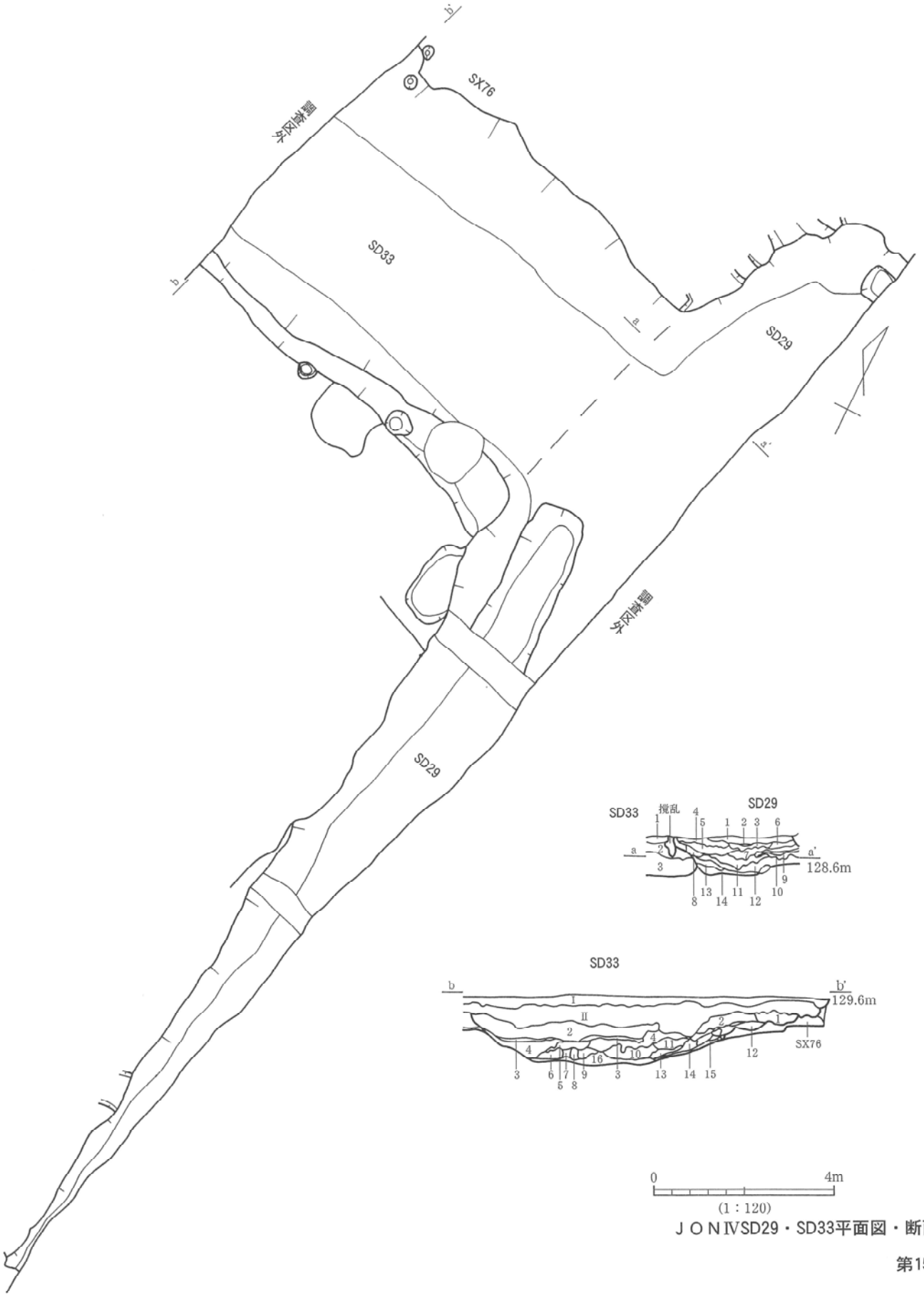


ＪＯＮⅣSK34出土遺物(2)



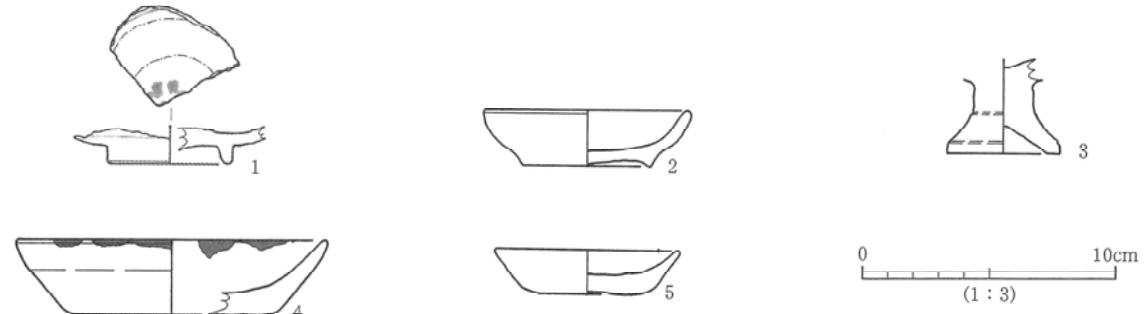
ＪＯＮⅣ井戸平面図

第158図

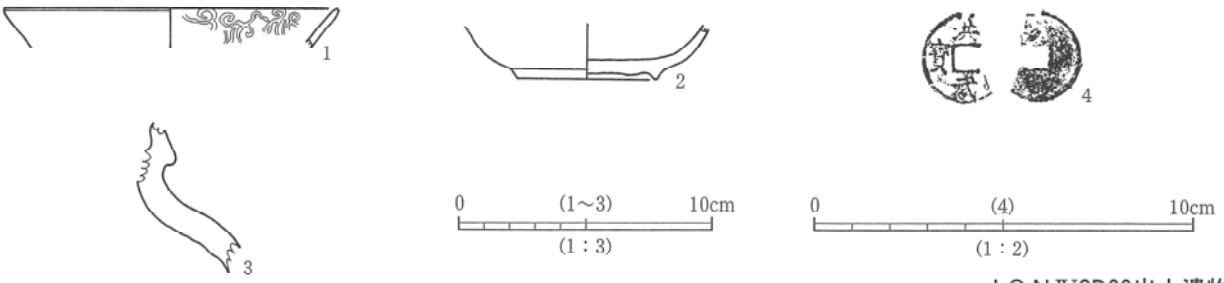


ＪＯＮⅣSD29・SD33平面図・断面図

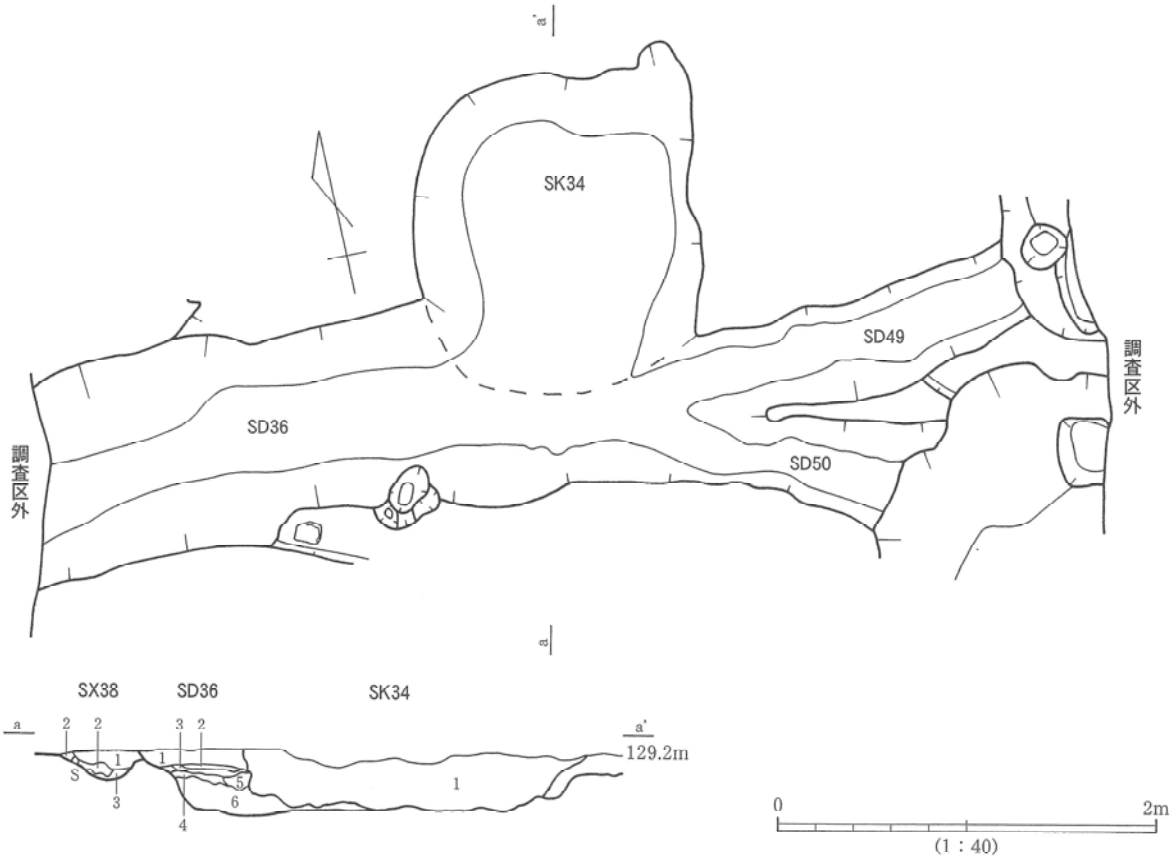
第159図



ＪＯＮⅣSD29出土遺物

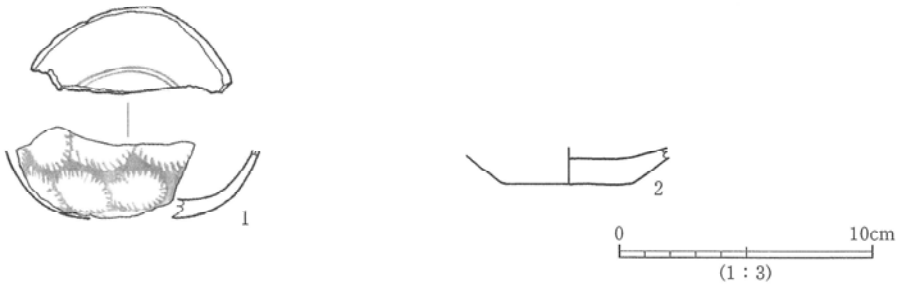


ＪＯＮⅣSD33出土遺物

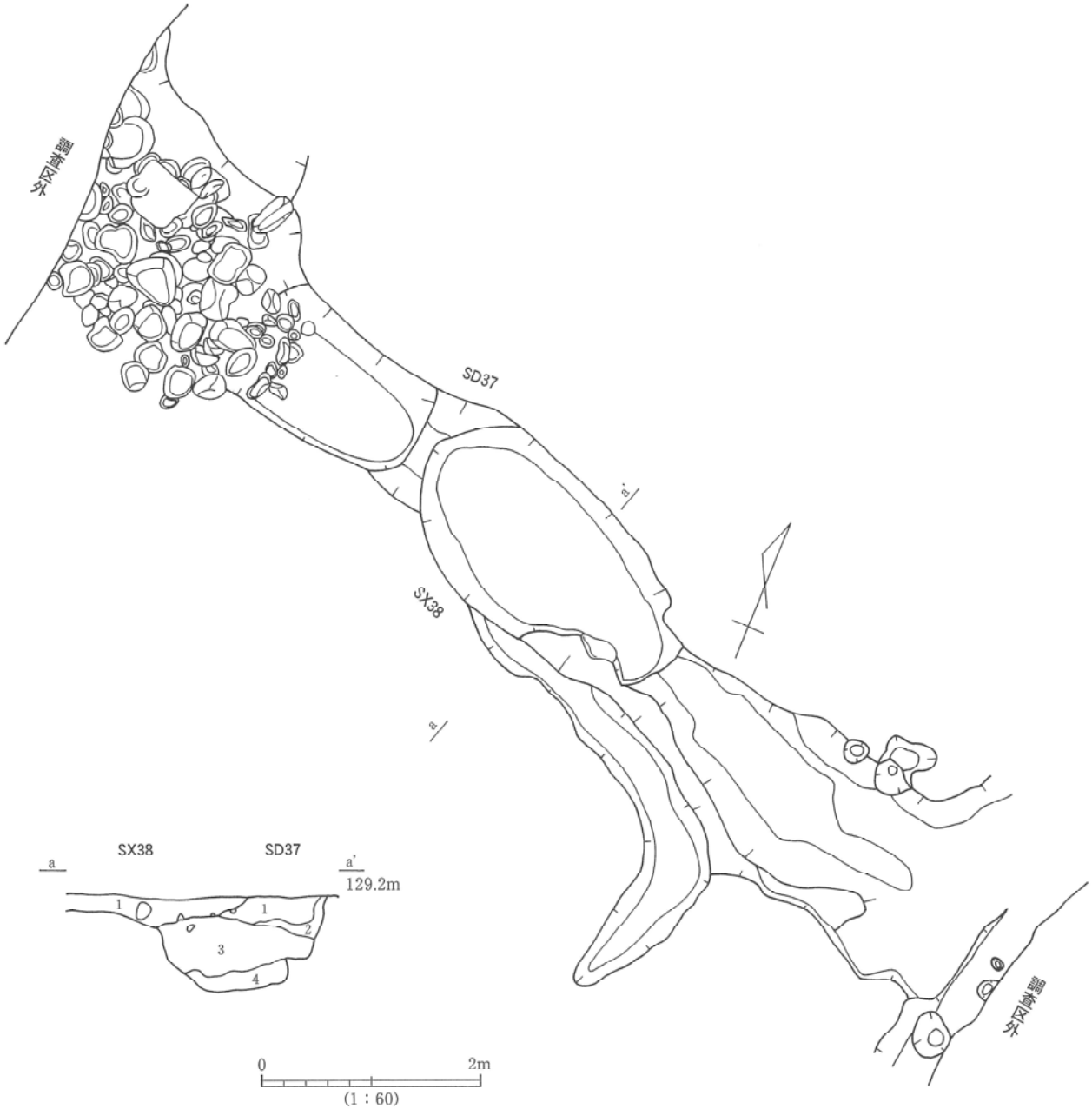


ＪＯＮⅣSD36平面図・断面図

第160図

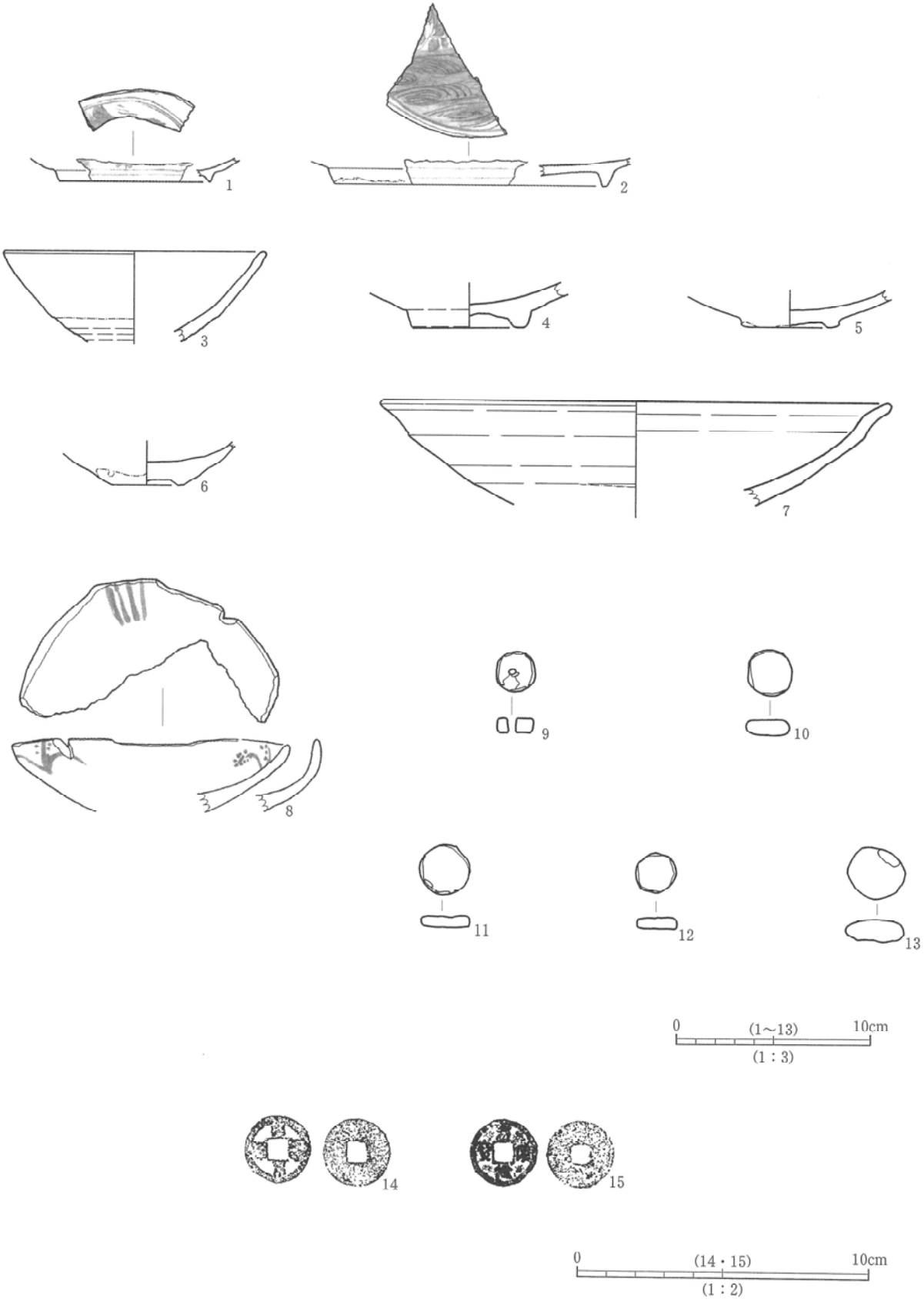


ＪＯＮⅣSD36出土遺物



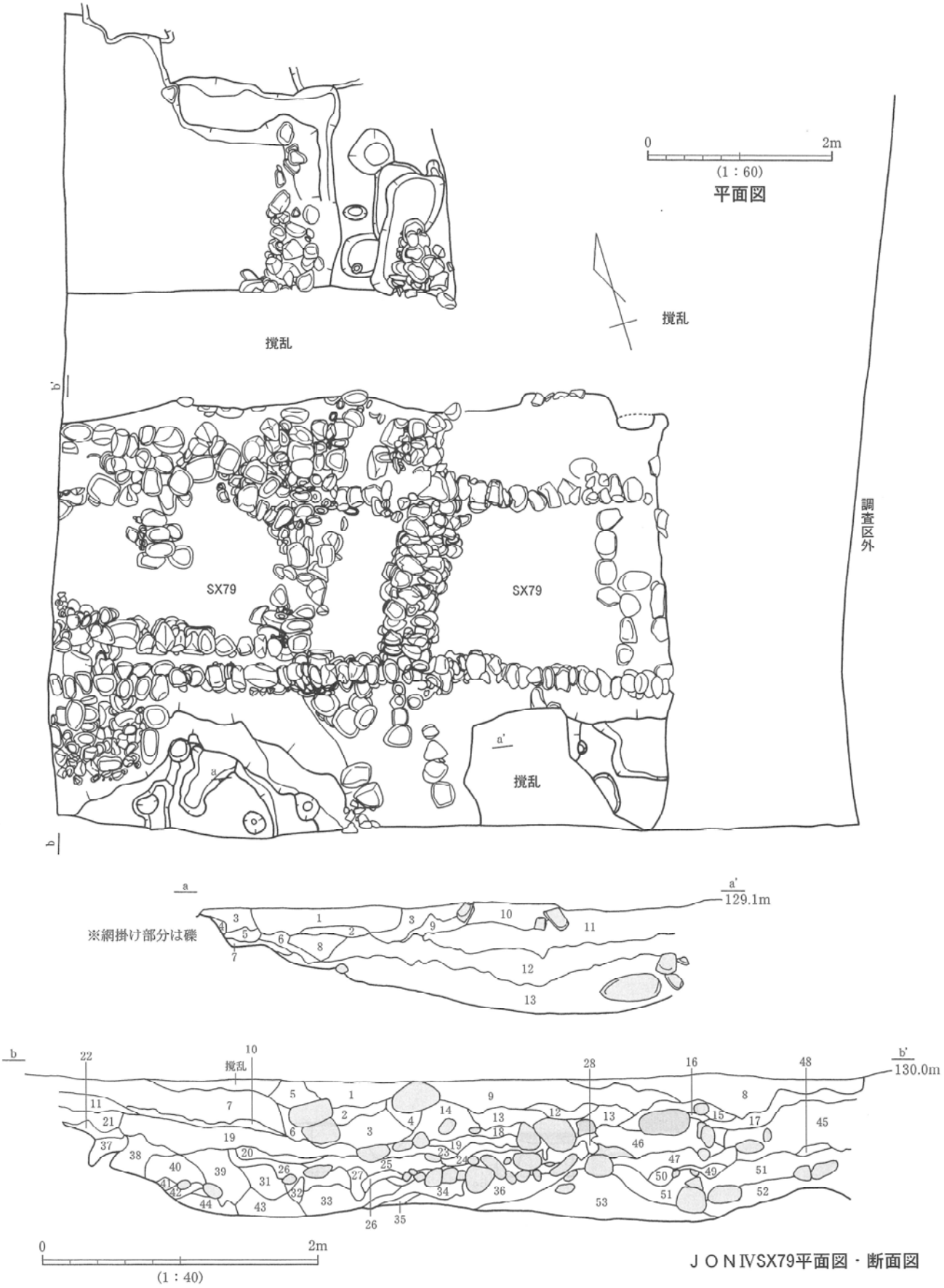
ＪＯＮⅣSD37平面図・断面図

第161図



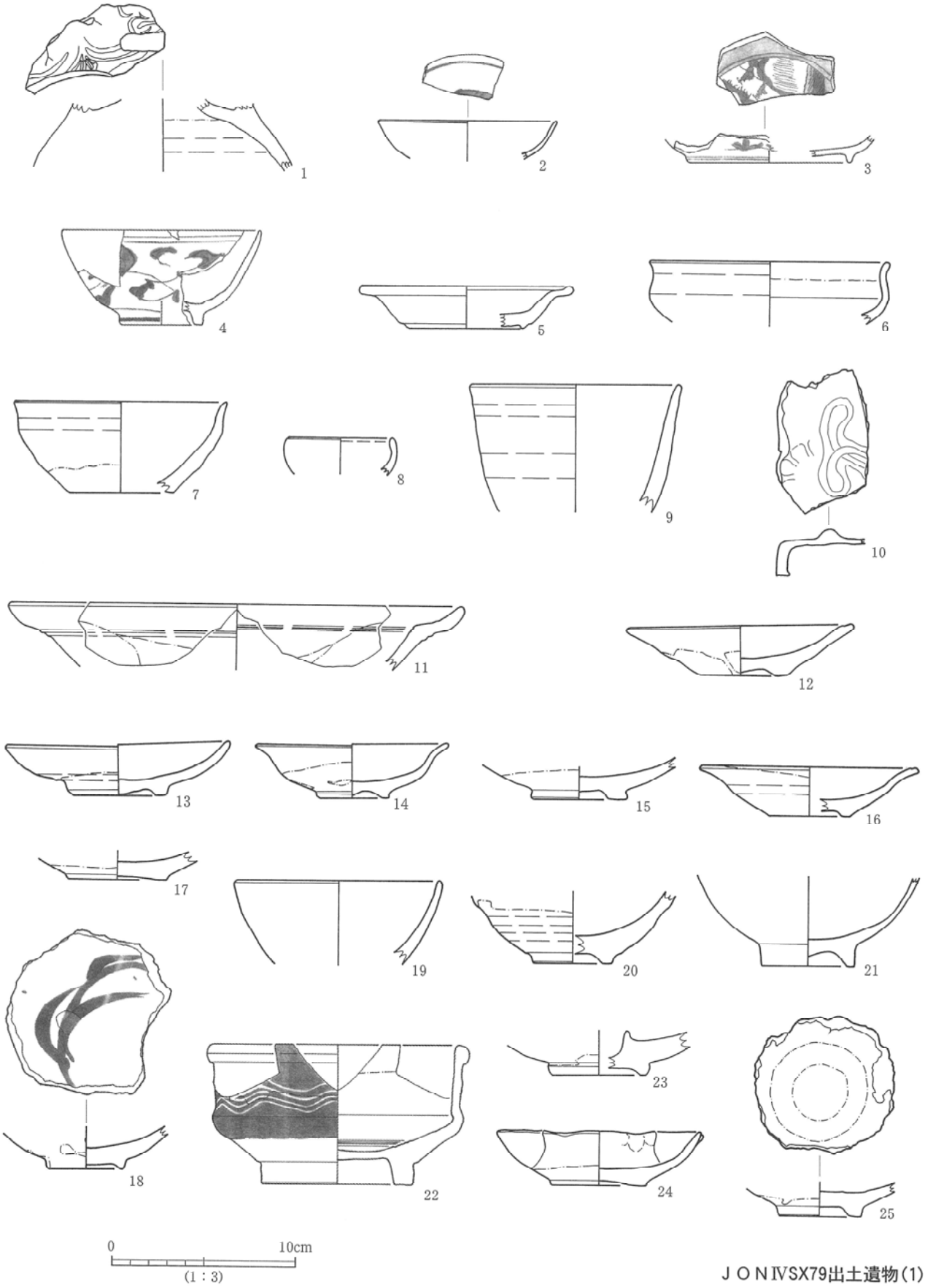
ＪＯＮⅣSD37出土遺物

第162図



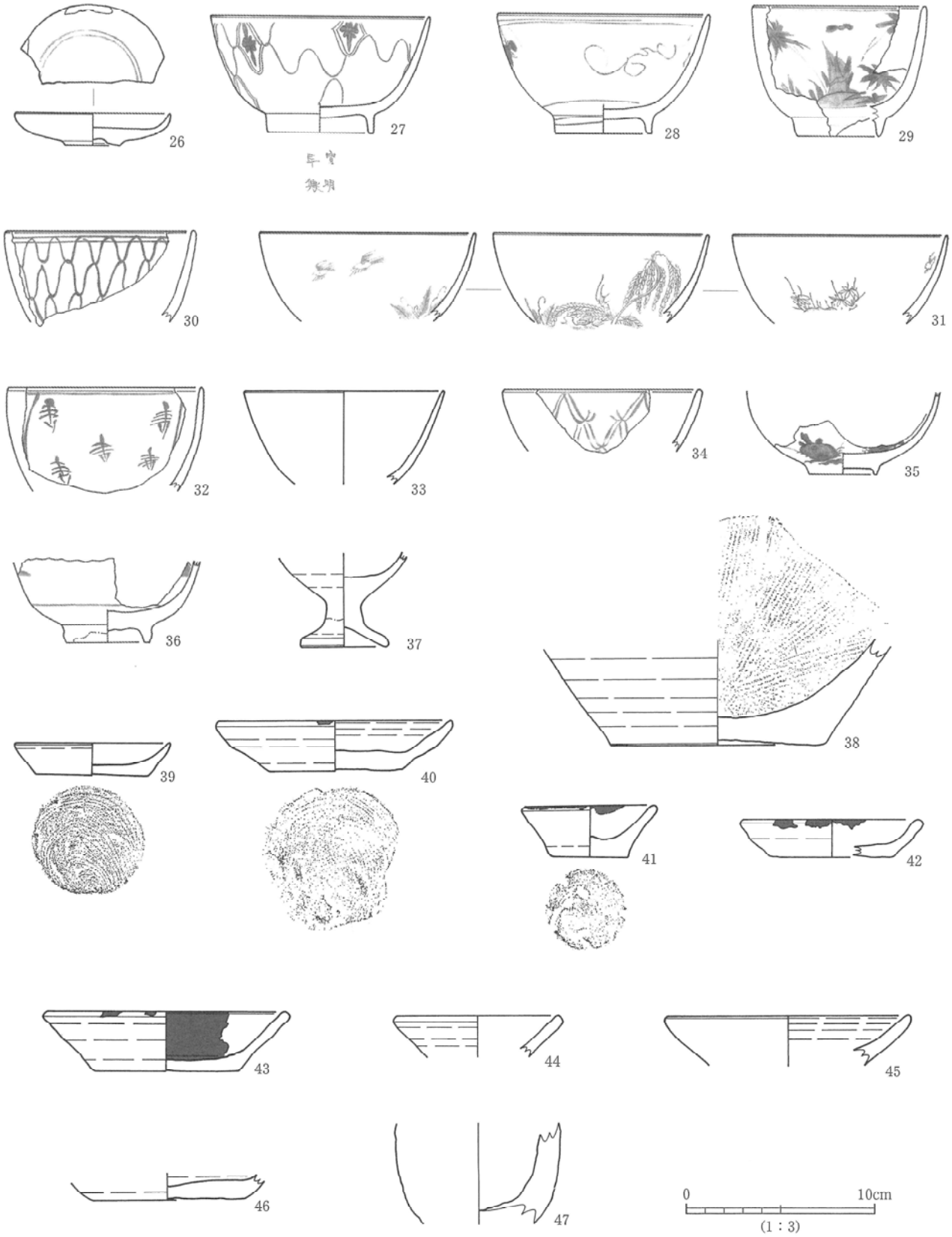
ＪＯＮⅣSX79平面図・断面図

第163図



ＪＯＮⅣSX79出土遺物(1)

第164図



ＪＯＮⅣSX79出土遺物(2)

第165図